

令和7年度（2025年度）

健康福祉に関する意識調査

報告書

令和8年（2026年）3月

中野区

はじめに

区は「健康福祉都市なかの」の実現に向け、中野区地域福祉計画をはじめとした健康福祉に係る計画を策定し、健康福祉に関する区の施策に取り組んでいます。

本調査は、区民の方々に健康福祉への関心や意見をお聞きするとともに、区が取組が区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的とし、今後の各種計画や施策の見直し、改善の検討材料として活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和8年（2026年）3月
中野区健康福祉部

目 次

I 調査の概要

1 調査の目的.....	3
2 調査の内容.....	3
3 調査の設計.....	3
4 回収状況.....	3
5 報告書を読む際の留意点.....	3

II 調査対象者の属性

1 性別.....	7
2 年齢.....	7
3 職業.....	8
4 世帯構成.....	9
5 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）.....	10
6 日常的に家族の介護をしているか.....	11
7 住居形態.....	12
8 居住年数.....	13
9 居住地域.....	14
10 母集団と調査回答者の推移.....	18

III 調査結果の分析

1 地域活動について.....	21
1.1 地域の活動への参加.....	21
1.2 近所とのつきあいの程度.....	23
1.3 人とのつきあいがないと感じるか.....	27
1.4 取り残されていると感じるか.....	28
1.5 他の人から孤立していると感じるか.....	29
1.6 相談相手.....	30
1.7 家族や友人以外の相談先.....	32
1.8 必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動.....	34
1.9 近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動の実施状況.....	36
1.10 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況.....	38
1.11 地域における住民同士の交流の場や機会の有無.....	39
1.12 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策.....	41
1.13 高齢者会館の利用状況.....	44
1.13.1 高齢者会館を利用していない理由.....	46

2 医療・健康について.....	48
2.1 健康感.....	48
2.2 運動・スポーツを続けている期間.....	50
2.3 運動・スポーツを行う場所.....	52
2.4 運動・スポーツを行わない理由.....	55
2.5 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか.....	58
2.6 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと.....	60
2.7 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと.....	65
2.8 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容.....	66
2.9 1日の座位（座っている姿勢）時間.....	68
2.10 最近1年間で関わったスポーツを支える活動.....	70
2.11 食生活で心がけていること.....	72
2.12 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか.....	74
2.13 健康診断の受診頻度.....	76
2.13.1 健康診断の受診場所.....	79
2.13.2 健康診断結果の活用方法.....	82
2.13.3 健康診断を受けなかった理由.....	84
2.14 かかりつけの診療所の有無.....	86
2.14.1 かかりつけの診療所からのアドバイス.....	88
2.15 歯科健診の受診状況.....	90
2.15.1 歯科健診の受診場所.....	91
2.15.2 歯科健診を受診しなかった理由.....	92
2.16 定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか.....	93
2.17 かかりつけの歯科診療所の有無.....	94
2.18 かかりつけの薬局の有無.....	96
2.19 地域の救急医療体制が整っているか.....	98
2.19.1 地域の救急医療体制が整っていない理由.....	100
2.20 医療・介護サービスや見守り環境が整っているか.....	101
2.21 長期療養が必要になった場合の生活.....	103
2.21.1 長期療養の際、入院・入所したい理由.....	107
2.22 自身や家族がうつ病になった際の相談先.....	111
2.23 自殺対策は自分自身に関わると思うか.....	112
2.24 今後必要な自殺対策.....	114
2.25 感染症の予防で心がけていること.....	117
2.26 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか.....	119
2.27 食中毒に関する認識.....	121
2.28 喫煙の状況.....	123
2.28.1 今後禁煙したいか.....	124

3	制度等について.....	125
3.1	「障害者差別解消法」についての認知度.....	125
3.1.1	「障害者差別解消法」の認知方法.....	127
3.2	障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと.....	129
3.3	ヘルプマークの認知度.....	131
3.4	障害者虐待防止センターの認知度.....	133
3.5	介護保険制度の利用の仕方についての認知度.....	134
3.6	認知症についての理解度.....	136
3.7	人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度.....	138
3.8	「成年後見制度」の認知度.....	139
3.9	ヤングケアラーの認知度.....	141
4	相談窓口について.....	142
4.1	健康福祉の相談機関の身近さ.....	142
4.2	区民活動センターの身近さ.....	144
4.3	犯罪被害者に対する相談窓口の認知度.....	146
5	その他.....	148
5.1	健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）.....	148

IV 調査票と単純集計

I 調査の概要

1 調査の目的

健康福祉に係わる関心や健康福祉サービスに対する意見などを把握し、区の事業や施策の達成状況の確認や、見直し・改善を図る指標として活用するため、18歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

2 調査の内容

- (1) 調査対象者の属性
- (2) 地域活動について
- (3) 医療・健康について
- (4) 制度等について
- (5) 相談窓口について
- (6) その他

3 調査の設計

- ・調査対象：満18歳以上の区民（基準日：令和7年8月1日時点 308,434人）
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布、郵送・インターネットによる回収
- ・調査期間：令和7年9月19日～10月10日
- ・調査機関：株式会社アイアールエス

4 回収状況

標本数	有効回収数	回収率
3,000	1,090	36.3%

5 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- クロス集計の表の中で、上段の数値は回答者数（単位：人）を、下段の数値は割合（単位：%）を表す。
- 年齢とのクロス集計において、90歳以上については母数が少ないため、統計学的に有意のものとは言えないが、参考として数値を明示している場合がある。

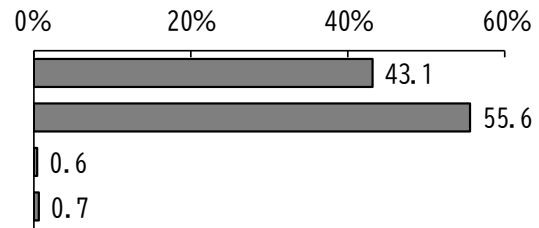
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。
- 文中の割合の表記は、下記のとおりである。

表記	約4割 (4割)	4割台前半	4割半ば	4割台後半	約5割 (5割)
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

Ⅱ 調査対象者の属性

1 性別

	基数	構成比 (%)
男性	470	43.1
女性	606	55.6
その他	6	0.6
無回答	8	0.7
全体	1,090	100.0



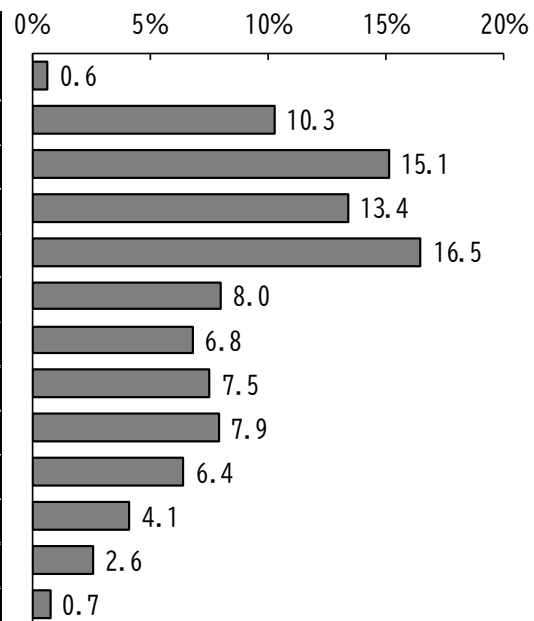
■年代別

上段:人、下段:%

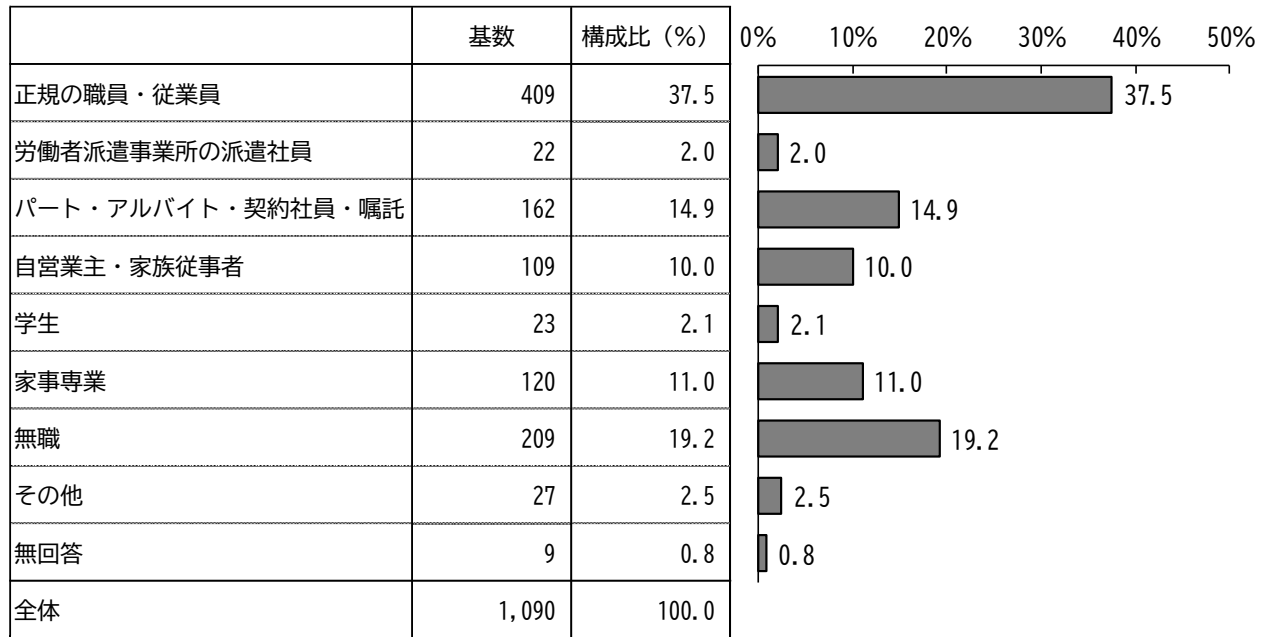
	n	男性	女性	その他	無回答
全体	1,090	470	606	6	8
	100.0	43.1	55.6	0.6	0.7
18歳・19歳	7	3	4	—	—
	100.0	42.9	57.1	—	—
20歳代	112	62	49	1	—
	100.0	55.4	43.8	0.9	—
30歳代	165	75	88	2	—
	100.0	45.5	53.3	1.2	—
40歳代	146	53	93	—	—
	100.0	36.3	63.7	—	—
50歳代	180	69	110	1	—
	100.0	38.3	61.1	0.6	—
60～64歳	87	33	53	1	—
	100.0	37.9	60.9	1.1	—
65～69歳	74	35	38	1	—
	100.0	47.3	51.4	1.4	—
70～74歳	82	40	42	—	—
	100.0	48.8	51.2	—	—
75～79歳	86	41	45	—	—
	100.0	47.7	52.3	—	—
80～84歳	70	28	42	—	—
	100.0	40.0	60.0	—	—
85～89歳	45	19	26	—	—
	100.0	42.2	57.8	—	—
90歳以上	28	12	16	—	—
	100.0	42.9	57.1	—	—

2 年齢

	基数	構成比 (%)
18歳・19歳	7	0.6
20歳代	112	10.3
30歳代	165	15.1
40歳代	146	13.4
50歳代	180	16.5
60～64歳	87	8.0
65～69歳	74	6.8
70～74歳	82	7.5
75～79歳	86	7.9
80～84歳	70	6.4
85～89歳	45	4.1
90歳以上	28	2.6
無回答	8	0.7
全体	980	100.0



3 職業

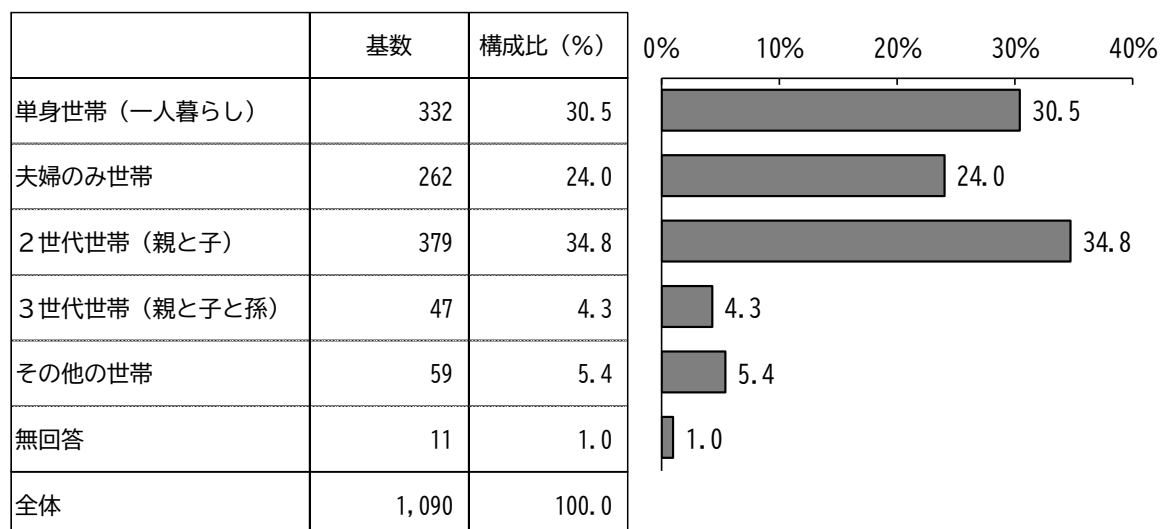


■年代別

上段:人、下段:%

	n	正規の職員・従業員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト・契約社員・嘱託	自営業主・家族従事者	学生	家事専業	無職	その他	無回答
全体	1,090 100.0	409 37.5	22 2.0	162 14.9	109 10.0	23 2.1	120 11.0	209 19.2	27 2.5	9 0.8
18歳・19歳	7 100.0	—	—	1 14.3	—	6 85.7	—	—	—	—
20歳代	112 100.0	77 68.8	1 0.9	8 7.1	7 6.3	16 14.3	1 0.9	2 1.8	—	—
30歳代	165 100.0	120 72.7	5 3.0	17 10.3	10 6.1	—	5 3.0	6 3.6	2 1.2	—
40歳代	146 100.0	88 60.3	3 2.1	22 15.1	15 10.3	—	10 6.8	5 3.4	3 2.1	—
50歳代	180 100.0	79 43.9	6 3.3	33 18.3	28 15.6	—	19 10.6	10 5.6	5 2.8	—
60～64歳	87 100.0	20 23.0	3 3.4	26 29.9	11 12.6	—	15 17.2	10 11.5	2 2.3	—
65～69歳	74 100.0	14 18.9	2 2.7	21 28.4	6 8.1	1 1.4	11 14.9	17 23.0	2 2.7	—
70～74歳	82 100.0	5 6.1	1 1.2	19 23.2	11 13.4	—	15 18.3	27 32.9	3 3.7	1 1.2
75～79歳	86 100.0	4 4.7	—	12 14.0	15 17.4	—	20 23.3	33 38.4	2 2.3	—
80～84歳	70 100.0	1 1.4	1 1.4	2 2.9	2 2.9	—	14 20.0	47 67.1	3 4.3	—
85～89歳	45 100.0	1 2.2	—	—	4 8.9	—	7 15.6	33 73.3	—	—
90歳以上	28 100.0	—	—	1 3.6	—	—	3 10.7	19 67.9	5 17.9	—

4 世帯構成

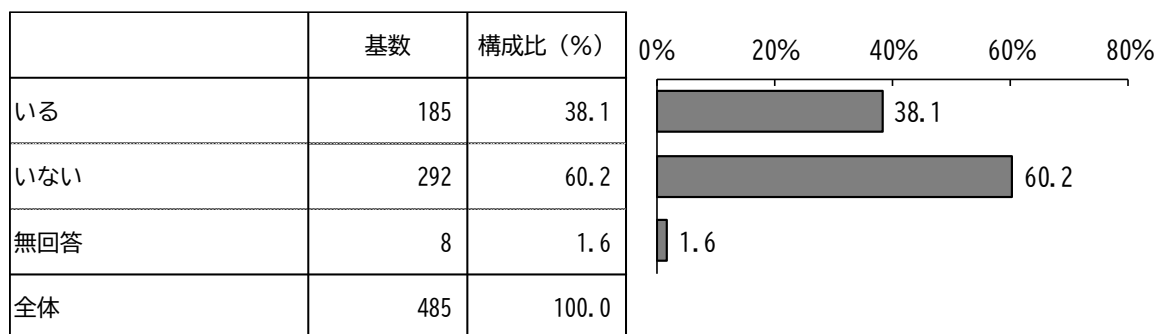


■年代別

上段：人、下段：%

	n	単身世帯 （一人暮らし）	夫婦のみ世帯	2世代世帯 （親と子）	3世代世帯 （親と子と孫）	その他の世帯	無回答
全体	1,090 100.0	332 30.5	262 24.0	379 34.8	47 4.3	59 5.4	11 1.0
18歳・19歳	7 100.0	3 42.9	— —	3 42.9	1 14.3	— —	— —
20歳代	112 100.0	55 49.1	14 12.5	24 21.4	4 3.6	15 13.4	— —
30歳代	165 100.0	58 35.2	46 27.9	52 31.5	3 1.8	6 3.6	— —
40歳代	146 100.0	34 23.3	17 11.6	84 57.5	3 2.1	8 5.5	— —
50歳代	180 100.0	41 22.8	37 20.6	84 46.7	8 4.4	10 5.6	— —
60～64歳	87 100.0	25 28.7	26 29.9	29 33.3	4 4.6	3 3.4	— —
65～69歳	74 100.0	22 29.7	22 29.7	24 32.4	3 4.1	3 4.1	— —
70～74歳	82 100.0	23 28.0	30 36.6	19 23.2	5 6.1	5 6.1	— —
75～79歳	86 100.0	19 22.1	32 37.2	24 27.9	6 7.0	4 4.7	1 1.2
80～84歳	70 100.0	23 32.9	24 34.3	13 18.6	6 8.6	3 4.3	1 1.4
85～89歳	45 100.0	14 31.1	11 24.4	15 33.3	3 6.7	1 2.2	1 2.2
90歳以上	28 100.0	15 53.6	3 10.7	8 28.6	1 3.6	1 3.6	— —

5 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）

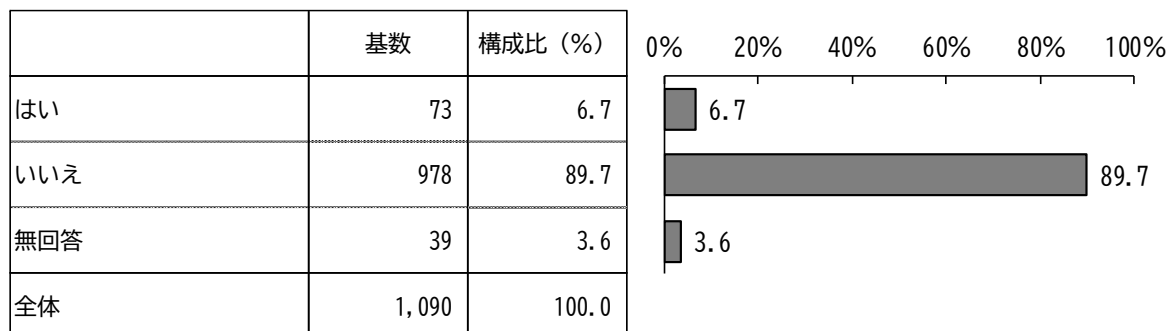


■年代別

上段：人、下段：%

	n	いる	いない	無回答
全体	485 100.0	185 38.1	292 60.2	8 1.6
18歳・19歳	4 100.0	3 75.0	1 25.0	— —
20歳代	43 100.0	8 18.6	34 79.1	1 2.3
30歳代	61 100.0	39 63.9	22 36.1	— —
40歳代	95 100.0	77 81.1	17 17.9	1 1.1
50歳代	102 100.0	42 41.2	57 55.9	3 2.9
60～64歳	36 100.0	1 2.8	34 94.4	1 2.8
65～69歳	30 100.0	4 13.3	26 86.7	— —
70～74歳	29 100.0	3 10.3	25 86.2	1 3.4
75～79歳	34 100.0	4 11.8	30 88.2	— —
80～84歳	22 100.0	2 9.1	19 86.4	1 4.5
85～89歳	19 100.0	1 5.3	18 94.7	— —
90歳以上	10 100.0	1 10.0	9 90.0	— —

6 日常的に家族の介護をしているか

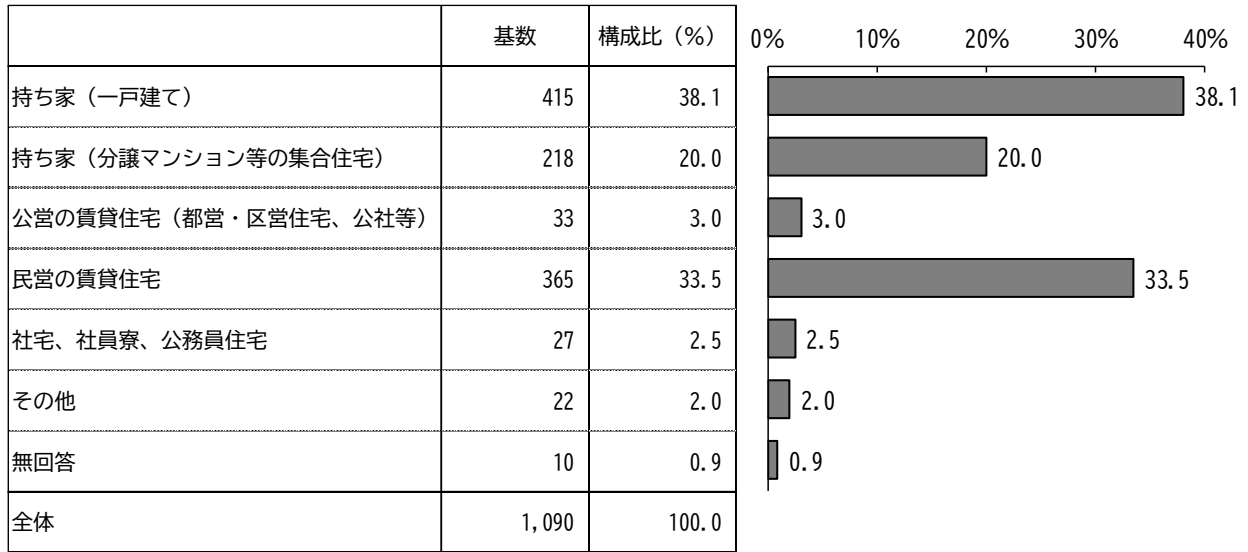


■年代別

上段：人、下段：%

	n	はい	いいえ	無回答
全体	1,090 100.0	73 6.7	978 89.7	39 3.6
18歳・19歳	7 100.0	1 14.3	6 85.7	— —
20歳代	112 100.0	3 2.7	106 94.6	3 2.7
30歳代	165 100.0	2 1.2	157 95.2	6 3.6
40歳代	146 100.0	5 3.4	140 95.9	1 0.7
50歳代	180 100.0	26 14.4	149 82.8	5 2.8
60～64歳	87 100.0	10 11.5	75 86.2	2 2.3
65～69歳	74 100.0	4 5.4	68 91.9	2 2.7
70～74歳	82 100.0	3 3.7	78 95.1	1 1.2
75～79歳	86 100.0	8 9.3	76 88.4	2 2.3
80～84歳	70 100.0	7 10.0	60 85.7	3 4.3
85～89歳	45 100.0	3 6.7	38 84.4	4 8.9
90歳以上	28 100.0	1 3.6	25 89.3	2 7.1

7 住居形態

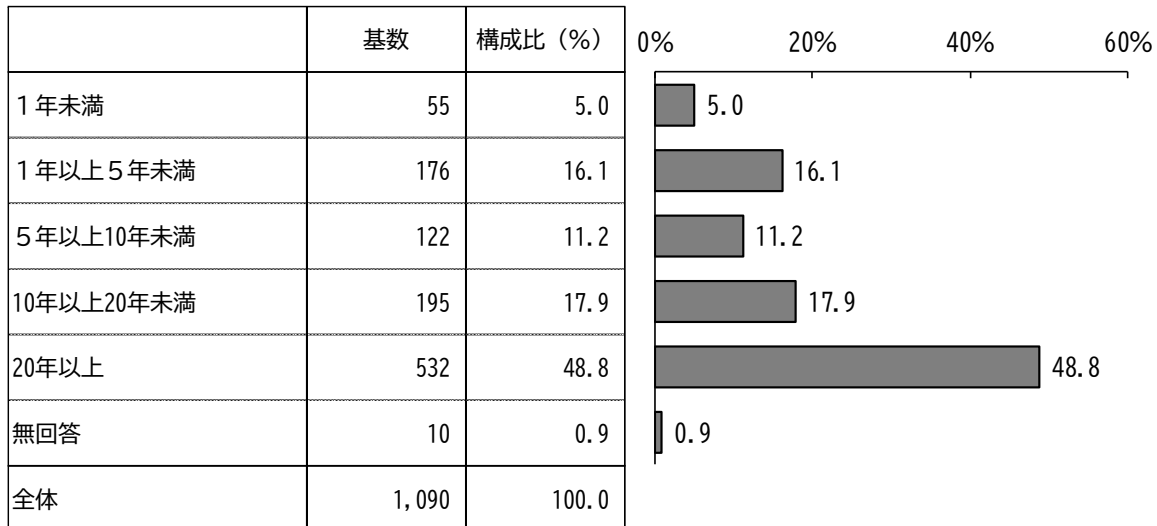


■年代別

上段：人、下段：%

	n	持ち家 （一戸建て）	持ち家 （分譲マンション等 の集合住宅）	公営の賃貸住宅 （都営・区営住宅、 公社等）	民営の賃貸住宅	社宅、社員寮、 公務員住宅	その他	無回答
全体	1,090 100.0	415 38.1	218 20.0	33 3.0	365 33.5	27 2.5	22 2.0	10 0.9
18歳・19歳	7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	—	1 14.3	—
20歳代	112 100.0	16 14.3	19 17.0	2 1.8	61 54.5	12 10.7	2 1.8	—
30歳代	165 100.0	32 19.4	15 9.1	8 4.8	102 61.8	5 3.0	2 1.2	1 0.6
40歳代	146 100.0	43 29.5	30 20.5	3 2.1	62 42.5	5 3.4	3 2.1	—
50歳代	180 100.0	62 34.4	46 25.6	3 1.7	56 31.1	5 2.8	8 4.4	—
60～64歳	87 100.0	44 50.6	18 20.7	1 1.1	23 26.4	—	1 1.1	—
65～69歳	74 100.0	42 56.8	13 17.6	—	16 21.6	—	2 2.7	1 1.4
70～74歳	82 100.0	42 51.2	20 24.4	4 4.9	16 19.5	—	—	—
75～79歳	86 100.0	47 54.7	24 27.9	2 2.3	11 12.8	—	2 2.3	—
80～84歳	70 100.0	43 61.4	15 21.4	3 4.3	9 12.9	—	—	—
85～89歳	45 100.0	24 53.3	11 24.4	4 8.9	5 11.1	—	1 2.2	—
90歳以上	28 100.0	18 64.3	6 21.4	2 7.1	2 7.1	—	—	—

8 居住年数

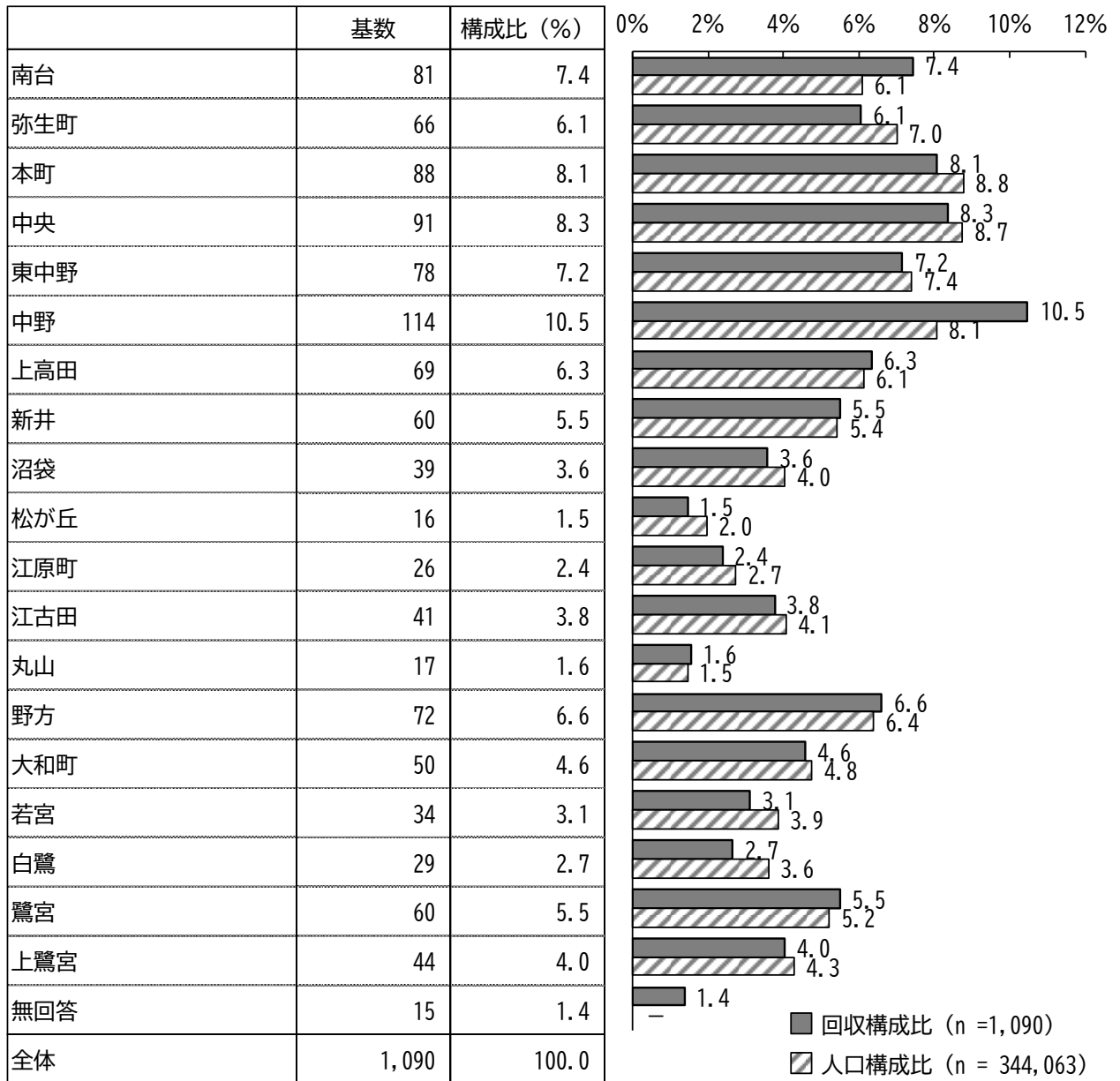


■年代別

上段：人、下段：%

	n	1 年未満	1 年以上 5 年未満	1 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上	無回答
全体	1,090 100.0	55 5.0	176 16.1	122 11.2	195 17.9	532 48.8	10 0.9
18歳・19歳	7 100.0	3 42.9	— —	— —	4 57.1	— —	— —
20歳代	112 100.0	22 19.6	59 52.7	9 8.0	8 7.1	14 12.5	— —
30歳代	165 100.0	17 10.3	60 36.4	45 27.3	26 15.8	16 9.7	1 0.6
40歳代	146 100.0	6 4.1	24 16.4	31 21.2	56 38.4	29 19.9	— —
50歳代	180 100.0	3 1.7	16 8.9	16 8.9	53 29.4	92 51.1	— —
60～64歳	87 100.0	1 1.1	5 5.7	8 9.2	13 14.9	60 69.0	— —
65～69歳	74 100.0	1 1.4	3 4.1	6 8.1	7 9.5	56 75.7	1 1.4
70～74歳	82 100.0	— —	4 4.9	2 2.4	9 11.0	67 81.7	— —
75～79歳	86 100.0	1 1.2	1 1.2	2 2.3	8 9.3	74 86.0	— —
80～84歳	70 100.0	— —	2 2.9	2 2.9	5 7.1	61 87.1	— —
85～89歳	45 100.0	— —	1 2.2	1 2.2	5 11.1	38 84.4	— —
90歳以上	28 100.0	1 3.6	1 3.6	— —	1 3.6	25 89.3	— —

9 居住地域



(中野区町丁別人口 令和7年(2025年)8月1日現在)

※人口構成比には18歳未満の人口も含むため、対象者の割合とは異なる。

■年代別

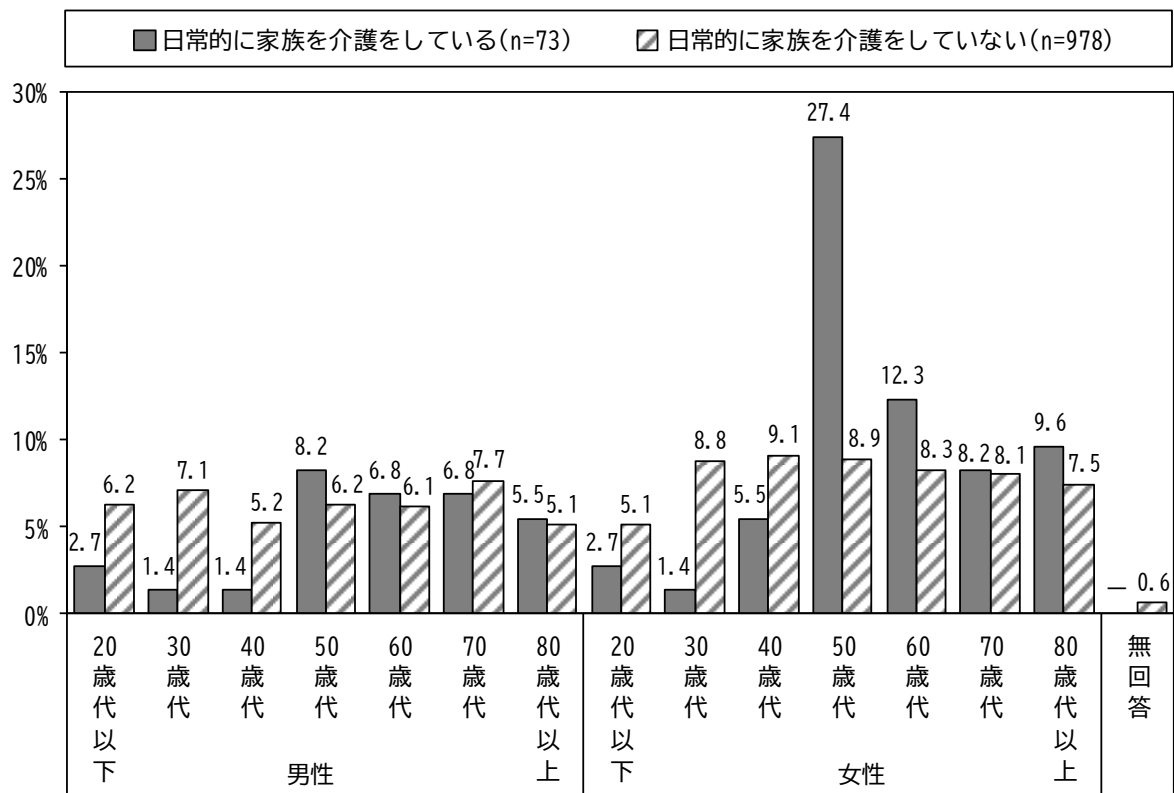
上段：人、下段：％

	n	南台	弥生町	本町	中央	東中野	中野	上高田	新井	沼袋	松が丘
全体	1,090 100.0	81 7.4	66 6.1	88 8.1	91 8.3	78 7.2	114 10.5	69 6.3	60 5.5	39 3.6	16 1.5
18歳・19歳	7 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	2 28.6	— —	— —	— —	— —
20歳代	112 100.0	9 8.0	3 2.7	9 8.0	5 4.5	14 12.5	12 10.7	7 6.3	13 11.6	4 3.6	2 1.8
30歳代	165 100.0	9 5.5	14 8.5	14 8.5	20 12.1	15 9.1	16 9.7	11 6.7	10 6.1	7 4.2	4 2.4
40歳代	146 100.0	13 8.9	9 6.2	11 7.5	19 13.0	9 6.2	14 9.6	5 3.4	9 6.2	4 2.7	1 0.7
50歳代	180 100.0	10 5.6	17 9.4	14 7.8	19 10.6	12 6.7	17 9.4	14 7.8	8 4.4	5 2.8	— —
60～64歳	87 100.0	7 8.0	4 4.6	4 4.6	6 6.9	11 12.6	10 11.5	8 9.2	2 2.3	4 4.6	1 1.1
65～69歳	74 100.0	7 9.5	2 2.7	8 10.8	4 5.4	3 4.1	8 10.8	6 8.1	2 2.7	3 4.1	3 4.1
70～74歳	82 100.0	7 8.5	6 7.3	10 12.2	4 4.9	4 4.9	10 12.2	4 4.9	2 2.4	2 2.4	1 1.2
75～79歳	86 100.0	6 7.0	5 5.8	10 11.6	5 5.8	4 4.7	10 11.6	4 4.7	8 9.3	3 3.5	2 2.3
80～84歳	70 100.0	6 8.6	2 2.9	3 4.3	6 8.6	3 4.3	7 10.0	5 7.1	2 2.9	4 5.7	— —
85～89歳	45 100.0	3 6.7	4 8.9	3 6.7	2 4.4	2 4.4	6 13.3	1 2.2	3 6.7	1 2.2	— —
90歳以上	28 100.0	4 14.3	— —	2 7.1	1 3.6	1 3.6	2 7.1	4 14.3	1 3.6	2 7.1	2 7.1

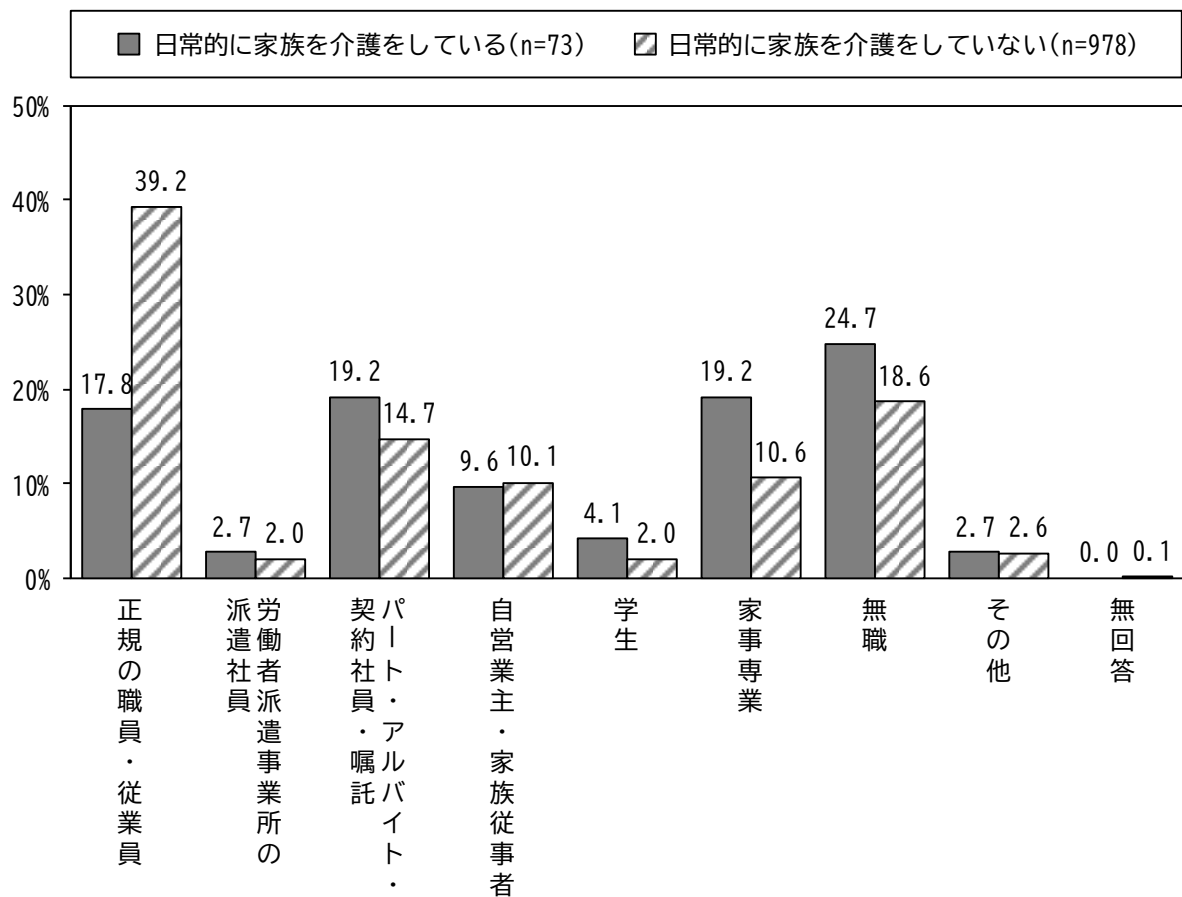
	n	江原町	江古田	丸山	野方	大和町	若宮	白鷺	鷺宮	上鷺宮	無回答
全体	1,090 100.0	26 2.4	41 3.8	17 1.6	72 6.6	50 4.6	34 3.1	29 2.7	60 5.5	44 4.0	15 1.4
18歳・19歳	7 100.0	— —	— —	— —	1 14.3	— —	— —	— —	2 28.6	2 28.6	— —
20歳代	112 100.0	3 2.7	2 1.8	— —	11 9.8	3 2.7	4 3.6	4 3.6	5 4.5	2 1.8	— —
30歳代	165 100.0	3 1.8	3 1.8	— —	9 5.5	6 3.6	7 4.2	2 1.2	10 6.1	4 2.4	1 0.6
40歳代	146 100.0	1 0.7	2 1.4	5 3.4	10 6.8	8 5.5	5 3.4	5 3.4	10 6.8	5 3.4	1 0.7
50歳代	180 100.0	7 3.9	10 5.6	6 3.3	8 4.4	7 3.9	4 2.2	4 2.2	9 5.0	7 3.9	2 1.1
60～64歳	87 100.0	6 6.9	4 4.6	1 1.1	11 12.6	2 2.3	1 1.1	— —	2 2.3	3 3.4	— —
65～69歳	74 100.0	— —	5 6.8	— —	5 6.8	6 8.1	— —	2 2.7	5 6.8	4 5.4	1 1.4
70～74歳	82 100.0	1 1.2	4 4.9	1 1.2	3 3.7	4 4.9	6 7.3	4 4.9	7 8.5	2 2.4	— —
75～79歳	86 100.0	2 2.3	3 3.5	3 3.5	5 5.8	4 4.7	3 3.5	1 1.2	3 3.5	4 4.7	1 1.2
80～84歳	70 100.0	1 1.4	4 5.7	— —	5 7.1	6 8.6	2 2.9	3 4.3	3 4.3	8 11.4	— —
85～89歳	45 100.0	2 4.4	2 4.4	— —	3 6.7	3 6.7	2 4.4	2 4.4	3 6.7	2 4.4	1 2.2
90歳以上	28 100.0	— —	2 7.1	1 3.6	1 3.6	1 3.6	— —	2 7.1	1 3.6	1 3.6	— —

【日常的な家族の介護の有無別】対象者の属性

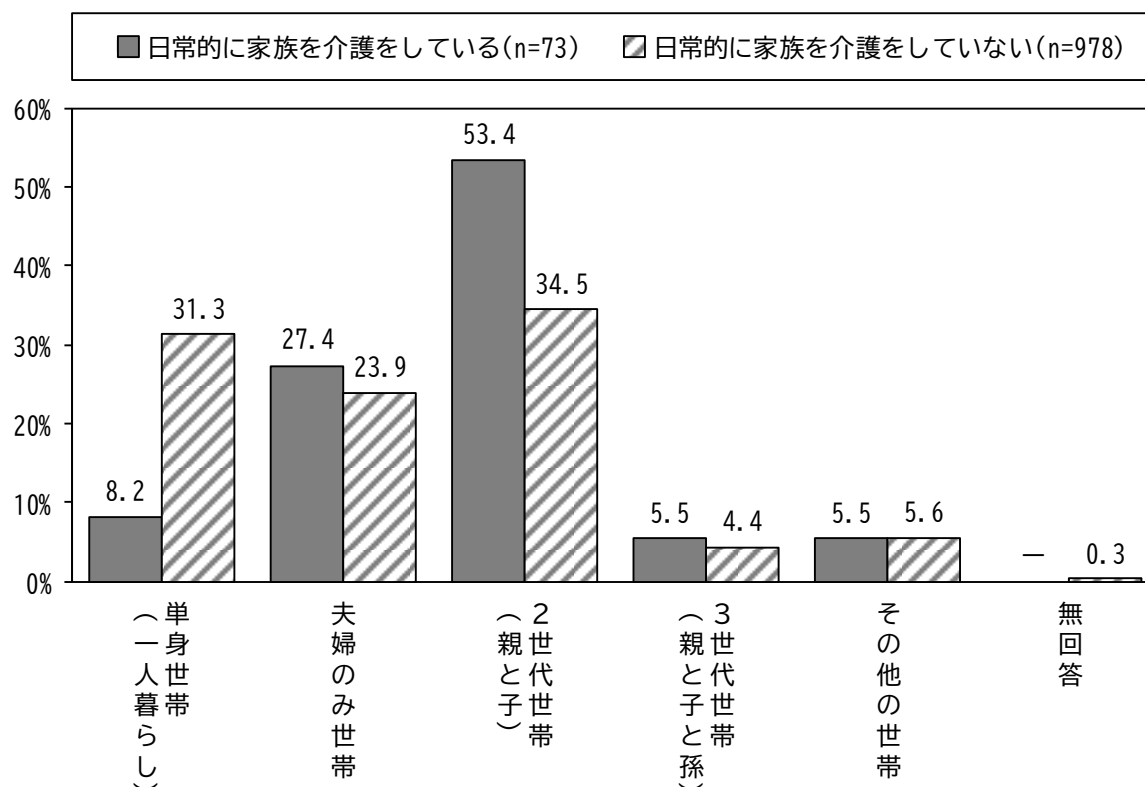
■【介護の有無別】性別・年齢



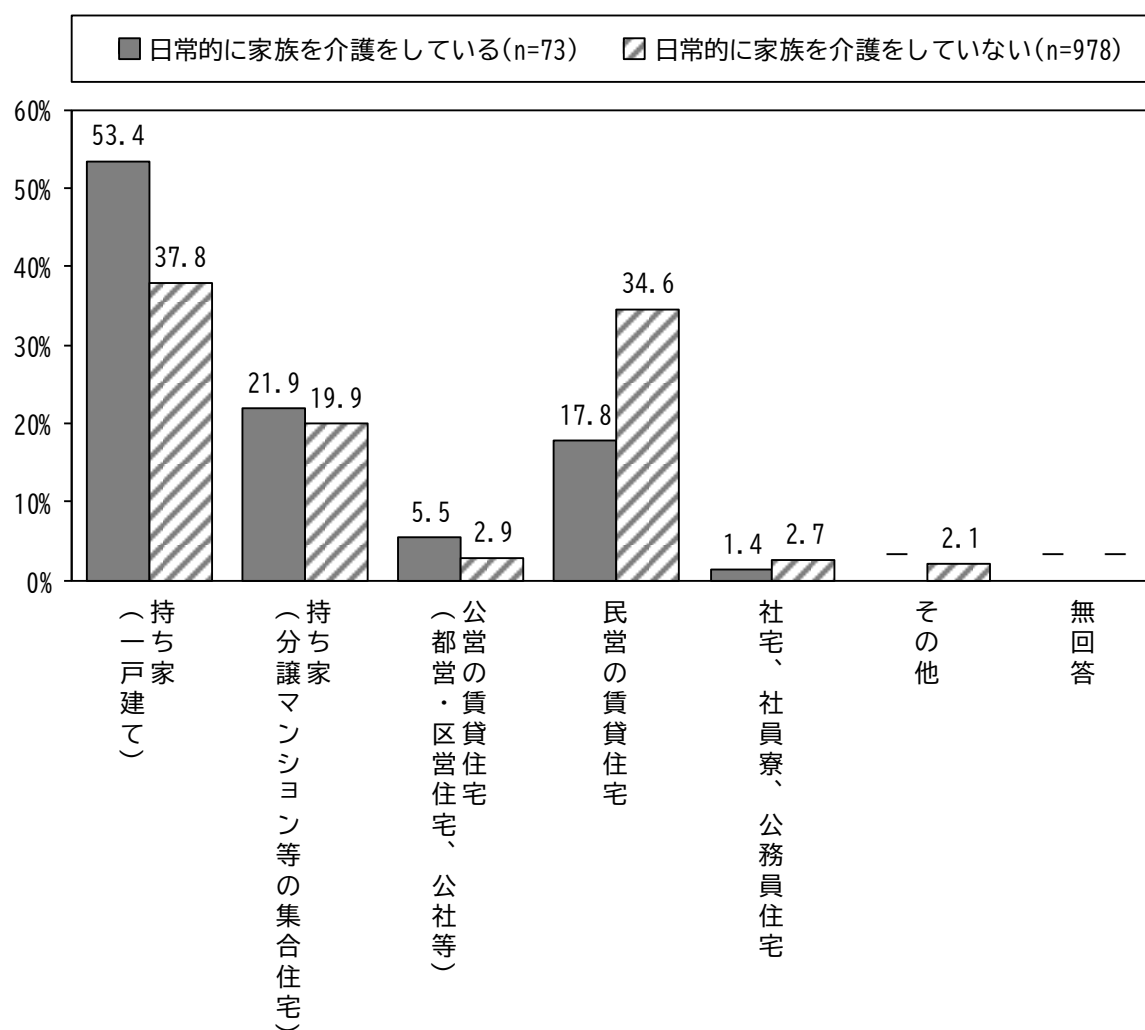
■【介護の有無別】職業



■【介護の有無別】世帯構成

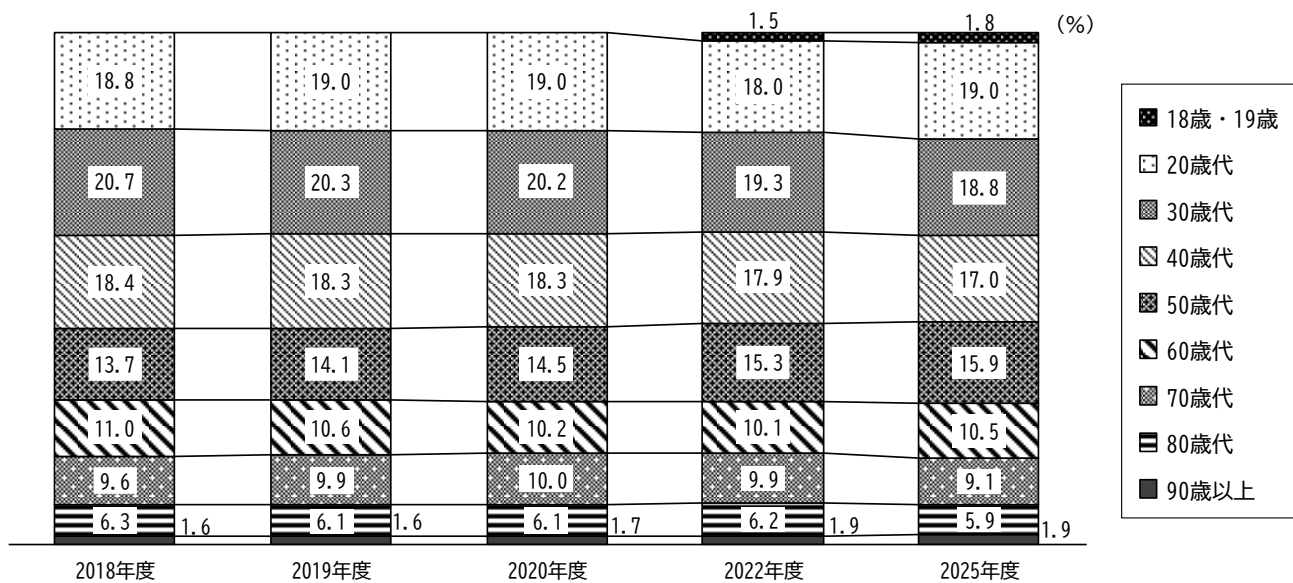


■【介護の有無別】住居形態

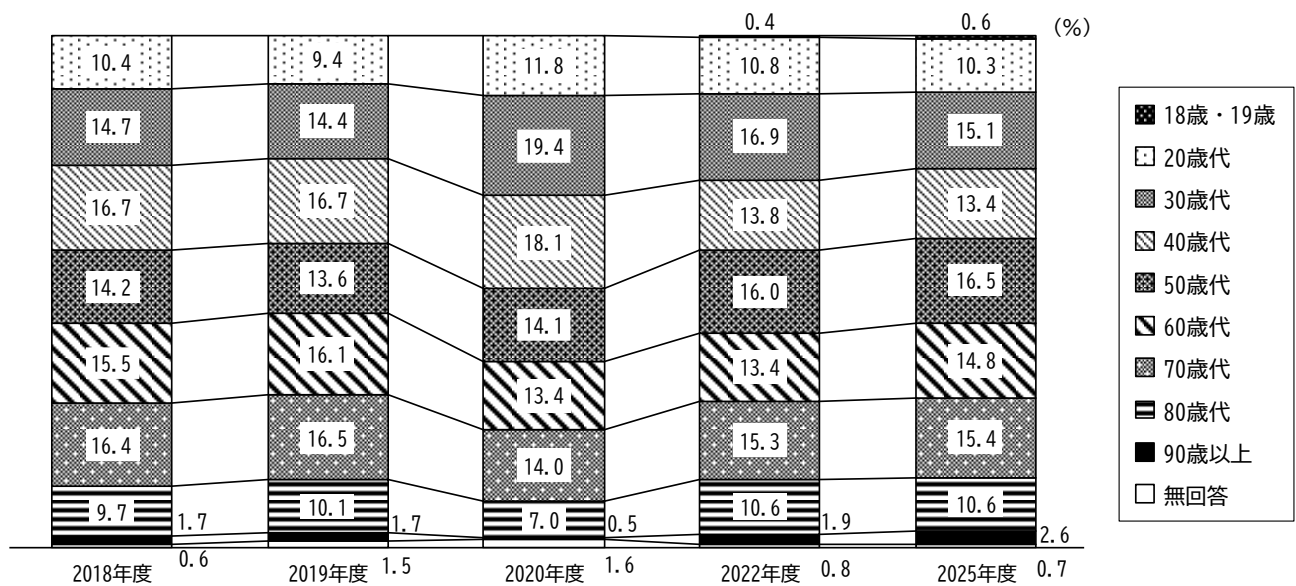


10 母集団と調査回答者の推移

■【年代別】母集団



■【年代別】回答者



※2020年度までは満20歳以上の区民を調査対象としていたが、2022年度からは満18歳以上の区民を調査対象とした。

Ⅲ 調査結果の分析

1 地域活動について

1.1 地域の活動への参加

◆参加している地域活動の中で、最も高いのは「町会・自治会の活動」

(全員の方に)

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

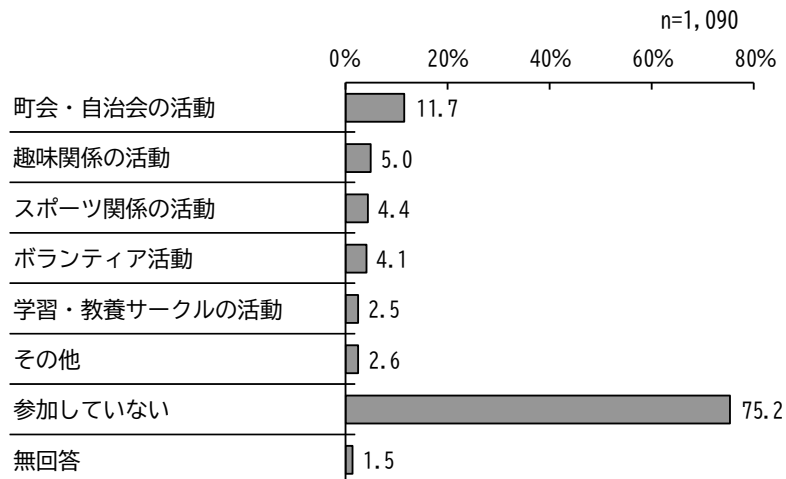


図 1-1 参加している地域活動

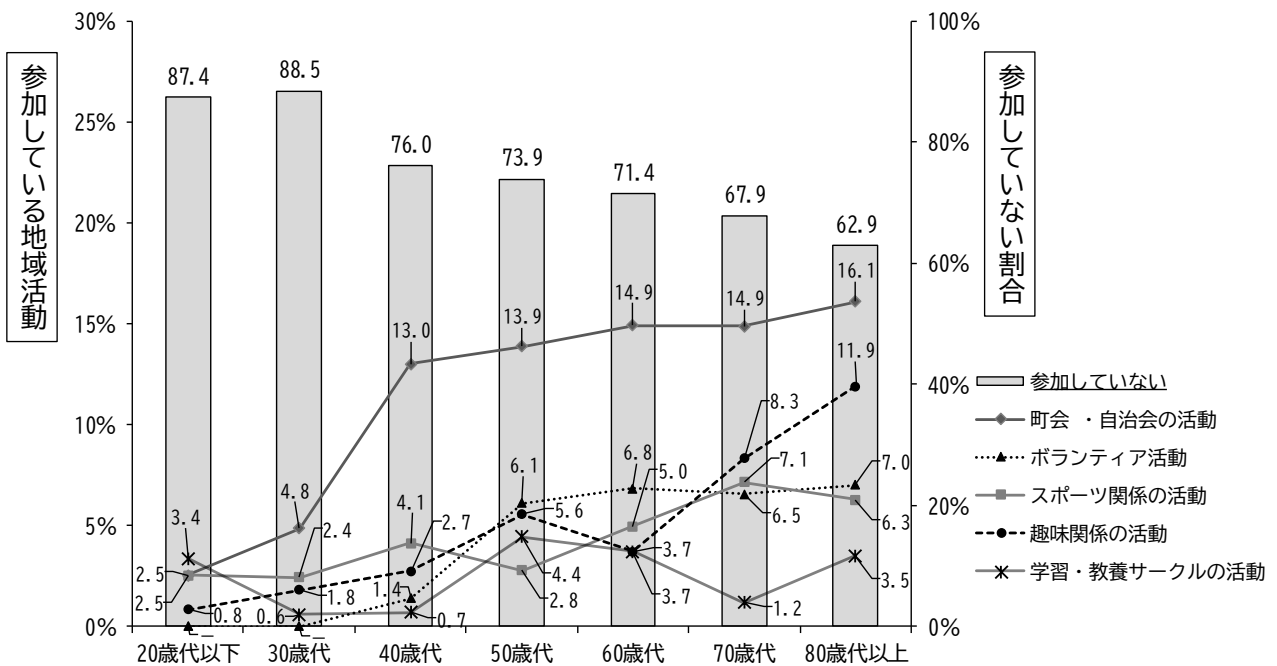
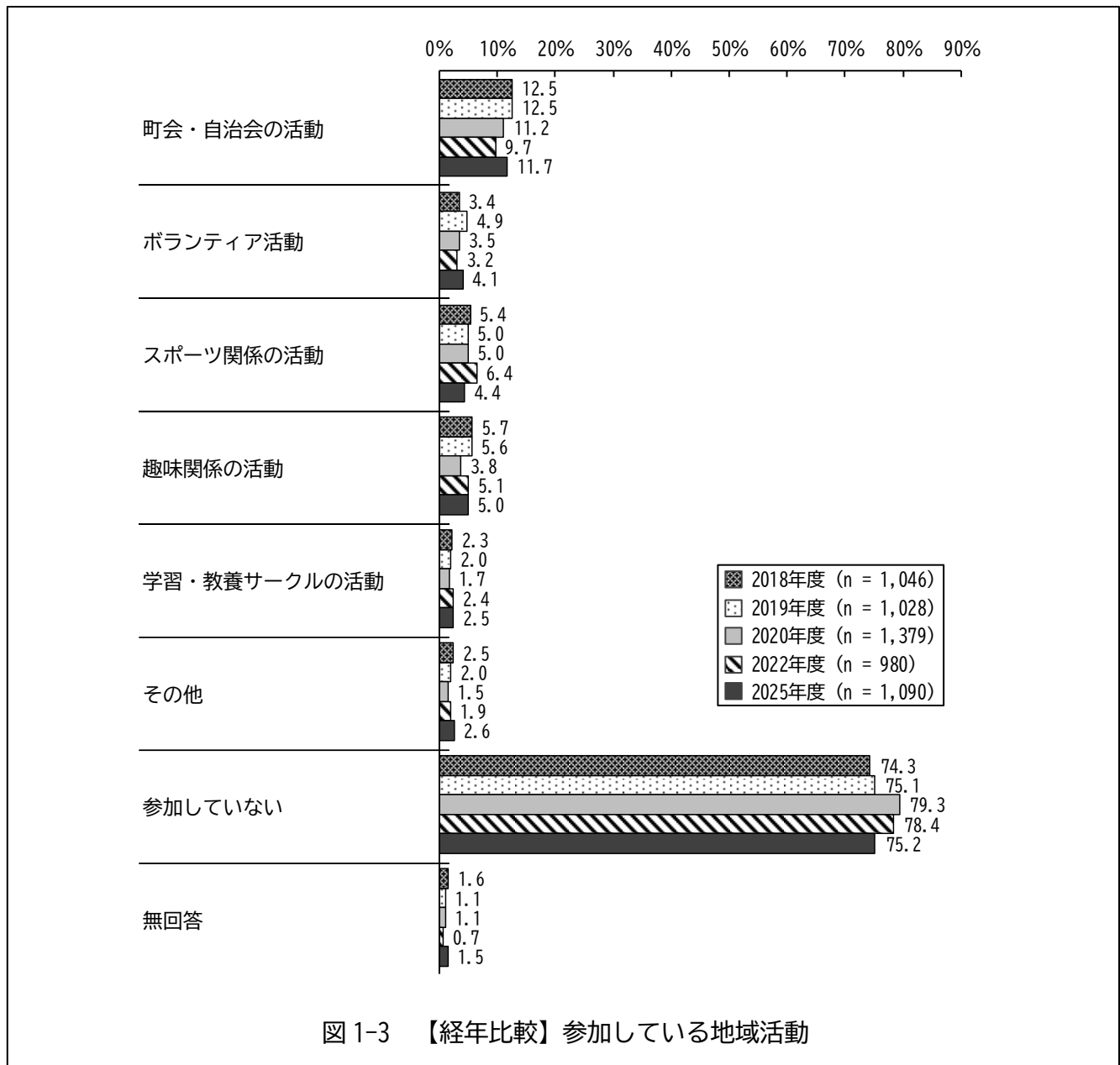


図 1-2 【年代別】参加している地域活動

地域活動への参加状況は、「参加していない」(75.2%)が最も高くなっている。年代別にみると、30歳代以下で「参加していない」の割合が8割台後半と高くなっている。参加している地域の活動としては「町会・自治会の活動」が40歳代以上で1割を超えている。



経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「参加していない」割合は2020年度から減少傾向にある。

1.2 近所とのつきあいの程度

◆親しくおつきあいしている割合は 80 歳代以上で 2 割半ば

(全員の方に)

問 2 あなたのご近所とのつきあいはどうのようなものですか。(○は 1 つ)

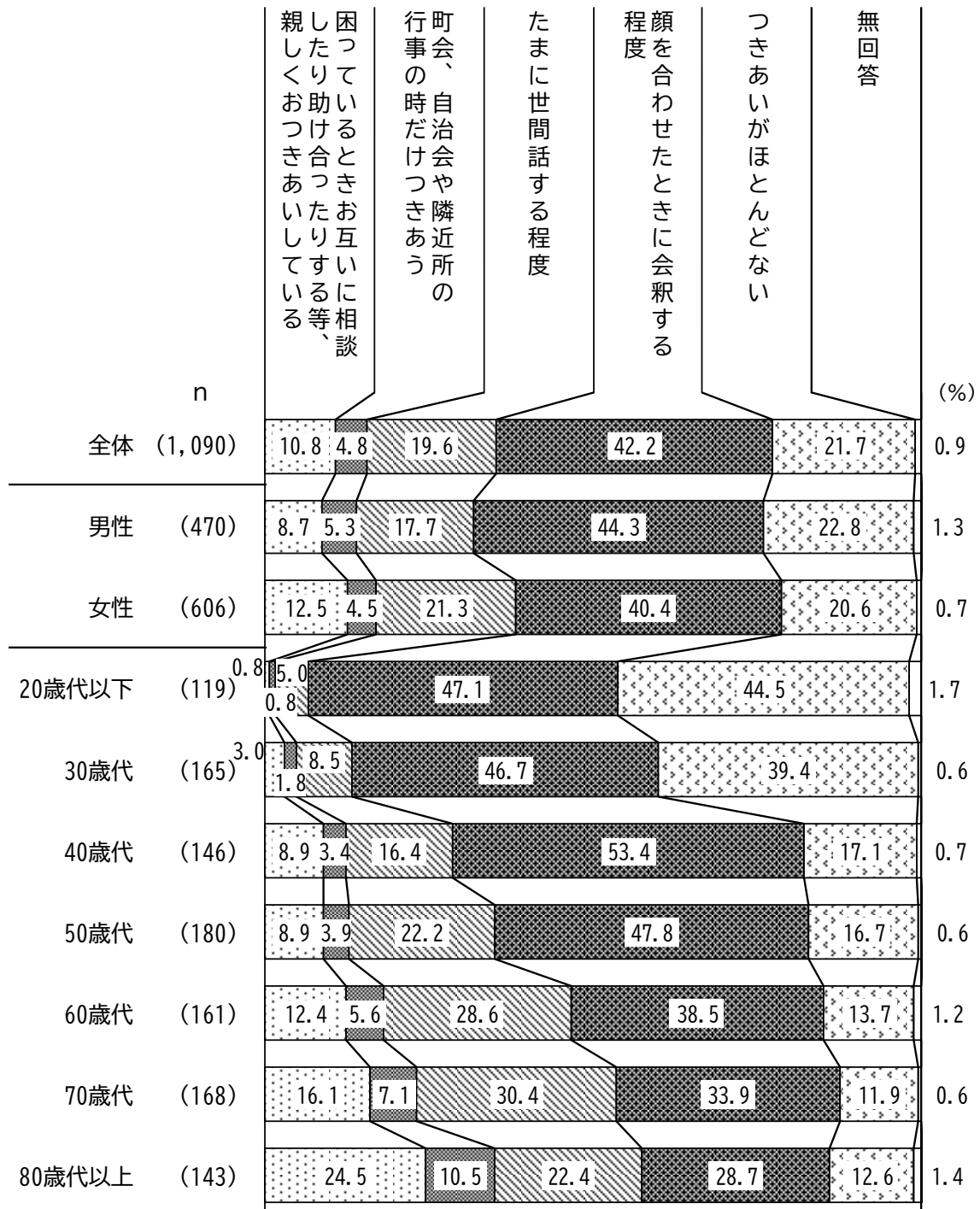
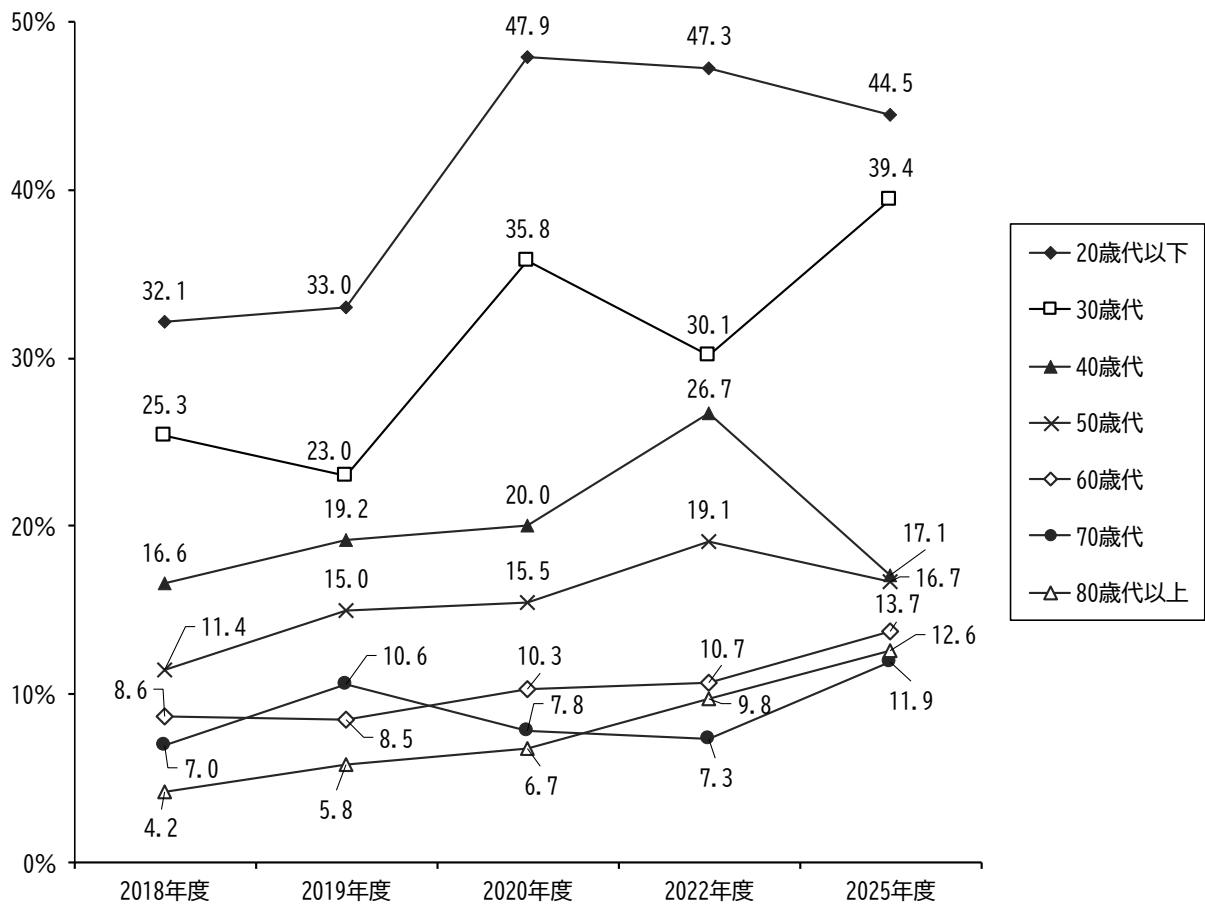


図 1-4 【性・年代別】近所とのつきあいの程度

ご近所とのつきあいの程度としては、「顔を合わせたときに会釈する程度」(42.2%) が最も高くなっている。性別にみると、「顔を合わせたときに会釈する程度」は、男性(44.3%)が女性(40.4%)を約 4 ポイント上回っている。年代別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、80 歳代以上で 2 割半ばと高くなっている。

■年代別 「つきあいがほとんどない」の割合



※2022年度から18歳・19歳を調査対象としているため、2020年度以前は「20歳代以下」ではなく「20歳代」。
以下、年代別クロス集計の経年比較は全て同様。

図1-5 【経年比較】近所とのつきあいの程度

経年で比較すると、いずれの年度も「つきあいがほとんどない」の割合が20歳代以下で最も高くなっており、次いで30歳代の割合が高く、30歳代は2022年度に比べ9.3ポイント増加している。一方、40歳代は2022年度に比べ9.6ポイント減少している。

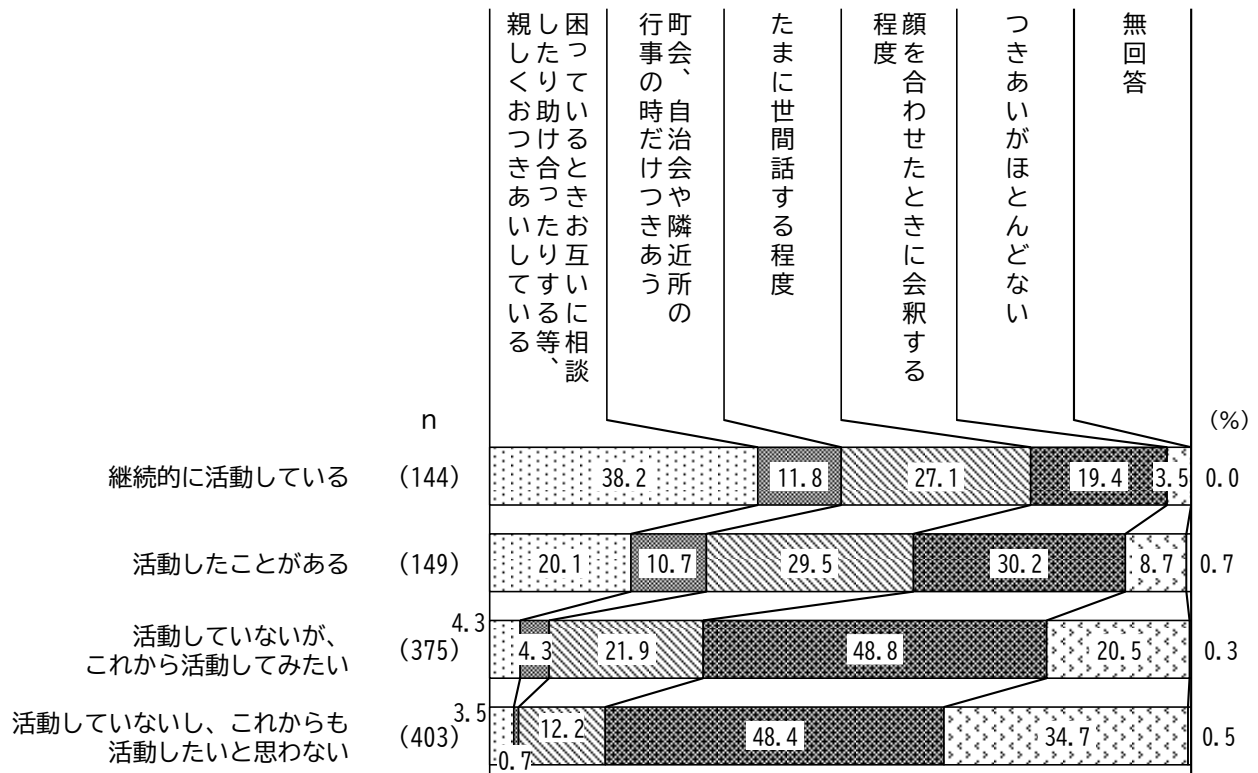
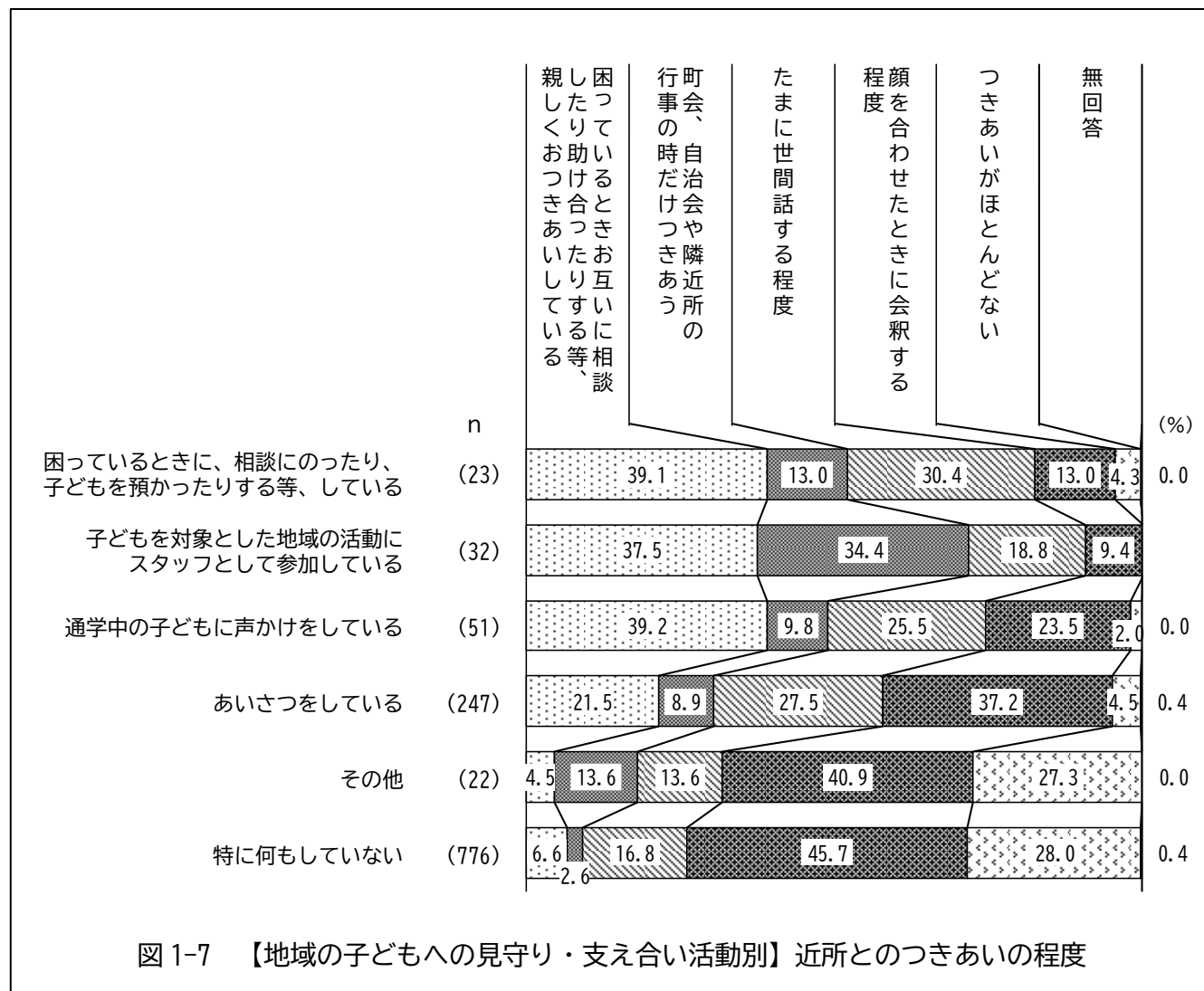


図 1-6 【見守り・支えあい活動別】近所とのつきあいの程度

見守り・支えあい活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、継続的に活動している人や活動したことがある人で高くなっており、継続的に活動している人で3割台後半、活動したことがある人で約2割となっている。



地域の子どもへの見守り・支え合い活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、何らかの見守り・支え合い活動をしている人の方が3割台後半から約4割と高くなっている。一方、「つきあいがほとんどない」と「顔を合わせたときに会釈する程度」は、特に何もしていない人で割合が高くなっている。

1.3 人とのつきあいがないと感じるか

◆人とのつきあいがないと＜感じる＞は3割台後半

(全員の方に)

問3 自分には人とのつきあいがないと感じることはありますか。(○は1つ)

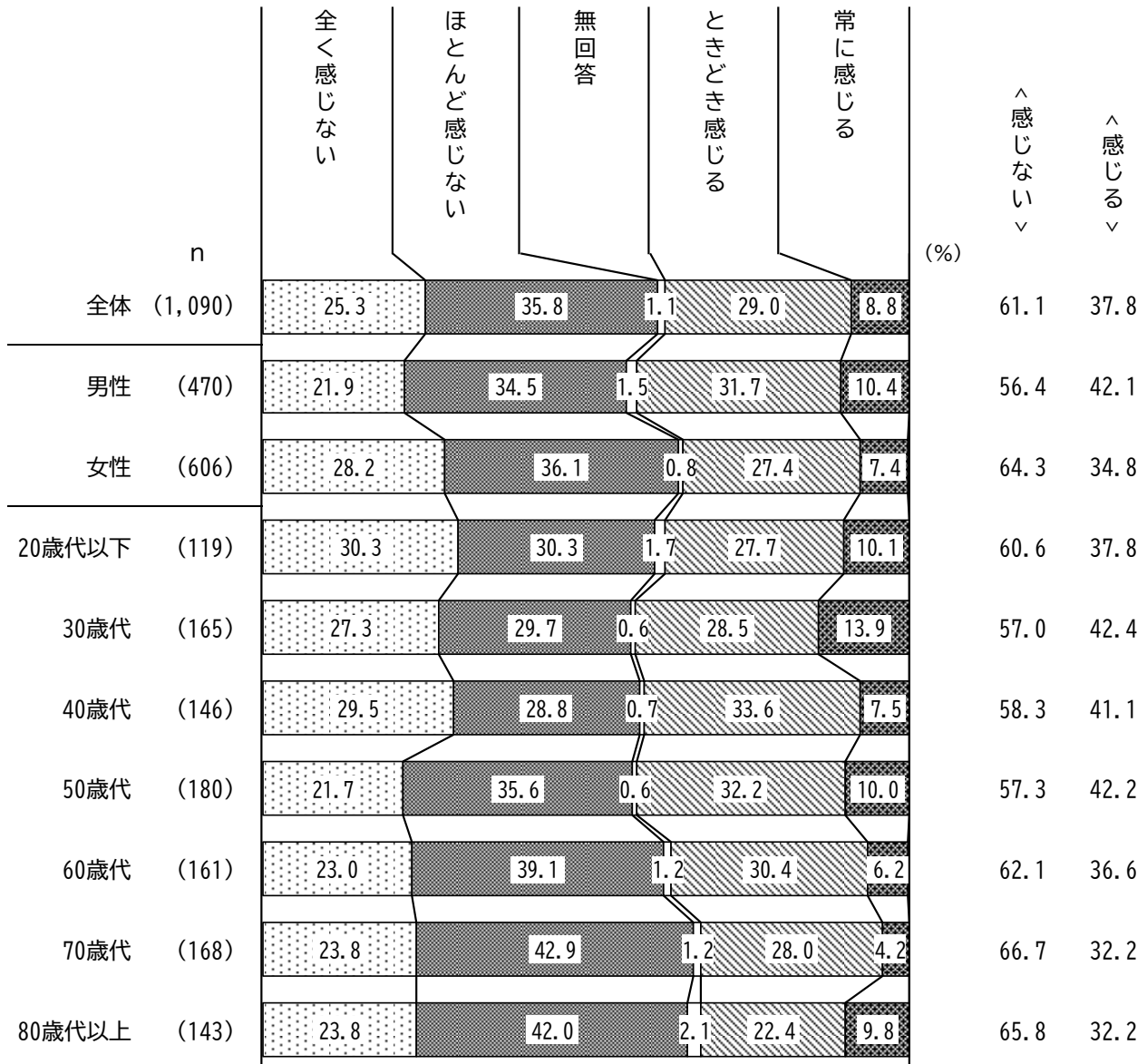


図1-8 【性・年代別】人とのつきあいがないと感じるか

人とのつきあいがないと感じるかどうかは、「全く感じない」(25.3%)と「ほとんど感じない」(35.8%)を合わせた＜感じる＞が約6割であるのに対し、「ときどき感じる」(29.0%)と「常を感じる」(8.8%)を合わせた＜感じる＞は3割台後半となっている。性別にみると、＜感じる＞は、男性(42.1%)が女性(34.8%)を約7ポイント上回っている。年代別にみると、30～50歳代で＜感じる＞の割合が4割を超えて高くなっている。

1.4 取り残されていると感じるか

◆取り残されていると<感じる>は1割台後半

(全員の方に)

問4 自分は取り残されていると感じることはありますか。(○は1つ)

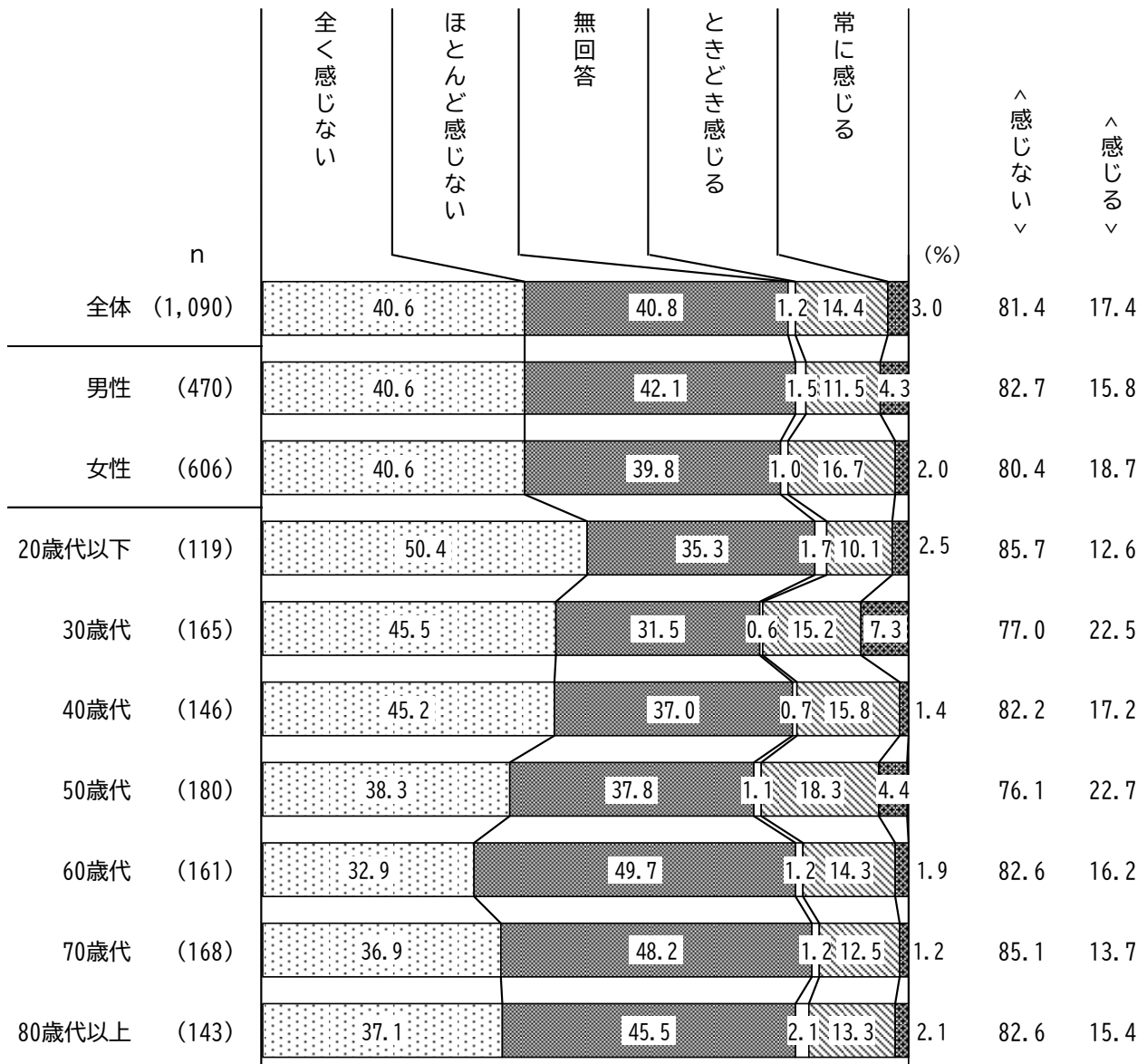


図1-9 【性・年代別】取り残されていると感じるか

自分は取り残されていると感じるかどうかは、「全く感じない」(40.6%)と「ほとんど感じない」(40.8%)を合わせた<感じる>が約8割であるのに対し、「ときどき感じる」(14.4%)と「常に感じる」(3.0%)を合わせた<感じる>は1割台後半となっている。年代別にみると、30歳代と50歳代で<感じる>の割合が2割台前半で高くなっている。

1.5 他の人から孤立していると感じるか

◆他の人から孤立していると感じるは1割台後半

(全員の方に)

問5 自分は他の人から孤立していると感じることはありますか。(○は1つ)

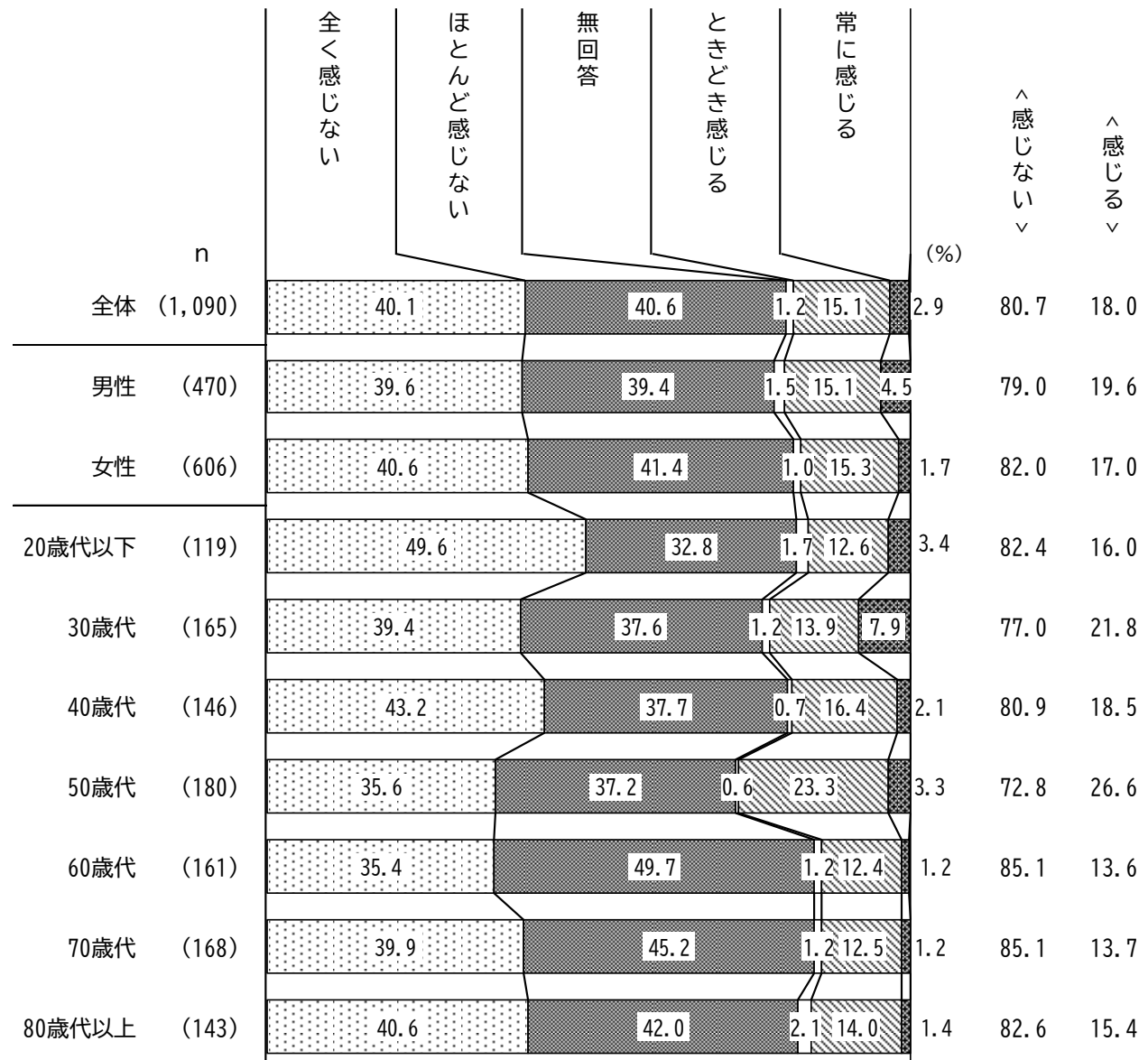


図1-10 【性・年代別】他の人から孤立していると感じるか

他の人から孤立していると感じるかかどうかは、「全く感じない」(40.1%)と「ほとんど感じない」(40.6%)を合わせた<感じない>が約8割であるのに対し、「ときどき感じる」(15.1%)と「常を感じる」(2.9%)を合わせた<感じる>は1割台後半となっている。年代別にみると、30歳代と50歳代で<感じる>の割合が2割台で高くなっている。

1.6 相談相手

◆相談相手は「知人・友人」が5割半ば

(全員の方に)

問6 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できるのは誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

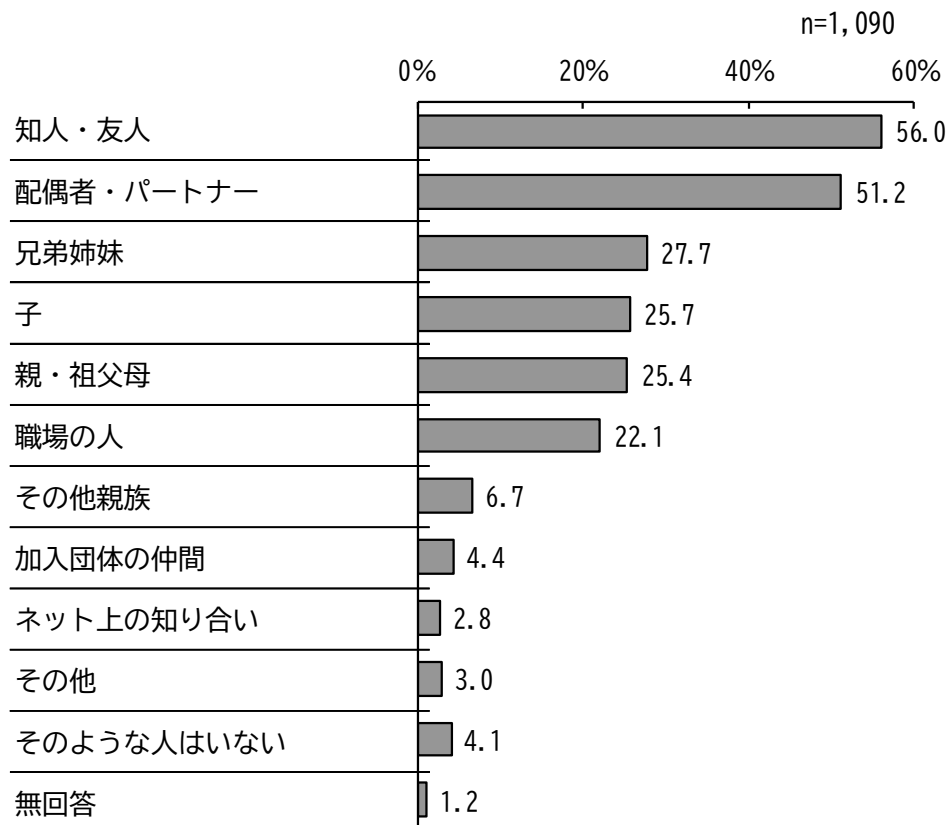


図 1-11 相談相手

心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できる相手は、「知人・友人」が 56.0%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(51.2%)、「兄弟姉妹」(27.7%)となっている。

表 1-1 【年代別】上位 5 項目 相談相手

単位：％

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
20歳代以下 n=119	知人・友人 64.7	親・祖父母 51.3	配偶者・パートナー 39.5	職場の人 33.6	兄弟姉妹 26.9
30歳代 n=165	知人・友人 61.2	配偶者・パートナー 60.0	親・祖父母 52.1	職場の人 33.9	兄弟姉妹 27.9
40歳代 n=146	配偶者・パートナー 64.4	知人・友人 61.6	親・祖父母 45.9	職場の人 38.4	兄弟姉妹 25.3
50歳代 n=180	知人・友人 63.3	配偶者・パートナー 57.8	兄弟姉妹 29.4	子 28.3	職場の人 27.2
60歳代 n=161	知人・友人 59.6	配偶者・パートナー 50.9	兄弟姉妹 31.1	子 29.8	職場の人 18.0
70歳代 n=168	配偶者・パートナー／知人・友人 50.6		子 44.0	兄弟姉妹 29.8	その他親族 8.9
80歳代以上 n=143	子 58.0	配偶者・パートナー／知人・友人 30.1		兄弟姉妹 21.7	その他親族 11.2

心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できる相手を年代別にみると、30 歳代以下と 50～60 歳代で「知人・友人」、40 歳代で「配偶者・パートナー」、70 歳代で「配偶者・パートナー／知人・友人」、80 歳代以上で「子」の割合が特に高くなっている。

1.7 家族や友人以外の相談先

◆家族や友人以外の相談先は「そのような人はいない」が6割台前半

(全員の方に)

問7 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

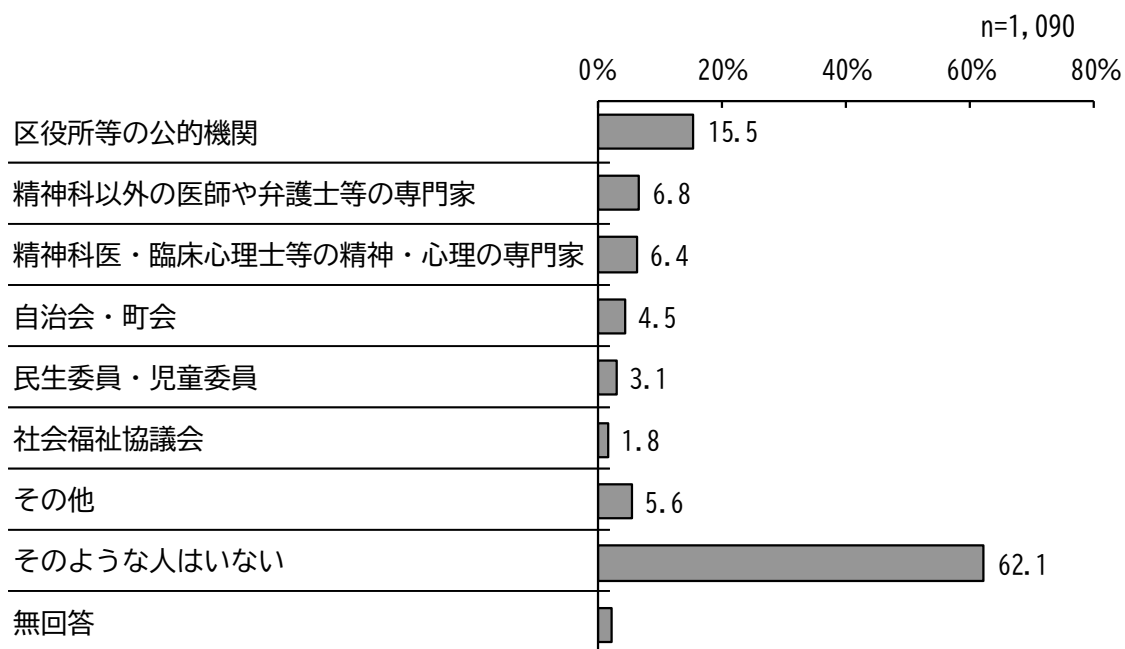


図 1-12 家族や友人以外の相談先

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関は、「そのような人はいない」が62.1%で最も高く、次いで「区役所等の公的機関」(15.5%)となっている。

表 1-2 【年代別】上位 5 項目 家族や友人以外の相談先

単位：％

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
20歳代以下 n=119	そのような人はいない 84.0	区役所等の公的機関 7.6	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 3.4	民生委員・児童委員／社会福祉協議会／精神科以外の医師や弁護士等の専門家 0.8	
30歳代 n=165	そのような人はいない 68.5	区役所等の公的機関 14.5	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 10.3	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 4.2	自治会・町会 1.2
40歳代 n=146	そのような人はいない 65.8	区役所等の公的機関 15.1	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 7.5	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 5.5	自治会・町会／社会福祉協議会 2.1
50歳代 n=180	そのような人はいない 65.6	区役所等の公的機関 12.8	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 9.4	自治会・町会／精神科以外の医師や弁護士等の専門家 5.0	
60歳代 n=161	そのような人はいない 57.8	区役所等の公的機関 18.0	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 11.8	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 6.8	自治会・町会 2.5
70歳代 n=168	そのような人はいない 56.5	区役所等の公的機関 19.0	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 10.7	自治会・町会 9.5	民生委員・児童委員 3.0
80歳代以上 n=143	そのような人はいない 40.6	区役所等の公的機関 21.0	民生委員・児童委員 14.0	自治会・町会 10.5	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 7.7

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関を年代別にみると、いずれの年代でも「そのような人はいない」が最も高く、若い年代ほどその割合が高くなっている。

1.8 必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動

◆必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は「日常的な声かけ」が4割台後半

(全員の方に)

問8 あなたは、地域で生活していくうえで、近隣同士のどのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

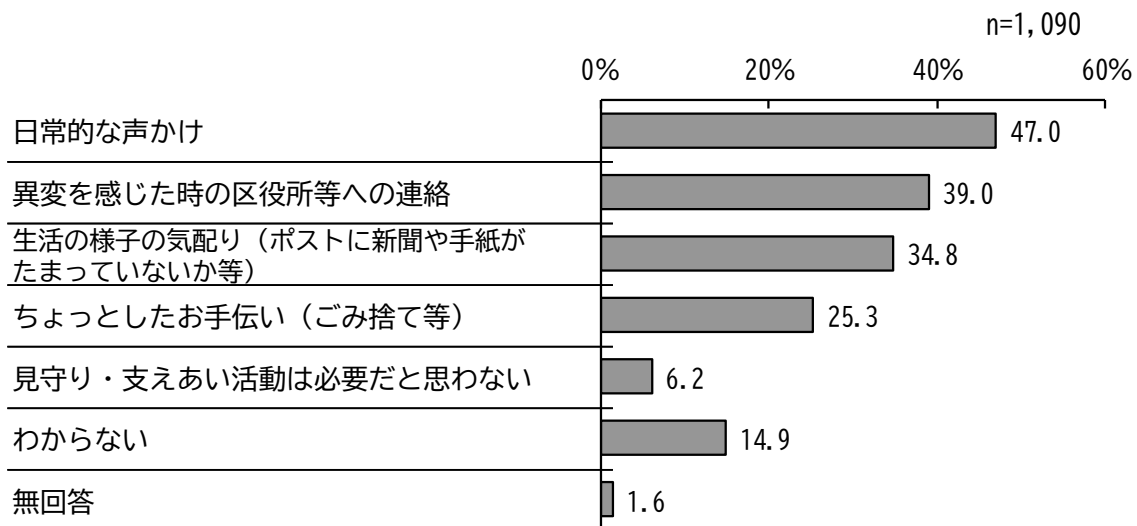
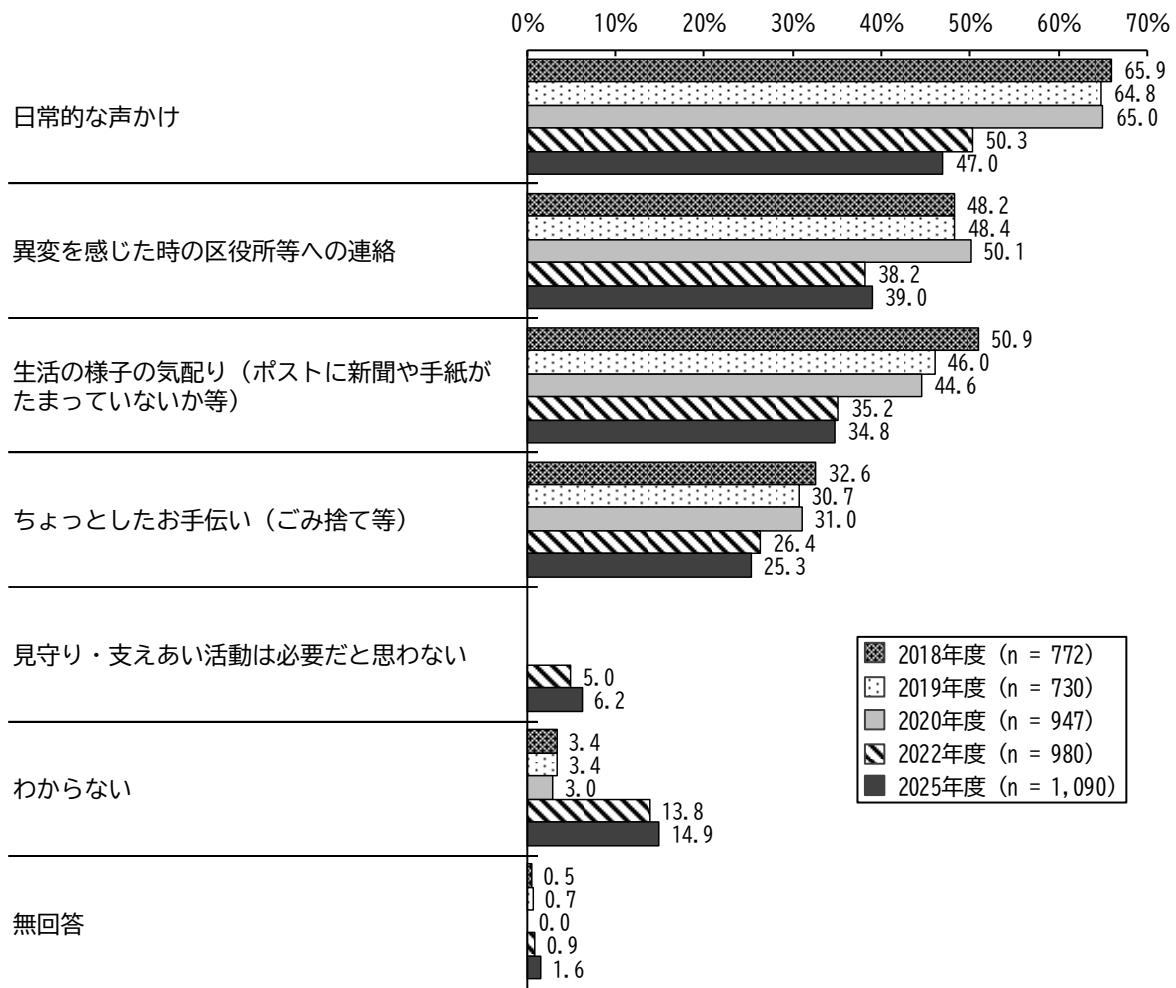


図 1-13 必要だと思う見守り・支えあい活動

必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は、「日常的な声かけ」が 47.0%で最も高く、次いで「異変を感じた時の区役所等への連絡」(39.0%)、「生活の様子の気配り (ポストに新聞や手紙がたまっていないか等)」(34.8%)となっている。



※2018～2020年度は「見守り・支えあい活動が『必要だと思う』人」に限定して聞いており、質問の条件が異なるため、経年比較は参考として掲載する。

図 1-14 【経年比較】必要だと思う見守り・支えあい活動

1.9 近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動の実施状況

◆近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動を「これからしてみたい」人が3割半ば

(全員の方に)

問 9 あなたは、近隣同士の日常的な声かけなどの見守り・支えあい活動をしていますか。(○は1つ)

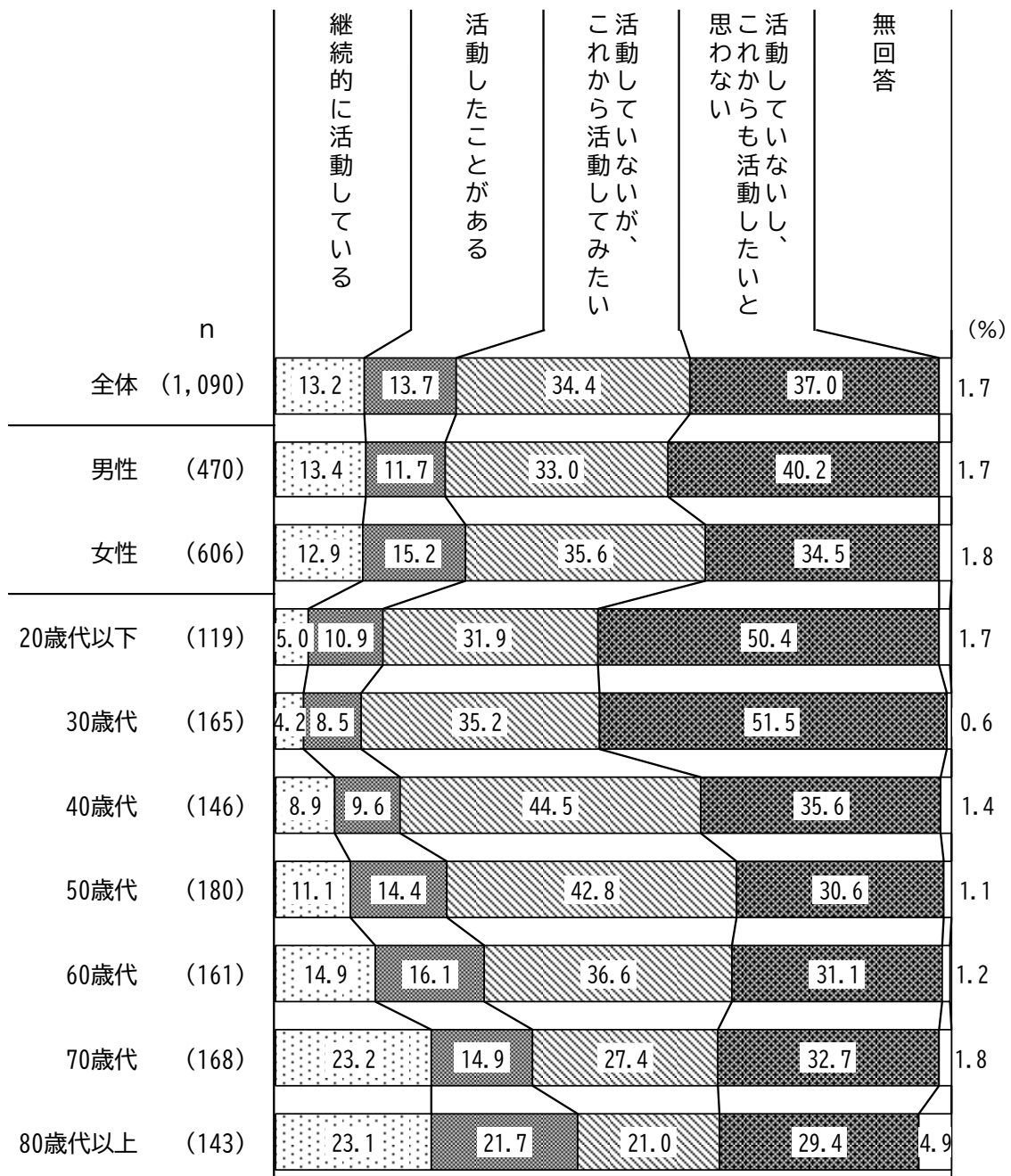
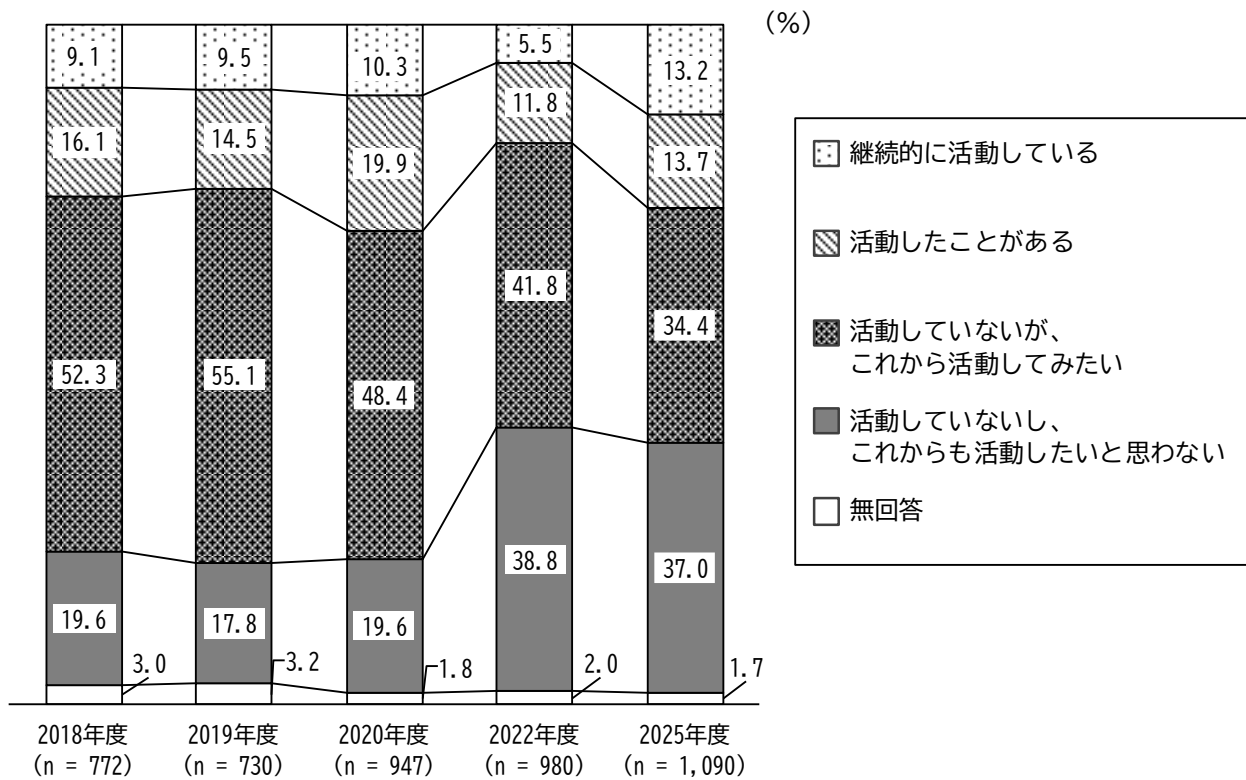


図 1-15 【性・年代別】近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動の実施状況

近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動の実施状況は、「活動していないし、これからは活動したいと思わない」が 37.0%で最も高く、次いで「活動していないが、これから活動してみたい」(34.4%)となっている。性別にみると、「活動していないし、これからは活動したいと思わない」は、男性(40.2%)が女性(34.5%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、「継続的に活動している」は70歳代以上で2割台前半と高くなっており、「活動していないが、これから活動してみたい」は40歳代で4割半ば、50歳代で4割台前半と高くなっている。



※2018～2020年度は「見守り・支えあい活動が『必要だと思う』人」に限定して聞いており、質問の条件が異なるため、経年比較は参考として掲載する。

図 1-16 【経年比較】近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動の実施状況

1.10 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

◆子どもに対する見守り・支えあい活動を「特に何もしていない」が約7割

(全員の方に)

問 10 あなたは、地域の子どもに対する見守り・支えあい活動をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

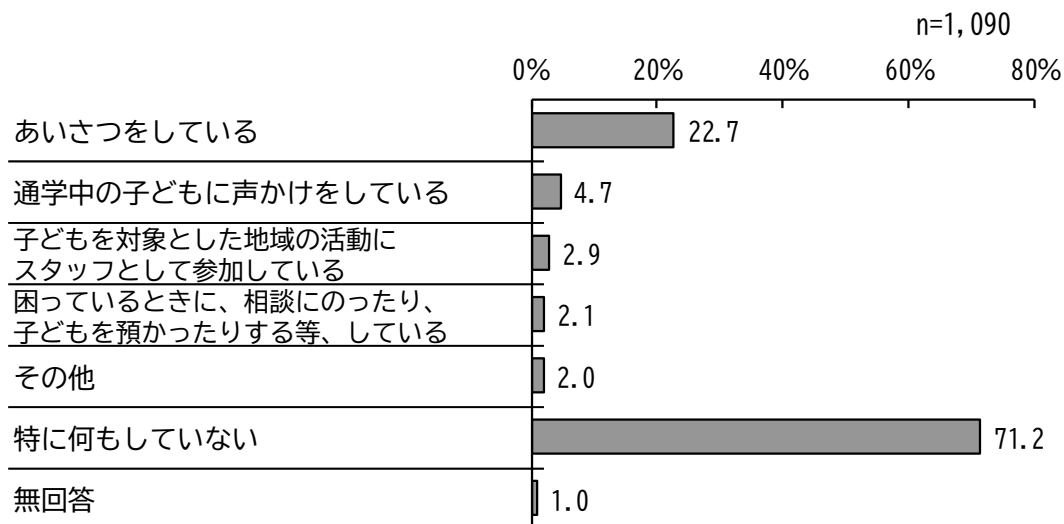


図 1-17 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況は、「特に何もしていない」が 71.2%と最も高く、次いで「あいさつをしている」(22.7%)となっている。

表 1-3 【性・年代別】地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

単位：%

区分	有効回答数(件)	困っているときに、子どもを預かる等、している	子どもを対象とした地域活動に参加している	通学中の子どもに声かけをしている	あいさつをしている	その他	特に何もしていない	無回答
全体	1,090	2.1	2.9	4.7	22.7	2.0	71.2	1.0
男性	470	1.7	1.7	1.7	21.3	2.3	73.4	1.1
女性	606	2.5	4.0	6.9	23.4	1.5	70.0	1.0
20歳代以下	119	1.7	0.0	0.8	10.1	1.7	85.7	1.7
30歳代	165	0.6	0.0	0.6	15.2	0.0	83.0	1.2
40歳代	146	4.8	4.1	9.6	23.3	2.1	67.8	0.7
50歳代	180	1.1	2.8	3.9	24.4	2.2	71.1	0.6
60歳代	161	1.2	5.6	2.5	23.0	2.5	68.3	1.2
70歳代	168	3.0	4.8	8.9	25.0	2.4	67.9	0.6
80歳代以上	143	2.8	2.8	5.6	35.0	2.1	58.0	1.4

性別にみると、「通学中の子どもに声かけをしている」は、女性(6.9%)が男性(1.7%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、いずれの年代でも「特に何もしていない」の割合が最も高く、特に30歳代以下で8割を超えて高くなっている。

1.11 地域における住民同士の交流の場や機会の有無

◆住民同士の交流の場や機会が＜ない＞が6割台前半

(全員の方に)

問Ⅱ 地域には、住民同士の交流の場所や機会がありますか。(○は1つ)

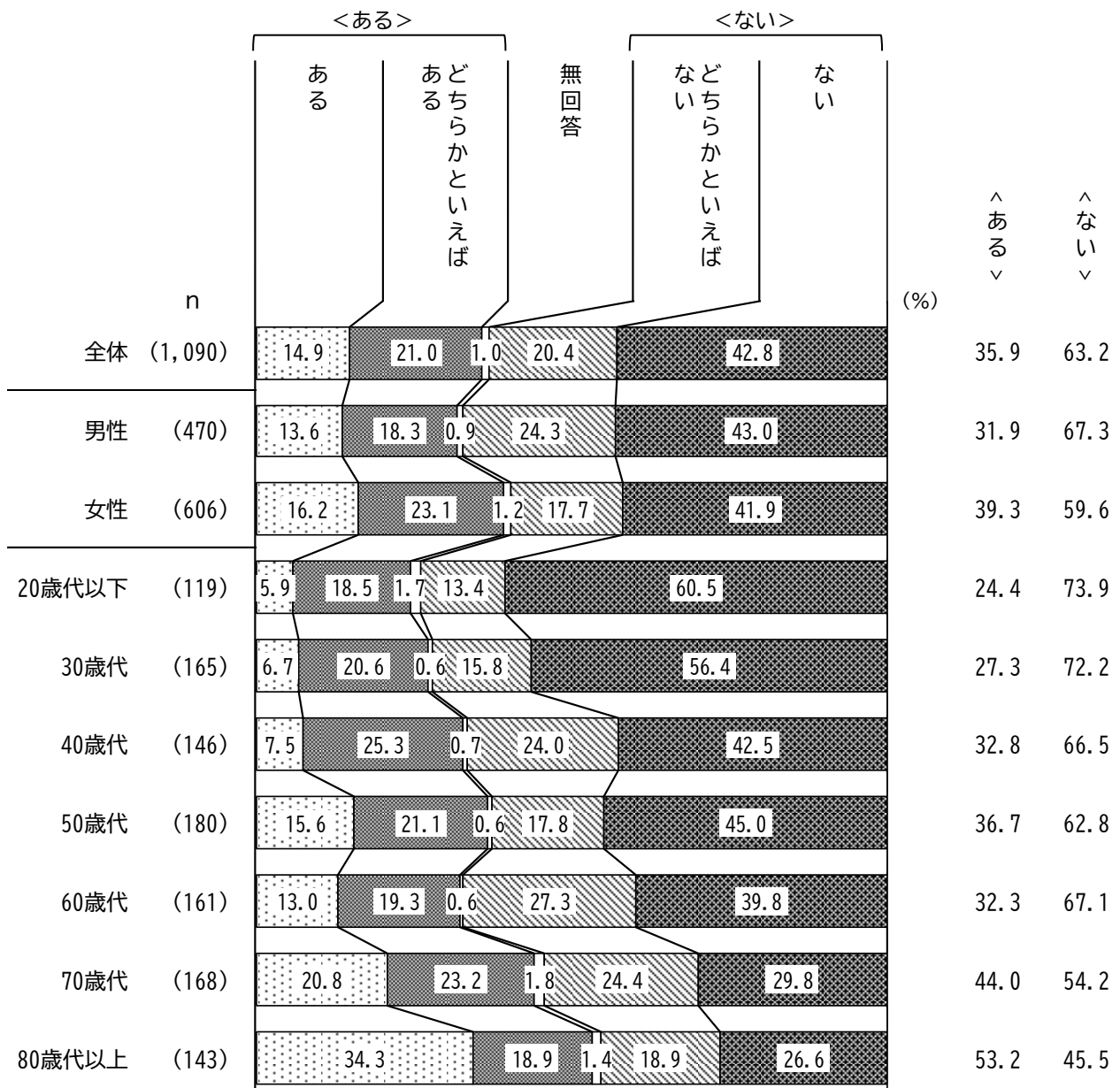
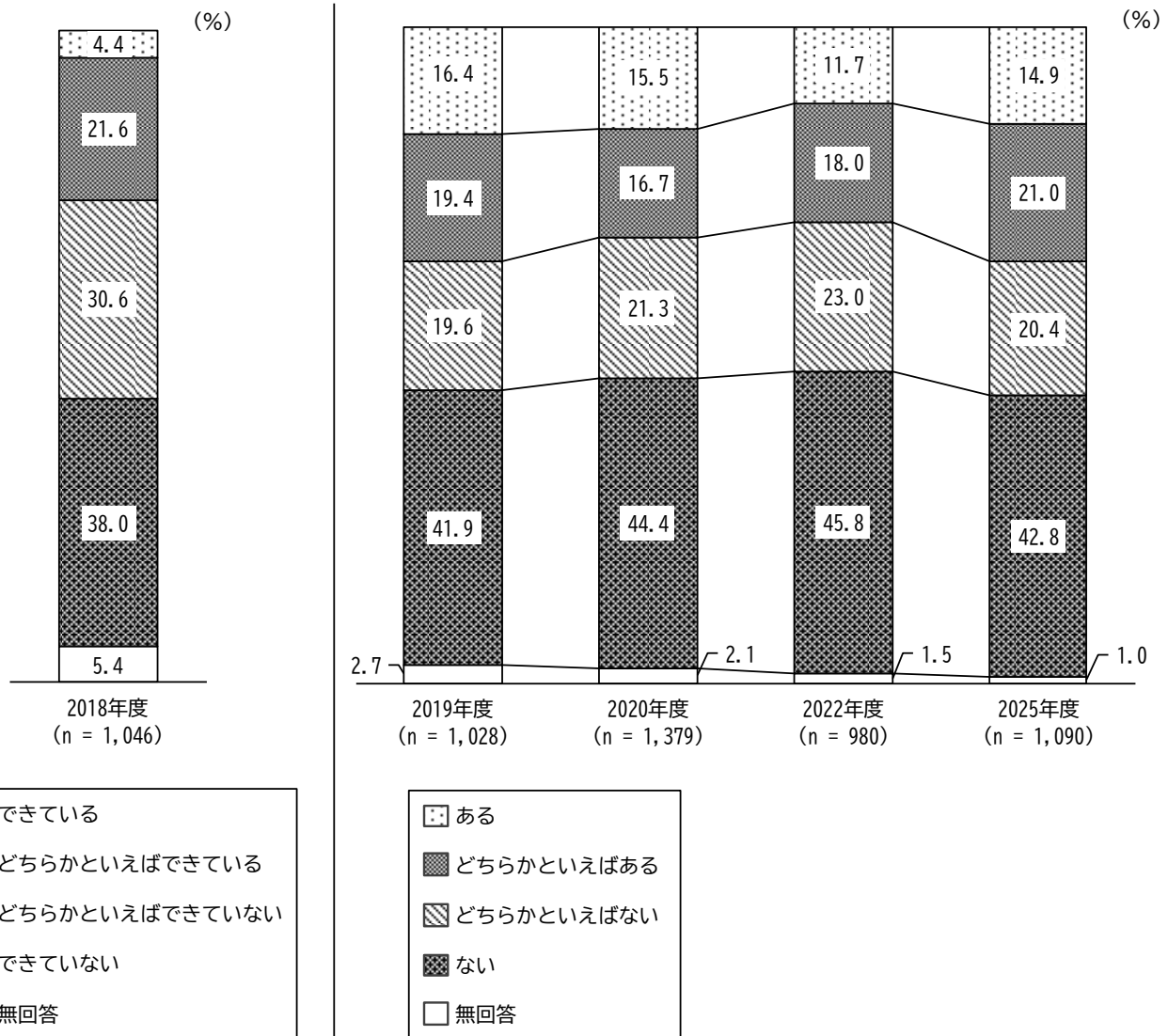


図 1-18 【性・年代別】住民同士の交流の場や機会の有無

地域における住民同士の交流の場や機会の有無は、「どちらかといえはない」(20.4%)と「ない」(42.8%)を合わせた＜ない＞が6割台前半であるのに対し、「ある」(14.9%)と「どちらかといえはある」(21.0%)を合わせた＜ある＞は3割半ばとなっている。性別にみると、＜ない＞は、男性(67.3%)が女性(59.6%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代以下で＜ない＞が7割台前半と特に高くなっている。



※2018年度までは「交流する『場づくり』ができているか」について調査しているため、参考として2018年度の結果を掲載する。

図 1-19 【経年比較】住民同士の交流の場や機会の有無

経年で比較すると、＜ある＞の割合は、2022年度まで減少傾向となっていたが、2025年度に増加に転じ、2019年度とほぼ同じ割合になっている。

1.12 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

◆障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」が最も高い。

(全員の方に)

問 12 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。(○は3つまで)

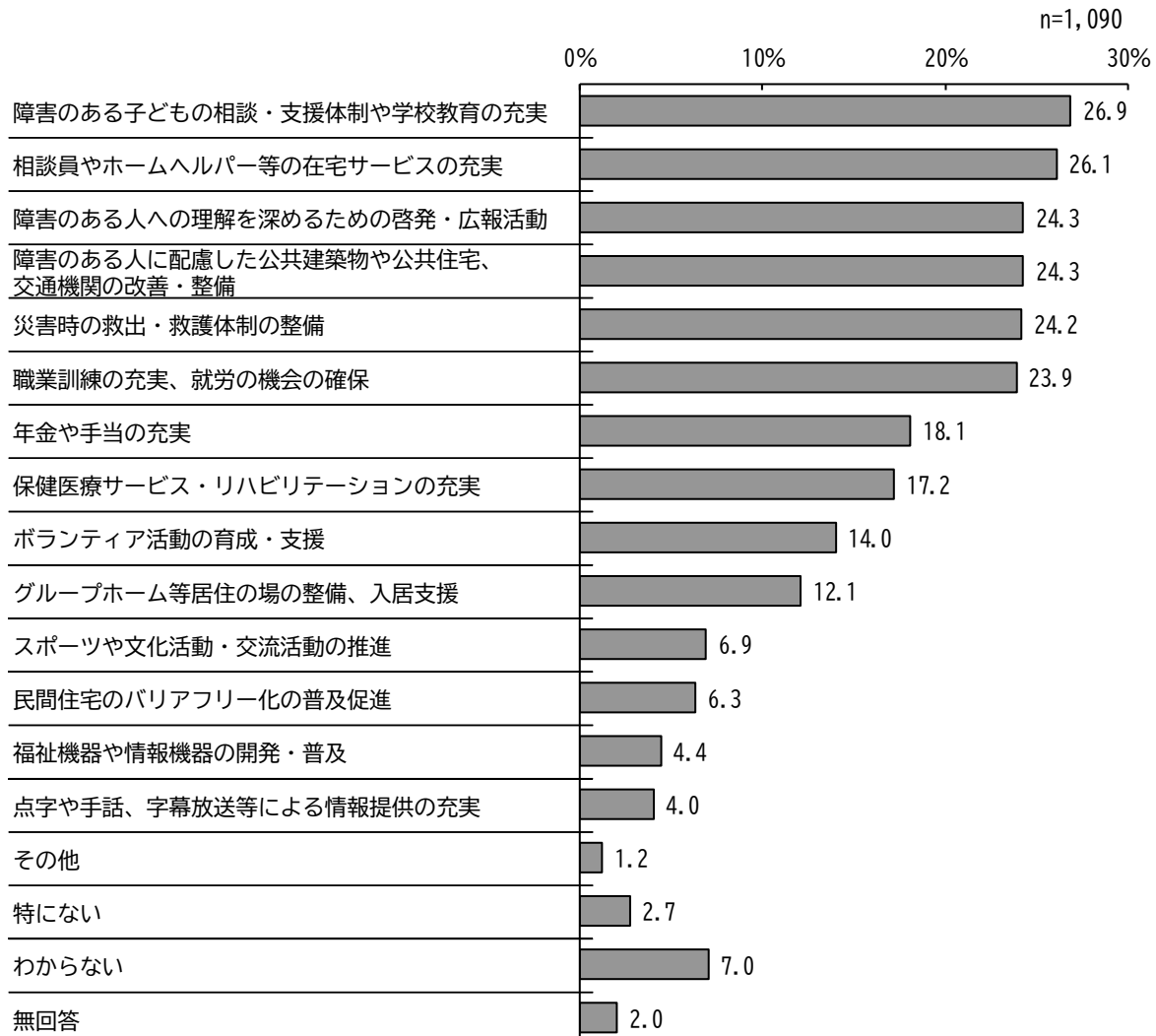


図 1-20 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は、「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」が26.9%で最も高く、次いで「相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実」(26.1%)、「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」と「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」(ともに24.3%)となっている。

表 1-4 【年代別】上位 5 項目 障害のある人となない人が
共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

単位：％

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
20歳代以下 n=119	障害のある子どもの 相談・支援体制や学 校教育の充実 30.3	障害のある人への理 解を深めるための啓 発・広報活動 25.2	災害時の救出・救護 体制の整備 24.4	職業訓練の充実、就 労の機会の確保 23.5	年金や手当の充実／障害 のある人に配慮した公共 建築物や公共住宅、交通 機関の改善・整備 18.5
30歳代 n=165	障害のある子どもの 相談・支援体制や学 校教育の充実 33.9	職業訓練の充実、就 労の機会の確保 27.3	障害のある人への理解を深めるための啓 発・広報活動／相談員やホームヘルパー等 の在宅サービスの充実 21.8	障害のある人に配慮 した公共建築物や公 共住宅、交通機関の 改善・整備 20.6	
40歳代 n=146	障害のある子どもの 相談・支援体制や学 校教育の充実 39.7	職業訓練の充実、就 労の機会の確保 30.8	相談員やホームヘル パー等の在宅サービ スの充実 25.3	障害のある人に配慮 した公共建築物や公 共住宅、交通機関の 改善・整備 24.7	災害時の救出・救護 体制の整備 22.6
50歳代 n=180	相談員やホームヘル パー等の在宅サービ スの充実 33.3	障害のある人に配慮 した公共建築物や公 共住宅、交通機関の 改善・整備 32.2	障害のある人への理 解を深めるための啓 発・広報活動 27.2	障害のある子どもの相談・支援体制や学校 教育の充実／職業訓練の充実、就労の機会 の確保 26.7	
60歳代 n=161	相談員やホームヘル パー等の在宅サービ スの充実 30.4	障害のある人に配慮 した公共建築物や公 共住宅、交通機関の 改善・整備 29.8	障害のある人への理 解を深めるための啓 発・広報活動 28.6	障害のある子どもの 相談・支援体制や学 校教育の充実 25.5	職業訓練の充実、就 労の機会の確保 24.8
70歳代 n=168	災害時の救出・救護 体制の整備 32.7	障害のある人への理 解を深めるための啓 発・広報活動 27.4	相談員やホームヘル パー等の在宅サービ スの充実 26.8	保健医療サービス・ リハビリテーション の充実 23.8	障害のある人に配慮 した公共建築物や公 共住宅、交通機関の 改善・整備 22.6
80歳代以上 n=143	相談員やホームヘル パー等の在宅サービ スの充実 30.8	災害時の救出・救護 体制の整備 25.2	障害のある人への理 解を深めるための啓 発・広報活動 22.4	年金や手当の充実 18.9	障害のある人に配慮 した公共建築物や公 共住宅、交通機関の 改善・整備 18.2

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策を年代別にみると、40 歳代以下では「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」、50～60 歳代と 80 歳代以上では「相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実」、70 歳代では「災害時の救出・救護体制の整備」が 1 位となっている。

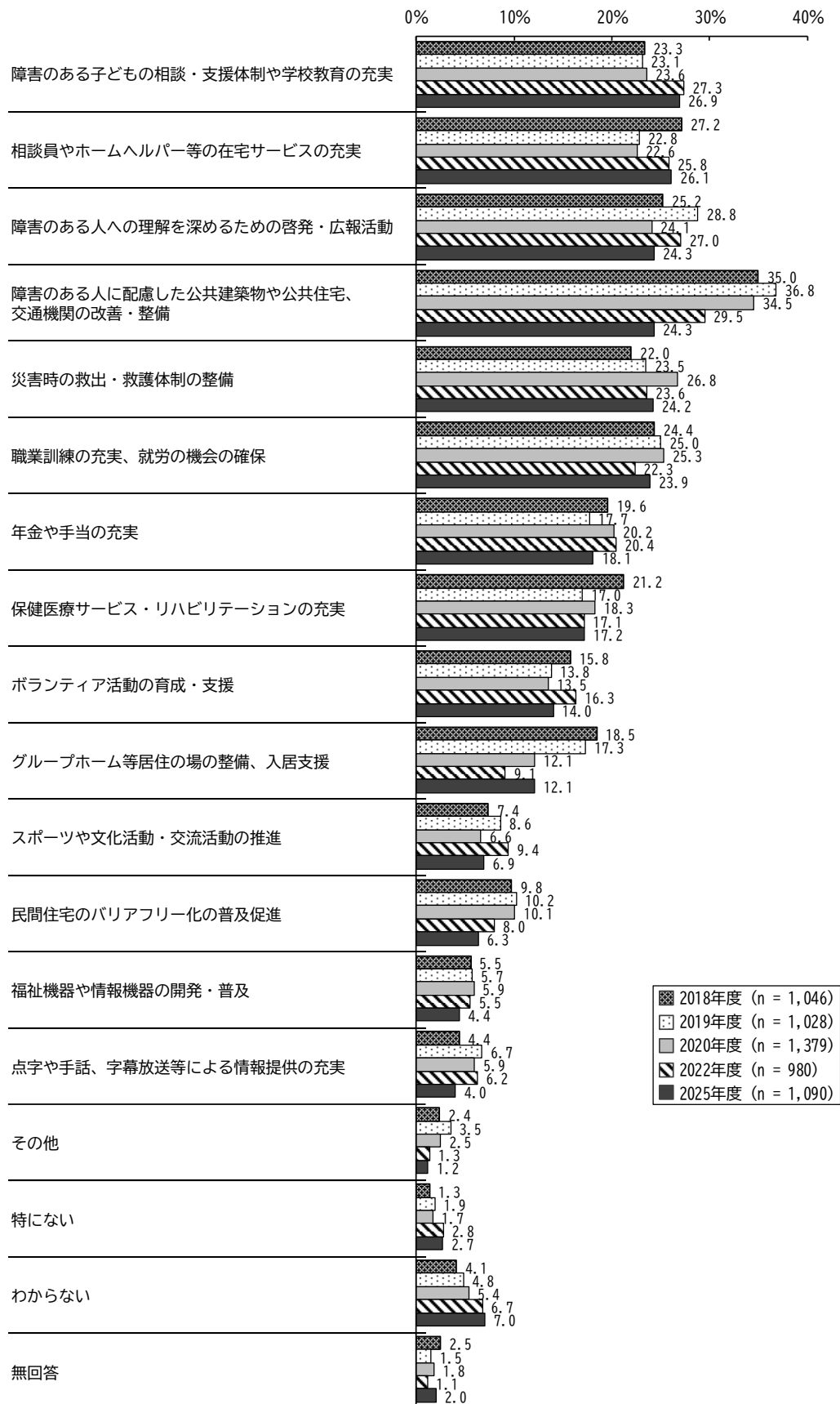


図 1-21 【経年比較】障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

経年で比較すると、「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」や「民間住宅のバリアフリー化の普及促進」が 2019 年度から減少傾向にある。

1.13 高齢者会館の利用状況

◆高齢者会館を<全く利用したことがない>は約8割

(60歳以上の方に)

問 13 高齢者会館（いこいの家も含む）では、様々な自主活動、健康づくりや介護予防の講習会や、施設の貸し出しもしています。

あなたは高齢者会館を利用したことがありますか。（○は1つ）

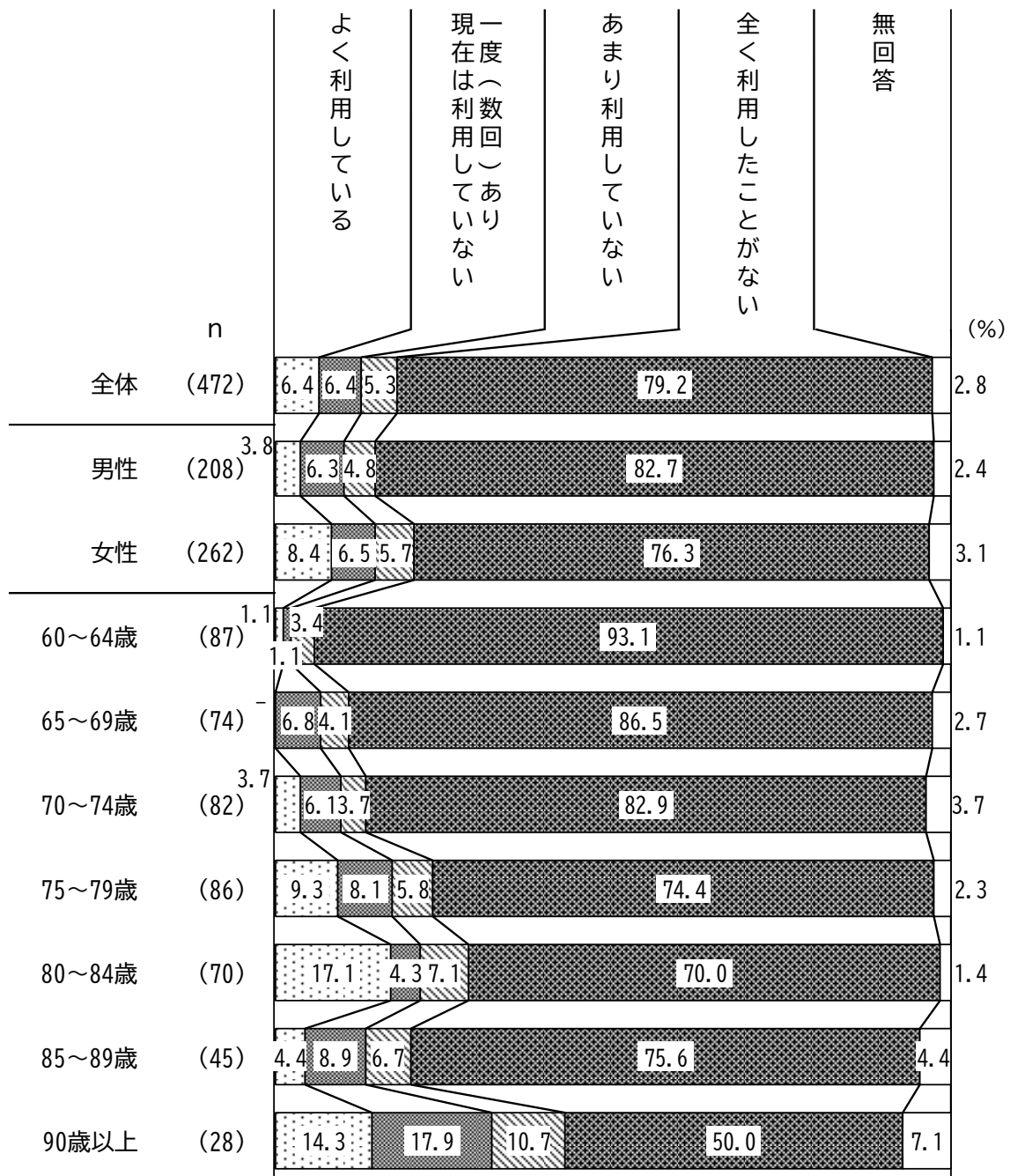
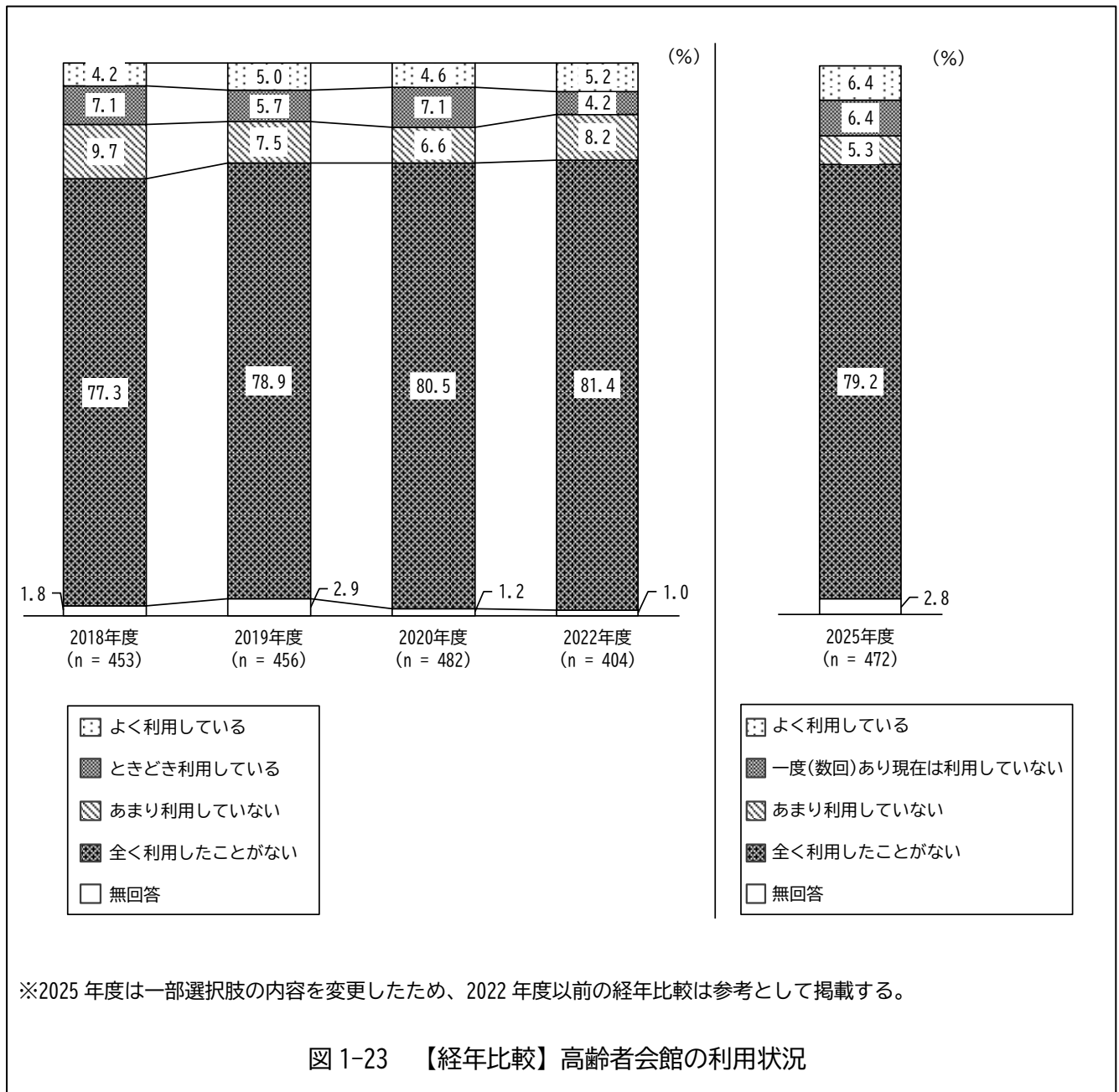


図 1-22 【性・年代別】高齢者会館の利用状況

60歳以上の方に高齢者会館の利用状況を聞いたところ、「全く利用したことがない」が79.2%と最も高くなっている。性別にみると、「よく利用している」は女性（8.4%）が男性（3.8%）を4.6ポイント上回っている。年代別にみると、80～84歳と90歳以上で「よく利用している」が1割台とやや高くなっている。



※高齢者会館は、令和8年4月より、名称を「健幸プラザ」に改正します。

1.13.1 高齢者会館を利用していない理由

◆高齢者会館を利用していない理由は「行く必要を感じないから」が5割台前半

(問13で「3.あまり利用していない」「4.全く利用したことがない」に○をつけた方に)
問13-1 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

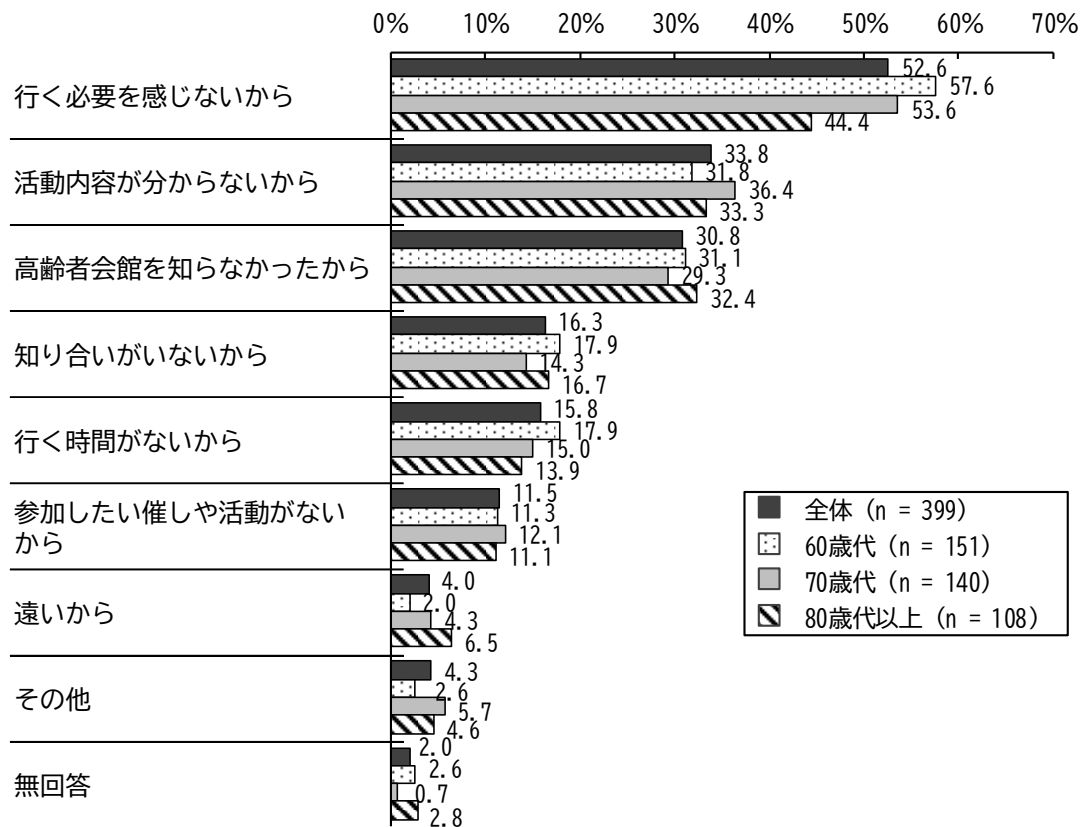
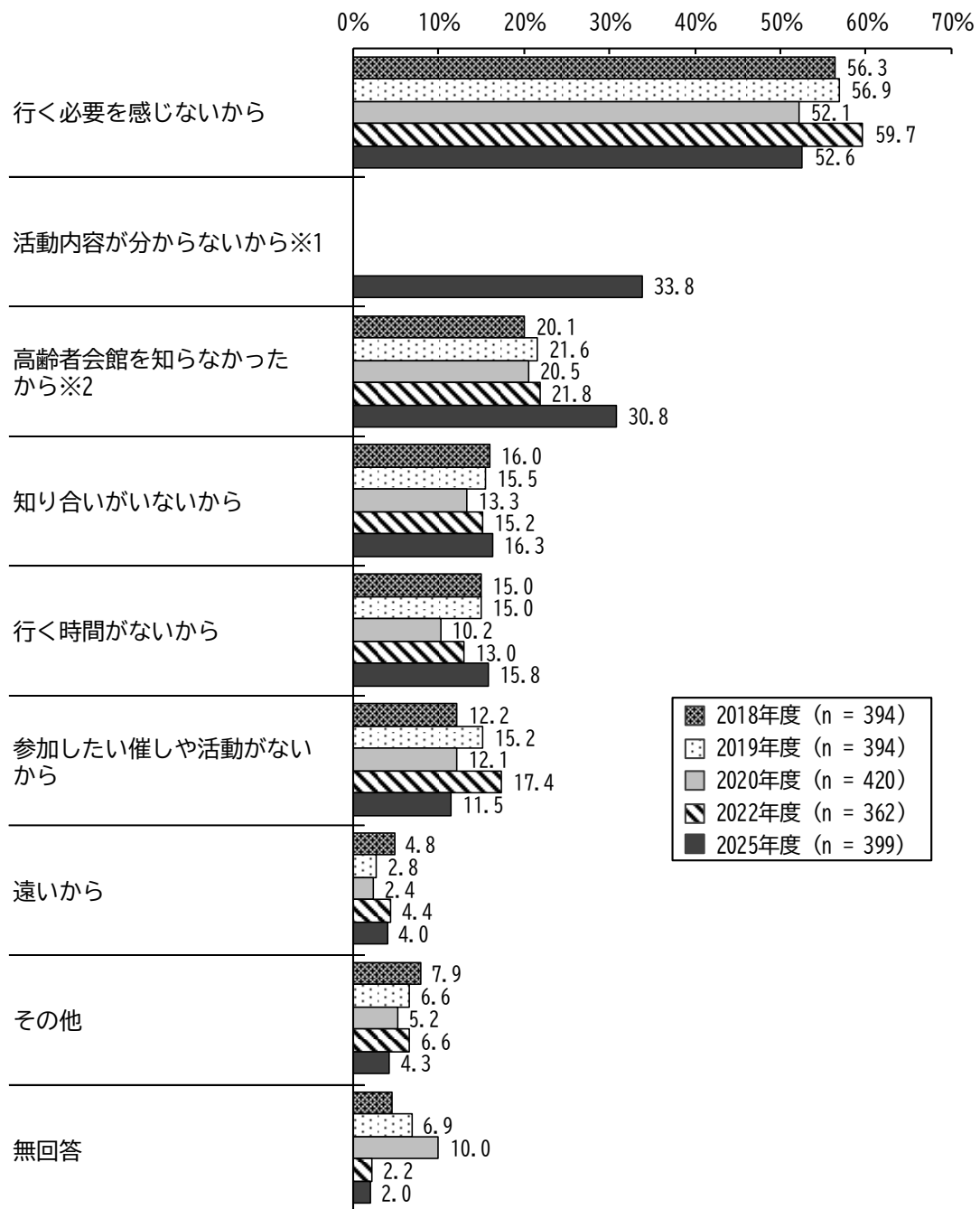


図1-24 【年代別】高齢者会館を利用していない理由

高齢者会館を利用していない方にその理由を聞いたところ、「行く必要を感じないから」が52.6%で最も高く、次いで「活動内容が分からないから」(33.8%)、「高齢者会館を知らなかったから」(30.8%)となっている。年代別にみると、いずれの年代でも「行く必要を感じないから」が最も高く、特に60歳代で5割台後半となっている。



※1：2022 年度以前は「活動内容がわからないから」の選択肢はなし

※2：2022 年度以前は「知らなかったから」

図 1-25 【経年比較】高齢者会館を利用していない理由

経年で比較すると、いずれの年度でも「行く必要を感じないから」が5割台で最も高くなっている。

2 医療・健康について

2.1 健康感

◆＜健康である＞と感じる人の割合は年代が上がるにつれ減少傾向

(全員の方に)

問 14 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

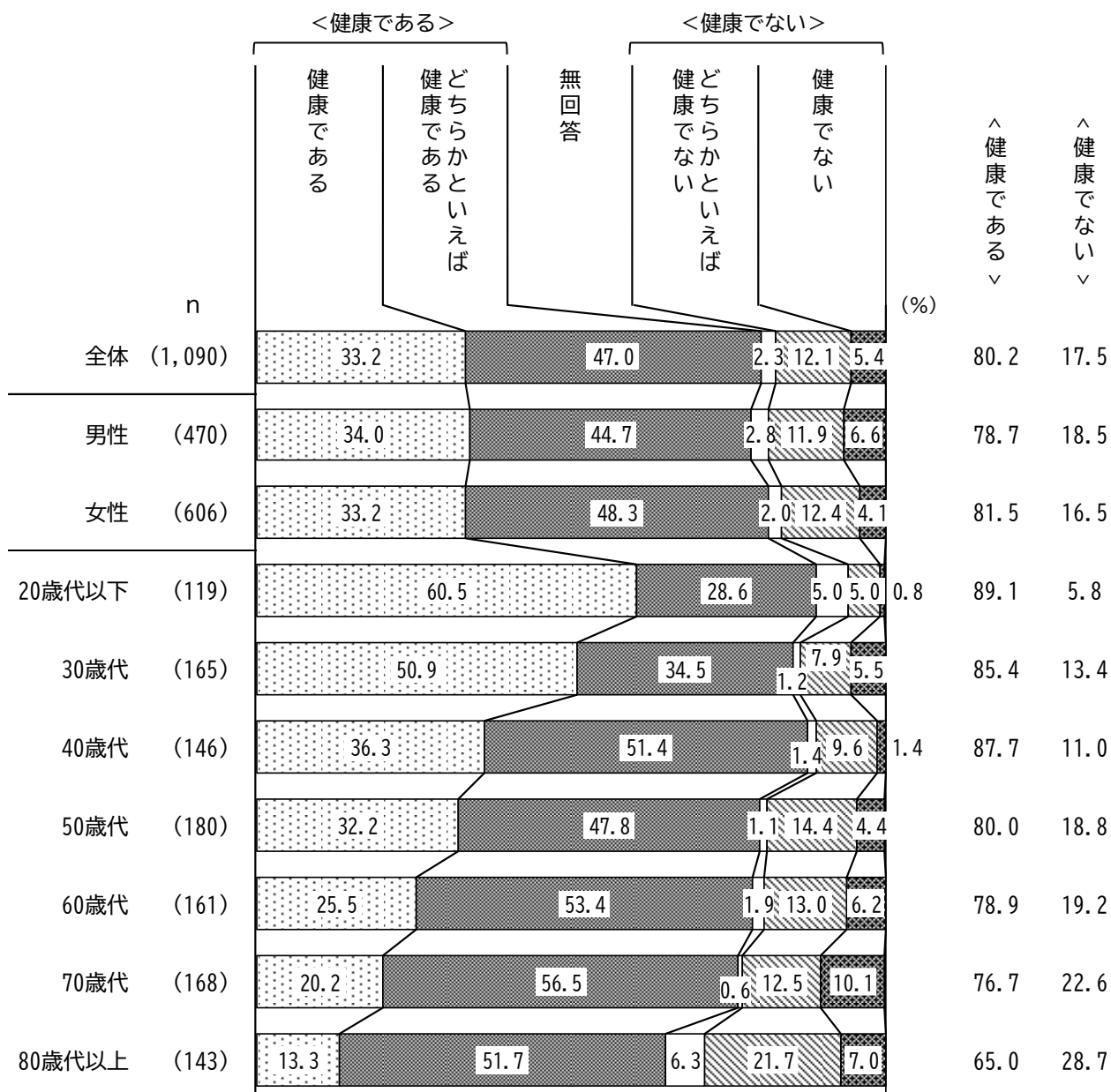


図 2-1 【性・年代別】健康感

現在の健康状態をどのように感じているかについては、「健康である」(33.2%)と「どちらかといえば健康である」(47.0%)を合わせた＜健康である＞で 80.2%となっている。年代別にみると、＜健康である＞は 40 歳代を除き、年代が上がるほど減少している。

■年代別 「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合

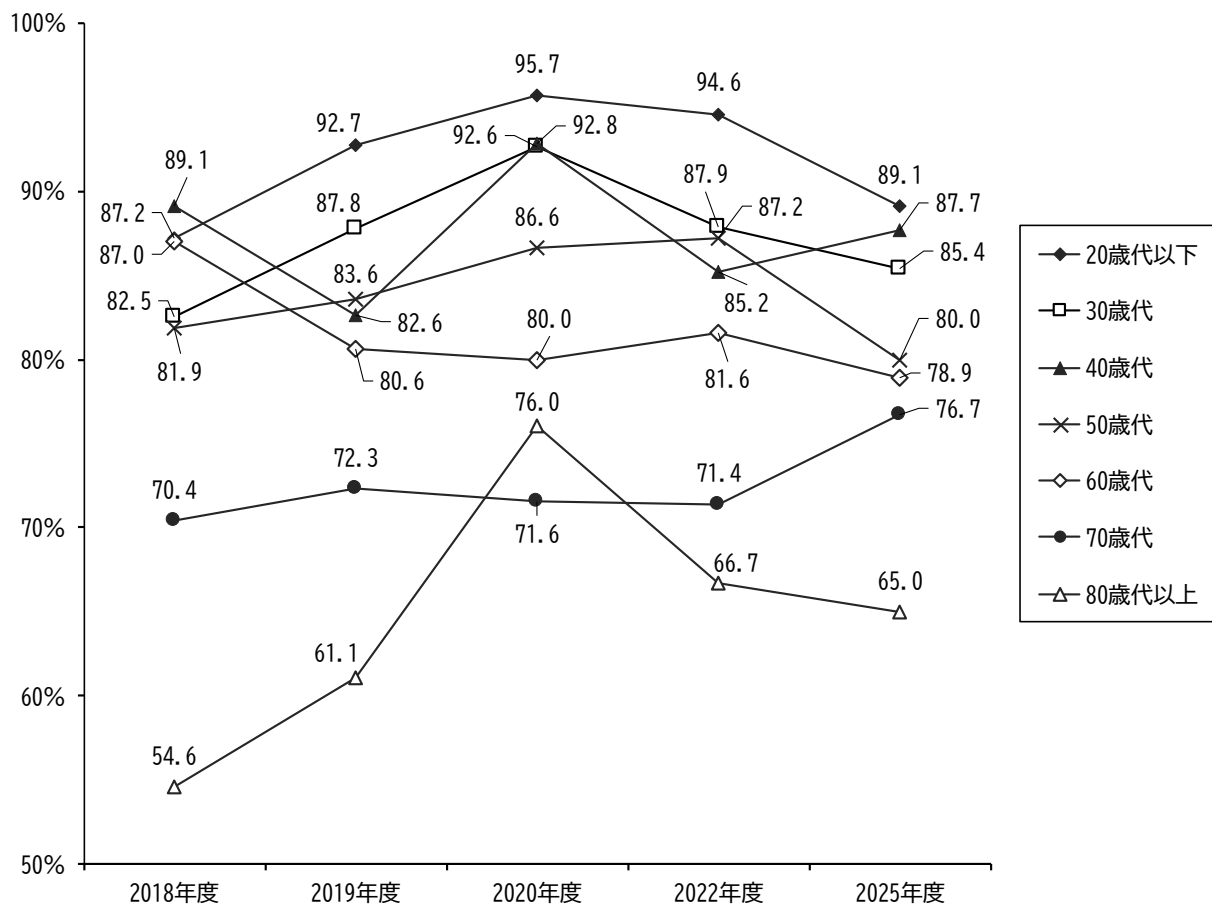


図 2-2 【経年比較】健康感

経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度と比べ「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合が、40 歳代と 70 歳代を除く年代で減少しており、特に 50 歳代で大きく減少している。

2.2 運動・スポーツを続けている期間

◆運動・スポーツを1年以上継続している人が約4割

(全員の方に)

問15 あなたは、運動・スポーツを1年以上続けていますか。(○は1つ)

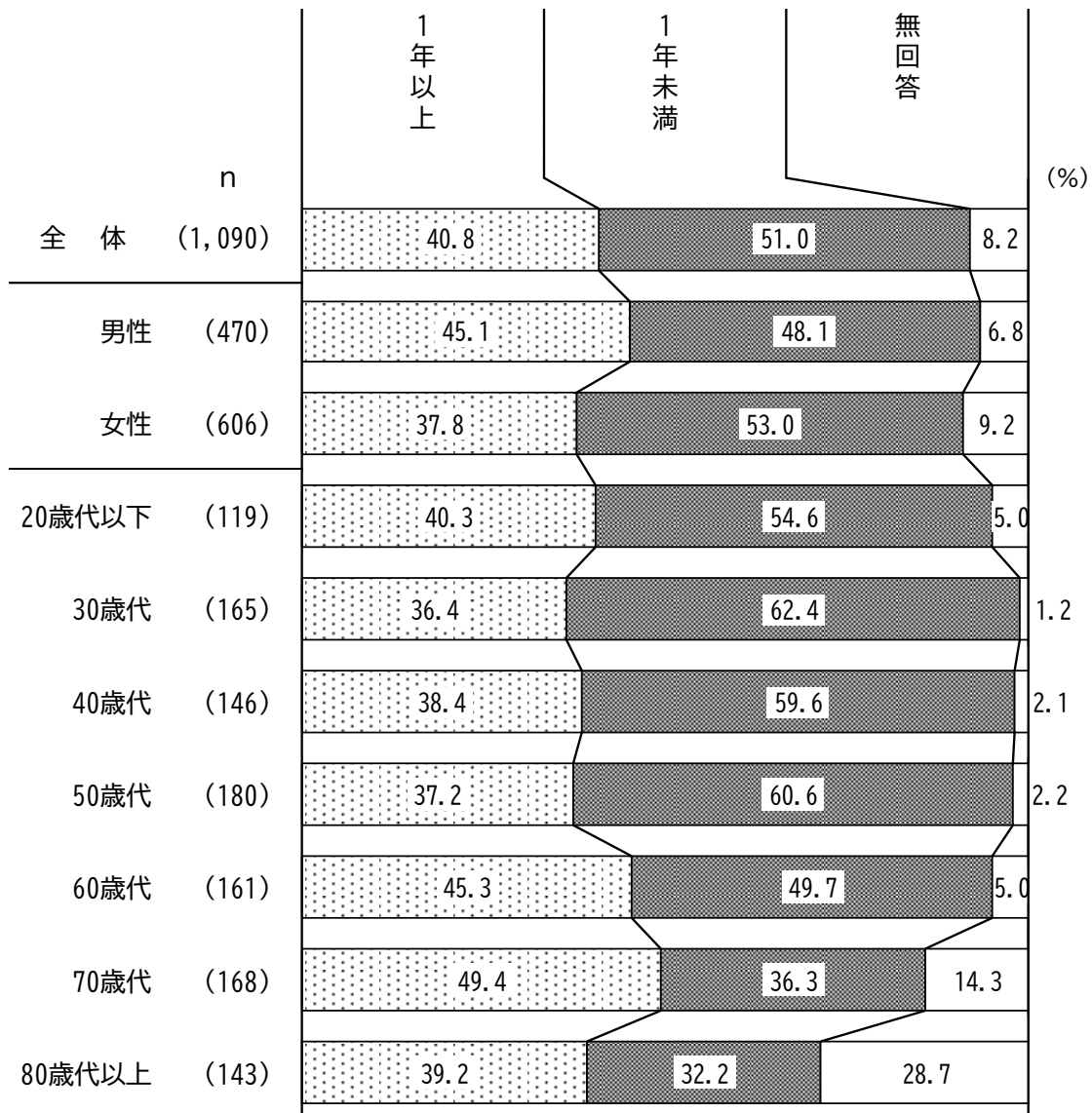
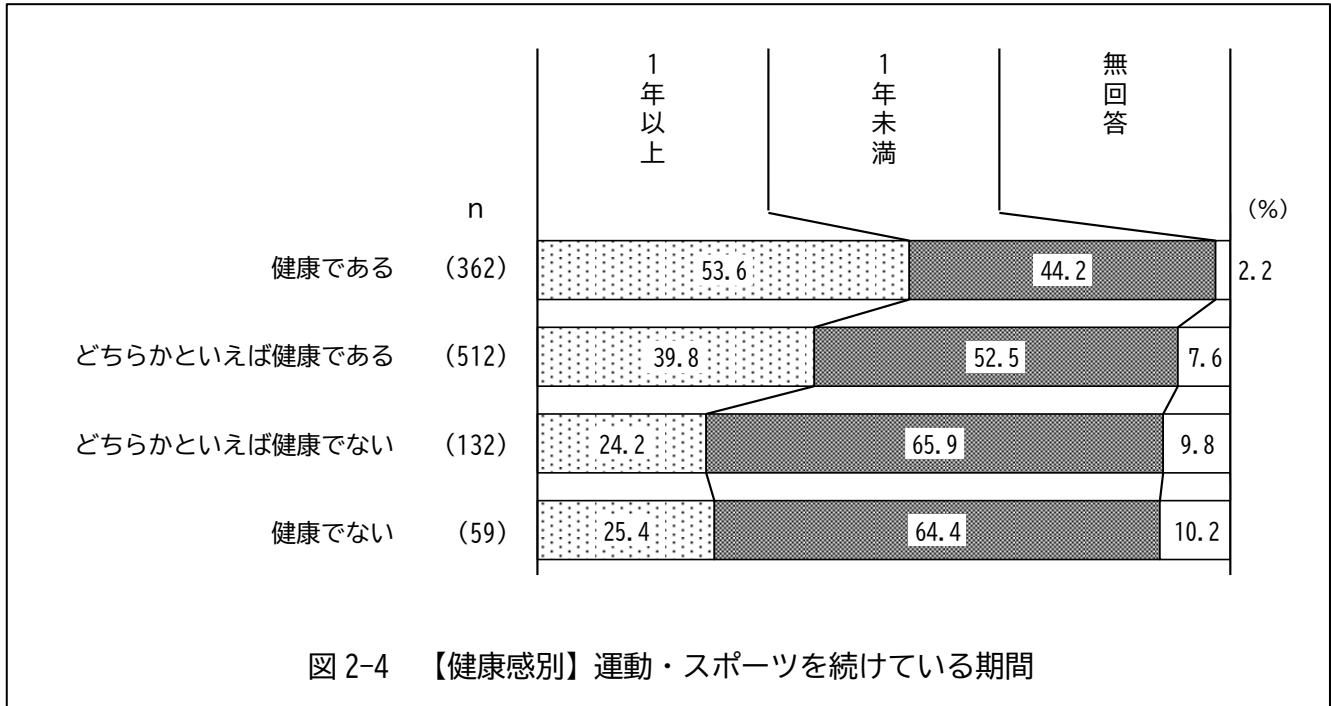


図2-3 【性・年代別】運動・スポーツを続けている期間

運動・スポーツを1年以上継続しているかについては、「1年以上」が40.8%、「1年未満」が51.0%となっている。性別にみると、「1年以上」は男性（45.1%）が女性（37.8%）を約7ポイント上回っている。年代別にみると、70歳代と80歳以上で「1年以上」の割合が「1年未満」を上回っている。



健康感別にみると、「健康である」の方が、「健康でない」人よりも1年以上運動・スポーツを続けている割合が高い。

2.3 運動・スポーツを行う場所

◆運動・スポーツを行う場所は「遊歩道」が最も高い

(全員の方に)

問 15-1 あなたは、運動・スポーツをどこに行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

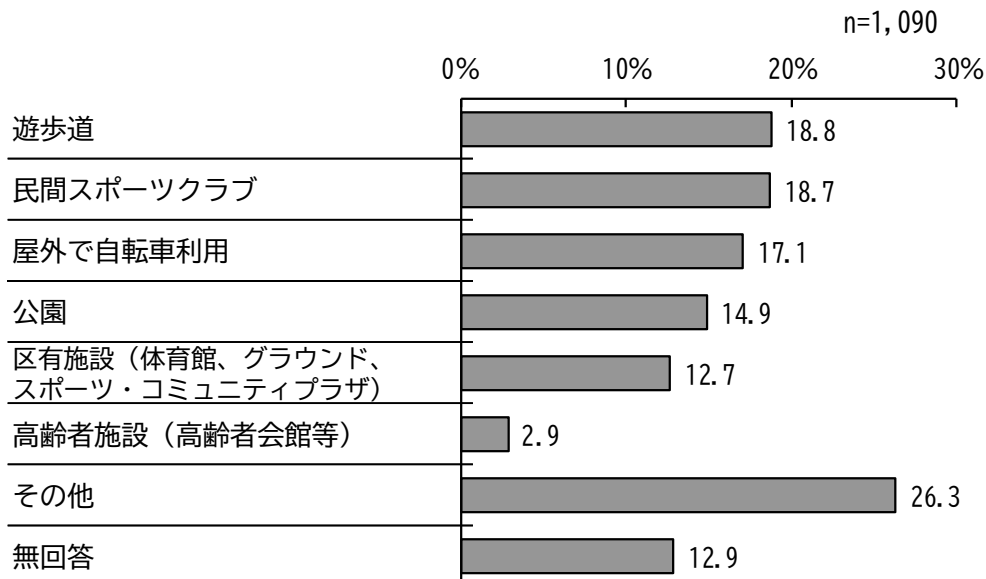


図 2-5 運動・スポーツを行う場所

運動・スポーツを行う場所としては、「遊歩道」が18.8%で最も高く、次いで「民間スポーツクラブ」(18.7%)、「屋外で自転車利用」(17.1%)となっている。

「その他」(26.3%)としては「自宅」、「職場・通勤」、「歩道・ウォーキング」、「ジム」などがあがっている。

表 2-1 【健康感別】運動・スポーツを行う場所

単位：%

区分	有効回答数 (件)	公園	遊歩道	区有施設 (体育館、 グラウンド、 スポーツ・ コミュニティ プラザ)	高齢者施設 (高齢者会館等)	民間 スポー ツクラ ブ	屋外 で自 転車 利用	その他	無回 答
全体	1,090	14.9	18.8	12.7	2.9	18.7	17.1	26.3	12.9
健康である	362	18.0	19.9	15.5	1.1	27.3	16.9	24.6	7.2
どちらかといえば健康である	512	14.3	18.0	13.3	4.1	18.0	18.2	25.8	12.3
どちらかといえば健康でない	132	13.6	22.7	7.6	4.5	5.3	13.6	34.1	17.4
健康でない	59	10.2	18.6	6.8	1.7	10.2	23.7	30.5	11.9

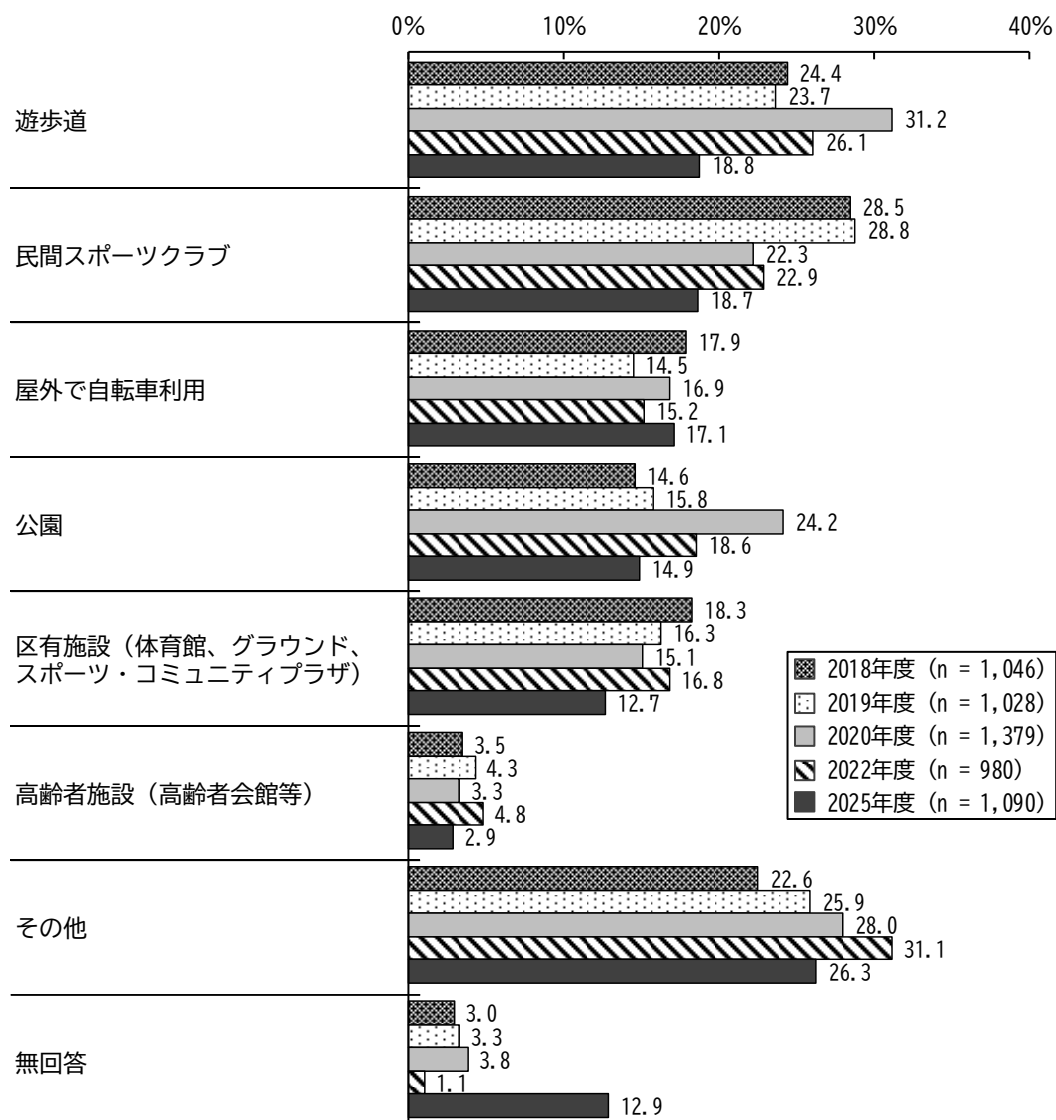
健康感別にみると、健康でないと感じている人よりも健康であると感じている人のほうが、「民間スポーツクラブ」や「区有施設 (体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)」の割合が高くなっている。

表 2-2 【年代別】上位 5 項目 運動・スポーツを行う場所

単位：％

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
20歳代以下 n=119	遊歩道 26.9	公園 22.7	屋外で自転車利用 16.0	民間スポーツクラブ 15.1	区有施設（体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ） 14.3
30歳代 n=165	民間スポーツクラブ 26.1	公園／区有施設（体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ） 19.4	遊歩道／屋外で自転車利用 17.0		
40歳代 n=146	屋外で自転車利用 26.0	民間スポーツクラブ 22.6	遊歩道 19.9	公園 18.5	区有施設（体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ） 13.7
50歳代 n=180	遊歩道 21.7	民間スポーツクラブ／屋外で自転車利用 19.4	区有施設（体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ） 11.7	公園 10.0	
60歳代 n=161	民間スポーツクラブ 19.9	遊歩道 19.3	屋外で自転車利用 18.0	区有施設（体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ） 11.8	公園 9.9
70歳代 n=168	遊歩道／民間スポーツクラブ 16.7	屋外で自転車利用 14.9	公園 13.1	区有施設（体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ） 12.5	
80歳代以上 n=143	高齢者施設（高齢者会館等） 15.4	公園 13.3	遊歩道 11.2	民間スポーツクラブ 10.5	屋外で自転車利用 8.4

運動・スポーツを行う場所を年代別にみると、20 歳代と 50 歳代では「遊歩道」、30 歳代と 60 歳代では「民間スポーツクラブ」、40 歳代では「屋外で自転車利用」、70 歳代では「遊歩道／民間スポーツクラブ」、80 歳以上では「高齢者施設（高齢者会館等）」が 1 位となっている。



※2022 年度以前は「1 回 30 分以上の運動を週 1 ～ 2 回以上『行っている』人」に限定して聞いており、質問の条件が異なるため、経年比較は参考として掲載とする。

図 2-6 【経年比較】運動・スポーツを行う場所

2.4 運動・スポーツを行わない理由

◆運動・スポーツを行わない理由は「時間がないから」が約2割

(全員の方に)

問 15-2 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。
(○は1つ)

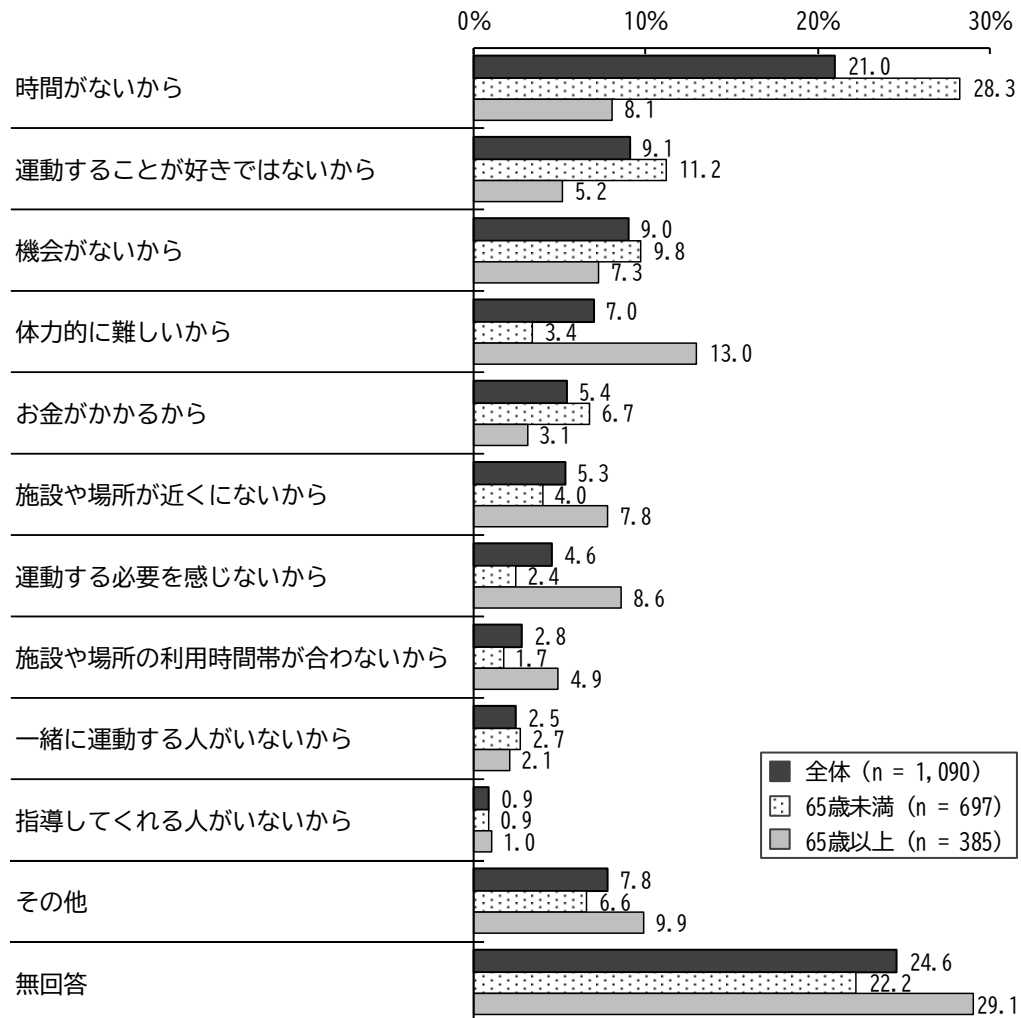


図 2-7 【年代別】運動・スポーツを行わない理由

運動・スポーツを行っていない方にその理由を聞いたところ、「時間がないから」が21.0%で最も高く、次いで「運動することが好きではないから」(9.1%)、「機会がないから」(9.0%)となっている。「その他」としては、「病気・ケガ・健康上の理由」「面倒だから」などがあげられている。

年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(28.3%)が最も高くなっているのに対し、65歳以上では「体力的に難しいから」(13.0%)が最も高くなっている。

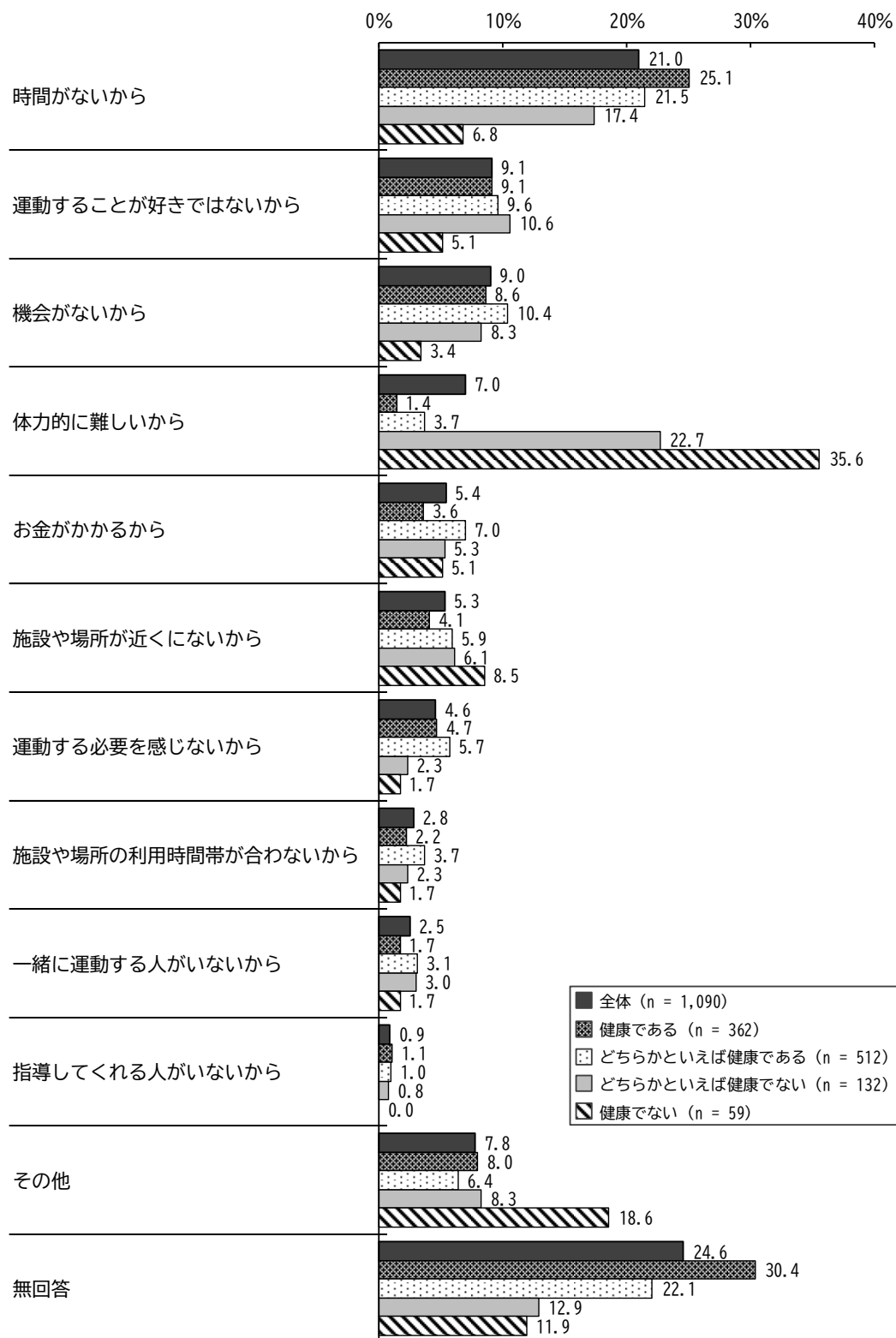
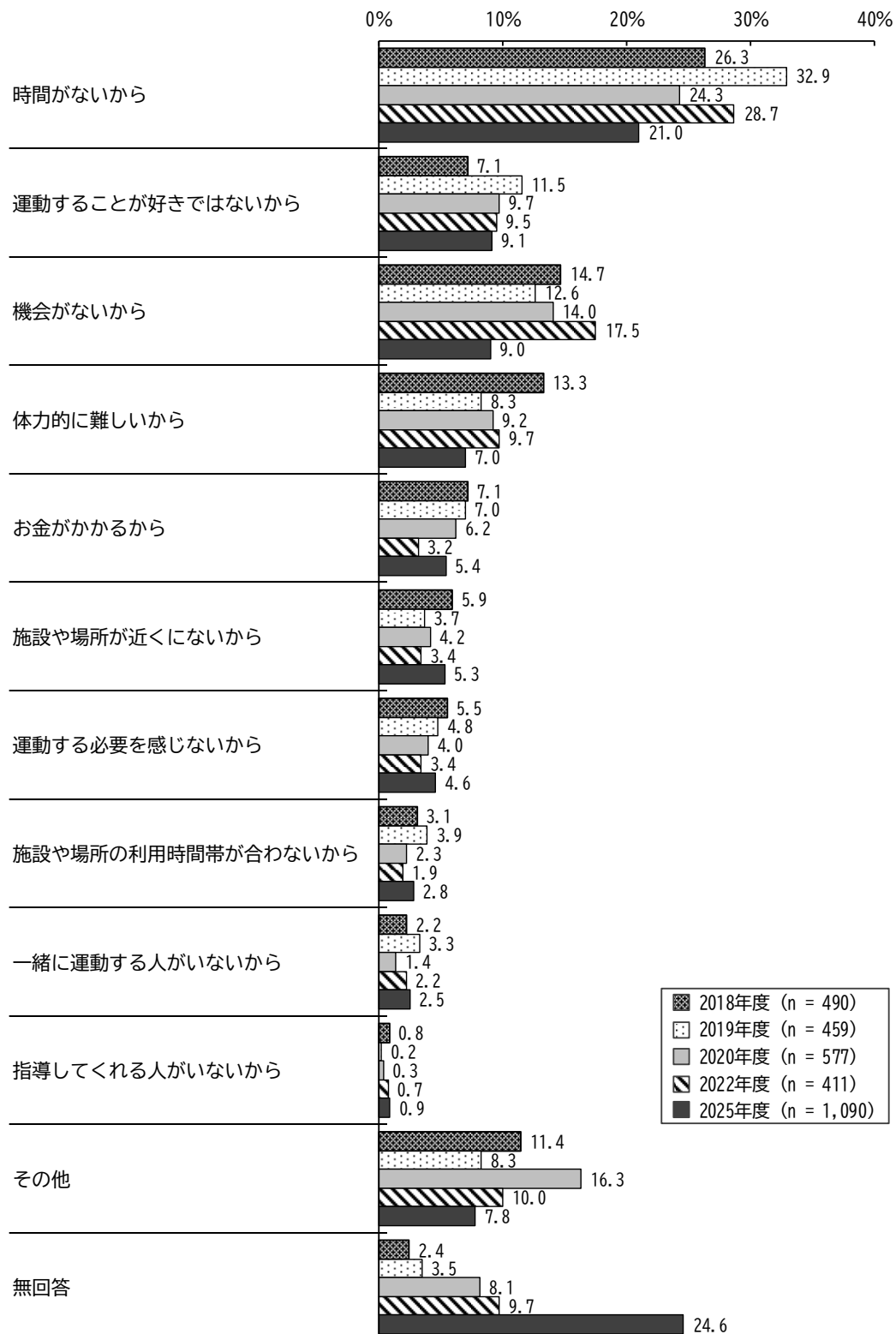


図 2-8 【健康感別】運動・スポーツを行わない理由

健康感別にみると、健康であると感じている人ほど「時間がないから」の割合が高くなっている一方、健康でないと感じている人ほど「体力的に難しいから」の割合が高くなっている。



※2022 年度以前は「1 回 30 分以上の運動を週 1 ～ 2 回以上『行っていない』人」に限定して聞いており、質問の条件が異なるため、経年比較は参考として掲載する。

図 2-9 【経年比較】運動・スポーツを行わない理由

2.5 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

◆この1年間に観戦したスポーツは「野球」が1割台後半

(全員の方に)

問16 この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

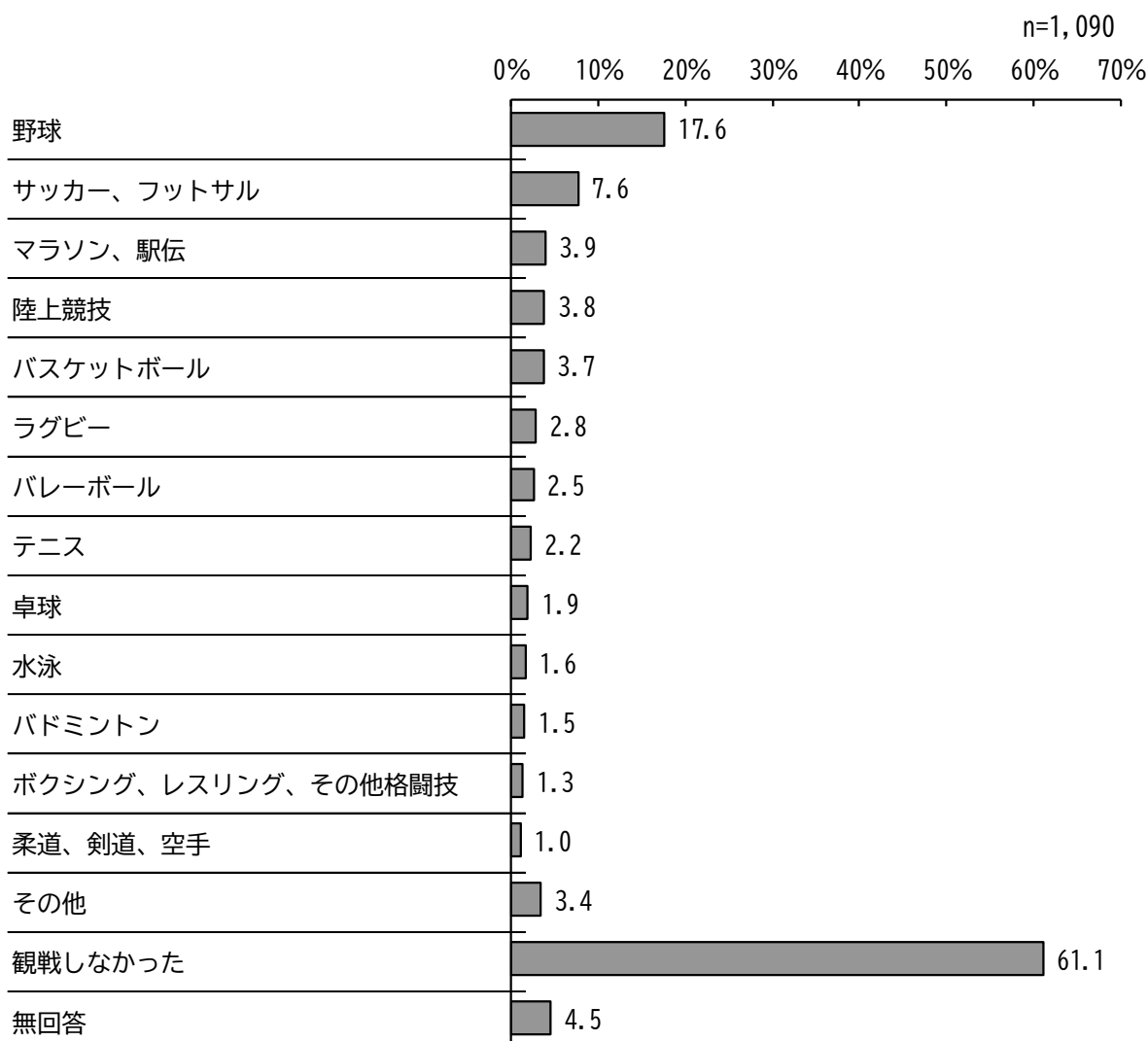


図 2-10 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

実際にスポーツを観戦したかについては、「観戦しなかった」が約6割となっている。観戦したスポーツでは、「野球」が17.6%と最も高くなっており、次いで「サッカー、フットサル」(7.6%)、「バスケットボール」(3.7%)となっている。

表 2-3 【年代別】上位5項目 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=119	野球 25.2	サッカー、フットサル 20.2	バスケットボール 5.9	バレーボール 4.2	テニス／マラソン、駅伝 3.4
30歳代 n=165	野球 15.8	サッカー、フットサル 9.1	バスケットボール 6.7	陸上競技 5.5	バレーボール／マラソン、駅伝 3.0
40歳代 n=146	野球 18.5	サッカー、フットサル 8.2	バスケットボール 5.5	マラソン、駅伝 4.8	テニス 4.1
50歳代 n=180	野球 23.3	サッカー、フットサル 7.2	陸上競技 6.7	バスケットボール／マラソン、駅伝 5.0	
60歳代 n=161	野球 19.3	サッカー、フットサル 6.8	マラソン、駅伝 5.0	ラグビー／陸上競技 4.3	
70歳代 n=168	野球 12.5	サッカー、フットサル 3.6	卓球／ラグビー／マラソン、駅伝 3.0		
80歳代以上 n=143	野球 9.8	卓球 5.6	マラソン、駅伝 3.5	テニス 2.8	バレーボール／水泳 2.1

実際に観戦したスポーツを年代別にみると、全ての年代で「野球」が1位にあげられている。

2.6 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

◆区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことは、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が最も高い

（全員の方に）

問 17 あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

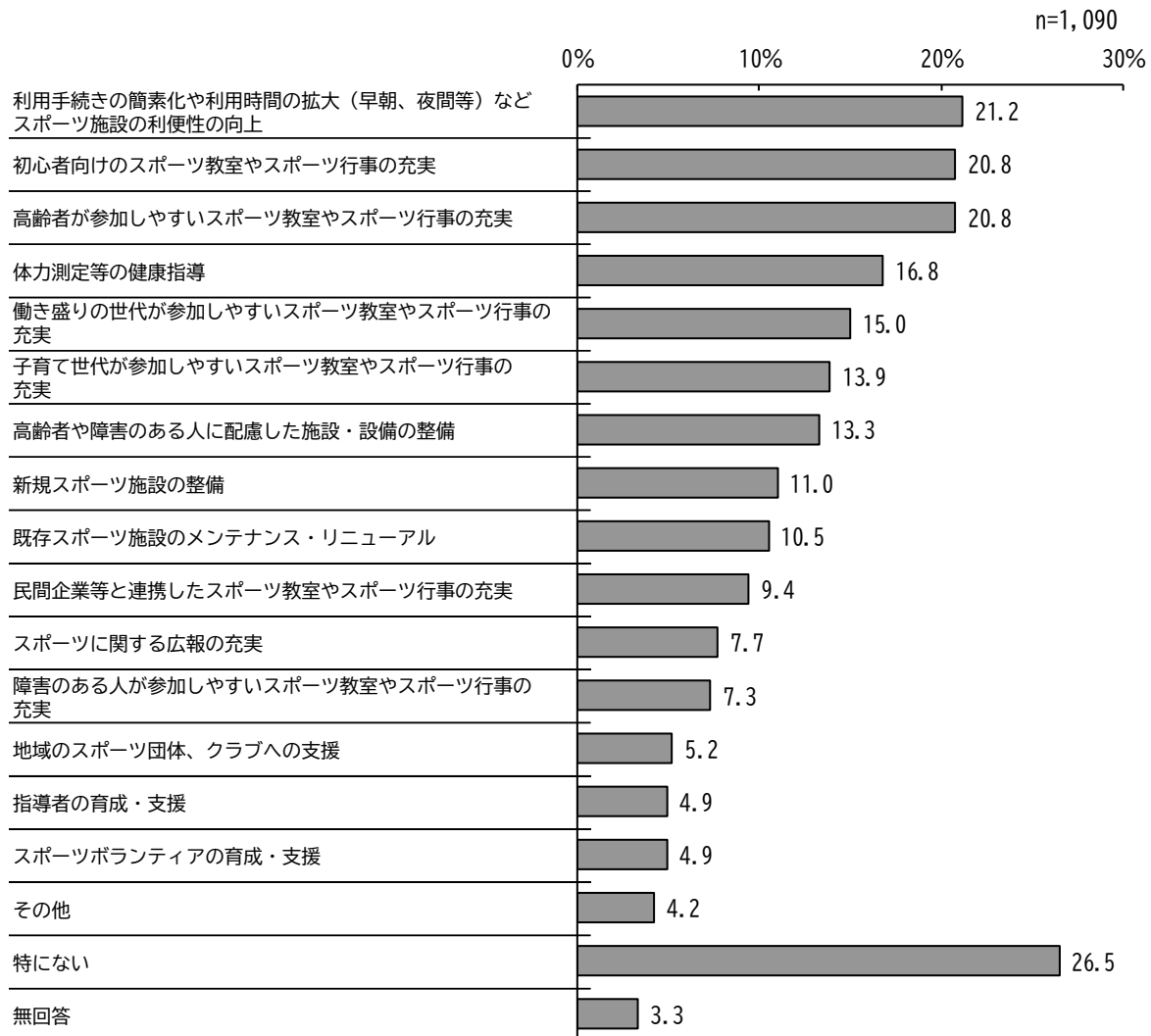


図 2-11 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこととしては、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が21.2%で最も高く、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」と「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（ともに20.8%）、「体力測定等の健康指導」（16.8%）となっている。

表 2-4 【年代別】上位 5 項目 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=119	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大 （早朝、夜間等）な どスポーツ施設の利 便性の向上 20.2	新規スポーツ施設の 整備 18.5	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事 の充実／働き盛りの世代が参加しやすいス ポーツ教室やスポーツ行事の充実 15.1	子育て世代が参加し やすいスポーツ教室 やスポーツ行事の充 実 14.3	
30歳代 n=165	働き盛りの世代が参 加しやすいスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 27.9	子育て世代が参加し やすいスポーツ教室 やスポーツ行事の充 実 27.3	初心者向けのスポー ツ教室やスポーツ行 事の充実 24.8	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大 （早朝、夜間等）な どスポーツ施設の利 便性の向上 22.4	新規スポーツ施設の 整備 16.4
40歳代 n=146	子育て世代が参加し やすいスポーツ教室 やスポーツ行事の充 実 31.5	働き盛りの世代が参 加しやすいスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 27.4	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大 （早朝、夜間等）な どスポーツ施設の利 便性の向上 23.3	初心者向けのスポー ツ教室やスポーツ行 事の充実 21.2	体力測定等の健康指 導／新規スポーツ施 設の整備 13.0
50歳代 n=180	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大 （早朝、夜間等）な どスポーツ施設の利 便性の向上 23.9	働き盛りの世代が参 加しやすいスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 21.1	初心者向けのスポー ツ教室やスポーツ行 事の充実 20.6	体力測定等の健康指 導 16.7	高齢者が参加しやす いスポーツ教室やス ポーツ行事の充実 15.6
60歳代 n=161	高齢者が参加しやす いスポーツ教室やス ポーツ行事の充実 33.5	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大 （早朝、夜間等）な どスポーツ施設の利 便性の向上 31.1	初心者向けのスポー ツ教室やスポーツ行 事の充実 26.1	体力測定等の健康指 導 23.6	高齢者や障害のある 人に配慮した施設・ 設備の整備 17.4
70歳代 n=168	高齢者が参加しやす いスポーツ教室やス ポーツ行事の充実 39.9	初心者向けのスポー ツ教室やスポーツ行 事の充実 25.6	高齢者や障害のある 人に配慮した施設・ 設備の整備 22.6	体力測定等の健康指 導 20.2	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大 （早朝、夜間等）な どスポーツ施設の利 便性の向上 16.7
80歳代以上 n=143	高齢者が参加しやす いスポーツ教室やス ポーツ行事の充実 31.5	高齢者や障害のある 人に配慮した施設・ 設備の整備 27.3	体力測定等の健康指 導 19.6	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事 の充実／利用手続きの簡素化や利用時間の 拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の 利便性の向上 9.8	

年代別にみると、20 歳代以下と 50 歳代では「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等) などスポーツ施設の利便性の向上」、30 歳代では「働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やス ポーツ行事の充実」、40 歳代では「子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」、60 歳 代以上では「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」が 1 位となっている。

表 2-5 【健康感別】区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位：％

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	1,090	20.8	7.3	20.8	13.9	15.0	9.4	16.8	5.2	4.9
健康である	362	17.1	5.0	14.1	19.1	20.7	8.8	13.5	7.7	5.8
どちらかといえば健康である	512	25.6	8.4	25.0	15.0	14.6	12.5	19.9	4.7	4.5
どちらかといえば健康でない	132	17.4	8.3	28.0	3.8	9.1	3.0	21.2	2.3	4.5
健康でない	59	16.9	13.6	18.6	1.7	3.4	3.4	6.8	3.4	5.1

区分	有効回答数（件）	スポーツボランティアの育成・支援	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などのスポーツ施設の利便性の向上	スポーツに関する広報の充実	新規スポーツ施設の整備	既存スポーツ施設のリニューアル	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	その他	特にない	無回答
全体	1,090	4.9	21.2	7.7	11.0	10.5	13.3	4.2	26.5	3.3
健康である	362	5.0	22.1	8.8	13.8	12.7	5.2	3.3	27.6	0.3
どちらかといえば健康である	512	5.3	23.0	7.2	11.3	10.2	15.4	4.9	24.6	1.0
どちらかといえば健康でない	132	3.8	15.9	7.6	4.5	6.8	25.0	3.8	31.8	4.5
健康でない	59	5.1	20.3	8.5	10.2	11.9	23.7	5.1	32.2	5.1

健康感別にみると、健康である、どちらかといえば健康であると感じている人は、「働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」の割合が高くなっており、どちらかといえば健康でない、健康でないと感じている人は「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備」の割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位：％

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいの充実	高齢者が参加しやすいスポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	1,090	20.8	7.3	20.8	13.9	15.0	9.4	16.8	5.2	4.9
南台	81	23.5	6.2	21.0	12.3	12.3	8.6	17.3	2.5	6.2
弥生町	66	24.2	7.6	19.7	9.1	21.2	10.6	21.2	6.1	6.1
本町	88	9.1	5.7	14.8	11.4	15.9	6.8	5.7	8.0	3.4
中央	91	20.9	6.6	16.5	17.6	19.8	4.4	11.0	7.7	6.6
東中野	78	29.5	5.1	21.8	17.9	19.2	20.5	24.4	1.3	3.8
中野	114	21.9	8.8	21.9	15.8	14.9	12.3	18.4	10.5	7.0
上高田	69	17.4	11.6	26.1	15.9	13.0	8.7	7.2	2.9	4.3
新井	60	18.3	5.0	20.0	13.3	16.7	11.7	20.0	3.3	5.0
沼袋	39	17.9	2.6	17.9	12.8	15.4	10.3	20.5	2.6	-
松が丘	16	25.0	-	31.3	-	12.5	6.3	12.5	6.3	-
江原町	26	26.9	15.4	11.5	19.2	3.8	3.8	19.2	7.7	15.4
江古田	41	17.1	2.4	22.0	9.8	2.4	-	14.6	2.4	2.4
丸山	17	11.8	5.9	11.8	23.5	11.8	17.6	11.8	-	-
野方	72	20.8	9.7	18.1	8.3	11.1	6.9	23.6	4.2	2.8
大和町	50	24.0	2.0	20.0	8.0	8.0	8.0	20.0	10.0	6.0
若宮	34	26.5	14.7	26.5	23.5	26.5	8.8	23.5	5.9	11.8
白鷺	29	17.2	13.8	31.0	31.0	24.1	3.4	27.6	3.4	-
鷺宮	60	30.0	6.7	25.0	13.3	11.7	8.3	20.0	3.3	6.7
上鷺宮	44	15.9	9.1	25.0	11.4	15.9	15.9	9.1	2.3	-

居住地域別にみると、全体で上位にあげられたもの以外では、白鷺で「子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」の割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと（続き）

単位：％

区分	有効回答数（件）	スポーツボランティアの育成・支援	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上	スポーツに関する広報の充実	新規スポーツ施設の整備	既存スポーツ施設のメンテナンス・リニューアル	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	その他	特にない	無回答
全体	1,090	4.9	21.2	7.7	11.0	10.5	13.3	4.2	26.5	3.3
南台	81	3.7	23.5	13.6	9.9	14.8	16.0	4.9	25.9	—
弥生町	66	4.5	25.8	7.6	10.6	15.2	19.7	6.1	28.8	3.0
本町	88	4.5	15.9	1.1	13.6	9.1	9.1	6.8	40.9	2.3
中央	91	6.6	20.9	8.8	16.5	12.1	9.9	5.5	22.0	3.3
東中野	78	5.1	28.2	11.5	14.1	16.7	7.7	1.3	21.8	5.1
中野	114	7.0	15.8	7.0	11.4	12.3	13.2	3.5	23.7	3.5
上高田	69	4.3	18.8	7.2	10.1	10.1	14.5	1.4	27.5	4.3
新井	60	6.7	25.0	15.0	20.0	11.7	16.7	5.0	20.0	—
沼袋	39	5.1	17.9	2.6	5.1	5.1	17.9	5.1	25.6	2.6
松が丘	16	—	12.5	12.5	6.3	—	12.5	12.5	31.3	6.3
江原町	26	3.8	19.2	15.4	11.5	3.8	—	3.8	34.6	7.7
江古田	41	2.4	17.1	7.3	7.3	7.3	7.3	2.4	29.3	4.9
丸山	17	—	11.8	5.9	11.8	5.9	—	—	41.2	5.9
野方	72	1.4	22.2	5.6	6.9	4.2	15.3	5.6	23.6	2.8
大和町	50	6.0	22.0	6.0	6.0	8.0	10.0	2.0	28.0	4.0
若宮	34	11.8	32.4	8.8	11.8	5.9	11.8	2.9	29.4	—
白鷺	29	6.9	27.6	6.9	13.8	17.2	27.6	10.3	20.7	3.4
鷺宮	60	1.7	21.7	5.0	5.0	8.3	18.3	1.7	21.7	5.0
上鷺宮	44	2.3	25.0	4.5	6.8	11.4	18.2	2.3	29.5	2.3

2.7 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

◆「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」が約5割

(全員の方に)

問 18 パラリンピックや障害者スポーツ（ユニバーサルスポーツ）を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

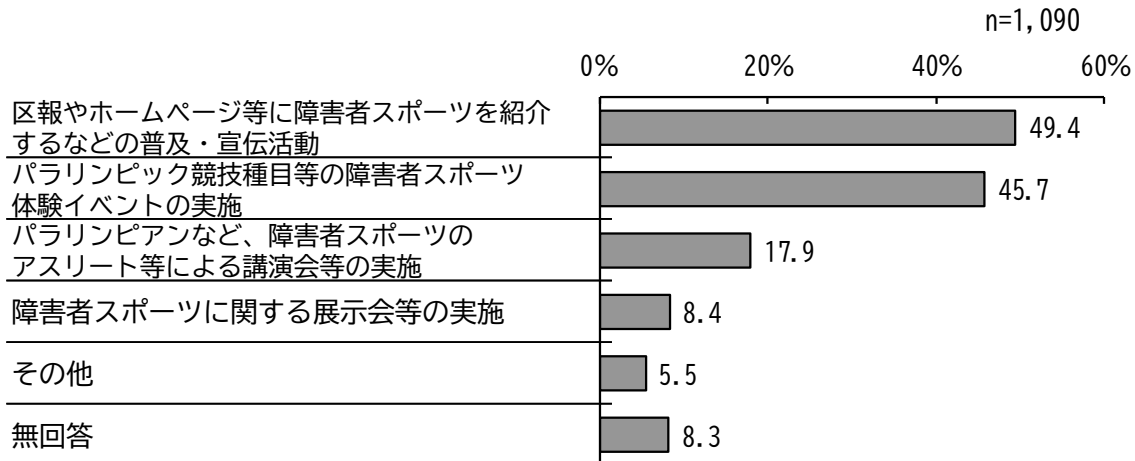


図 2-12 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきことは、「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」が49.4%で最も高く、次いで「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」(45.7%)、「パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施」(17.9%)となっている。

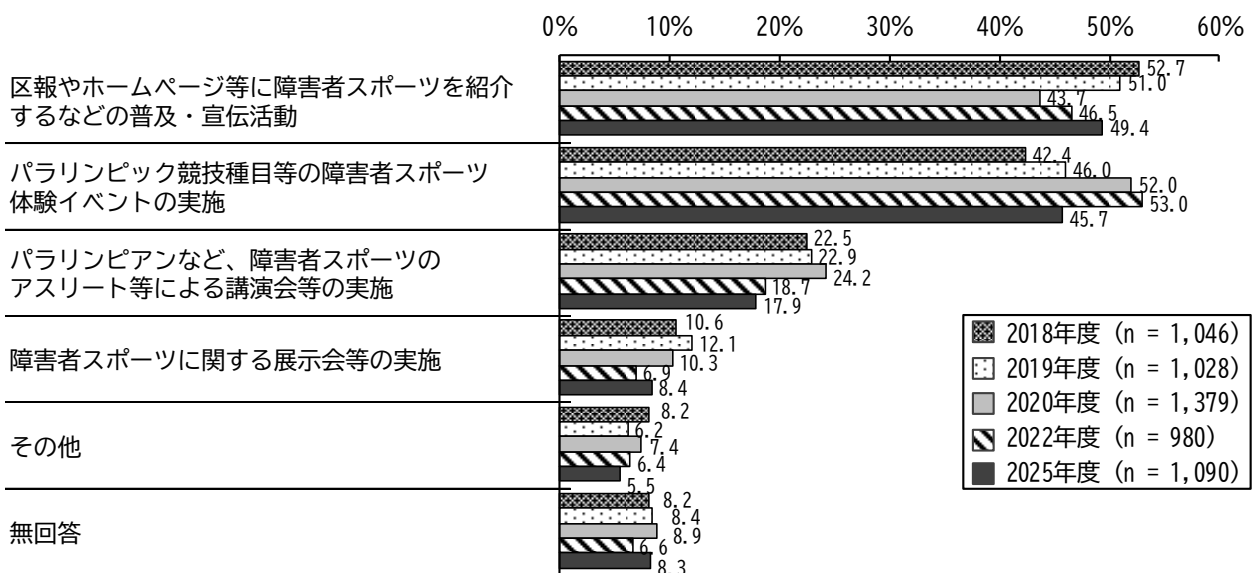


図 2-13 【経年比較】パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

経年で比較すると、「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」が2020年度から増加傾向にある。

2.8 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

◆「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が1割台後半

（全員の方に）

問19 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容がありますか。

（あてはまるものすべてに○）

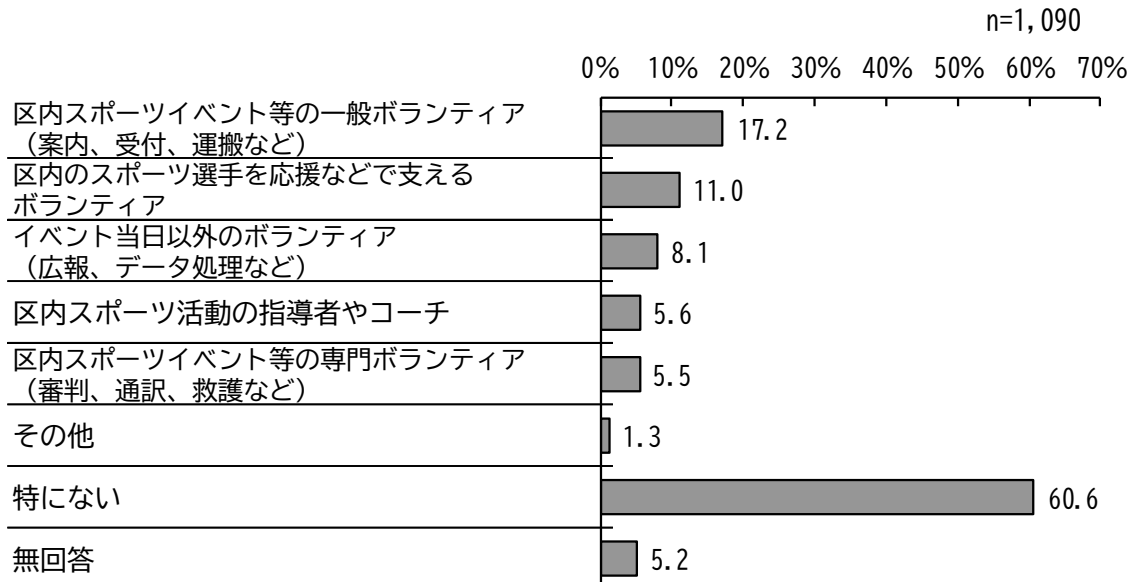
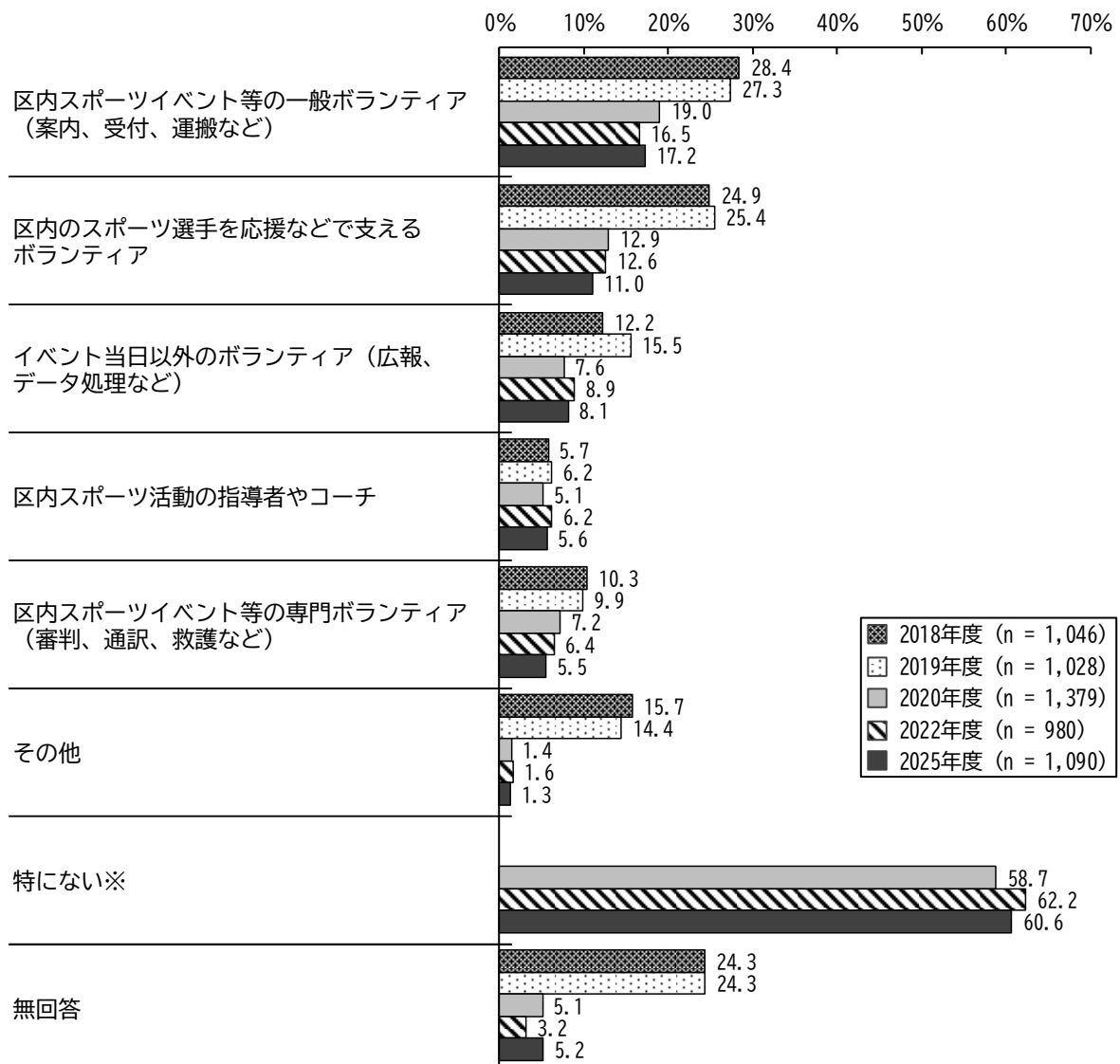


図2-14 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容は、「特になし」（60.6％）を除き、「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が17.2％で最も高く、次いで「区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア」（11.0％）、「イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など）」（8.1％）となっている。



※2019 年度以前は「特にない」の選択肢はなし

図 2-15 【経年比較】スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

経年で比較すると、2020 年度から大きな差異はみられない。

2.9 1日の座位（座っている姿勢）時間

◆ 1日の座位時間は＜3時間以上7時間未満＞が4割半ば

（全員の方に）

問 20 あなたは、1日にどのくらいの時間を座位姿勢で過ごしていますか。（○は1つ）

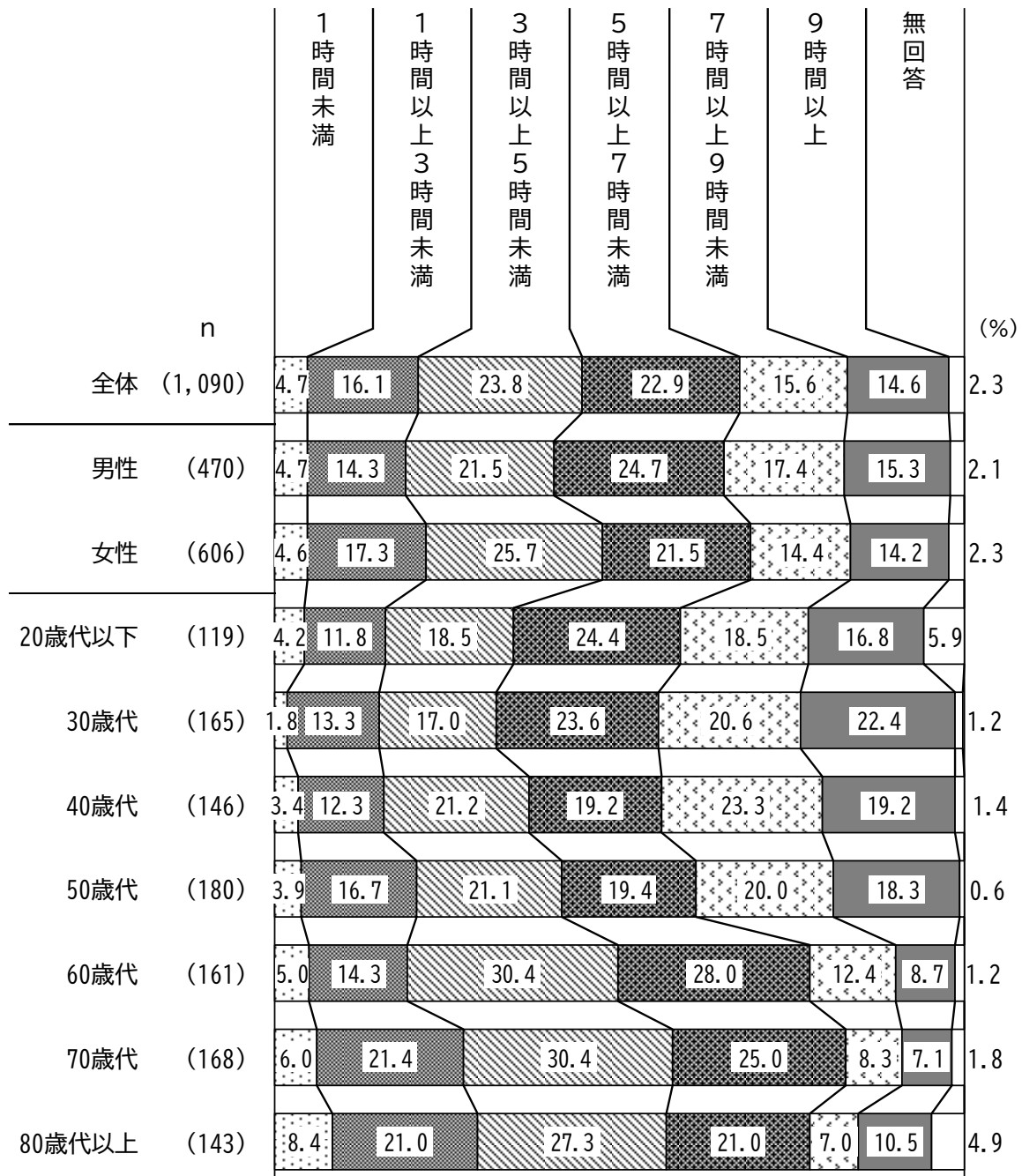


図 2-16 【性・年代別】 1日の座位時間

1日にどのくらいの時間を座位姿勢で過ごしているかについては、「3時間以上5時間未満」(23.8%)と「5時間以上7時間未満」(22.9%)が2割台前半で、二つを合わせた＜3時間以上7時間未満＞が4割半ばとなっている。性別にみると、男性は「5時間以上7時間未満」(24.7%)、女性は「3時間以上5時間未満」(25.7%)が2割半ばで最も高くなっている。年代別にみると、30～40歳代で＜5時間以上＞が6割台と、他の年代と比較して高くなっている。

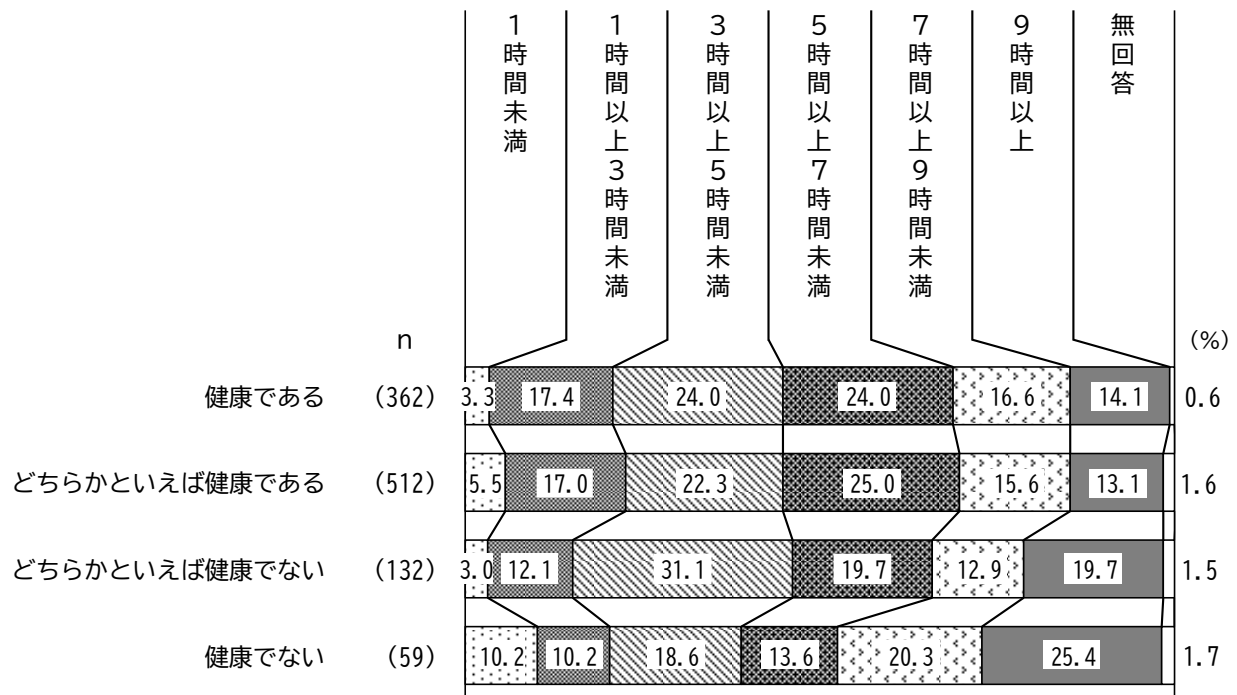


図 2-17 【健康感別】 1 日の座位時間

健康感別にみると、「健康でない」と回答した人は＜7時間以上＞が4割半ばと高くなっている。

2.10 最近1年間で関わったスポーツを支える活動

◆最近1年間で関わったスポーツを支える活動は「スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など）」が約1割

（全員の方に）

問21 あなたが、最近1年間で関わった、スポーツを支える活動は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

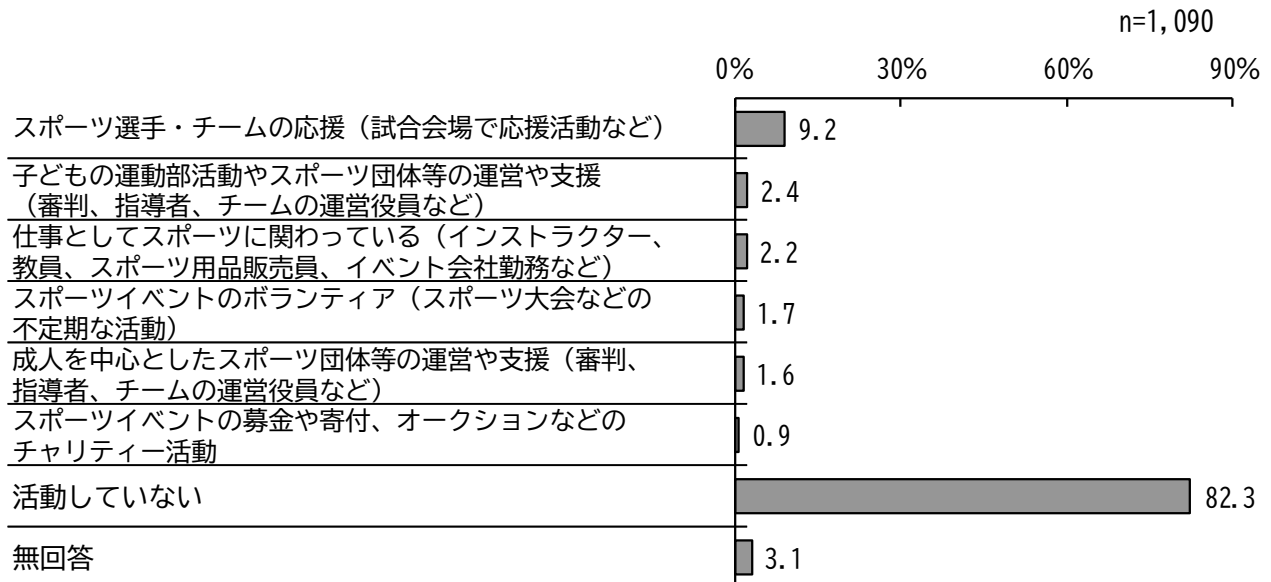


図 2-18 最近1年間で関わったスポーツを支える活動

最近1年間で関わったスポーツを支える活動は、「活動していない」を除くと、「スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など）」が9.2%で最も高く、次いで「子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）」(2.4%)、「仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など）」(2.2%)となっている。

表 2-7 【関心のあるスポーツ・ボランティア活動別】上位5項目
最近1年間で関わったスポーツを支える活動

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=119	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など） 15.1	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など） 5.0	成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など） 4.2	スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動） 2.5	
30歳代 n=165	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など） 9.1	成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など） 4.2	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など） 1.8	スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動） 1.2	
40歳代 n=146	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など） 9.6	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など） 4.8	仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など）／スポーツイベントの募金や寄付、オークションなどのチャリティー活動 2.1	スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動） 1.4	
50歳代 n=180	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など） 10.0	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動） 2.8	仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など） 1.7	成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など） 1.1	
60歳代 n=161	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など） 12.4	仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など） 5.0	スポーツイベントの募金や寄付、オークションなどのチャリティー活動 1.2	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動） 0.6	
70歳代 n=168	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など）／スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動） 3.0	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など） 1.2	成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など）／スポーツイベントの募金や寄付、オークションなどのチャリティー活動 0.6		
80歳代以上 n=143	スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など） 7.0	スポーツイベントの募金や寄付、オークションなどのチャリティー活動 2.8	子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など） 1.4	成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援（審判、指導者、チームの運営役員など）／仕事としてスポーツに関わっている（インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など） 0.7	

最近1年間で関わったスポーツを支える活動を年代別にみると、すべての年代で「スポーツ選手・チームの応援（試合会場で応援活動など）」が1位となっている。また、70歳代では「スポーツイベントのボランティア（スポーツ大会などの不定期な活動）」も1位となっている。

2.11 食生活で心がけていること

◆食生活で心がけていることは「朝食を毎朝欠かさず食べる」が約6割

(全員の方に)

問 22 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

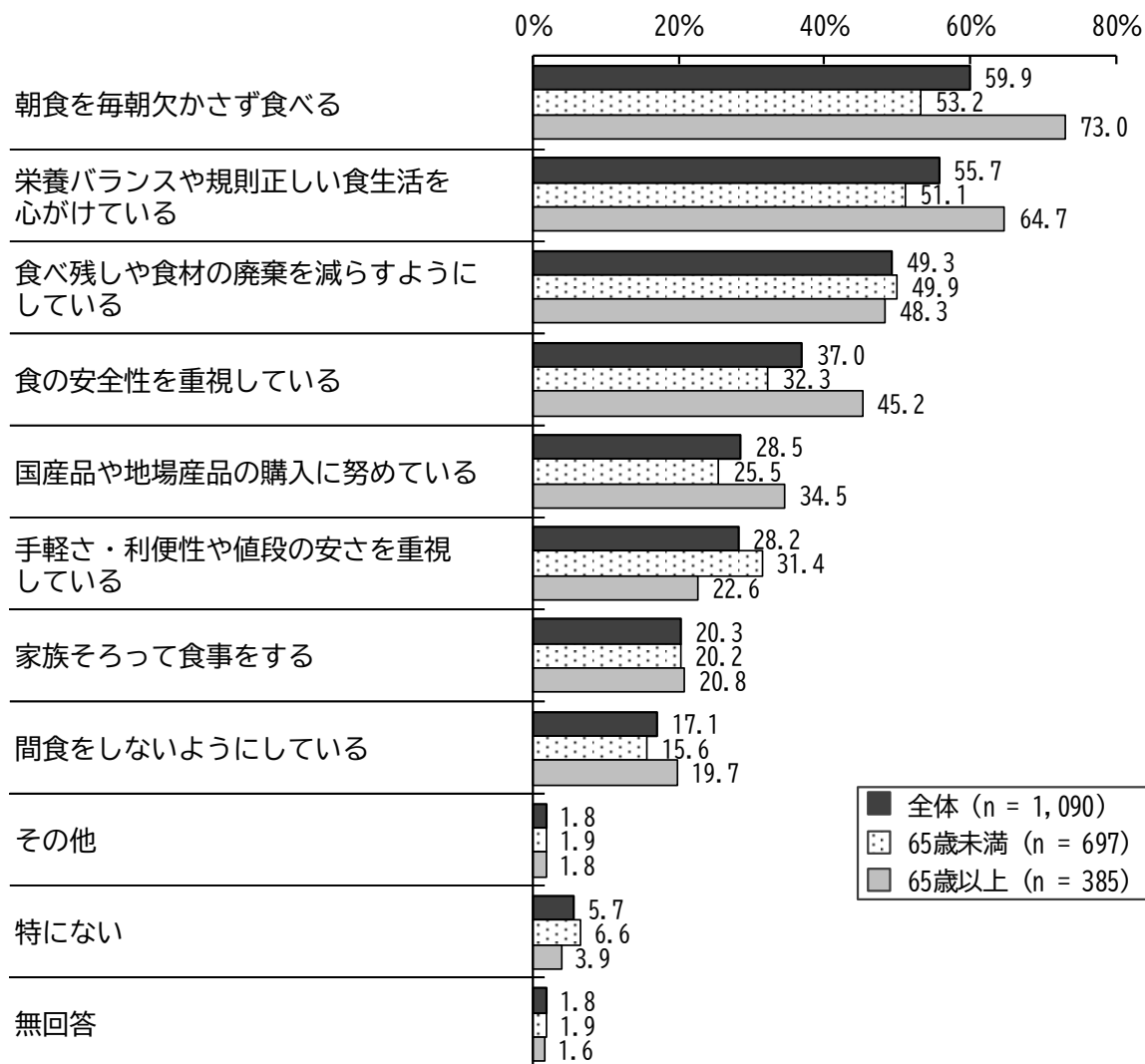


図 2-19 【年代別】食生活で心がけていること

食べ物や食生活に関して心がけていることや関心があることは、「朝食を毎朝欠かさず食べる」が59.9%で最も高く、次いで「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」(55.7%)、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」(49.3%)となっている。年代別にみると、65歳以上の方が65歳未満の方より食べ物や食生活について、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」を除いて関心が高くなっている。

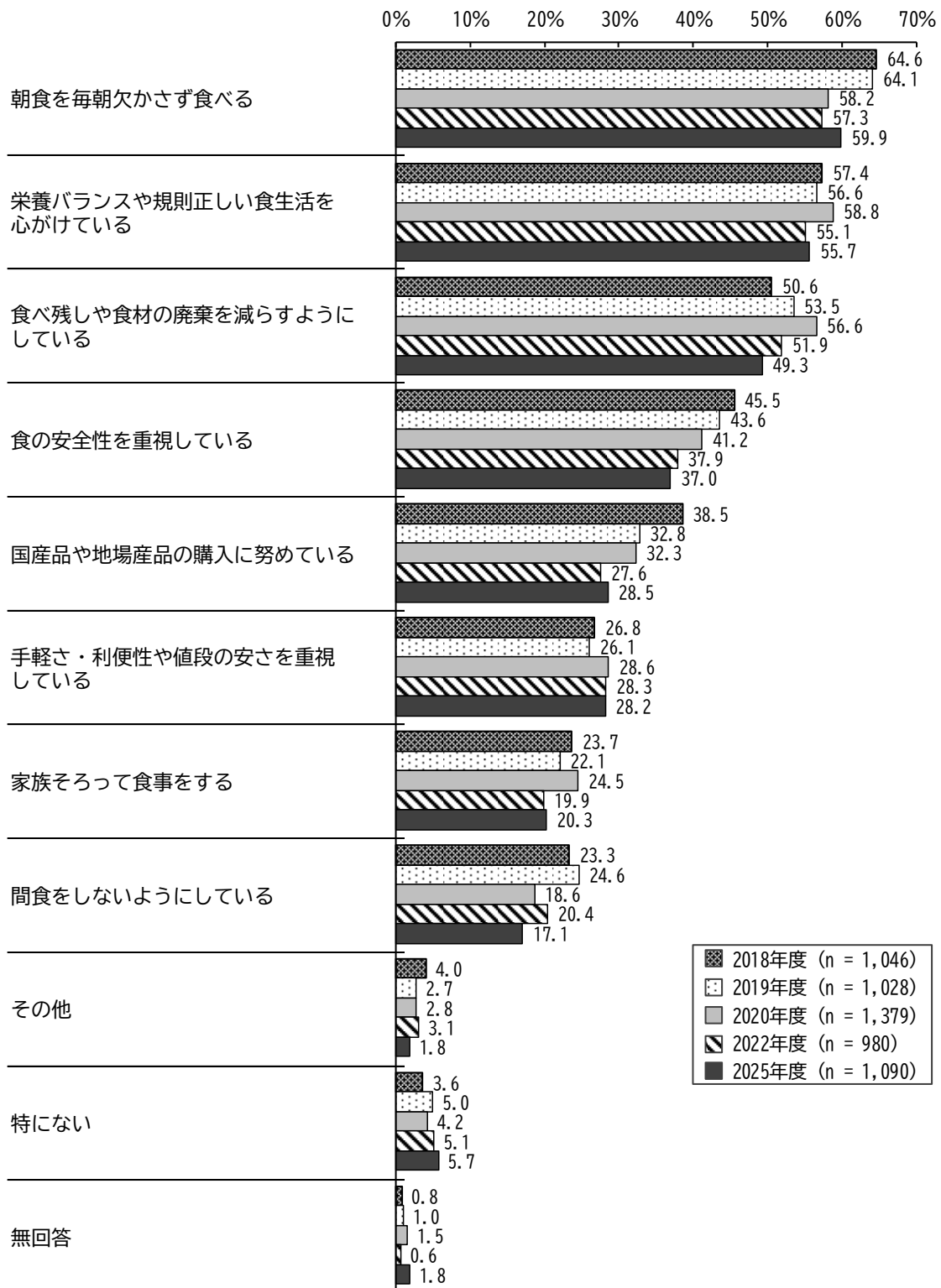


図 2-20 【経年比較】食生活で心がけていること

経年で比較すると、全体的に 2022 年度と比べ大きな差異はないが、「食の安全性を重視している」は減少傾向となっている。

2.12 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

◆適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を＜実践している＞は6割台前半

(全員の方に)

問 23 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、普段から適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つ)

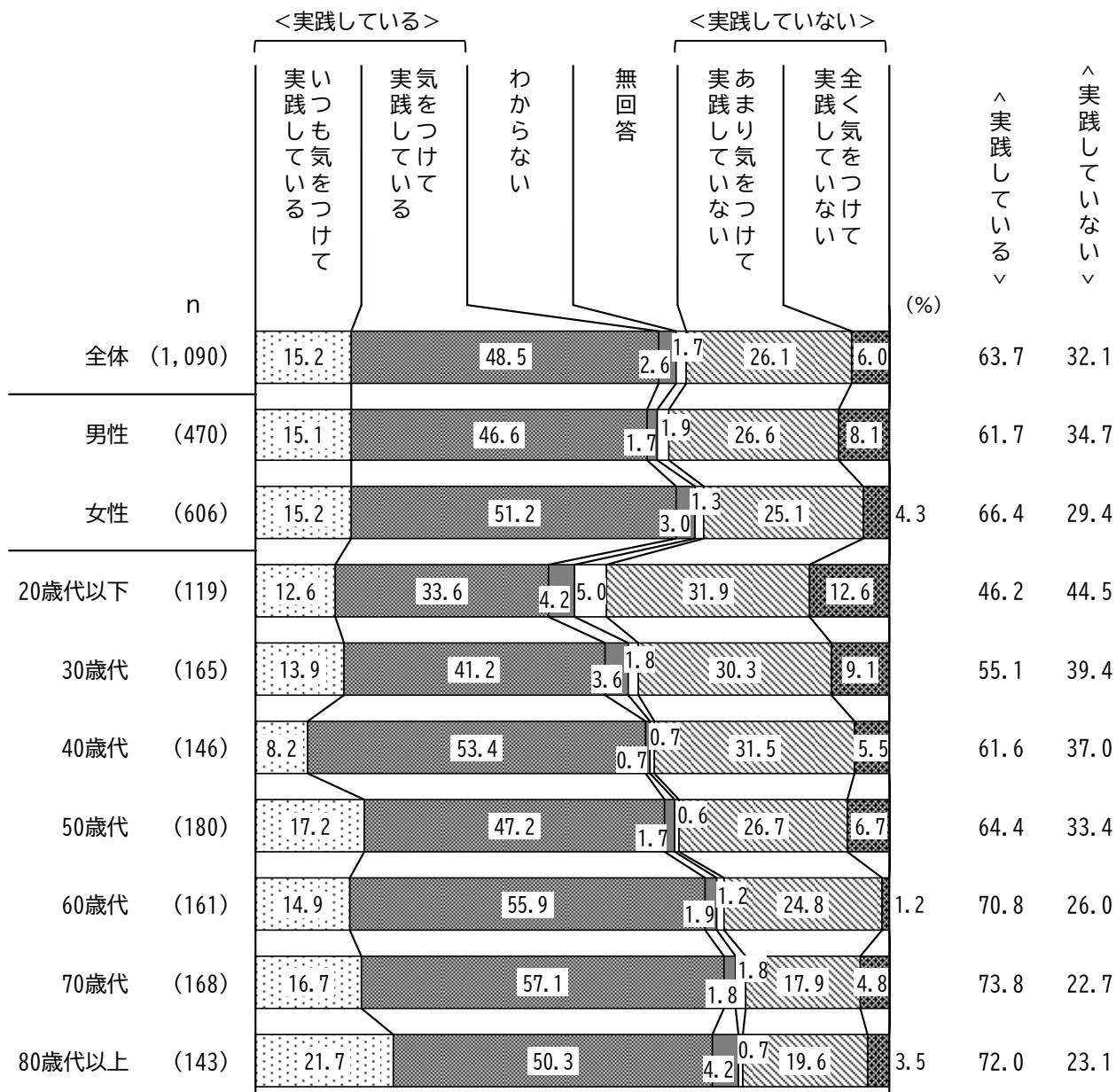


図 2-21 【性・年代別】適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」(15.2%)と「気をつけて実践している」(48.5%)を合わせた＜実践している＞は63.7%となっている。性別にみると、＜実践している＞は女性(66.4%)が男性(61.7%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、＜実践している＞は40歳代以上で6割、60歳代以上では7割を超えている。

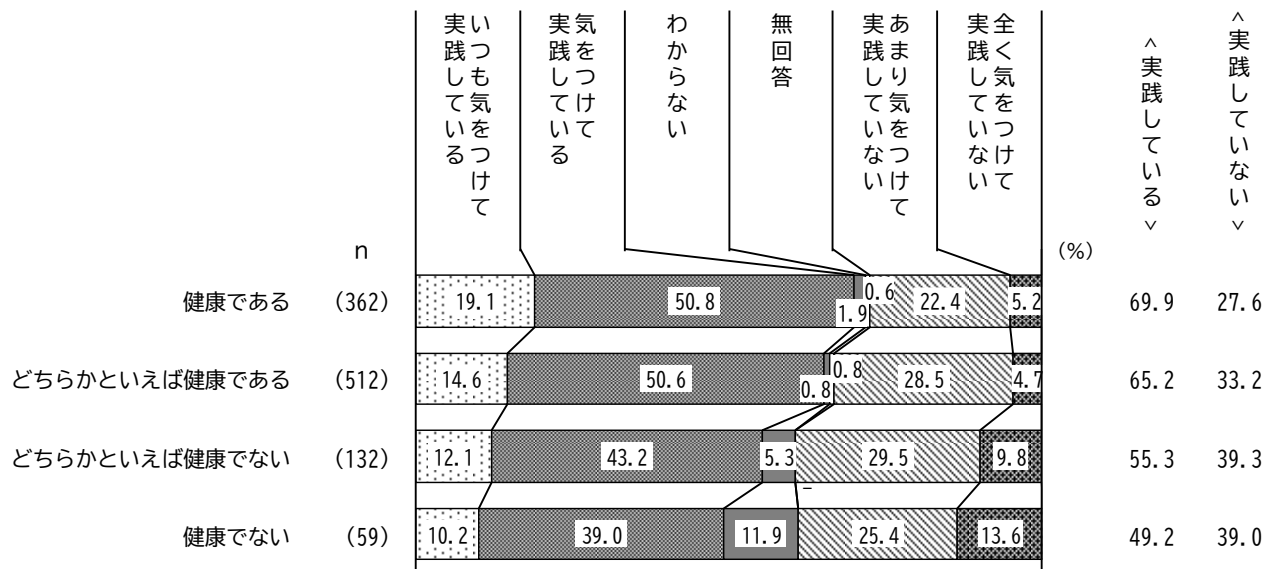


図 2-22 【健康感別】適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

健康感別にみると、健康であると感じている人は＜実践している＞の割合が高くなっている。

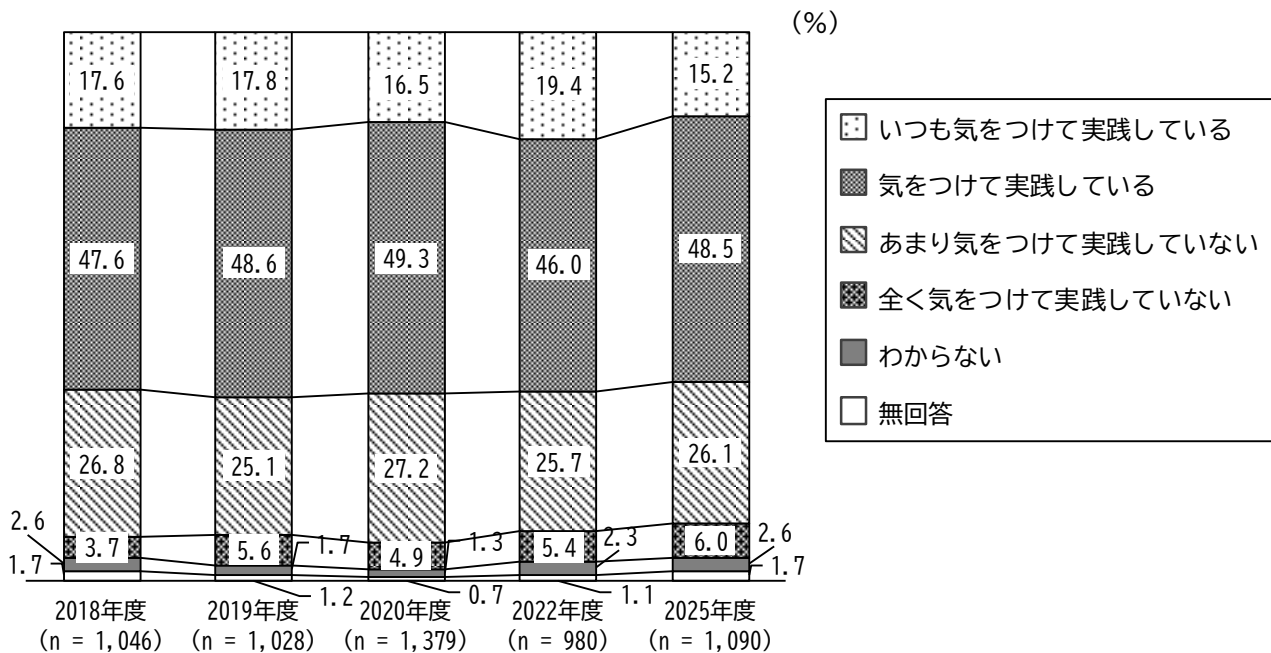


図 2-23 【経年比較】適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.13 健康診断の受診頻度

◆健康診断を＜受けている＞は8割台前半

(全員の方に)

問 24 あなたは、健康診断を受けていますか。(○は1つ)

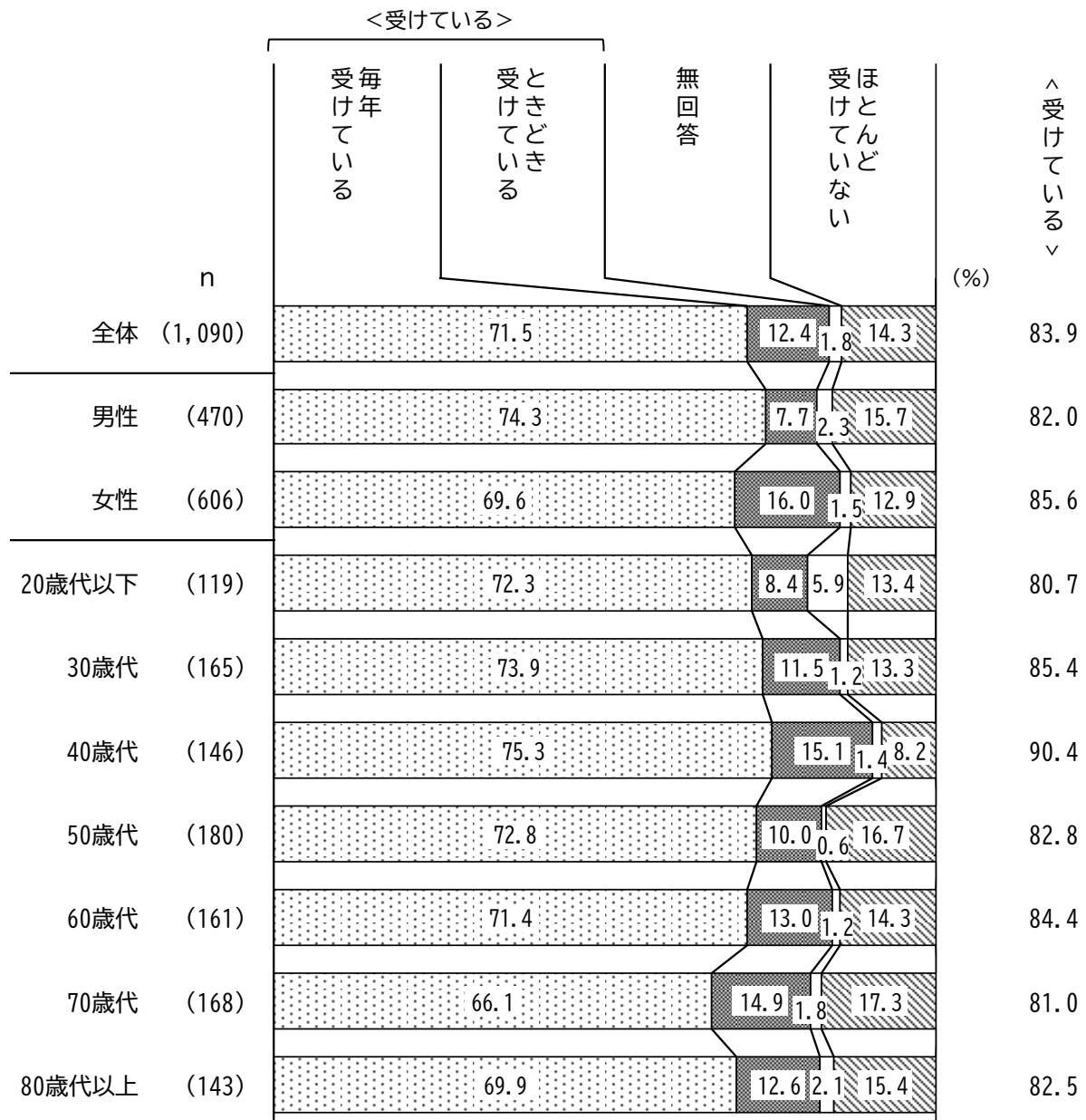


図 2-24 【性・年代別】健康診断の受診頻度

健康診断の受診頻度は、「毎年受けている」(71.5%)と「ときどき受けている」(12.4%)を合わせた＜受けている＞で83.9%となっている。性別にみると、「毎年受けている」は男性(74.3%)が女性(69.6%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、40歳代で＜受けている＞が約9割と高くなっている。

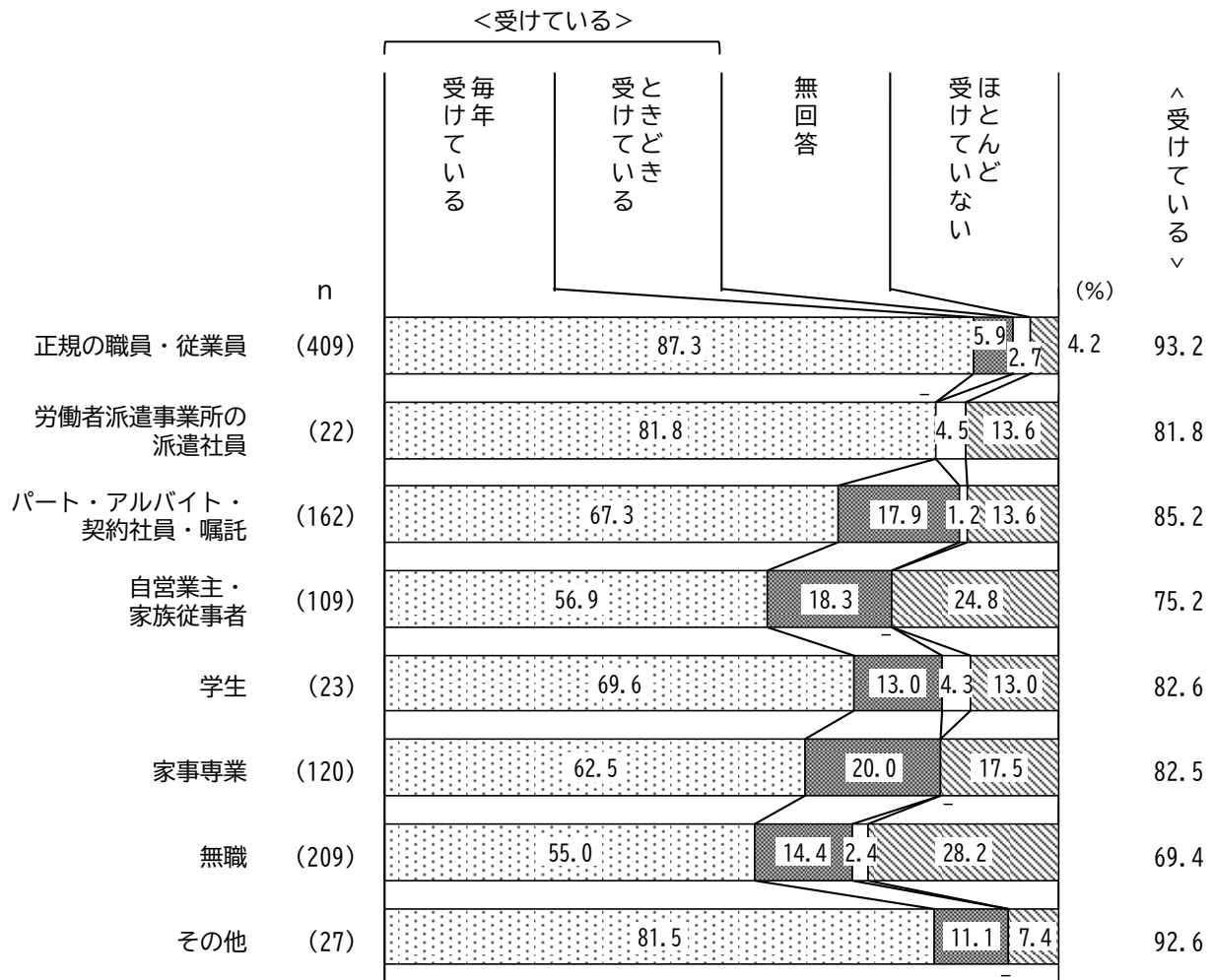


図 2-25 【職業別】健康診断の受診頻度

職業別にみると、＜受けている＞は「正規の職員・従業員」で 93.2%と最も高くなっている。一方、「無職」は＜受けている＞が 69.4%と低くなっている。

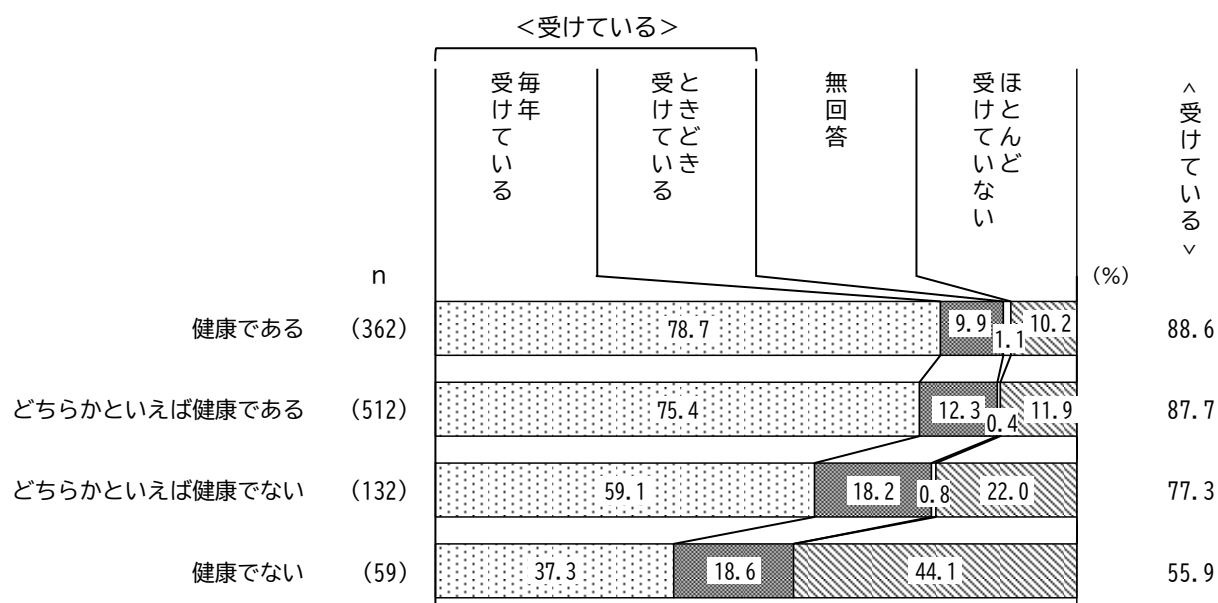


図 2-26 【健康感別】健康診断の受診頻度

「健康である」「どちらかといえば健康である」の方が、「どちらかといえば健康でない」「健康でない」よりも毎年健康診断を受診している割合が高くなっている。

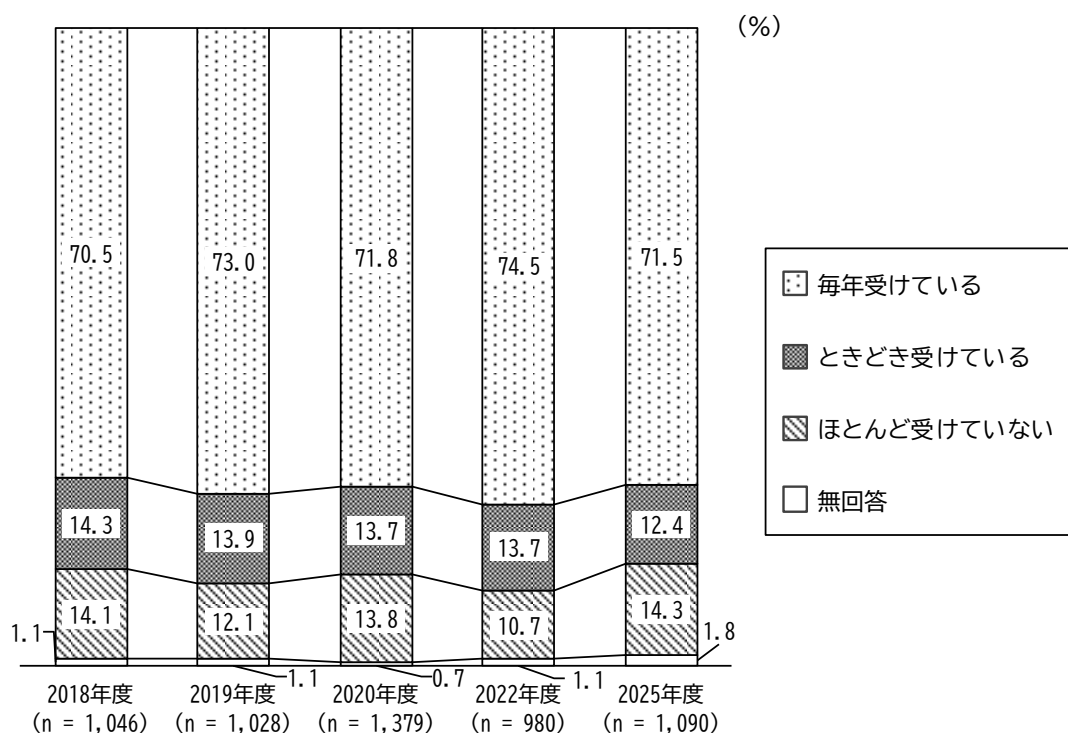


図 2-27 【経年比較】健康診断の受診頻度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.13.1 健康診断の受診場所

◆健康診断の受診場所は「職場や健康保険組合の健康診断」が約6割

(問24で「1.毎年受けている」「2.ときどき受けている」に○をつけた方に)
問24-1 あなたは、健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

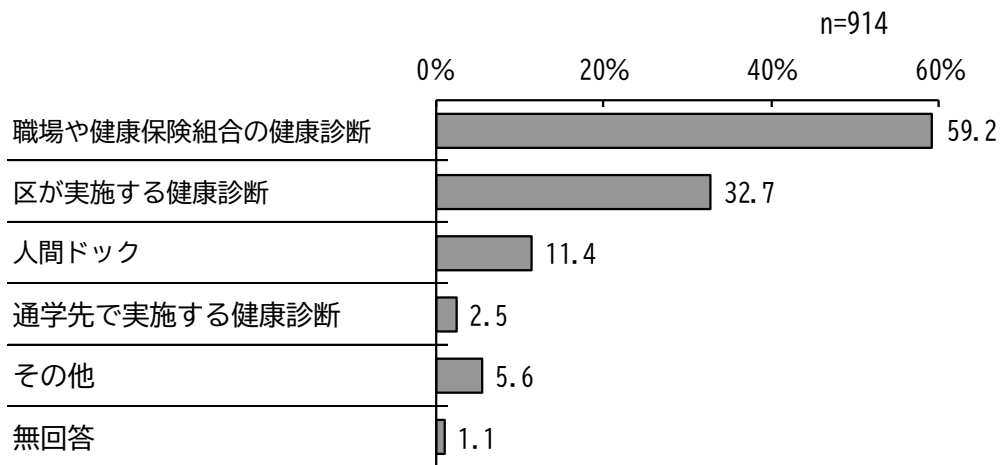


図2-28 健康診断の受診場所

健康診断を受けている方に受診場所を聞いたところ、「職場や健康保険組合の健康診断」が59.2%で最も高く、次いで「区が実施する健康診断」(32.7%)となっている。

表2-8 【性・年代別】健康診断の受診場所

単位：%

区分	有効回答数(件)	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	914	59.2	32.7	2.5	11.4	5.6	1.1
男性	385	60.5	24.9	2.6	12.5	6.5	1.0
女性	519	58.4	38.3	2.5	10.6	5.0	1.0
20歳代以下	96	80.2	2.1	22.9	-	-	-
30歳代	141	95.0	4.3	-	5.0	1.4	1.4
40歳代	132	75.8	22.0	-	20.5	1.5	0.8
50歳代	149	81.2	17.4	0.7	19.5	1.3	-
60歳代	136	58.8	36.8	-	17.6	4.4	-
70歳代	136	19.1	66.2	-	8.1	15.4	2.2
80歳代以上	118	-	79.7	-	5.1	15.3	2.5

性別にみると、「区が実施する健康診断」は女性(38.3%)が男性(24.9%)を13.4ポイント上回っている。年代別にみると、20歳～60歳代は「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高いのに対し、70歳代以上では「区が実施する健康診断」が最も高くなっている。また、40～60歳代は「人間ドック」が1割台後半から約2割と高くなっている。

表 2-9 【居住地域別】健康診断の受診場所

単位：％

区分	有効回答数 (件)	職場や健康保険組合の 健康診断	区が実施する 健康診断	通学先で実施する 健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	914	59.2	32.7	2.5	11.4	5.6	1.1
南台	67	55.2	35.8	－	14.9	7.5	－
弥生町	55	61.8	25.5	1.8	14.5	5.5	－
本町	71	66.2	31.0	4.2	4.2	7.0	－
中央	80	73.8	22.5	－	12.5	3.8	1.3
東中野	70	65.7	30.0	－	10.0	－	1.4
中野	94	51.1	35.1	4.3	14.9	6.4	1.1
上高田	56	64.3	25.0	1.8	10.7	7.1	1.8
新井	50	60.0	30.0	6.0	10.0	8.0	－
沼袋	35	62.9	28.6	－	8.6	5.7	2.9
松が丘	11	72.7	36.4	9.1	18.2	9.1	－
江原町	20	65.0	40.0	－	－	－	－
江古田	35	42.9	42.9	8.6	5.7	8.6	2.9
丸山	12	50.0	66.7	－	16.7	－	－
野方	64	51.6	37.5	3.1	12.5	3.1	3.1
大和町	43	58.1	39.5	2.3	18.6	4.7	－
若宮	29	55.2	41.4	－	－	6.9	－
白鷺	24	58.3	37.5	－	8.3	4.2	－
鷺宮	49	53.1	30.6	6.1	14.3	8.2	2.0
上鷺宮	38	52.6	31.6	2.6	18.4	10.5	－

居住地域別にみると、丸山を除く地域で「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高くなっている。

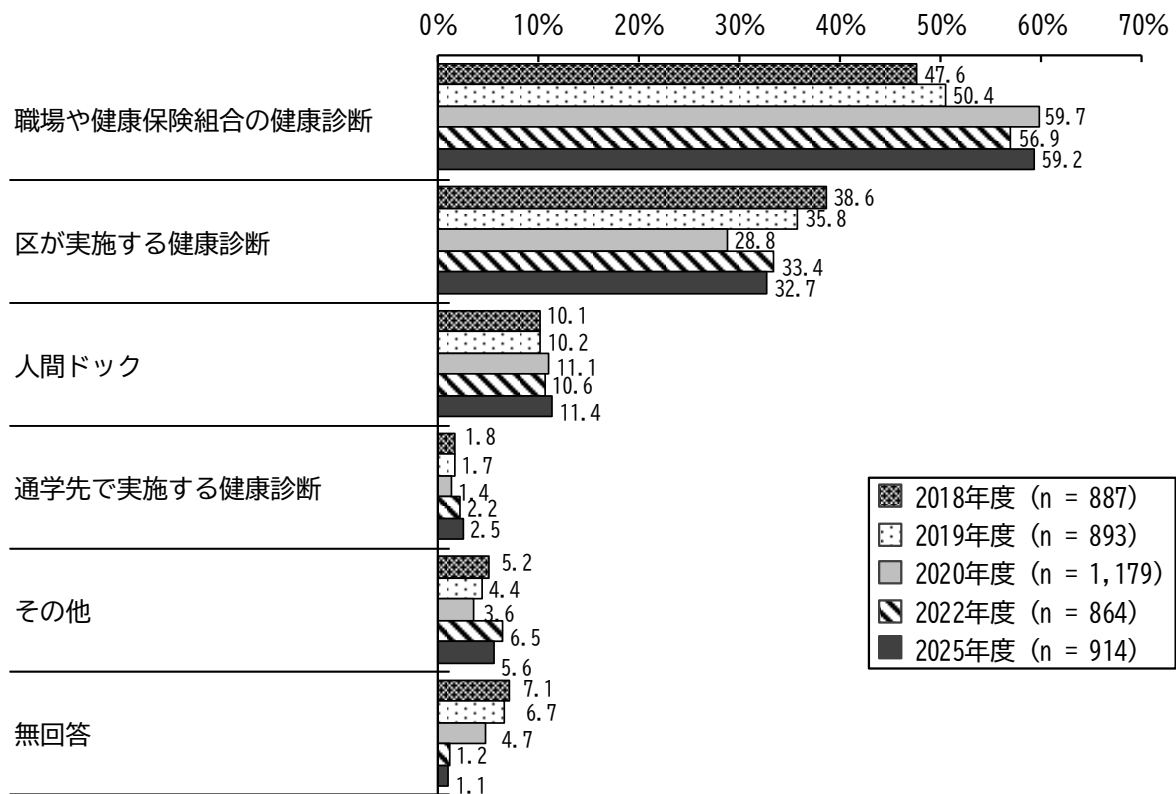


図 2-29 【経年比較】健康診断の受診場所

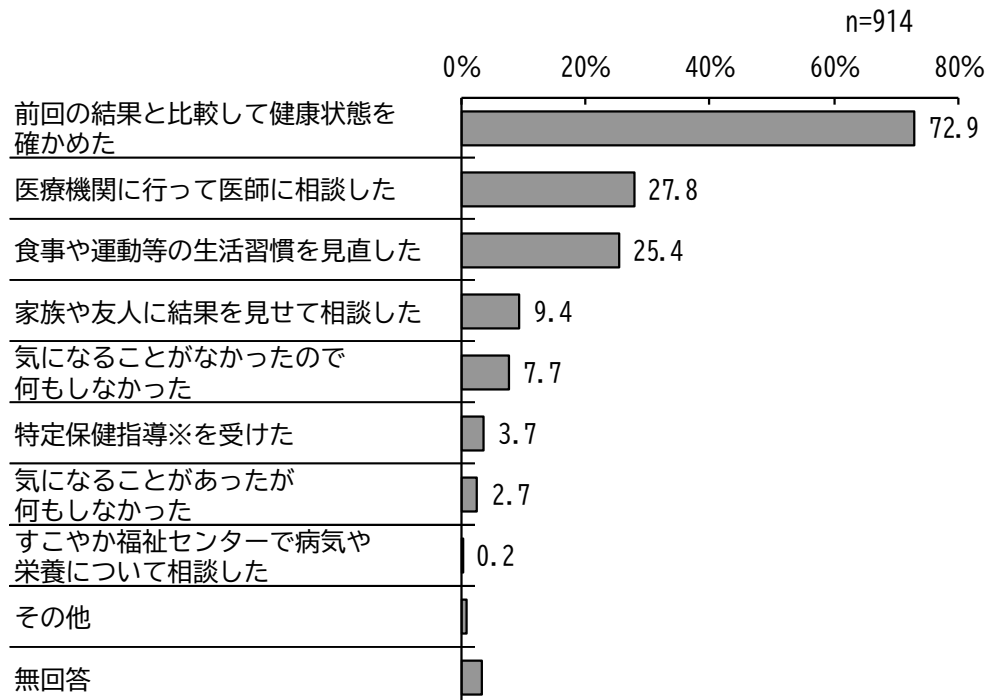
経年で比較すると、2022 年度と比べ大きな差異はみられない。

2.13.2 健康診断結果の活用方法

◆健康診断結果の活用方法は「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が7割台前半

(問 24 で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に)

問 24-2 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○)



※特定保健指導…メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の早期発見を目的とした健康診査（特定健診）の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のこと。

図 2-30 健康診断結果の活用方法

健康診断を受けている方に健康診断結果の活用方法を聞いたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が 72.9%で最も高く、次いで「医療機関に行って医師に相談した」(27.8%)、「食事や運動等の生活習慣を見直した」(25.4%)となっている。

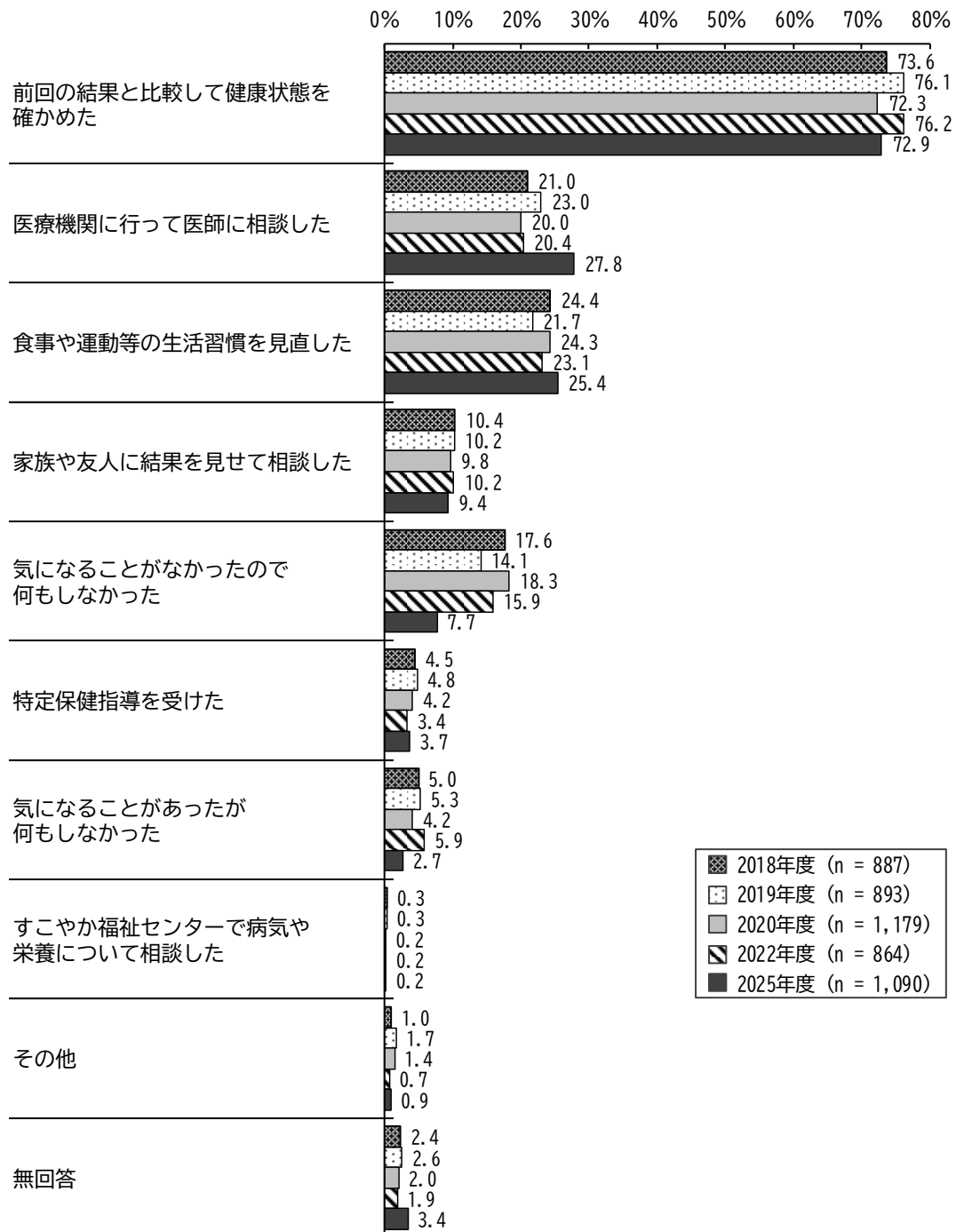


図 2-31 【経年比較】健康診断結果の活用方法

経年で比較すると、2022 年度と比べ、「医療機関に行って医師に相談した」が 7.4 ポイント増加し、「気になることがなかったので何もしなかった」が約 8 ポイント減少している。

2.13.3 健康診断を受けなかった理由

◆健康診断を受けなかった理由は「面倒なため」が3割半ば

(問 24 で「3. ほとんど受けていない」に○をつけた方に)

問 24-3 あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

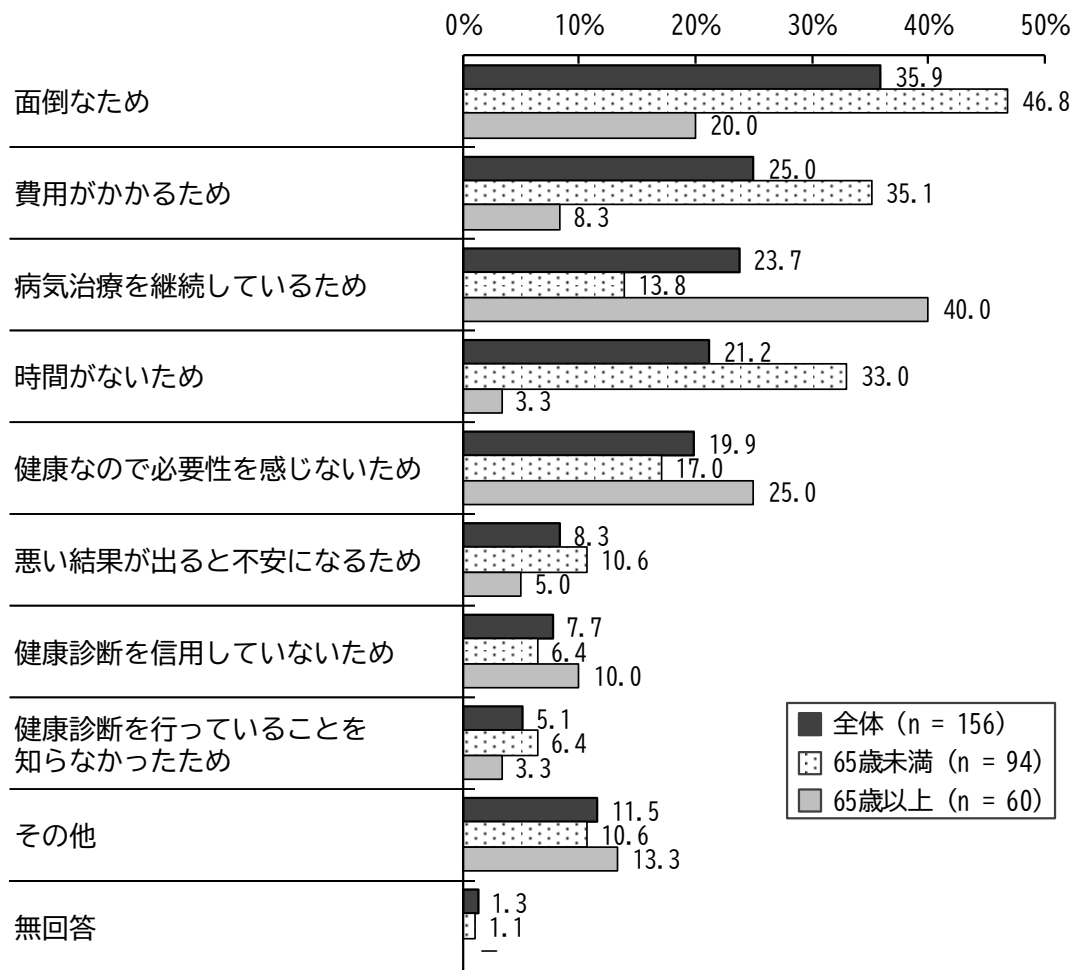


図 2-32 【年代別】健康診断を受けなかった理由

健康診断を受けなかった方にその理由を聞いたところ、「面倒なため」が 35.9%で最も高く、次いで「費用がかかるため」(25.0%)、「病気治療を継続しているため」(23.7%)となっている。年代別にみると、65 歳未満では「面倒なため」(46.8%)が最も高く、次いで「費用がかかるため」(35.1%)、「時間がないため」(33.0%)となっているのに対し、65 歳以上では「病気治療を継続しているため」(40.0%)が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じないため」(25.0%)、「面倒なため」(20.0%)となっている。

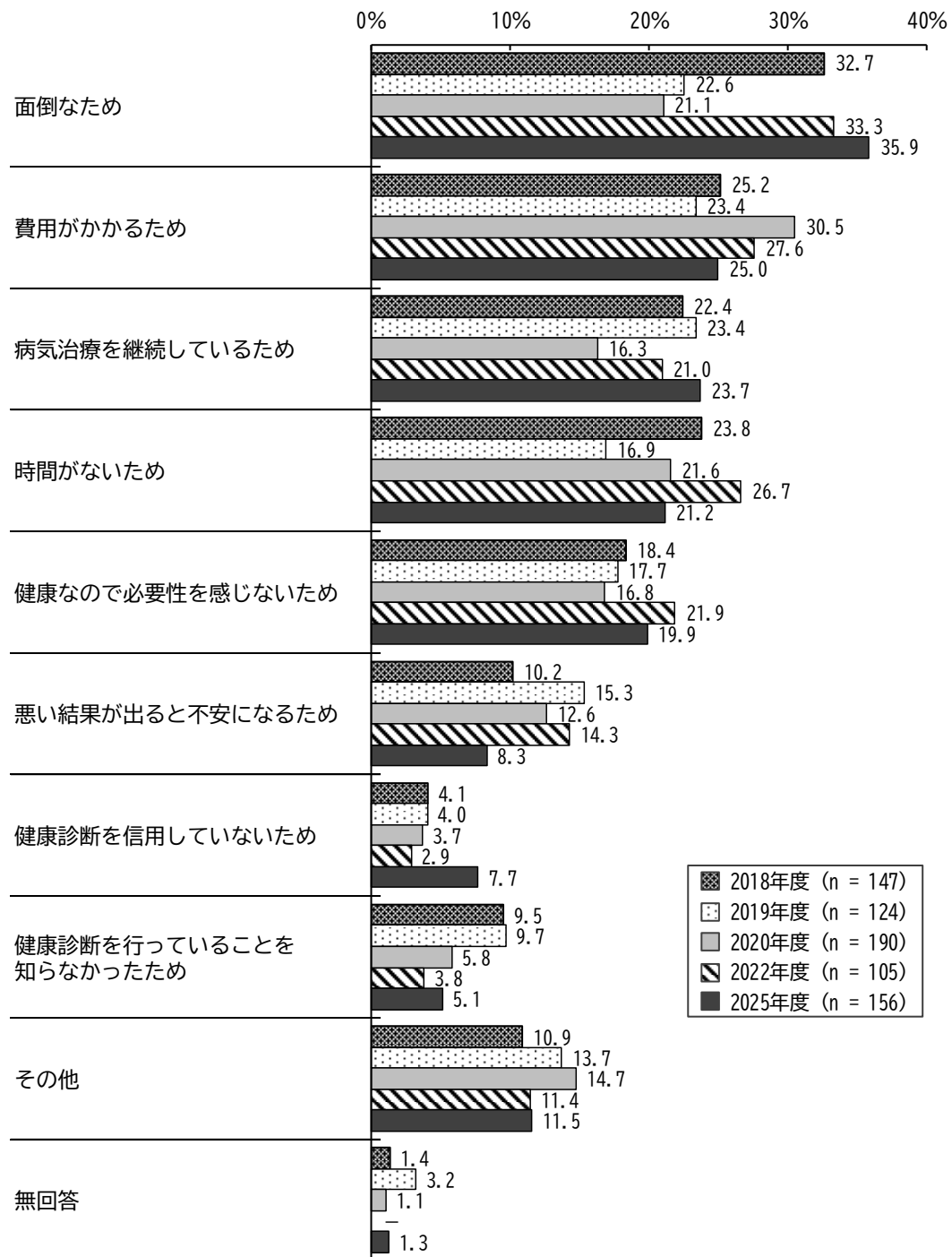


図 2-33 【経年比較】健康診断を受けなかった理由

経年で比較すると、2022 年度に比べ、「面倒なため」「病気治療を継続しているため」「健康診断を信用していないため」「健康診断を行っていることを知らなかったため」などが増加している。

2.14 かかりつけの診療所の有無

◆かかりつけの診療所を＜決めている＞割合は40歳代以上で7割超

(全員の方に)

問25 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(○は1つ)

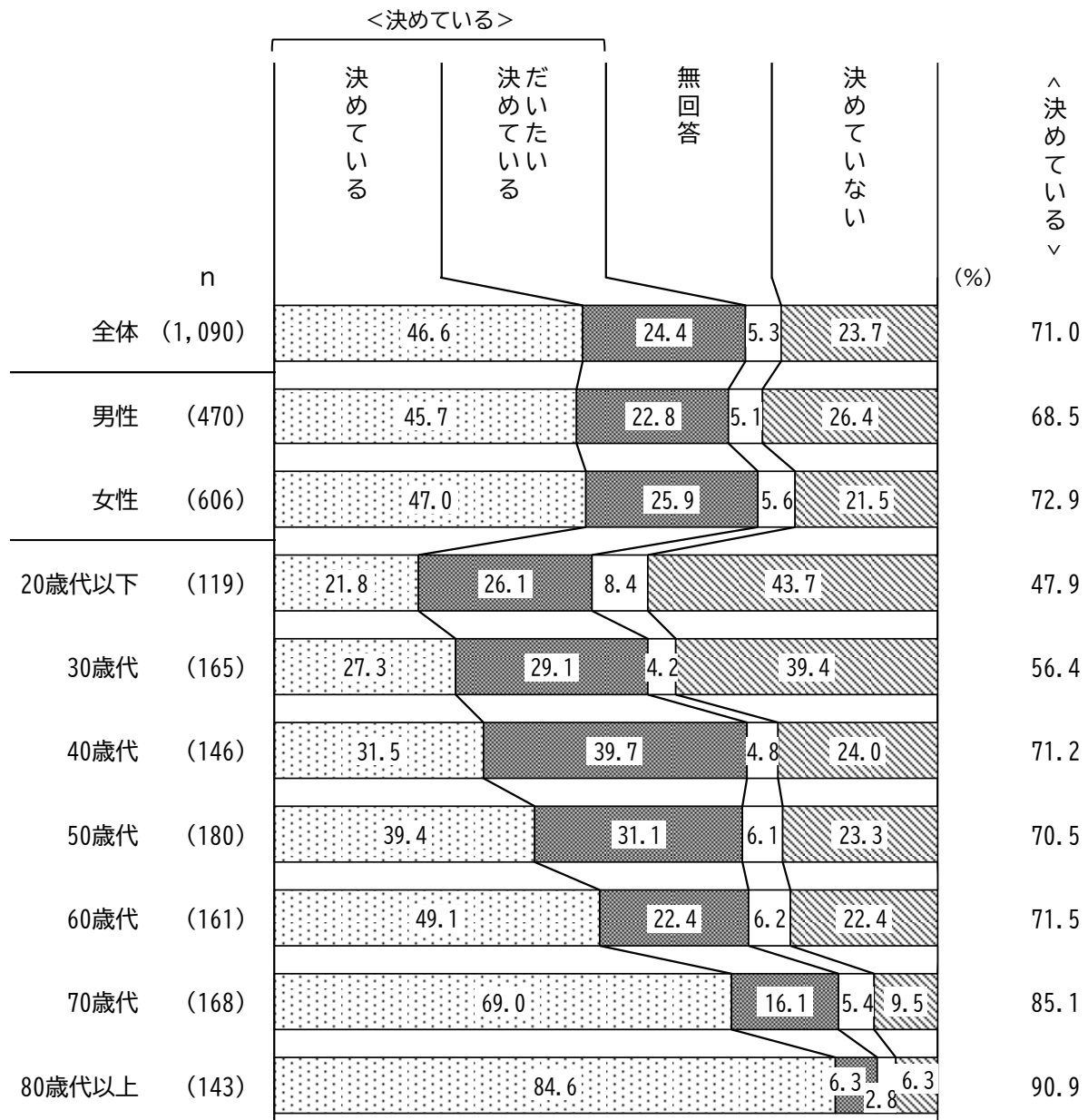


図2-34 【性・年代別】かかりつけの診療所の有無

かかりつけの診療所を決めているかについては、「決めている」(46.6%)と「だいたい決めている」(24.4%)を合わせた＜決めている＞で71.0%となっている。性別にみると、＜決めている＞では女性(72.9%)が男性(68.5%)を4.4ポイント上回っている。年代別にみると、＜決めている＞は概ね年代が上がるにつれ増加傾向となっており、40歳代以上で7割を超えている。

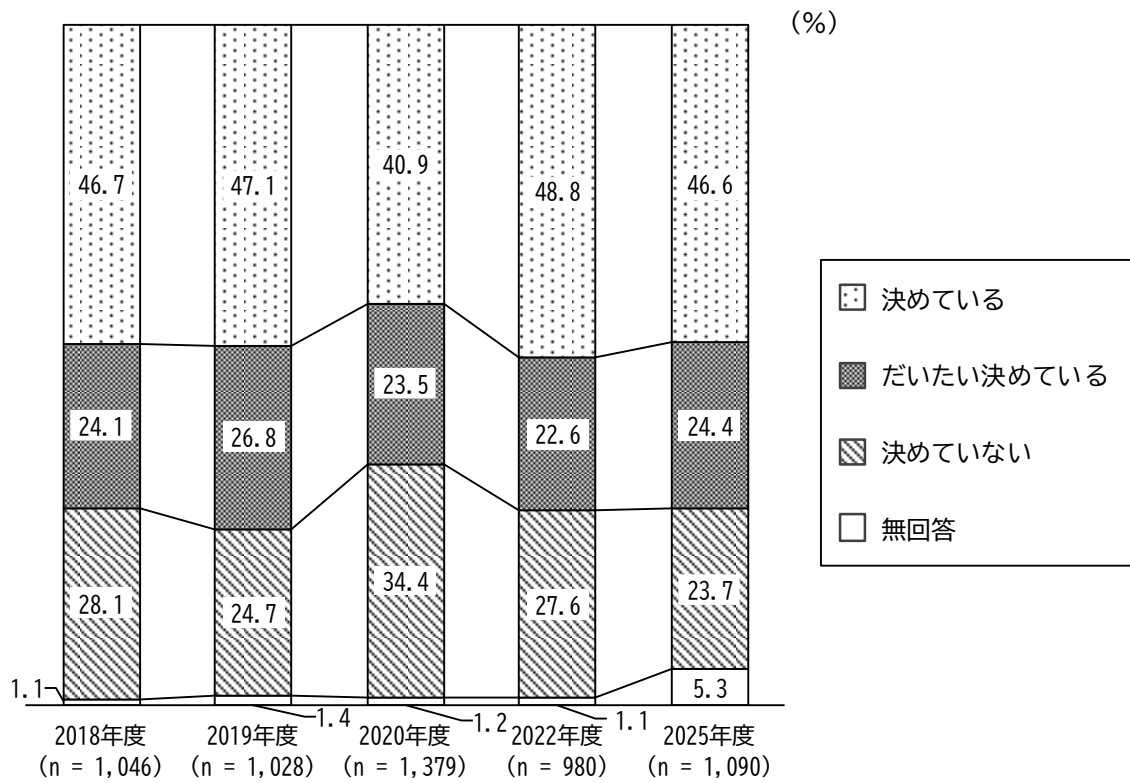


図 2-35 【経年比較】かかりつけの診療所の有無

経年で比較すると、2022 年度に比べ、「決めている」と「だいたい決めている」を合わせた＜決めている＞に大きな差異はみられない。

2.14.1 かかりつけの診療所からのアドバイス

◆かかりつけの診療所で健康についてのアドバイスを「受けている」は5割台前半

(問 25 で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に)

問 25-1 あなたは、かかりつけの診療所（医院・クリニック）で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。（○は1つ）

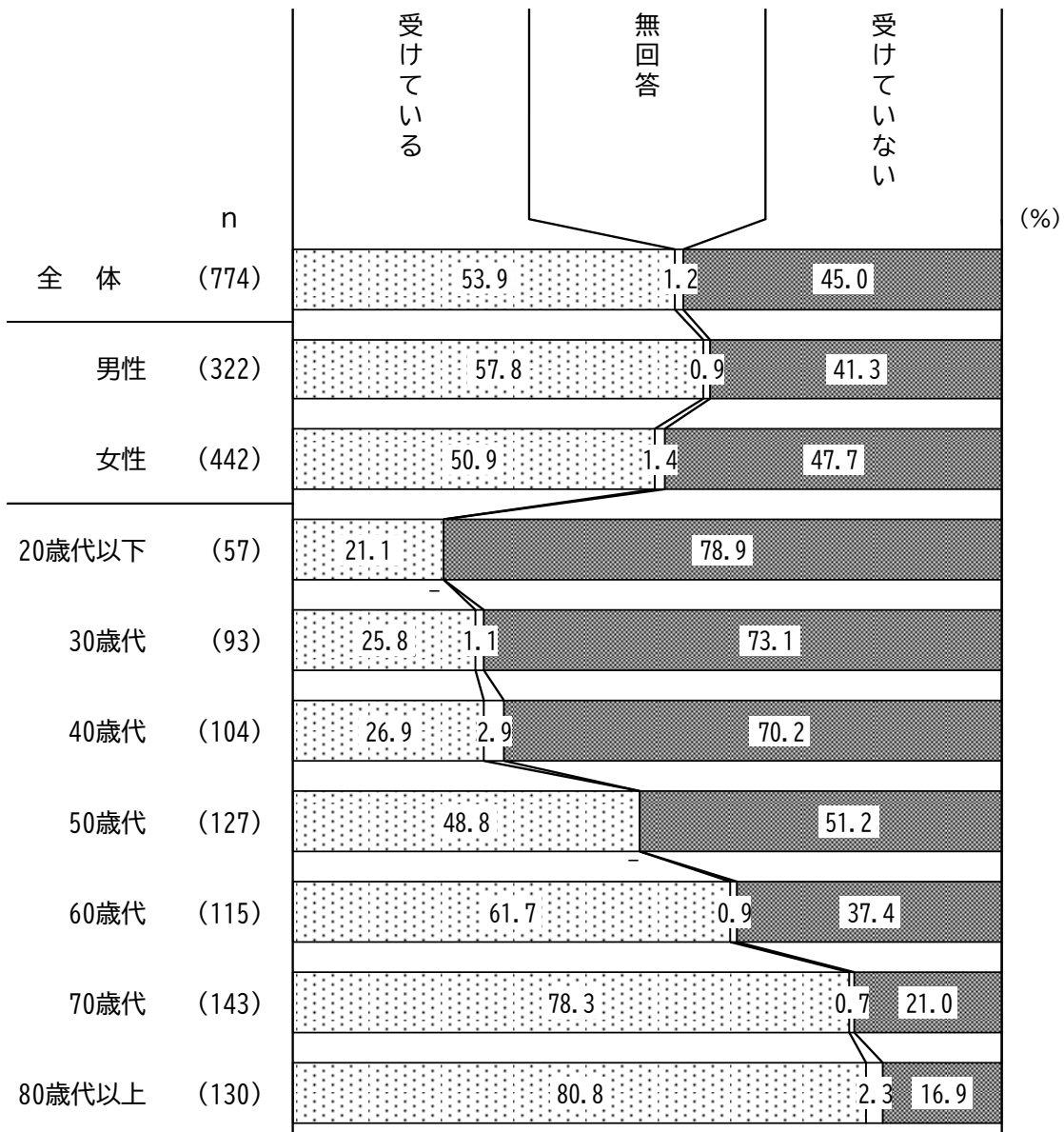


図 2-36 【性・年代別】かかりつけの診療所からのアドバイス

かかりつけの診療所を決めている方にかかりつけの診療所から健康についてのアドバイスを受けているか聞いたところ、「受けている」が53.9%に対し、「受けていない」は45.0%となっている。性別にみると、「受けている」では男性（57.8%）が女性（50.9%）を約7ポイント上回っている。年代別にみると、「受けている」は年代が上がるにつれ増加傾向にある。

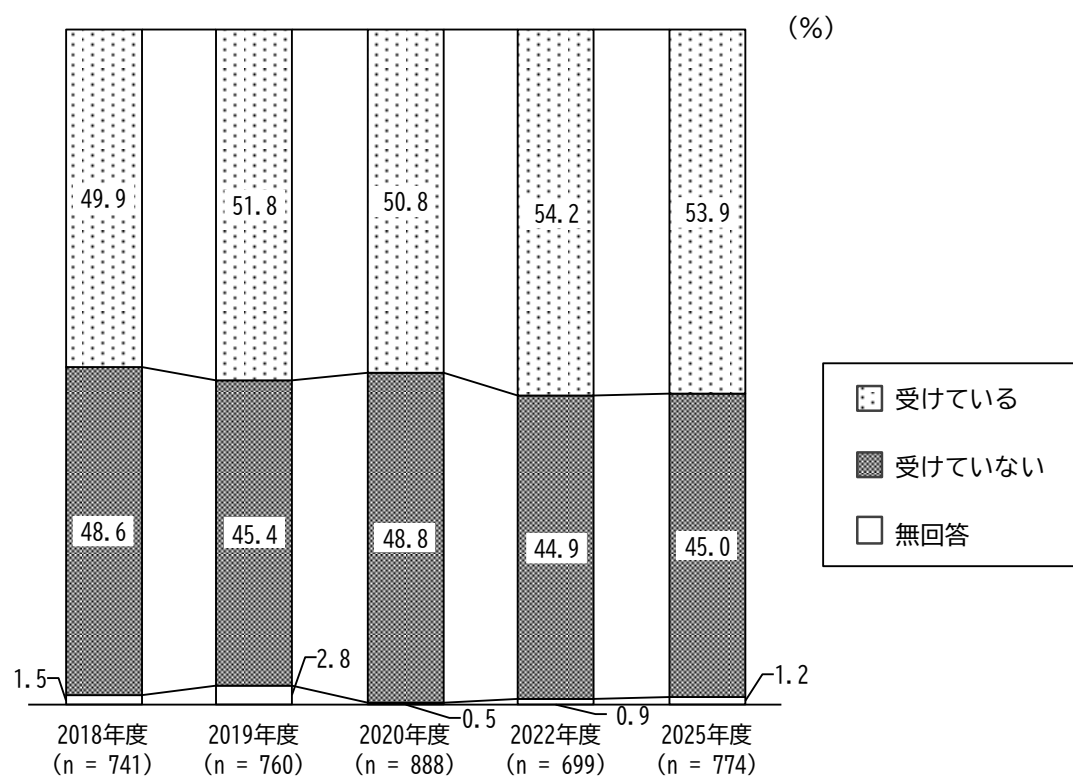


図 2-37 【経年比較】かかりつけの診療所からのアドバイス

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.15 歯科健診の受診状況

◆歯科健診を「受けた」は約6割

(全員の方に)

問 26 あなたは、この1年間、歯科健診を受けましたか。(○は1つ)

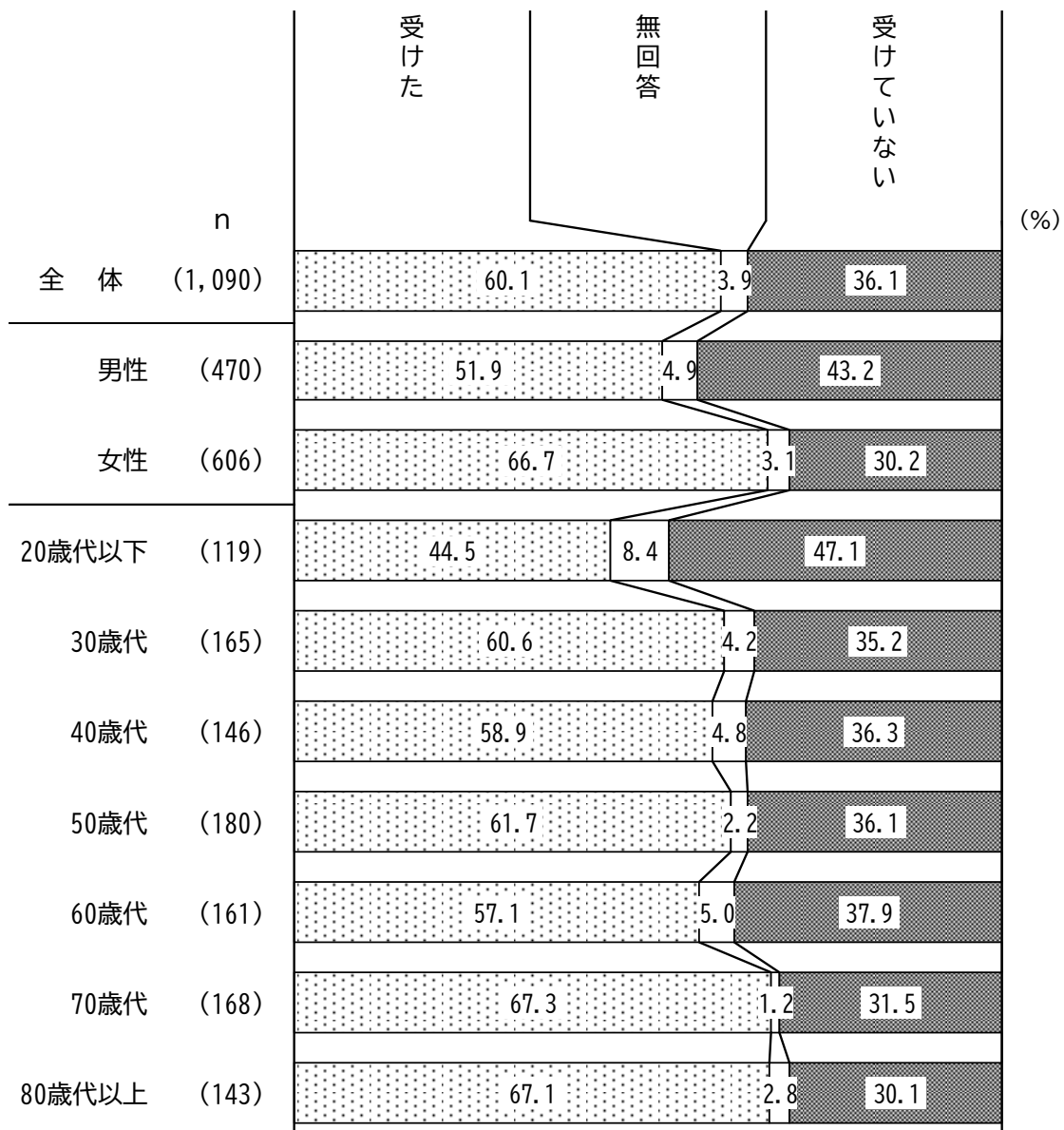


図 2-38 【性・年代別】歯科健診の受診状況

歯科健診の受診については「受けた」が60.1%に対し、「受けていない」が36.1%となっている。性別に見ると、「受けた」は女性(66.7%)が男性(51.9%)を約15ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「受けていない」が4割台後半となっており、他の年代と比較して高くなっている。

2.15.1 歯科健診の受診場所

◆歯科健診の受診場所は「かかりつけの歯科医」が約9割

(問 26 で「1.受けた」に○をつけた方に)

問 26-1 あなたは、歯科健診をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

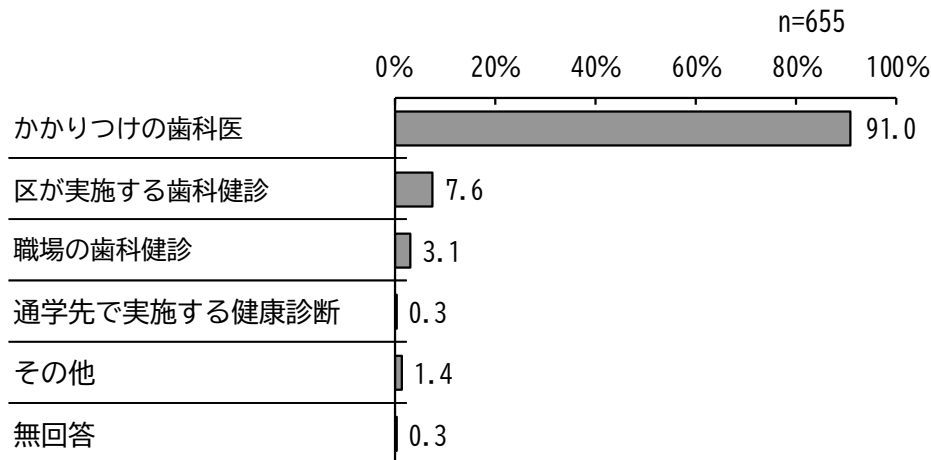


図 2-39 歯科健診の受診場所

歯科健診の受診場所については「かかりつけの歯科医」が 91.0%で最も高く、次いで、「区が実施する歯科健診」(7.6%)となっている。

表 2-10 【性・年代別】歯科健診の受診場所

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場の 歯科健診	区が 実施する 歯科健診	通学先で 実施する 健康診断	かかり つけの 歯科医	その他	無 回答
全体	655	3.1	7.6	0.3	91.0	1.4	0.3
男性	244	4.1	4.5	0.4	90.2	2.5	0.4
女性	404	2.5	9.4	0.2	91.3	0.7	0.2
20歳代以下	53	3.8	9.4	1.9	84.9	3.8	-
30歳代	100	8.0	5.0	-	92.0	1.0	1.0
40歳代	86	4.7	10.5	-	84.9	1.2	-
50歳代	111	3.6	9.9	-	89.2	1.8	-
60歳代	92	2.2	12.0	-	91.3	1.1	-
70歳代	113	-	6.2	0.9	93.8	0.9	-
80歳代以上	96	-	2.1	-	96.9	1.0	1.0

性別にみると、「区が実施する歯科健診」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、40歳代と60歳代で「区が実施する歯科健診」の割合が1割台で、他の年代と比較してやや高くなっている。

2.15.2 歯科健診を受診しなかった理由

◆歯科健診を受診しなかった理由は「面倒だから」「時間がないから」が2割台後半

(問 26 で「2.受けていない」に○をつけた方に)

問 26-2 あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

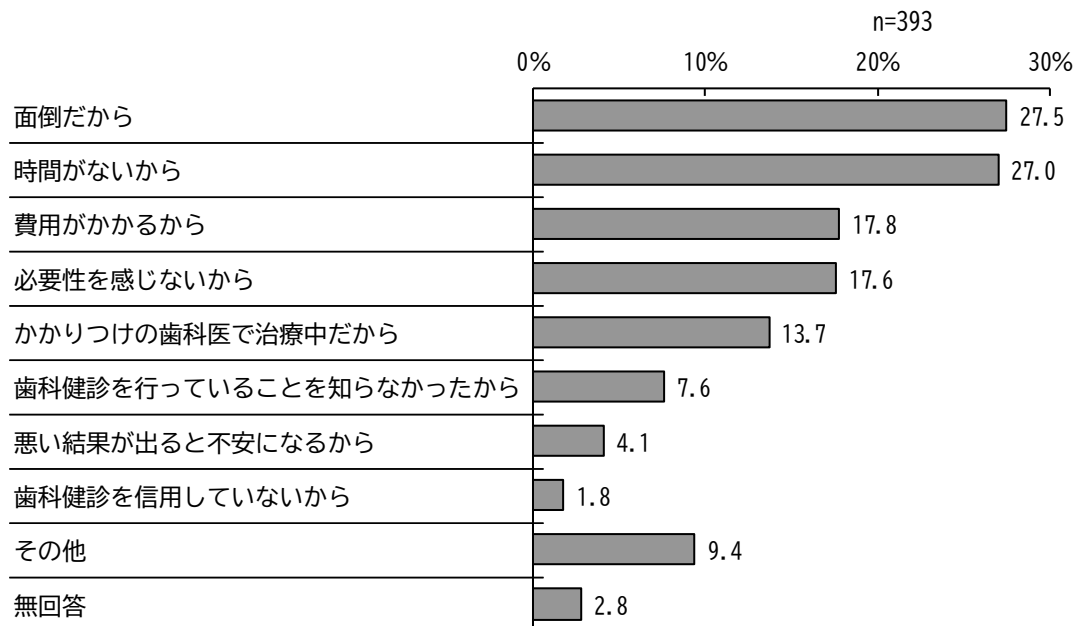


図 2-40 歯科健診を受診しなかった理由

歯科健診を受診しなかった理由については「面倒だから」が27.5%と最も高くなっており、次いで「時間がないから」(27.0%)、「費用がかかるから」(17.8%)となっている。

表 2-11 【性・年代別】歯科健診を受診しなかった理由

単位：%

区分	有効回答数(件)	時間がないから	費用がかかるから	面倒だから	かかりつけの歯科医で治療中だから	知らないから	行っていないから	歯科健診を信用していないから	不安になるから	悪い結果が出ると	必要性を感じないから	その他	無回答
全体	393	27.0	17.8	27.5	13.7	7.6	1.8	4.1	17.6	9.4	2.8		
男性	203	26.6	18.7	33.5	10.3	7.4	2.0	4.4	20.7	5.9	2.5		
女性	183	27.9	15.8	21.3	18.0	8.2	1.1	3.8	14.2	12.6	3.3		
20歳代以下	56	35.7	35.7	42.9	3.6	3.6	3.6	3.6	14.3	-	-		
30歳代	58	39.7	34.5	44.8	5.2	5.2	1.7	-	13.8	1.7	1.7		
40歳代	53	50.9	15.1	28.3	13.2	9.4	1.9	9.4	9.4	7.5	-		
50歳代	65	24.6	13.8	29.2	24.6	9.2	1.5	3.1	7.7	9.2	1.5		
60歳代	61	23.0	6.6	23.0	18.0	13.1	-	6.6	16.4	16.4	1.6		
70歳代	53	7.5	9.4	15.1	22.6	1.9	3.8	3.8	26.4	17.0	1.9		
80歳代以上	43	2.3	4.7	4.7	7.0	11.6	-	2.3	41.9	16.3	16.3		

性別にみると、男性で「面倒だから」「必要性を感じないから」の割合が女性より高く、女性で「かかりつけの歯科医で治療中だから」が男性よりも高くなっている。年代別にみると、40歳代で「時間がないから」が約5割と、他の年代と比較して高くなっている。

2.16 定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか

◆定期的にメンテナンスのために歯科医に「通っている」は5割半ば

(全員の方に)

問 27 あなたは、定期的にメンテナンスのために歯科医に通っていますか。(○は1つ)

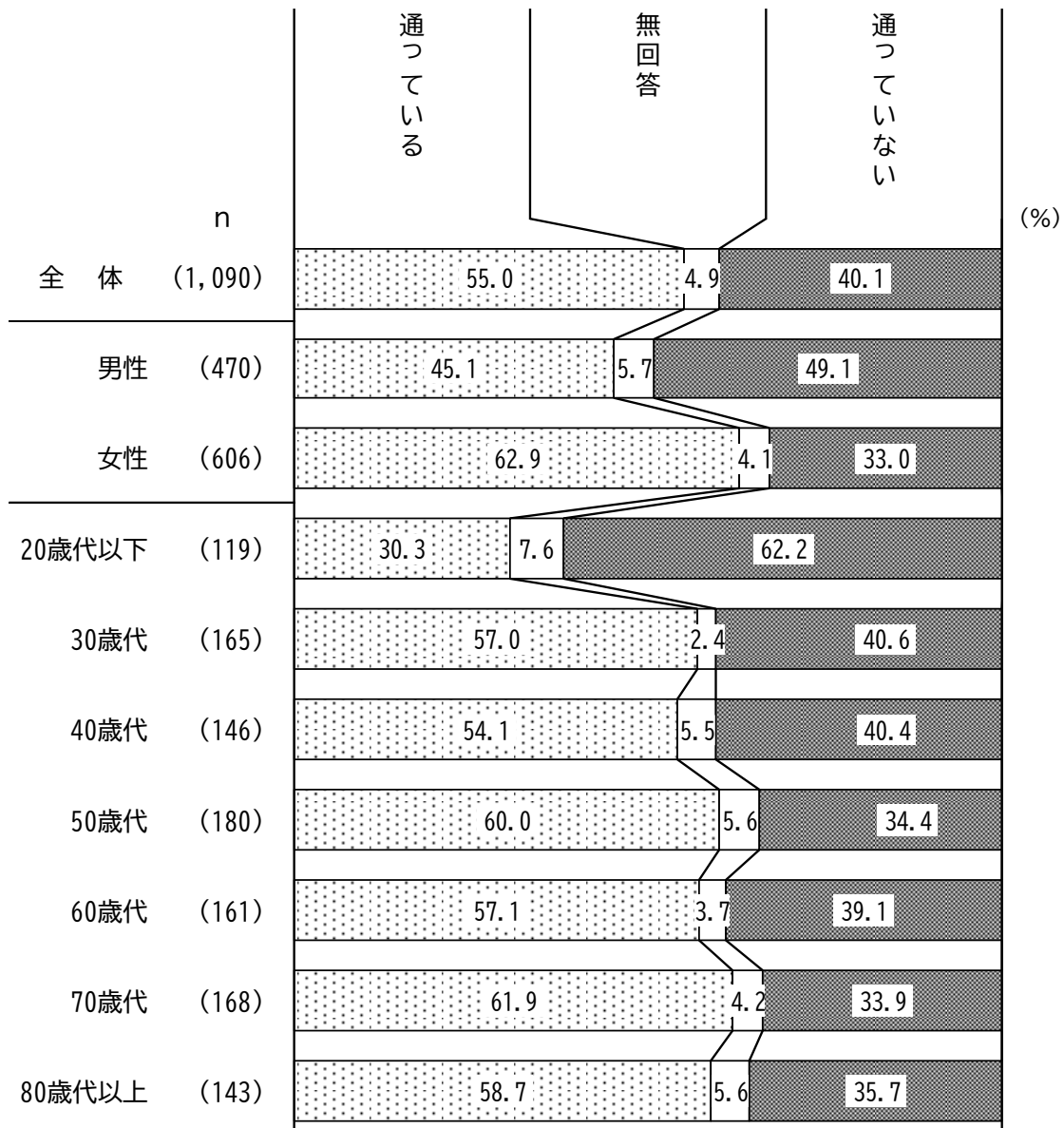


図 2-41 【性・年代別】定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか

定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているかについては「通っている」が55.0%に対し、「通っていない」が40.1%となっている。性別に見ると、「通っている」は女性(62.9%)が男性(45.1%)を約18ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「通っていない」が6割台前半となっており、他の年代と比較して高くなっている。

2.17 かかりつけの歯科診療所の有無

◆かかりつけの歯科診療所を<決めている>が7割台前半

(全員の方に)

問 28 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの歯科診療所を決めていますか。(○は1つ)

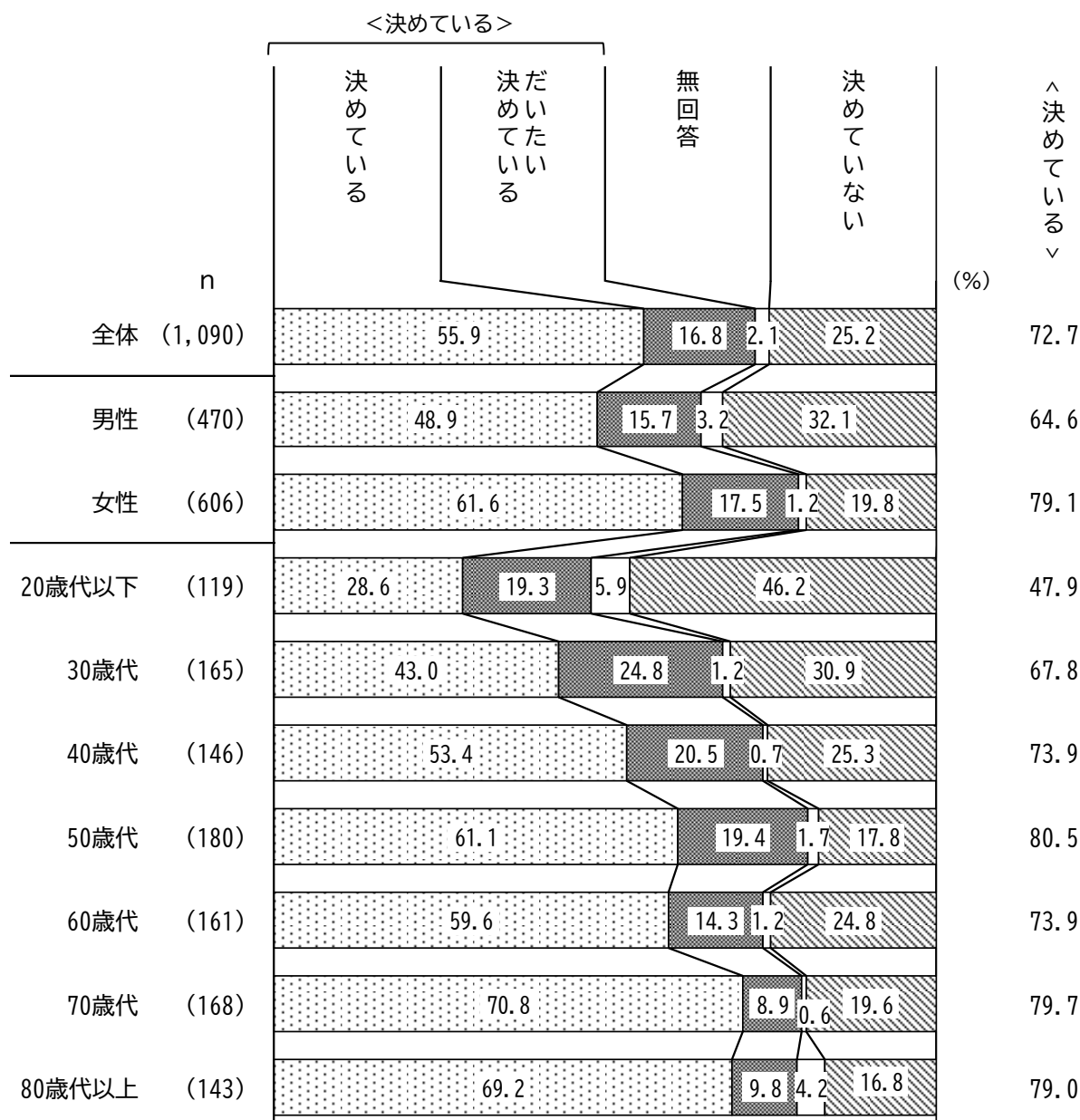


図 2-42 【性・年代別】かかりつけの歯科診療所の有無

かかりつけの歯科診療所を決めているかについては、「決めている」(55.9%)と「だいたい決めている」(16.8%)を合わせた<決めている>で 72.7%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(79.1%)が男性(64.6%)を 14.5 ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は 50 歳代と 70 歳代以上で約 8 割と特に高くなっている。

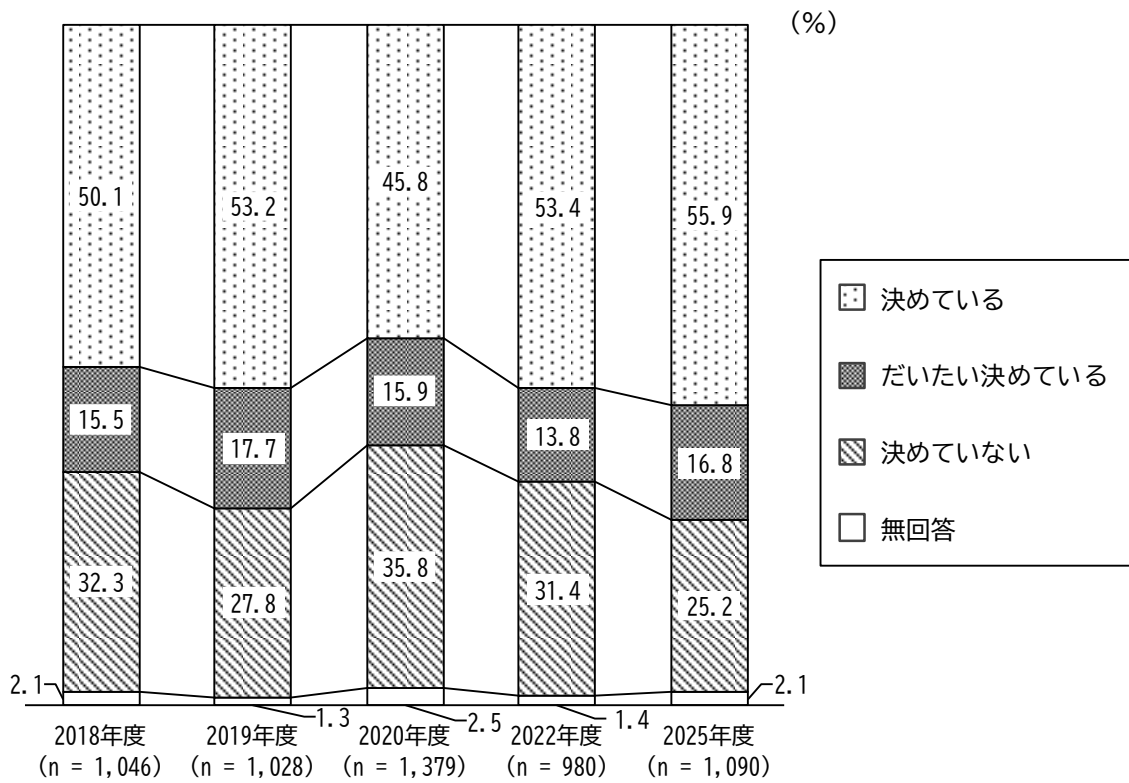


図 2-43 【経年比較】かかりつけの歯科診療所の有無

経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度に比べ、「決めている」と「だいたい決めている」を合わせた「決めている」が 5.5 ポイント増加している。

2.18 かかりつけの薬局の有無

◆かかりつけの薬局を<決めている>が6割台前半

(全員の方に)

問 29 あなたは、自宅の近くで調剤をお願いしたり薬に関する相談をするかかりつけの薬局を決めていますか。(○は1つ)

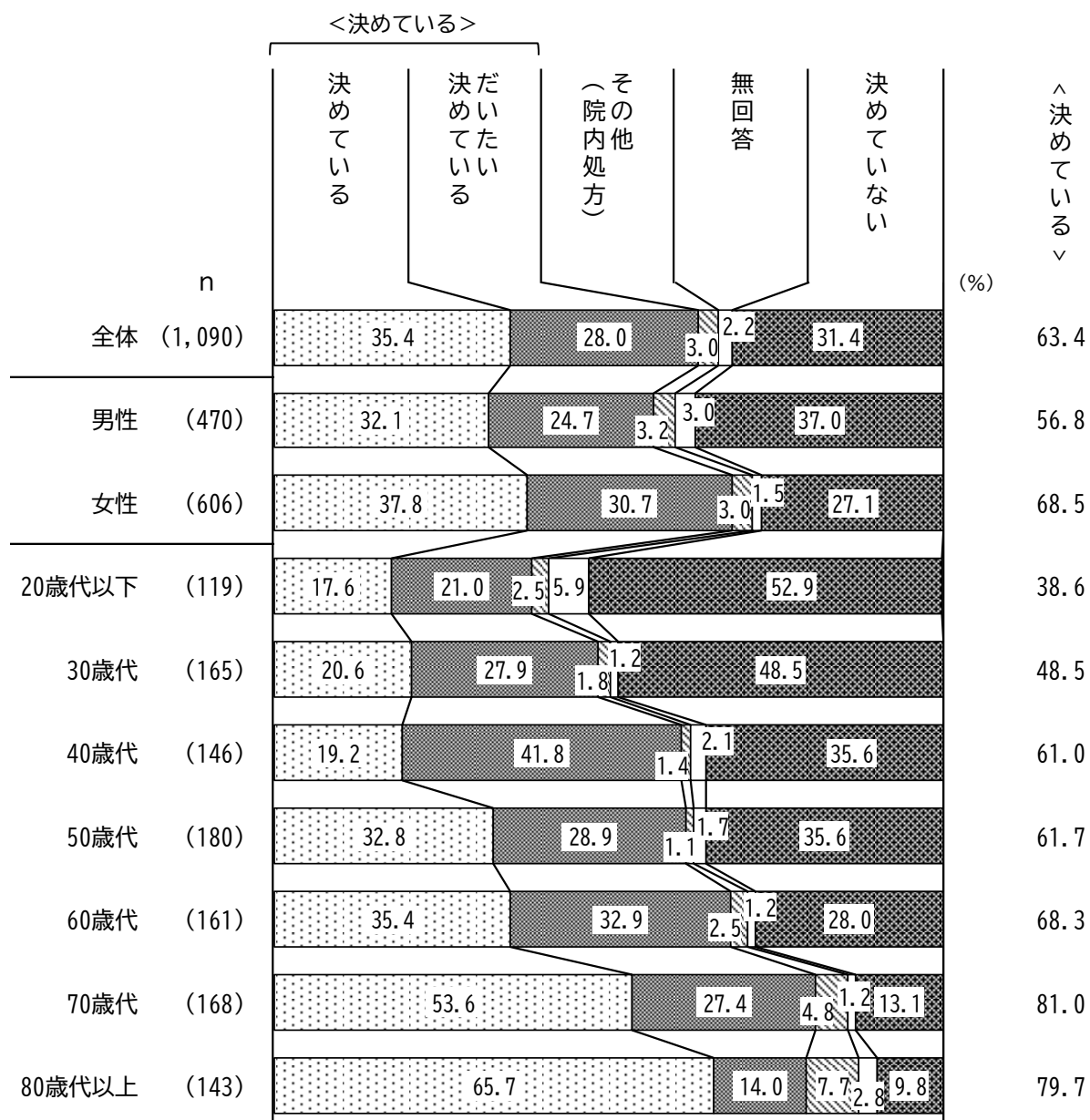


図 2-44 【性・年代別】かかりつけの薬局の有無

かかりつけの薬局を決めているかについては、「決めている」(35.4%)と「だいたい決めている」(28.0%)を合わせた<決めている>で 63.4%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(68.5%)が男性(56.8%)を約 12 ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は年代が上がるにつれて増加傾向にあり、70 歳代以上で約 8 割と高くなっている。

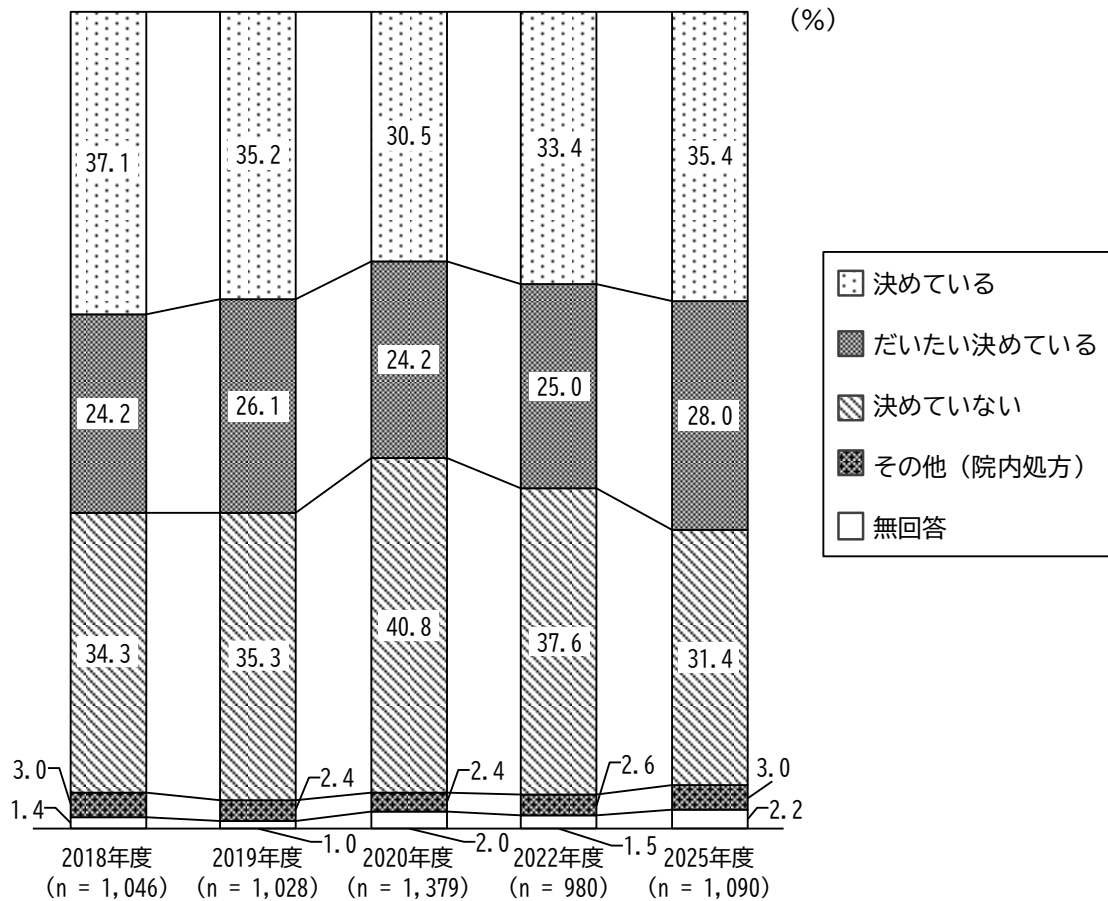


図 2-45 【経年比較】かかりつけの薬局の有無

経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度に比べ、「決めている」と「だいたい決めている」を合わせた＜決めている＞が 5 ポイント増加している。

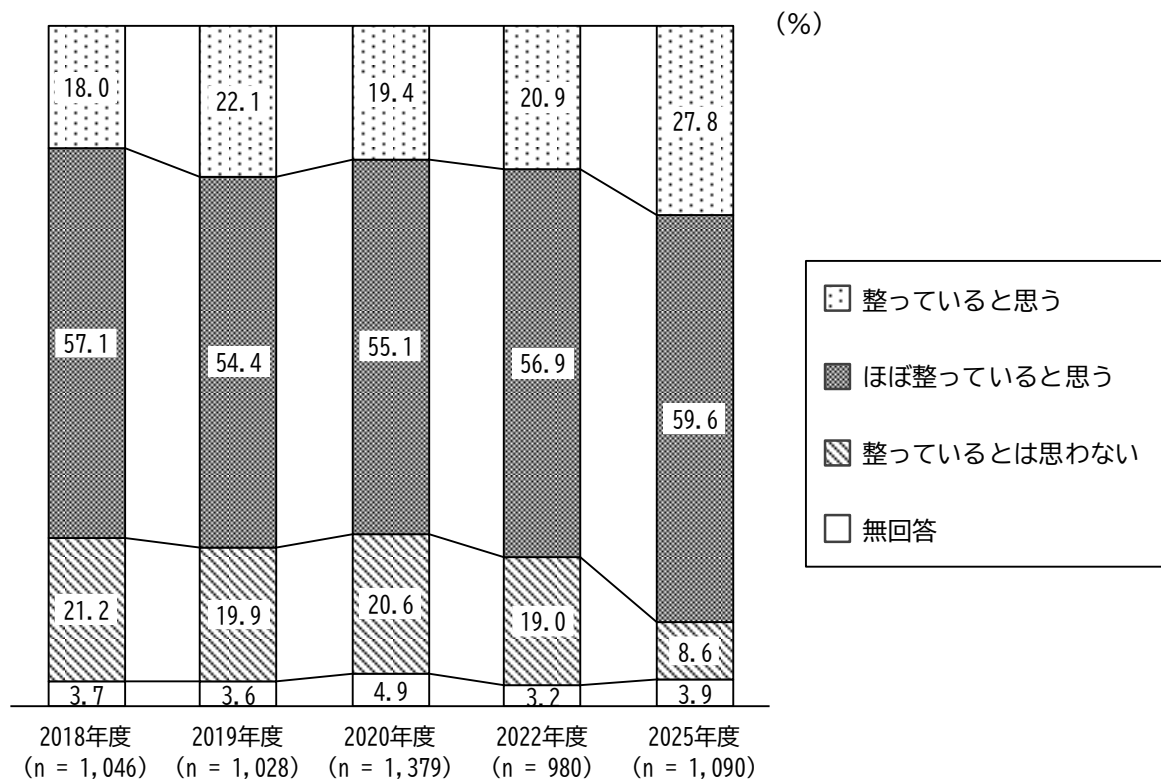


図 2-47 【経年比較】地域の救急医療体制が整っているか

経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度に比べ、「整っていると思う」と「ほぼ整っていると思う」を合わせた＜整っている＞が 9.6 ポイント増加している。

2.19.1 地域の救急医療体制が整っていない理由

(問 30 で「3. 整っているとは思わない」に○をつけた方に)
問 30-1 整っているとは思わない理由をあげてください。(自由記述)

地域の救急医療体制が整っていないと回答した方に、整っているとは思わない理由を自由に記入していただいたところ、66 人の方から回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

救急時の受け入れが整っていない 21 件

- 救急車のたらいまわし。(20 歳代以下)
- 突然の救急患者が症状に応じて受け入れられる準備があると思えない。(30 歳代)
- 以前救急を利用しようとした時に受け入れ先が遠く、乳児を連れての移動が大変だった。診てもらえるまでにかかり時間がかかった。(40 歳代)
- 緊急に医療が必要だった時、目の前の病院で診療できなかったから。(50 歳代)
- 以前に救急車を呼んだ時、病院さがしに時間がかかったことがある。(70 歳代)

近くに医療機関が整っていない・医療従事者がいない 17 件

- 家や職場の近くに病院は多い方だが、内科はあまりないように感じる。(20 歳代以下)
- 自宅の周囲に小さな病院しかない為、整っていないように思います。(30 歳代)
- 婦人科の病院が少ない。(40 歳代)
- 女医が少ない。総合診療医がいないため、たらい回し。(50 歳代)
- 近くに総合的な病院がない。(60 歳代)
- 病院が小さいから。(80 歳代以上)

情報がない・わからない 16 件

- 医療機関がどこにどれほどあるか把握していない。(20 歳代以下)
- いざとなったらどうしたら良いのか分からないので整っているとは思えない。(40 歳代)
- 引越して間がないので中野区医療体制がわかりません。どうしたらよいかわからないので整っているかどうかともわかりません。(60 歳代)

夜間・休日等の受け入れが整っていない 5 件

- 夜間、土日祝日に診察する医院が少ない。(30 歳代)
- 真夜中に体調不良でどうしようか苦しい中、ケイタイで検索した際に、救急車以外の手段を見つける事がなかなか出来なかった経験あり。(60 歳代)
- 個人医院は時間外診療を行っていないため、どうしても救急車頼みになってしまう。(60 歳代)

AED などが整っていない 2 件

- AED がある場所が少ない。近所の商店などにもあるといいと思う。(40 歳代)
- AED がどこにあるのか知らない、目に入らない。(60 歳代)

その他 5 件

- 中野区ははしっこなので(すぐ横が渋谷区)、最寄りの病院は必ずしも中野区ではなく、中野区と渋谷区で連携してほしい。(40 歳代)
- まずは地域の病院にかからないと、紹介状などが必要であるため。(40 歳代)

2.20 医療・介護サービスや見守り環境が整っているか

◆医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が＜整っている＞は5割半ば

(全員の方に)

問 31 介護や病気で療養が必要になっても、医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

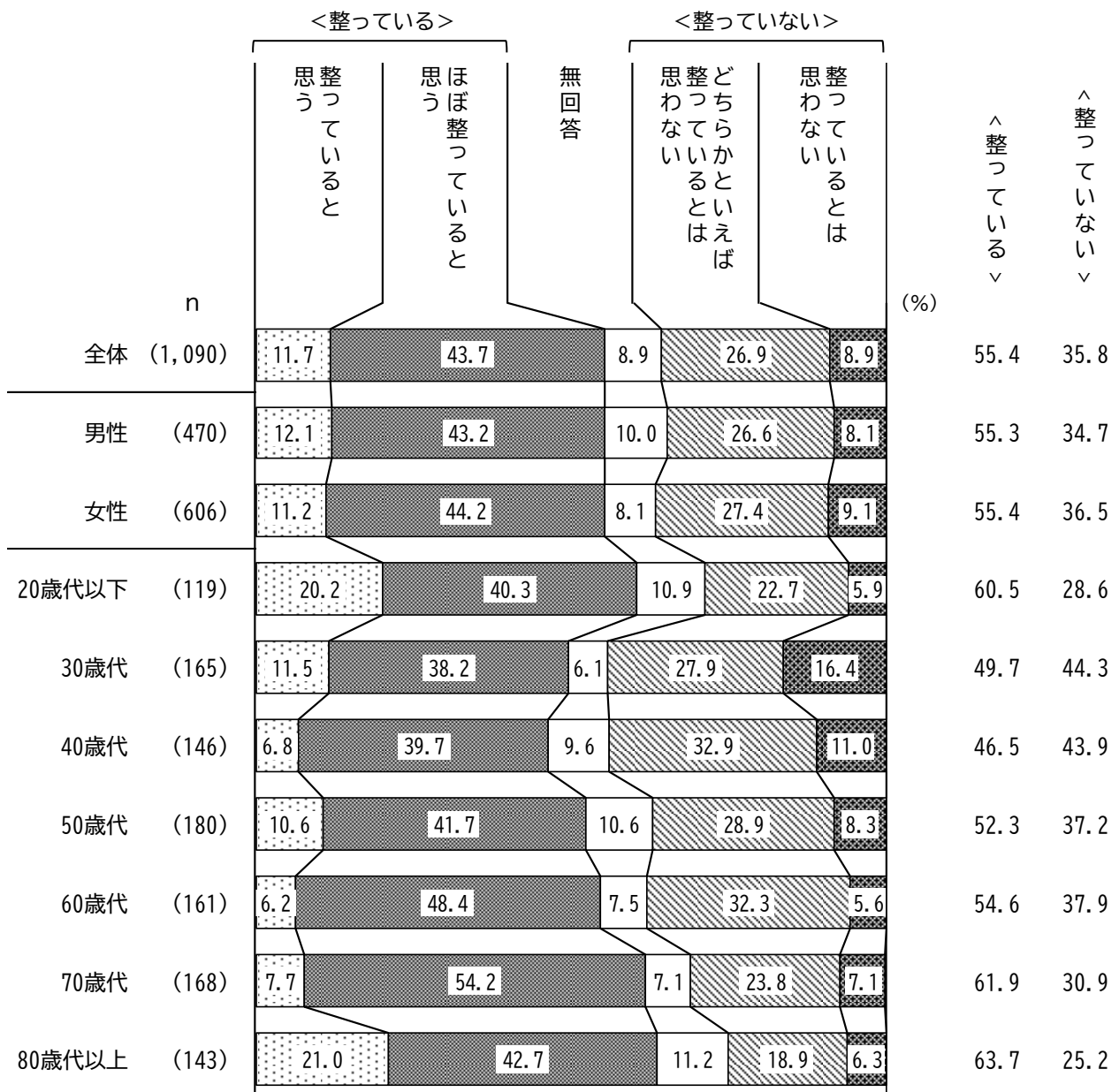
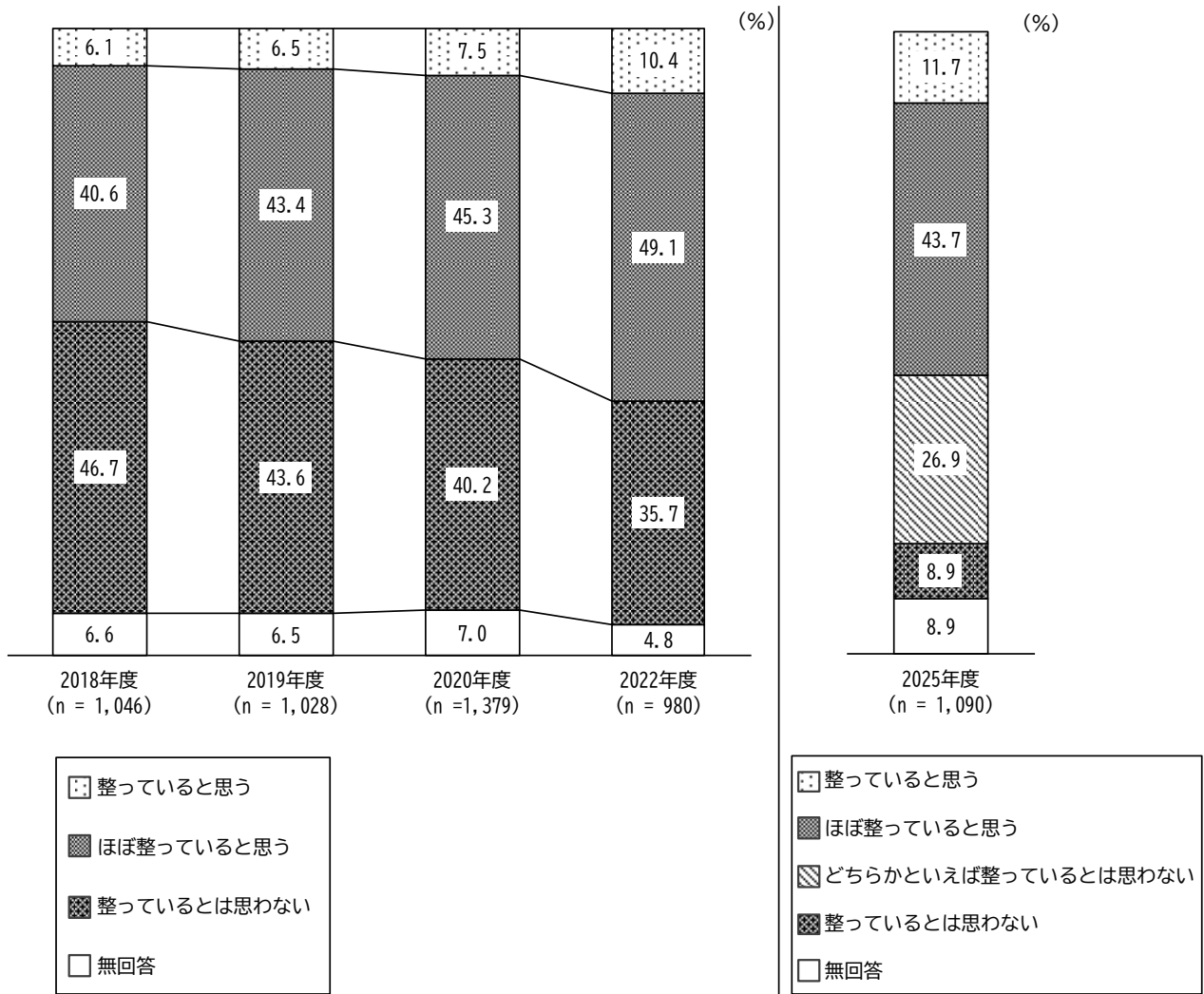


図 2-48 【性・年代別】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(11.7%)と「ほぼ整っていると思う」(43.7%)を合わせた＜整っている＞で55.4%となっている。年代別にみると、30歳～40歳代で＜整っていない＞が4割を超えて高くなっている。



※2022年度までは「どちらかといえば整っているとは思わない」が選択肢にないため、参考として2018年度から2022年度までの経年比較を掲載する。

図 2-49 【経年比較】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

2.21 長期療養が必要になった場合の生活

◆長期療養が必要になった場合の生活は「医療機関や施設に入院・入所したい」が約４割

(全員の方に)

問 32 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(○は1つ)

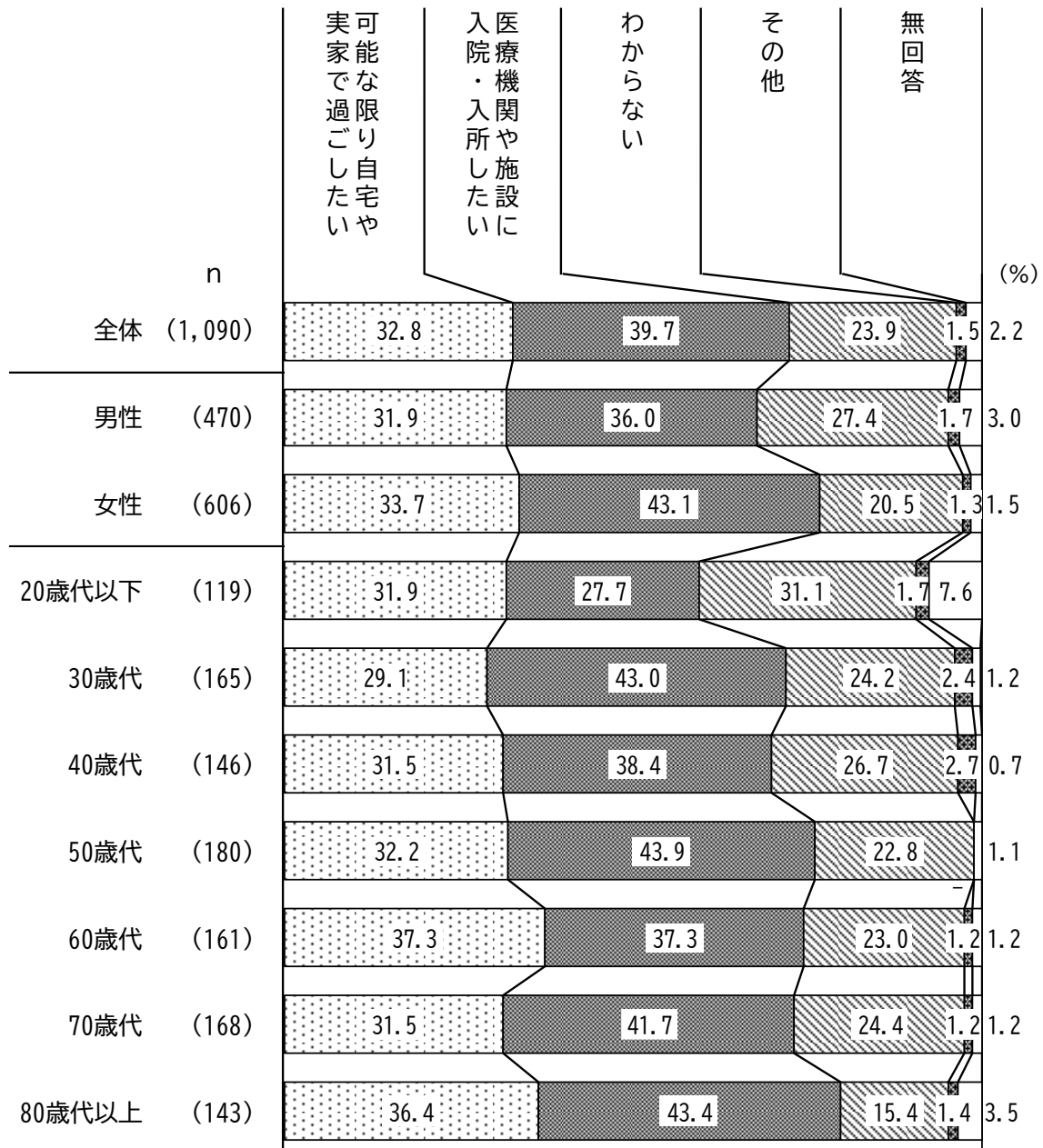


図 2-50 【性・年代別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活は、「医療機関や施設に入院・入所したい」が39.7%で最も高く、次いで「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が32.8%、「わからない」が23.9%となっている。性別にみると、「医療機関や施設に入院・入所したい」は女性(43.1%)が男性(36.0%)を約7ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下と60歳代以外のすべての年代で「医療機関や施設に入院・入所したい」割合が「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」を上回っている。

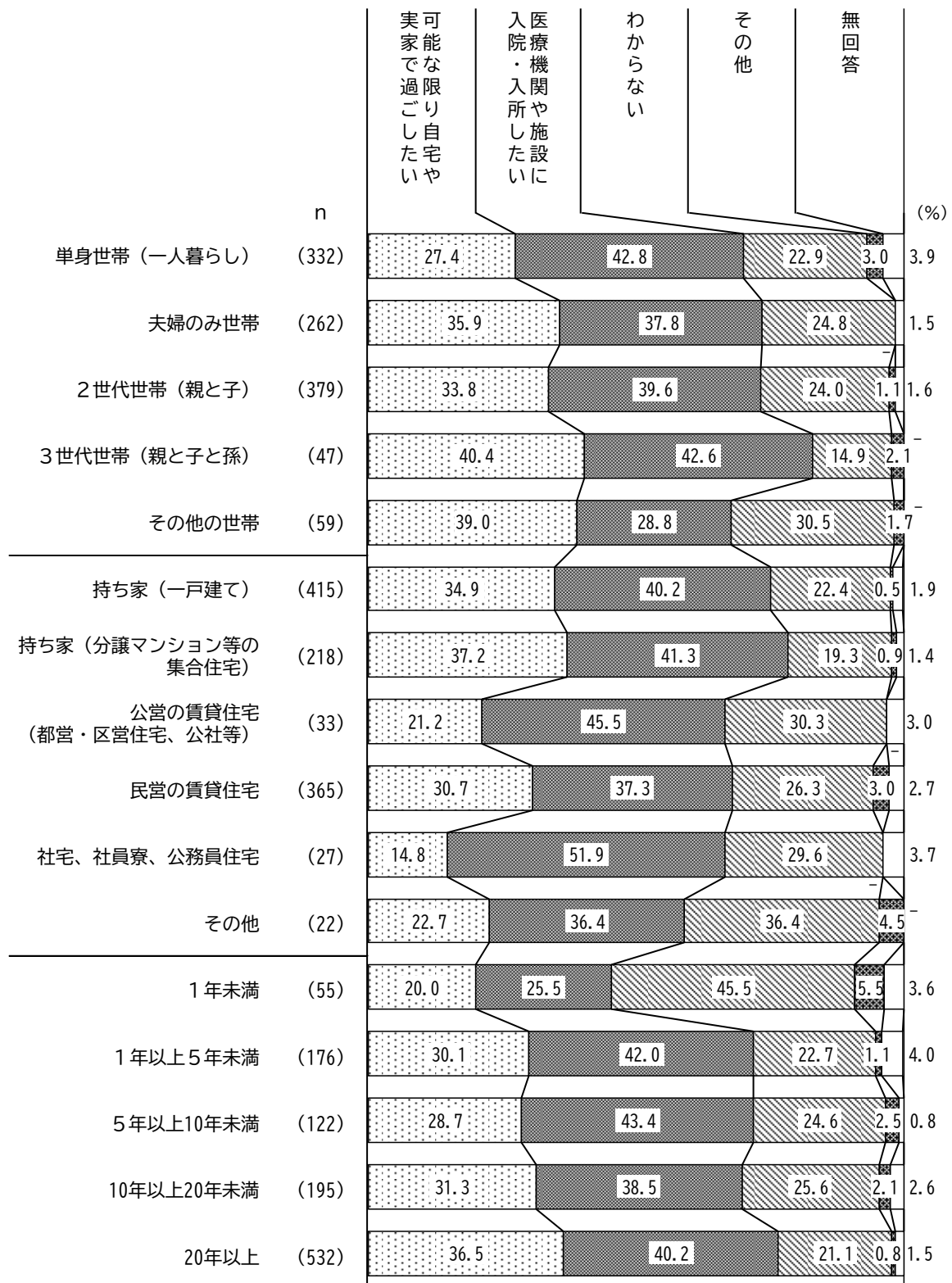


図 2-51 【世帯構成・住居形態・居住年数別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を世帯構成・住居形態・居住年数別にみると、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合は、世帯構成が「3世代世帯（親と子と孫）」「その他の世帯」、住居形態が「持ち家（分譲マンション等の集合住宅）」、居住年数が「20年以上」などで高くなっている。

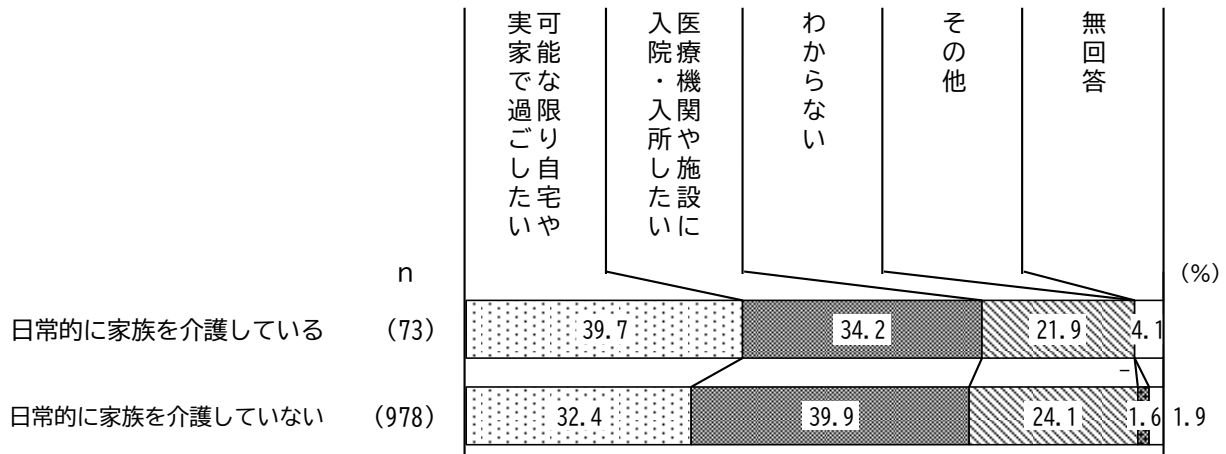


図 2-52 【介護の有無別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を介護の有無別でみると、日常的に家族を介護している人は「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」、日常的に家族を介護していない人は「医療機関や施設に入院・入所したい」の割合が高くなっている。

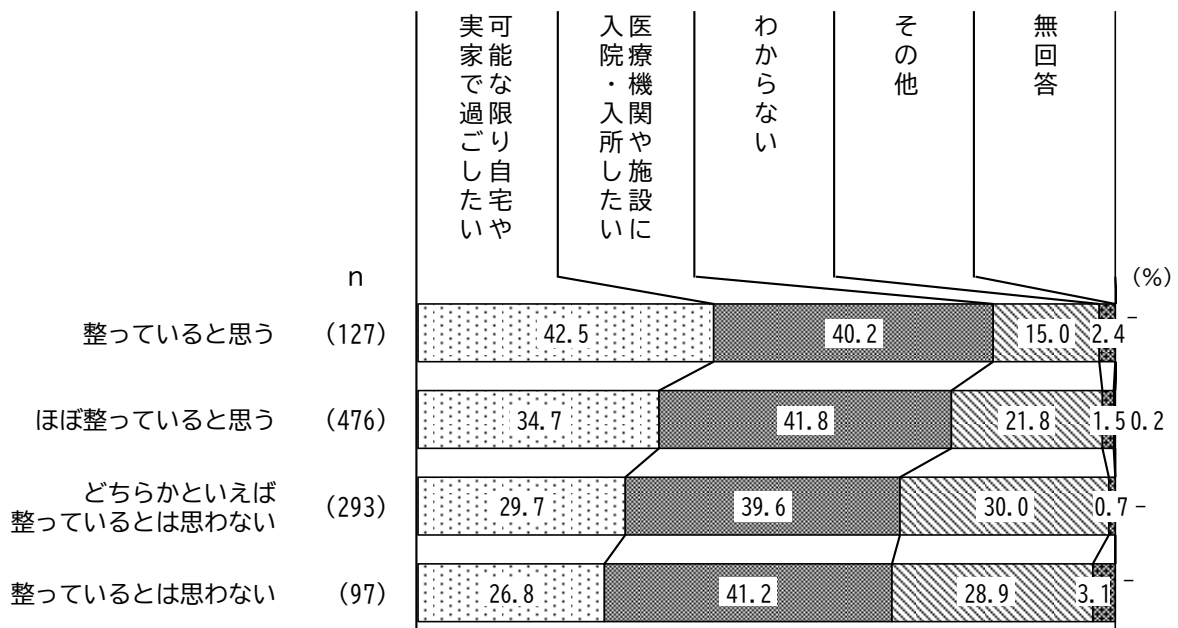


図 2-53 【問 31 の回答別】長期療養が必要になった場合の生活

問 31（医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うか）の回答別でみると、「整っていると思う」と回答した人は、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が高くなっている。

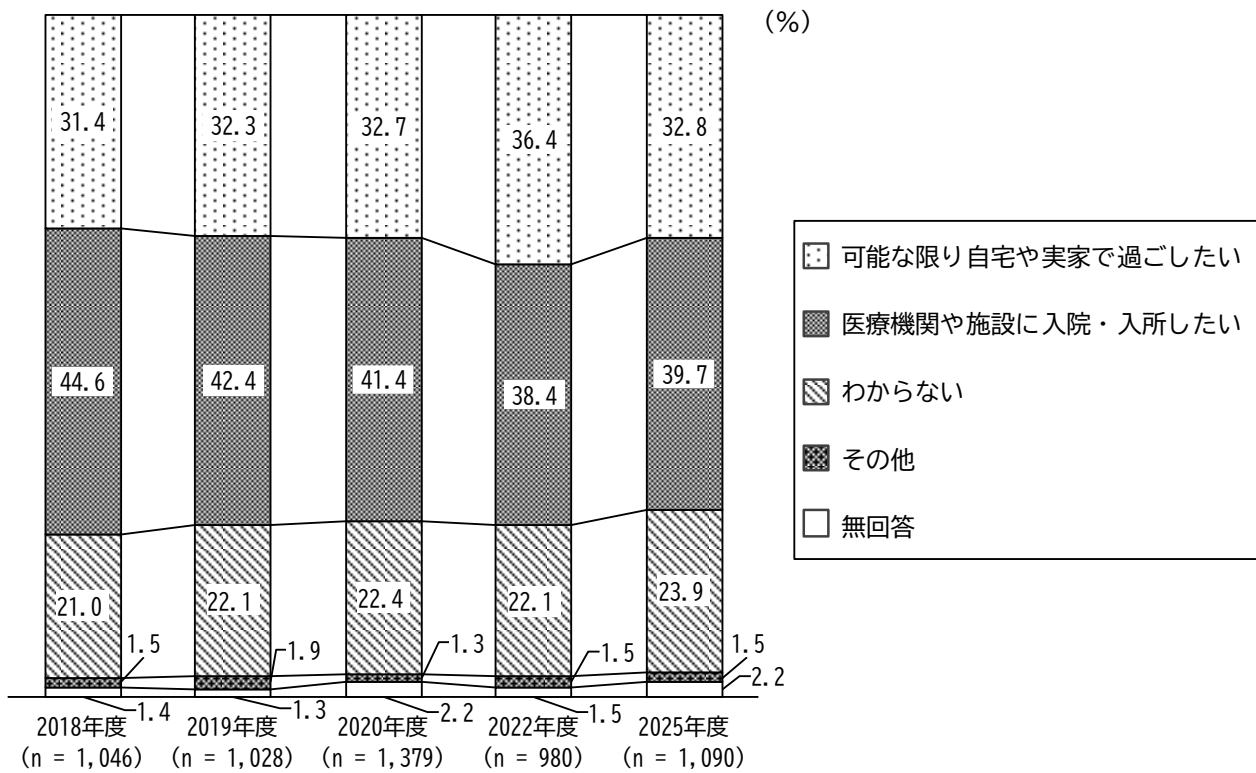


図 2-54 【経年比較】長期療養が必要になった場合の生活

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.21.1 長期療養の際、入院・入所したい理由

◆長期療養の際に入院・入所したい理由は「家族に負担をかけるから」が約7割

(問 32 で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に)

問 32-1 あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

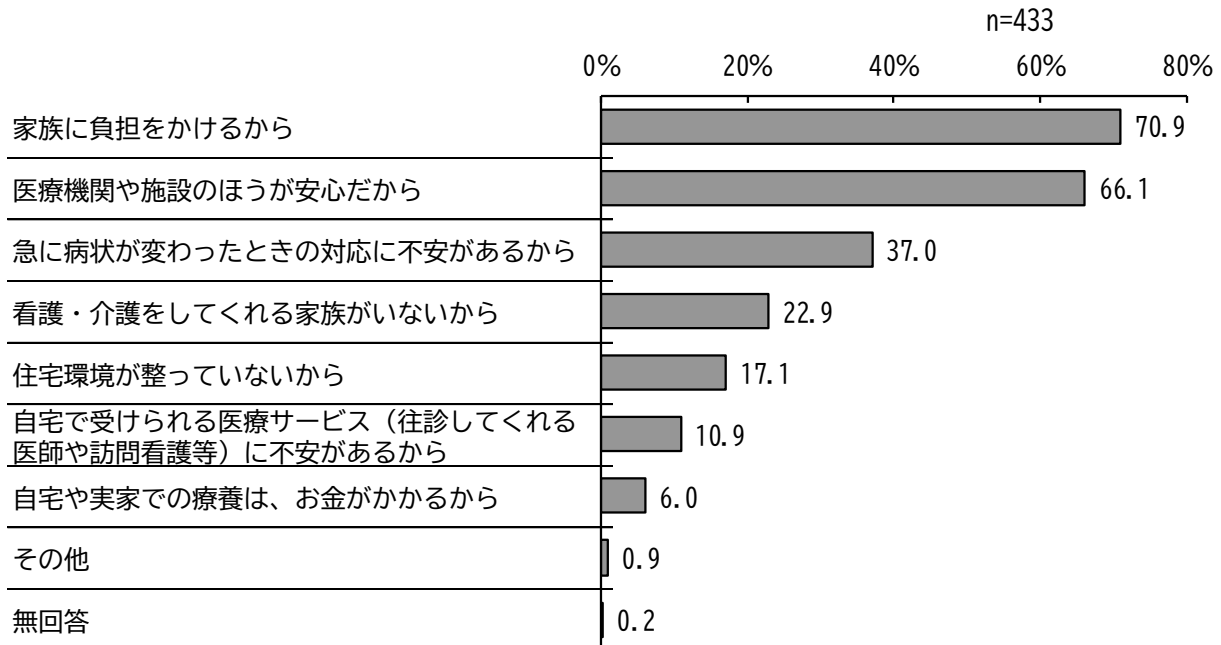
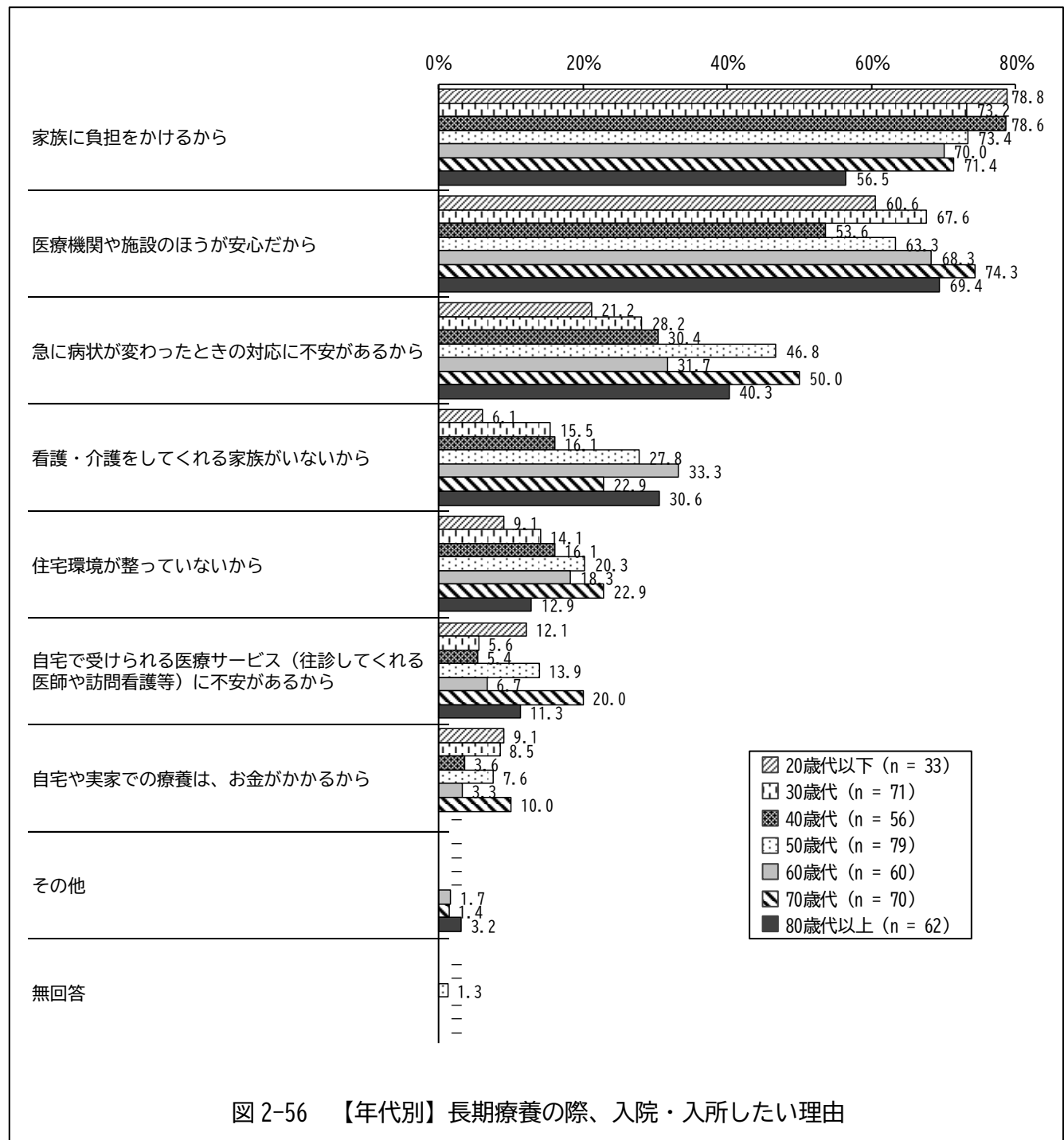
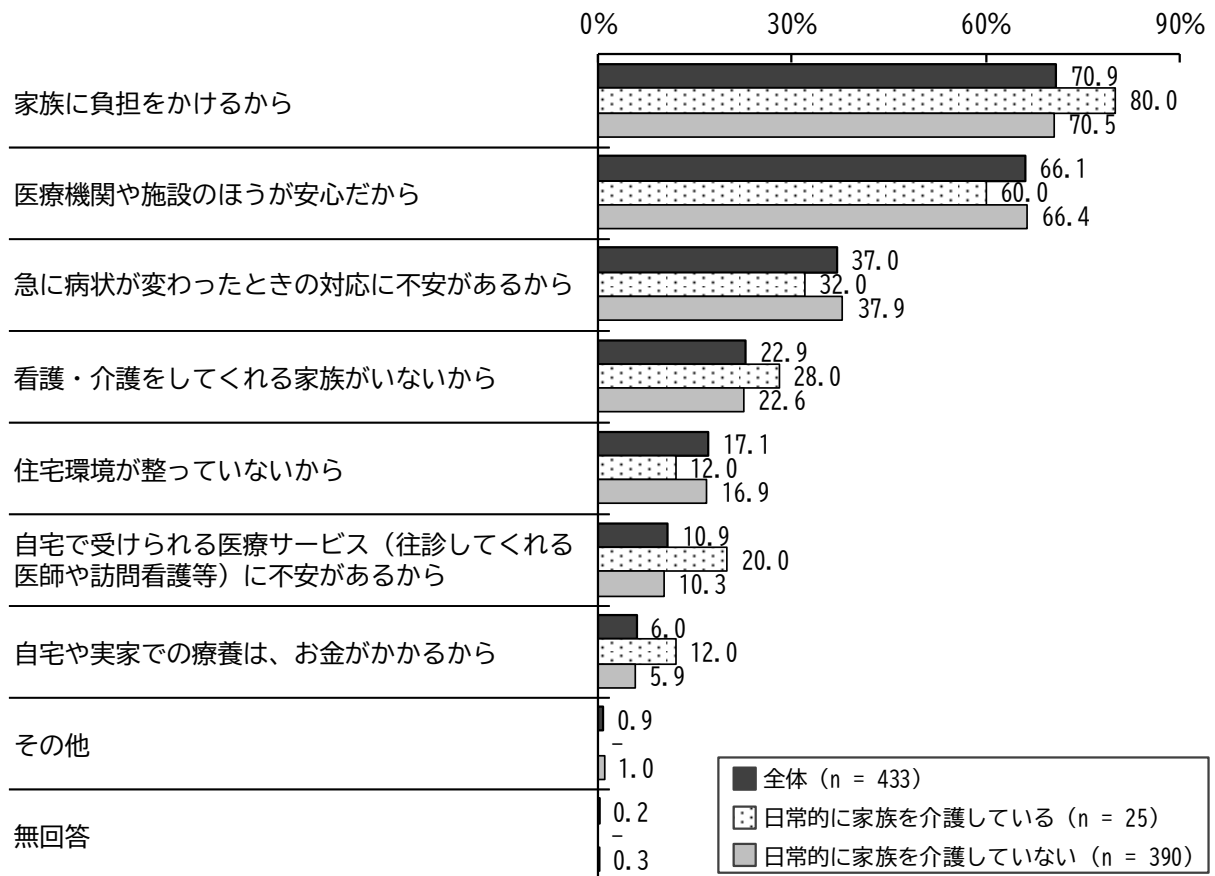


図 2-55 長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい方にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が70.9%で最も高く、次いで「医療機関や施設のほうが安心だから」(66.1%)、「急に病状が変わったときの対応に不安があるから」(37.0%)となっている。

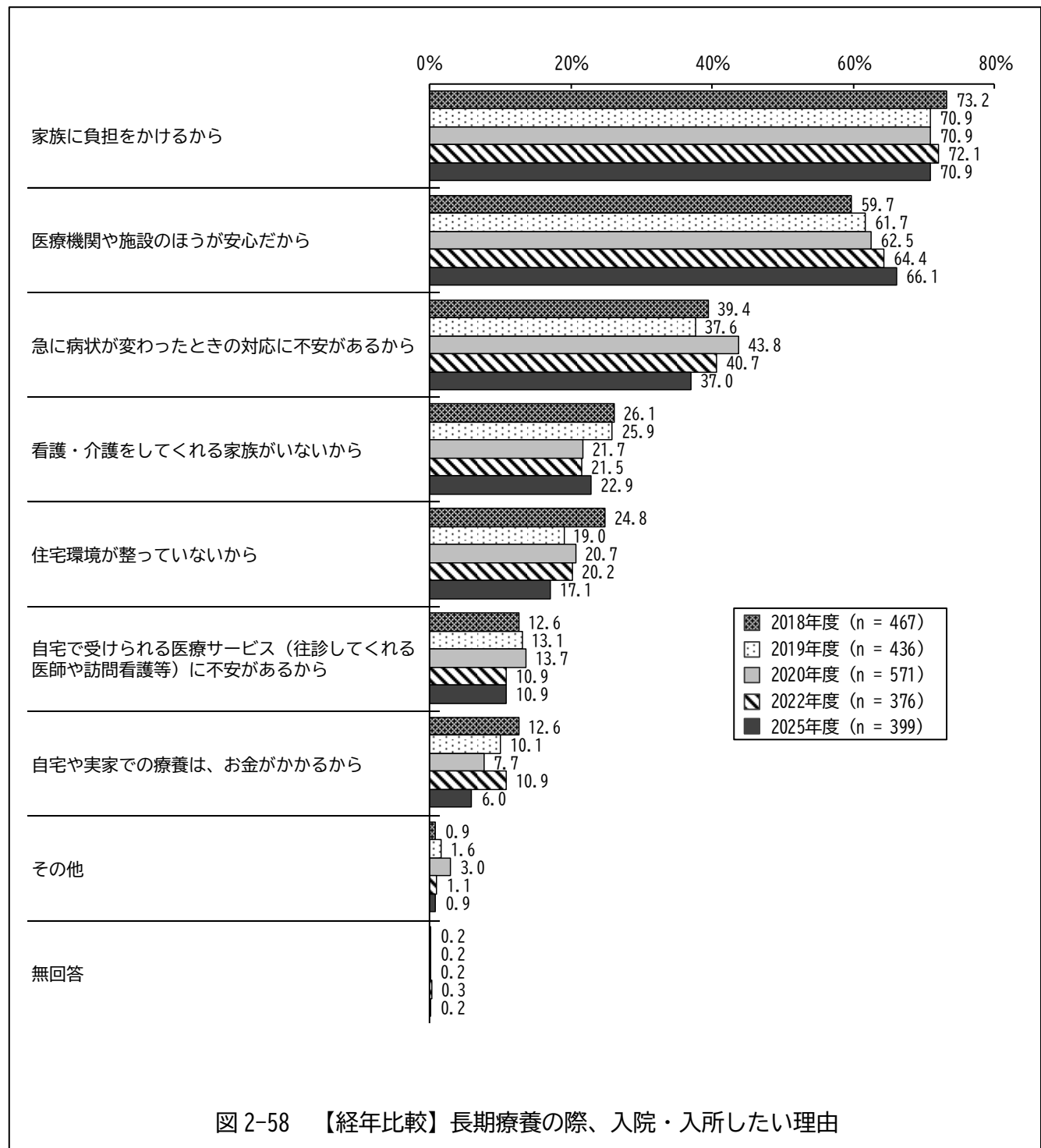


長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を年代別にみると、20 歳代以下～60 歳代では「家族に負担をかけるから」、70 歳代以上では「医療機関や施設のほうが安心だから」の割合が最も高くなっている。



※日常的に家族を介護している方の基数が少ないため、グラフは参考として掲載する。

図 2-57 【介護の有無別】長期療養の際、入院・入所したい理由



経年で比較すると、「医療機関や施設のほうが安心だから」が増加傾向にある。

2.22 自身や家族がうつ病になった際の相談先

◆「うつ病」になった際は「精神科等の専門医療機関に相談（受診）する」が約4割

（全員の方に）

問 33 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるところはどこですか。（○は1つ）

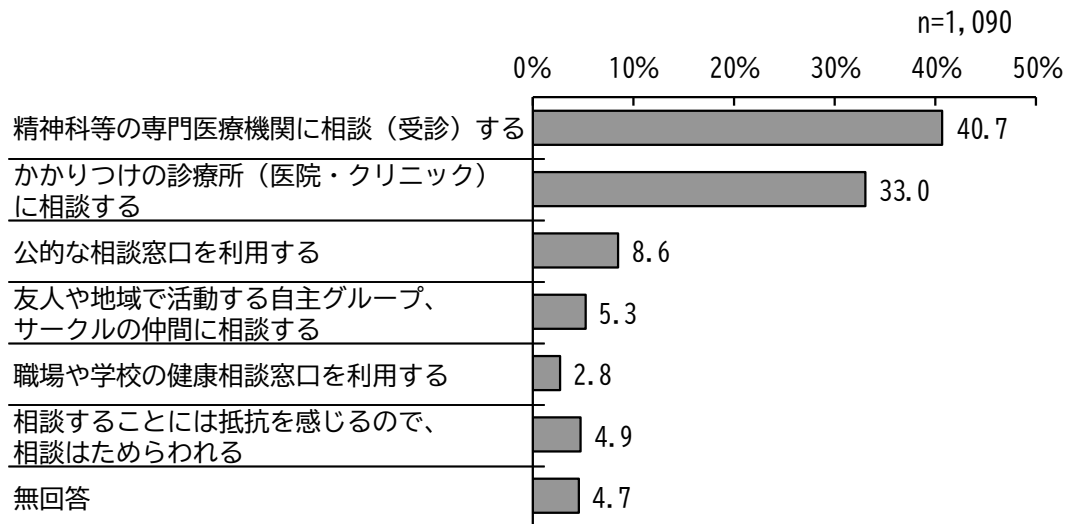


図 2-59 自身や家族がうつ病になった際の相談先

自身や家族がうつ病になった際の相談先として、「精神科等の専門医療機関に相談（受診）する」が40.7%と最も高く、次いで「かかりつけの診療所（医院・クリニック）に相談する」（33.0%）、「公的な相談窓口を利用する」（8.6%）となっている。

表 2-12 【経年比較】自身や家族がうつ病になった際の相談先

単位：％

区分	有効回答数（件）	かかりつけの診療所（医院・クリニック）に相談する	精神科等の専門医療機関に相談（受診）する	公的な相談窓口を利用する	職場や学校の健康相談窓口を利用する	友人や地域で活動する自主グループ、サークルの仲間に相談する	相談することには抵抗を感じるため、相談はためられる	無回答
2017年度	1,078	36.9	61.8	19.4	7.5	10.2	5.1	2.5
2018年度	1,046	46.0	59.4	21.2	6.7	8.3	6.0	1.7
2019年度	1,028	45.6	59.2	19.6	5.5	7.6	5.1	2.7
2020年度	1,379	45.1	57.5	17.7	5.4	8.8	6.4	1.8
2025年度	1,090	33.0	40.7	8.6	2.8	5.3	4.9	4.7

2020 年度まで質問が複数回答形式のため、経年比較は参考として掲載する。

2.23 自殺対策は自分自身に関わることと思うか

◆自殺対策は自分自身に関わることと＜思う＞が3割台前半

(全員の方に)

問 34 自殺対策は、自分自身に関わることだと思いますか。(○は1つ)

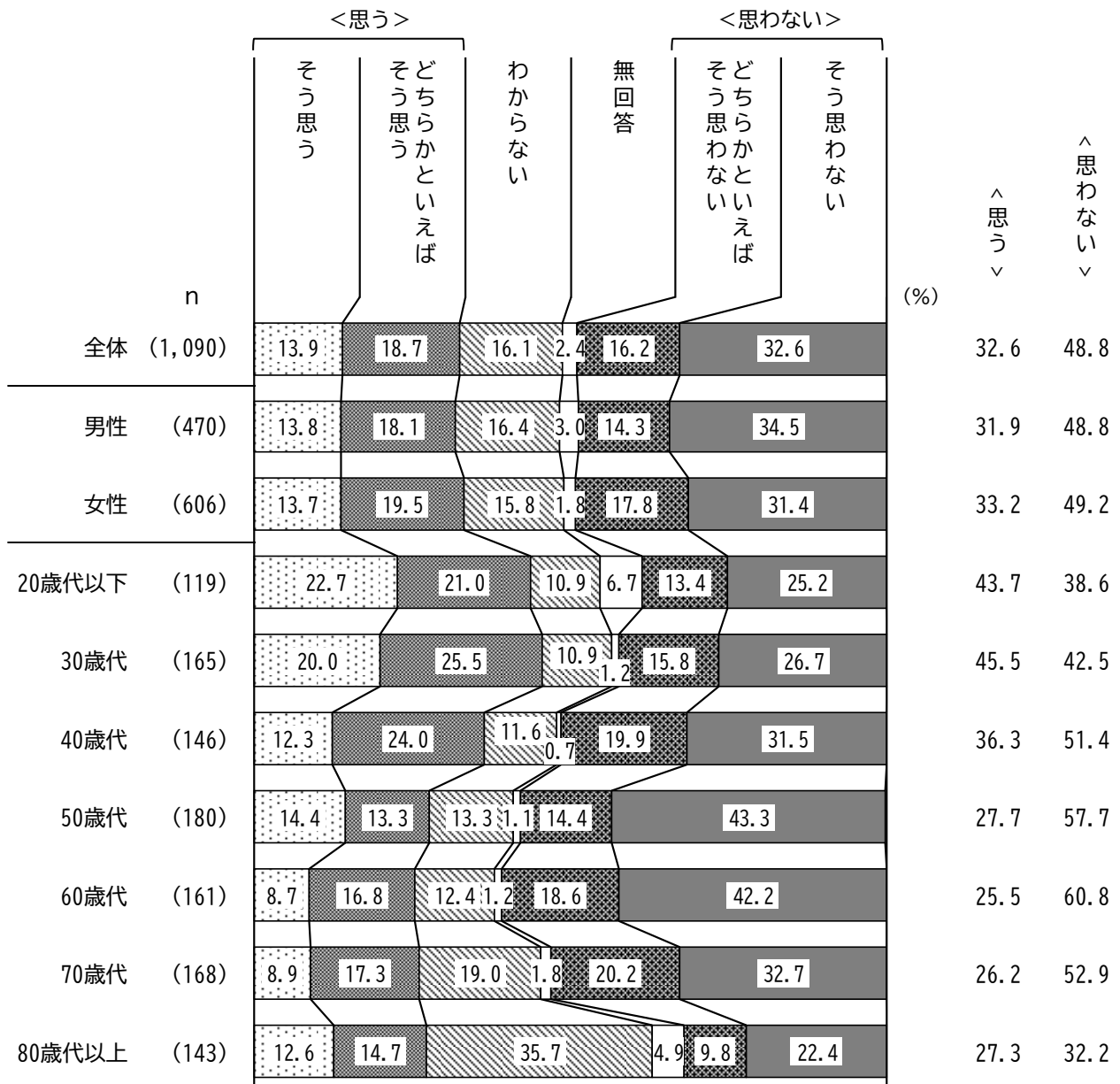


図 2-60 【性・年代別】自殺対策は自分自身に関わることと思うか

自殺対策は自分自身に関わることと思うかについては、「そう思う」(13.9%)と「どちらかといえばそう思う」(18.7%)を合わせた＜思う＞が32.6%に対し、「そう思わない」(32.6%)と「どちらかといえばそう思わない」(16.2%)を合わせた＜思わない＞は48.8%となっている。年代別にみると、30歳代以下で＜思う＞が4割を超えており、他の年代と比較して高くなっている。

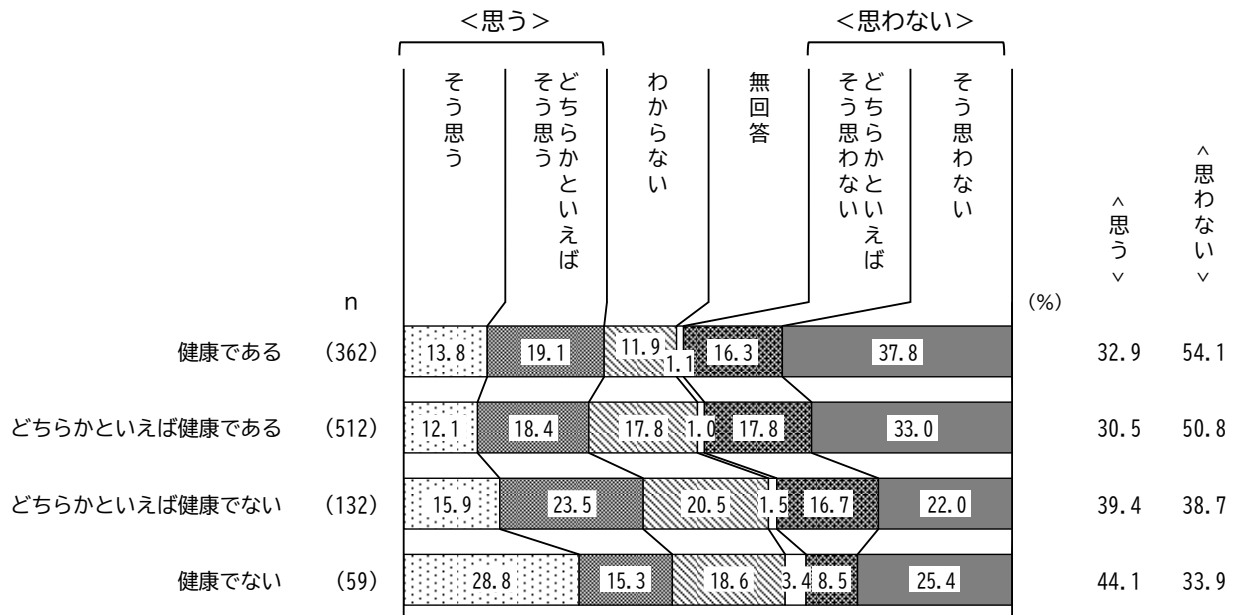


図 2-61 【健康感別】自殺対策は自分自身に関わると思うか

健康感別にみると、健康でないと感じている人の方が、自殺対策は自分自身に関わると思う割合が高くなっている。

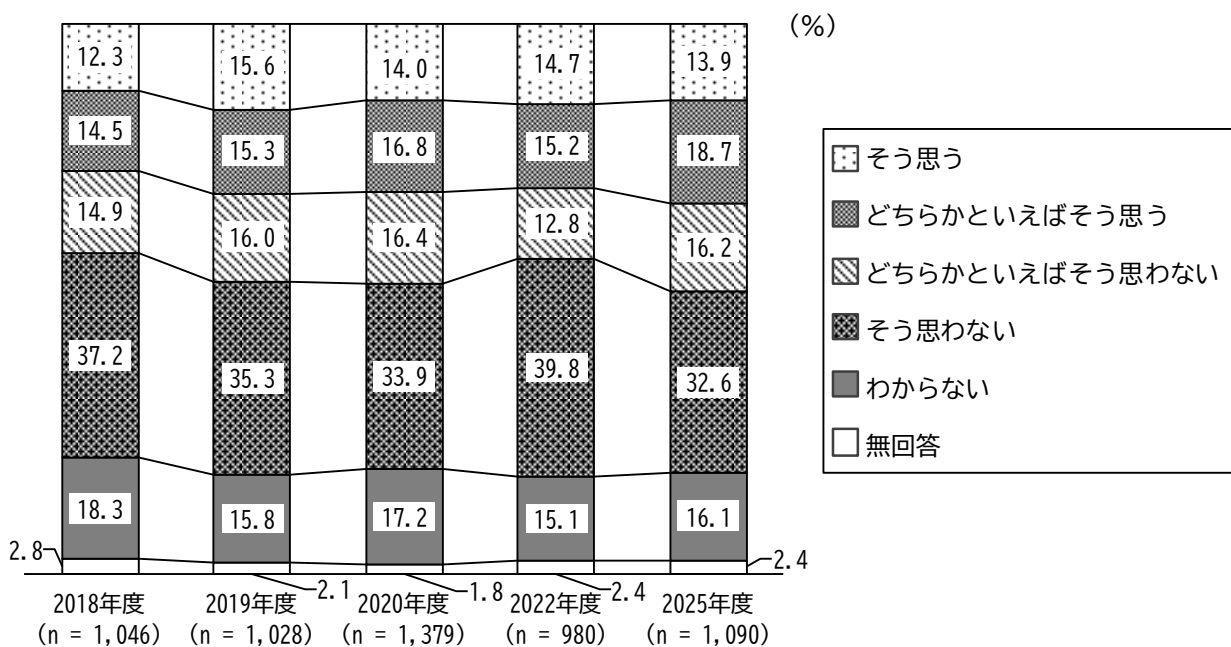


図 2-62 【経年比較】自殺対策は自分自身に関わると思うか

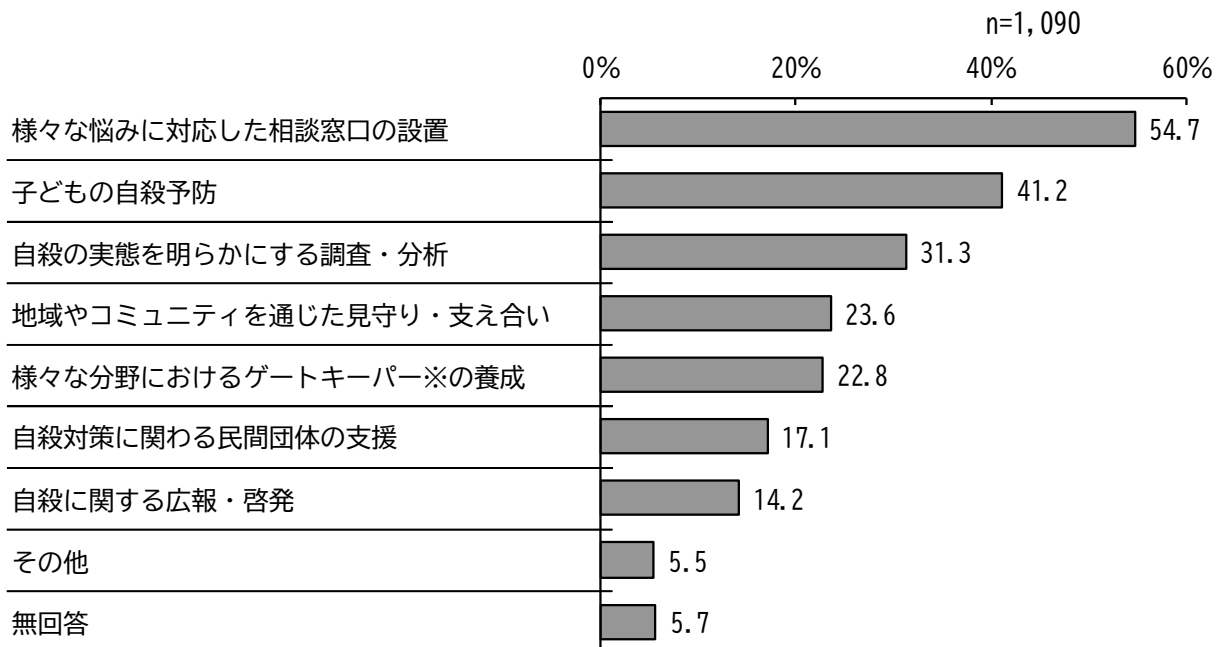
経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度と比べ「そう思わない」が約 7 ポイント減少している。

2.24 今後必要な自殺対策

◆今後必要な自殺対策は「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が5割半ば

(全員の方に)

問 35 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。(あてはまるものすべてに○)



※ゲートキーパー…自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)をはかることができる人のこと。

図 2-63 今後必要な自殺対策

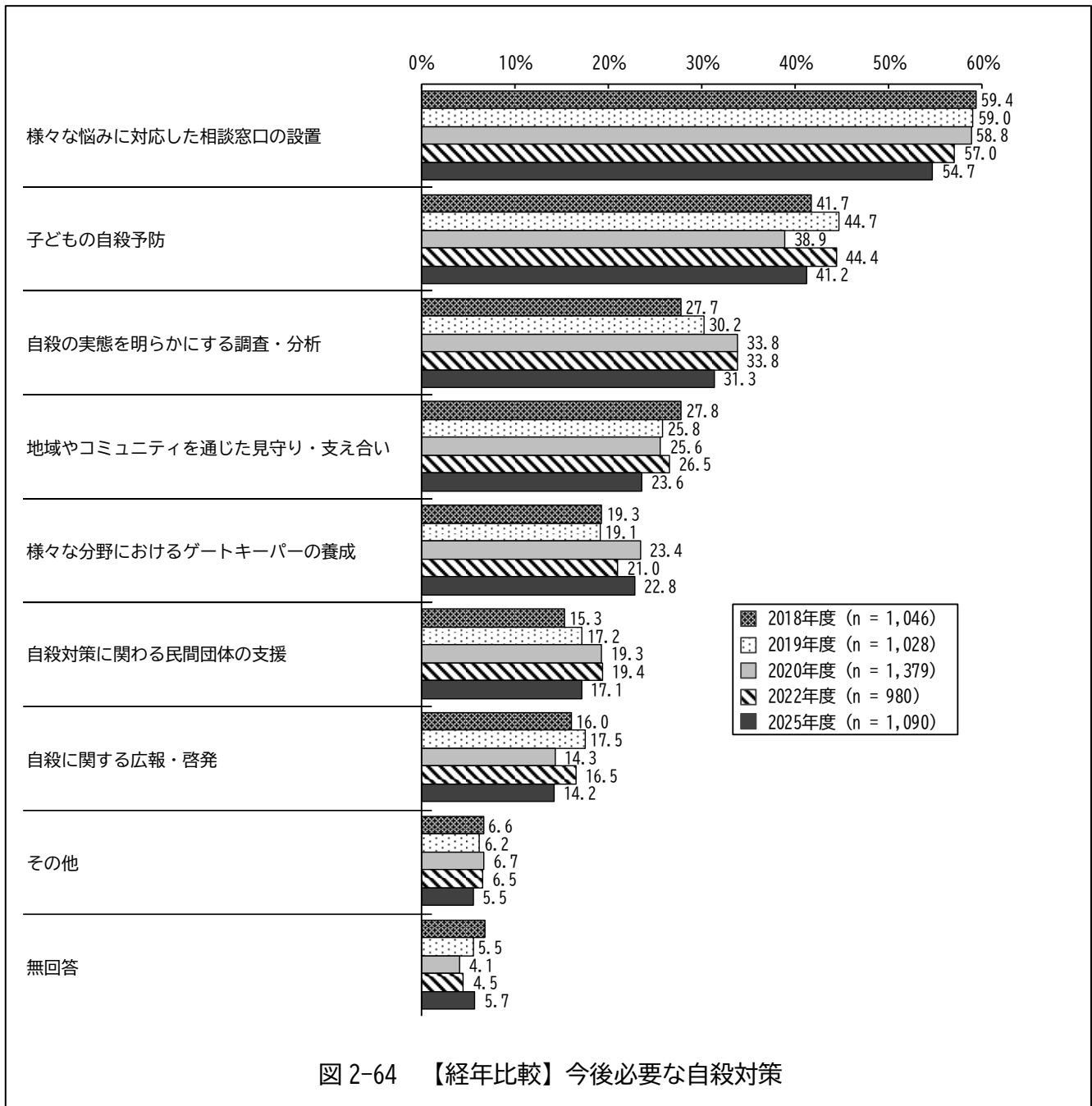
今後必要な自殺対策は、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が 54.7%で最も高く、次いで「子どもの自殺予防」(41.2%)、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」(31.3%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(23.6%)となっている。

表 2-13 【性・年代別】今後必要な自殺対策

単位：％

区分	有効回答数（件）	自殺の実態を明らかにする調査・分析	様々な分野におけるゲートキーパーの養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	様々な悩みに対応した相談窓口の設置	自殺対策に関わる民間団体の支援	自殺に関する広報・啓発	子どもの自殺予防	その他	無回答
全体	1,090	31.3	22.8	23.6	54.7	17.1	14.2	41.2	5.5	5.7
男性	470	33.2	20.4	23.8	50.9	17.2	17.4	39.6	5.7	5.3
女性	606	29.7	24.8	23.3	57.6	16.2	11.9	42.6	5.4	5.9
20歳代以下	119	33.6	20.2	22.7	36.1	9.2	10.9	40.3	5.9	7.6
30歳代	165	32.1	31.5	24.8	47.3	14.5	13.3	44.2	7.9	3.0
40歳代	146	32.2	29.5	22.6	49.3	17.1	10.3	50.0	7.5	0.7
50歳代	180	31.1	27.8	22.2	59.4	19.4	15.6	43.3	3.9	2.8
60歳代	161	24.2	22.4	28.0	67.1	20.5	19.3	42.2	4.3	3.7
70歳代	168	36.3	15.5	21.4	64.9	18.5	15.5	41.7	4.8	6.5
80歳代以上	143	29.4	11.9	23.8	53.1	16.1	14.0	25.2	4.9	16.8

性別にみると、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」「自殺に関する広報・啓発」は男性、「様々な分野におけるゲートキーパーの養成」「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳代以下と40歳代では「子どもの自殺予防」、他の年代では「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が最も高くなっている。



経年で比較すると、2025年度は2022年度と比べ、「様々な分野におけるゲートキーパーの養成」以外のすべての項目で減少している。

2.25 感染症の予防で心がけていること

◆感染症の予防では「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が7割台前半

(全員の方に)

問 36 あなたが、感染症の予防について考えたり、心がけていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

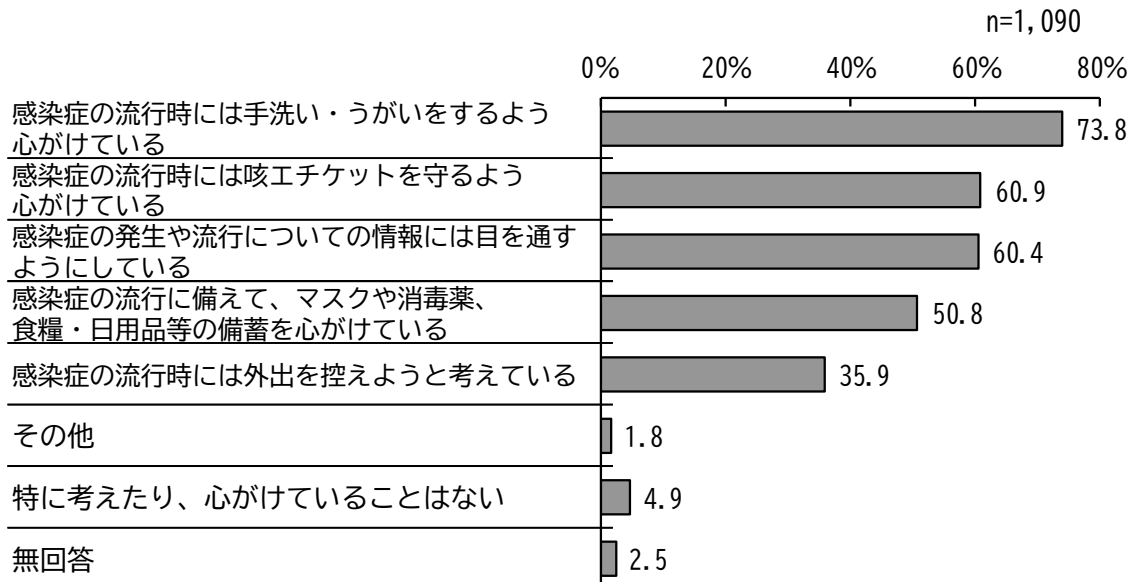
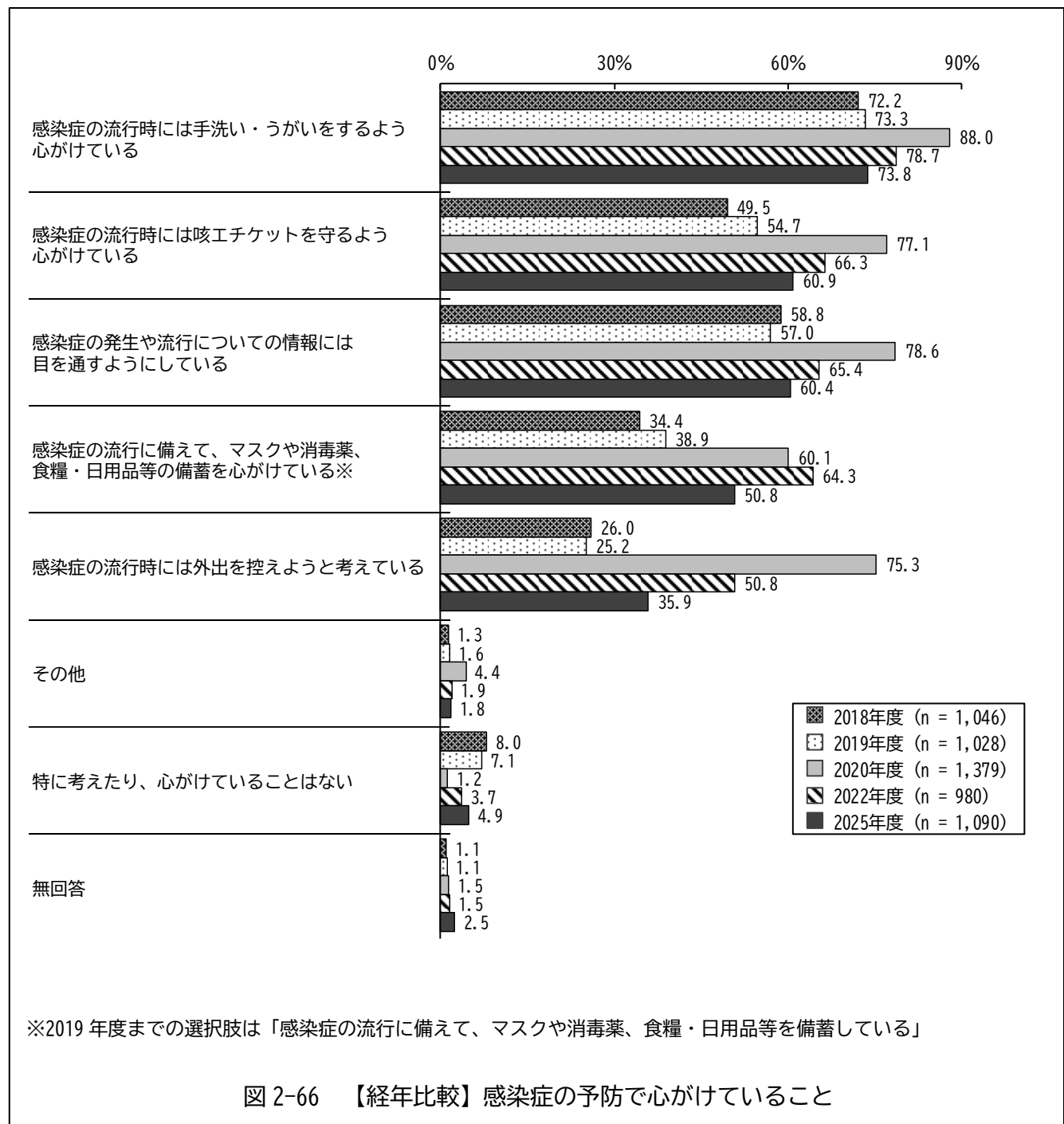


図 2-65 感染症の予防で心がけていること

感染症の予防について考えたり、心がけていることは、「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が73.8%で最も高く、次いで「感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている」(60.9%)、「感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている」(60.4%)、「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている」(50.8%)となっている。



経年で比較すると、感染症の予防について考えたり、心がけていることは、2025 年度は 2022 年度と比べすべての項目で減少しており、特に「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている」「感染症の流行時には外出を控えようと考えている」は 10 ポイント以上大幅に減少している。

2.26 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

◆何らかの加工食品等の栄養成分表示を＜参考にしている＞が6割台前半

(全員の方に)

問 37 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

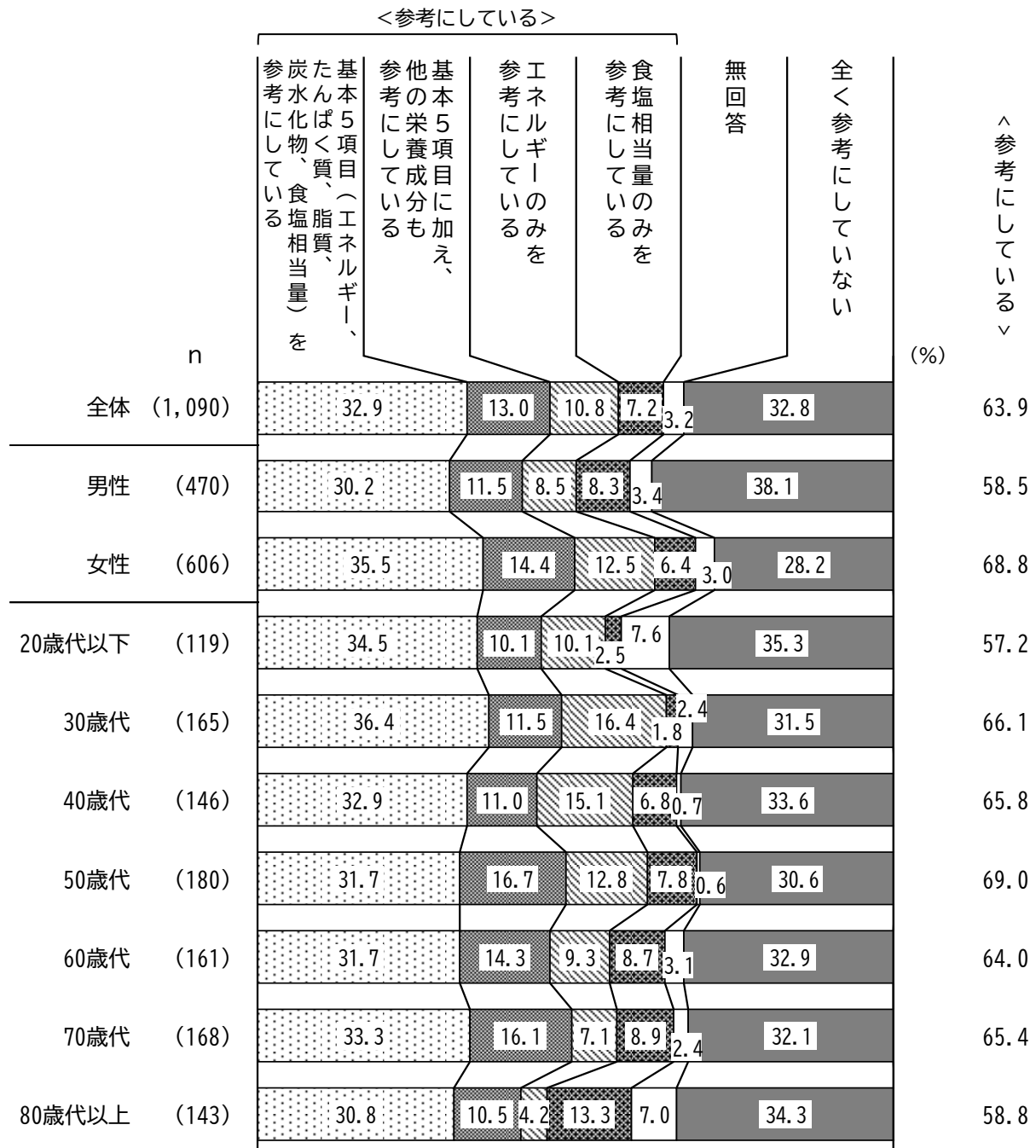
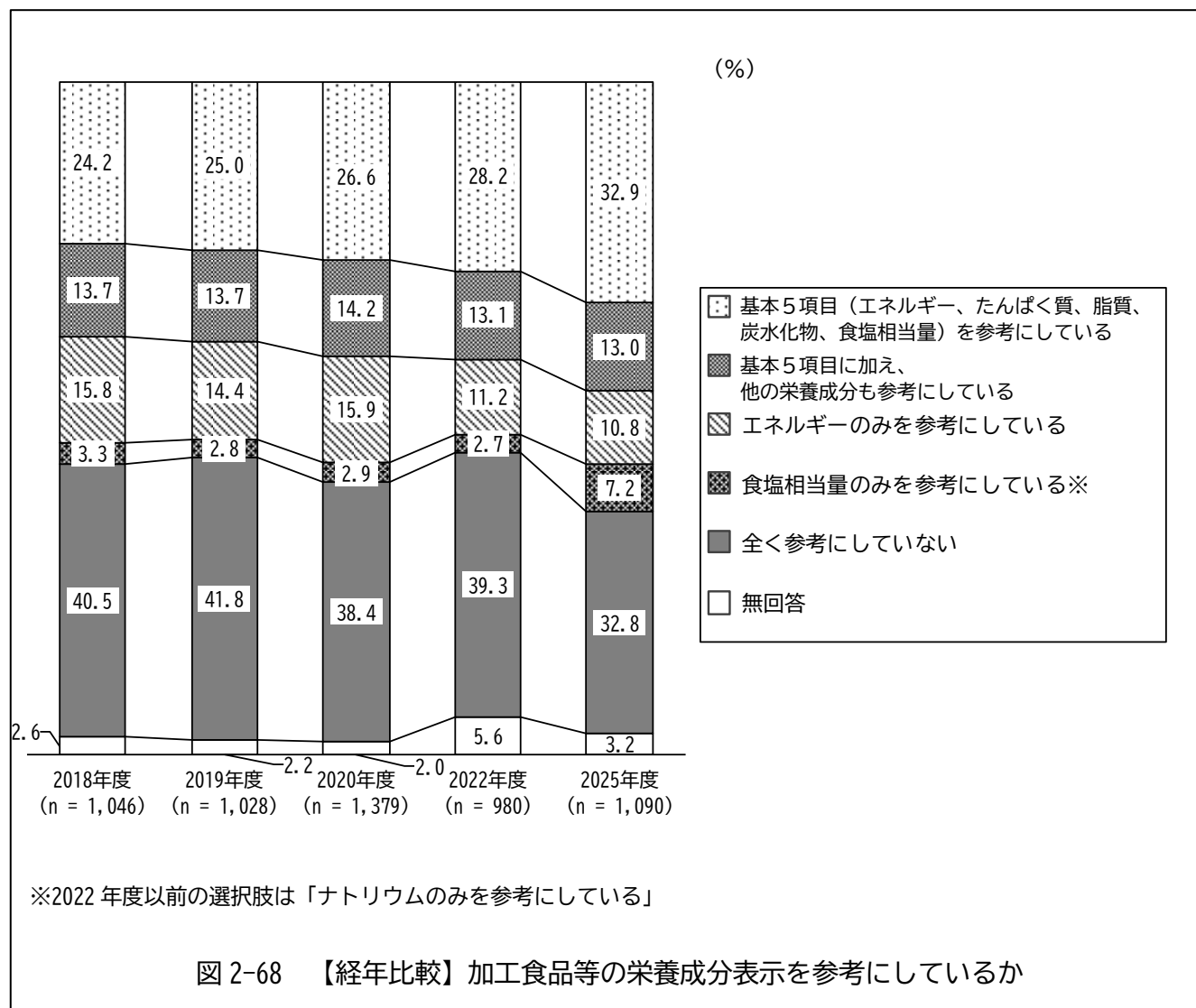


図 2-67 【性・年代別】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

加工食品等の栄養成分表示の参考の度合いは、「基本5項目（エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量）を参考にしている」が32.9%で最も高く、次いで「全く参考にしていない」（32.8%）となっている。性別にみると、＜参考にしている＞は女性（68.8%）が男性（58.5%）を10.6ポイント上回っている。年代別にみると、＜参考にしている＞は30歳～70歳代で6割台となっている。



経年で比較すると、2025年度は2022年度と比べ、「基本5項目（エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量）を参考になっている」で4.7ポイント、「食塩相当量のみを参考になっている」で4.5ポイント増加している。

2.27 食中毒に関する認識

◆食中毒に関する認識は＜理解している＞が6割半ば

(全員の方に)

問 38 あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

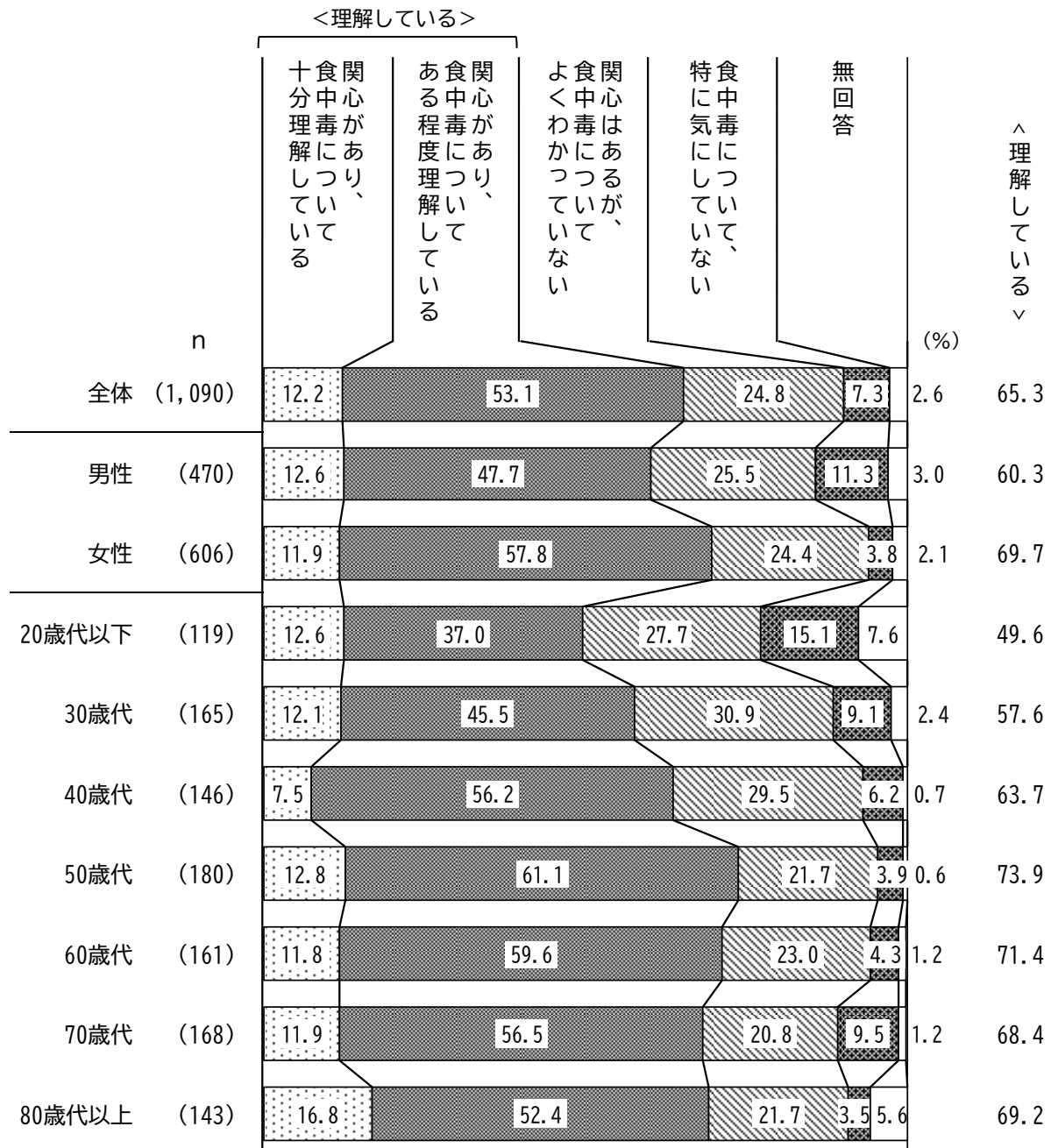


図 2-69 【性・年代別】食中毒に関する認識

食中毒に関する認識の度合いは、「関心があり、食中毒について十分理解している」(12.2%)と「関心があり、食中毒についてある程度理解している」(53.1%)を合わせた＜理解している＞で65.3%となっている。性別にみると、＜理解している＞は女性(69.7%)が男性(60.3%)を9.4ポイント上回っている。年代別にみると、＜理解している＞は50歳～60歳代で7割台と高くなっている。

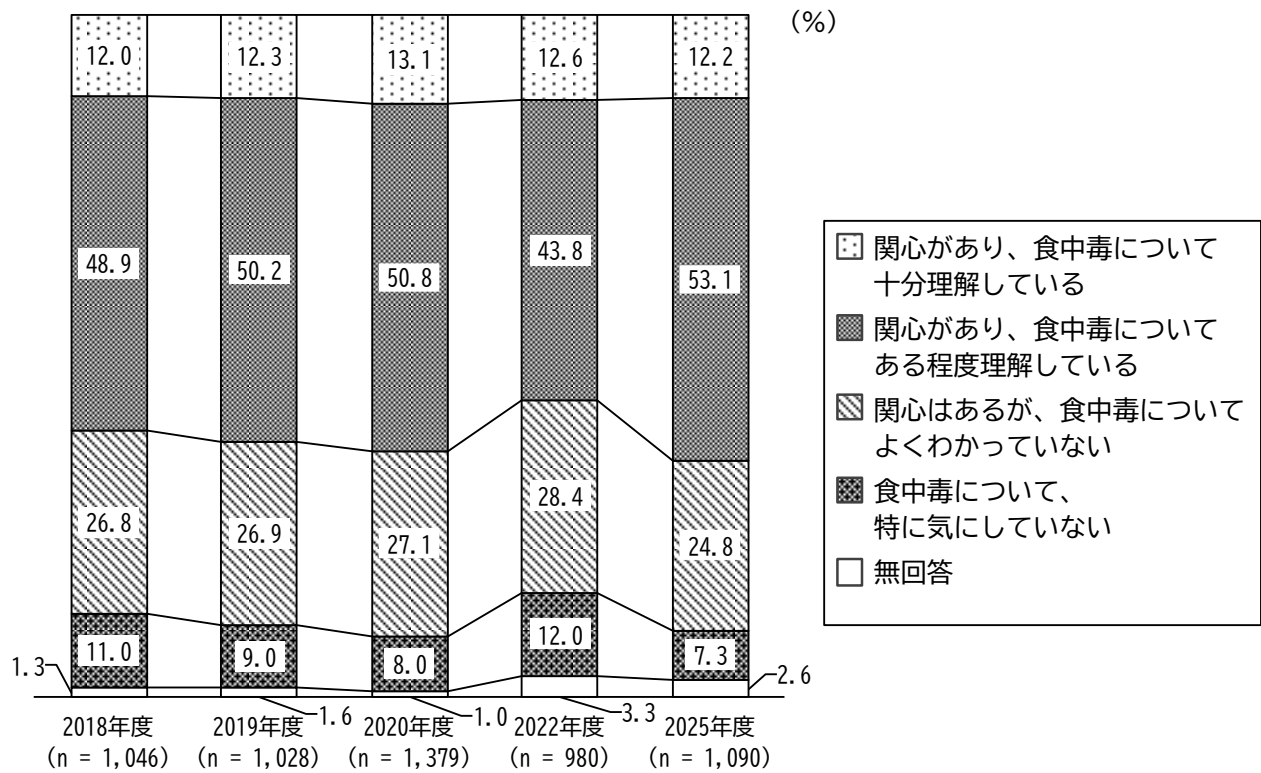


図 2-70 【経年比較】食中毒に関する認識

経年で比較すると、2025年度は2022年度と比べ、「関心があり、食中毒についてある程度理解している」が約9ポイント増加している。

2.28 喫煙の状況

◆たばこを<吸っている>人は1割台前半

(全員の方に)

問39 あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

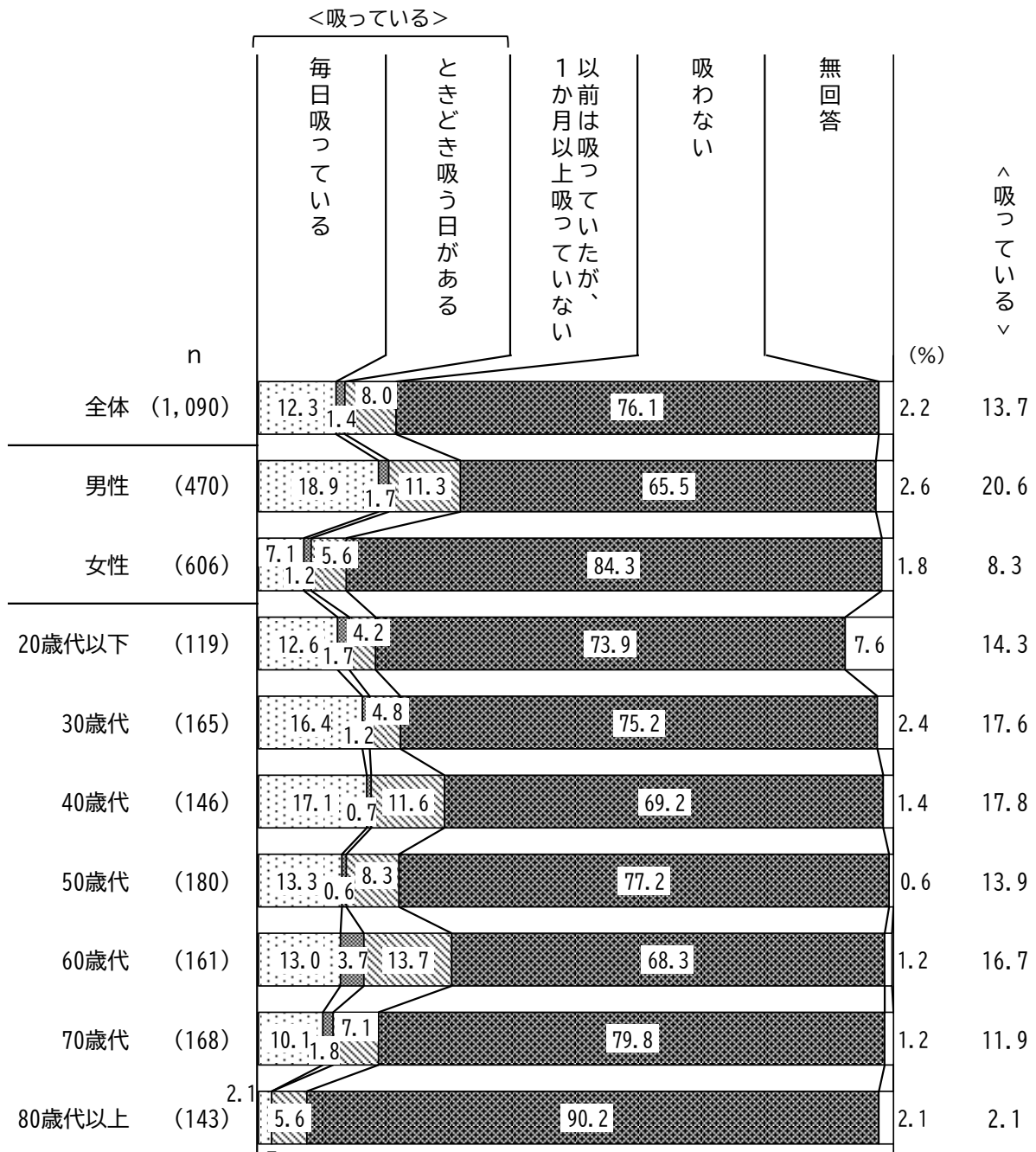


図2-71 【性・年代別】喫煙の状況

喫煙の状況は、「毎日吸っている」(12.3%)と「ときどき吸う日がある」(1.4%)を合わせた<吸っている>で13.7%となっている。性別にみると、<吸っている>は男性(20.6%)が女性(8.3%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、<吸っている>は70歳代以下の各年代でそれぞれ1割台となっている。

2.28.1 今後禁煙したいか

◆「禁煙したい」は1割台前半、「吸う本数を減らしたい」「現状通り喫煙を続けたい」が3割台後半

(問39で「1.毎日吸っている」「2.ときどき吸う日がある」に○をつけた方に)
問39-1 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

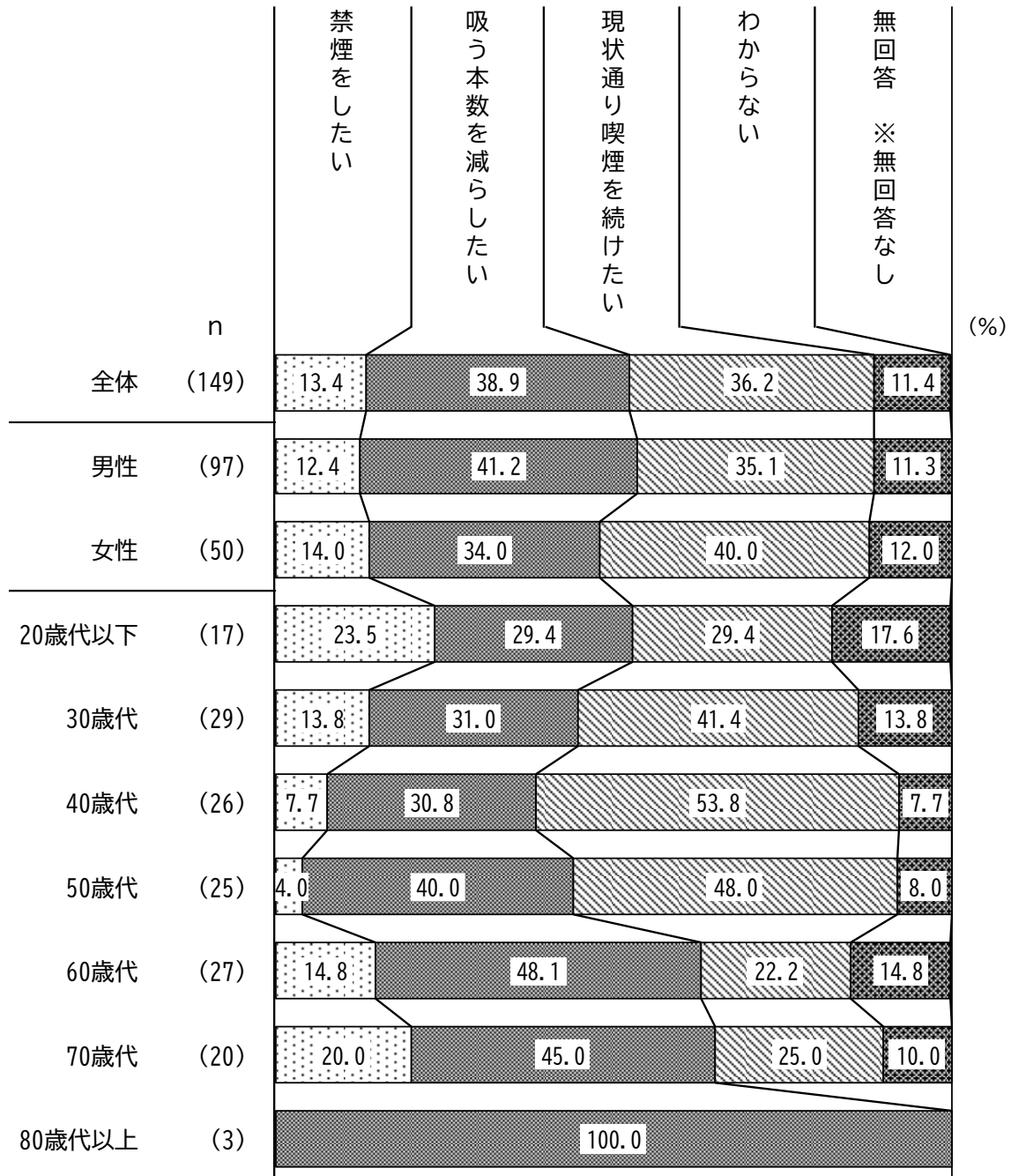


図2-72 【性・年代別】今後禁煙したいか

今後禁煙したいかについては、「吸う本数を減らしたい」が38.9%で最も高く、次いで「現状通り喫煙を続けたい」(36.2%)、「禁煙したい」(13.4%)となっている。

3 制度等について

3.1 「障害者差別解消法」についての認知度

◆「障害者差別解消法」について<知っている>人は2割半ば

(全員の方に)

問 40 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(○は1つ)

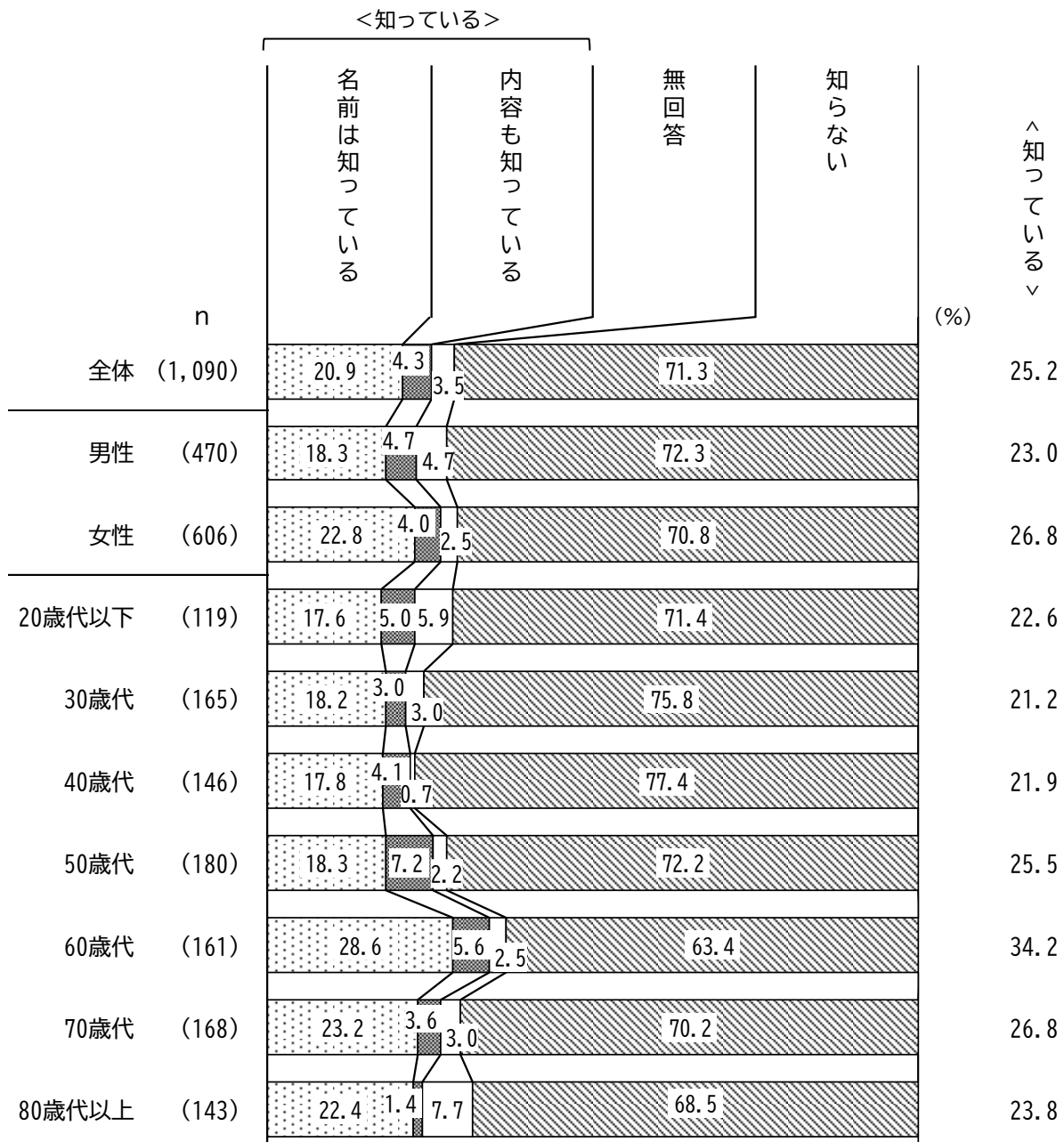


図 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」についての認知度

「障害者差別解消法」についての認知度は、「名前を知っている」(20.9%)と「内容も知っている」(4.3%)を合わせた<知っている>が25.2%となっている。年代別にみると、<知っている>は60歳代以上で3割台半ばと、他の年代と比較して高くなっている。

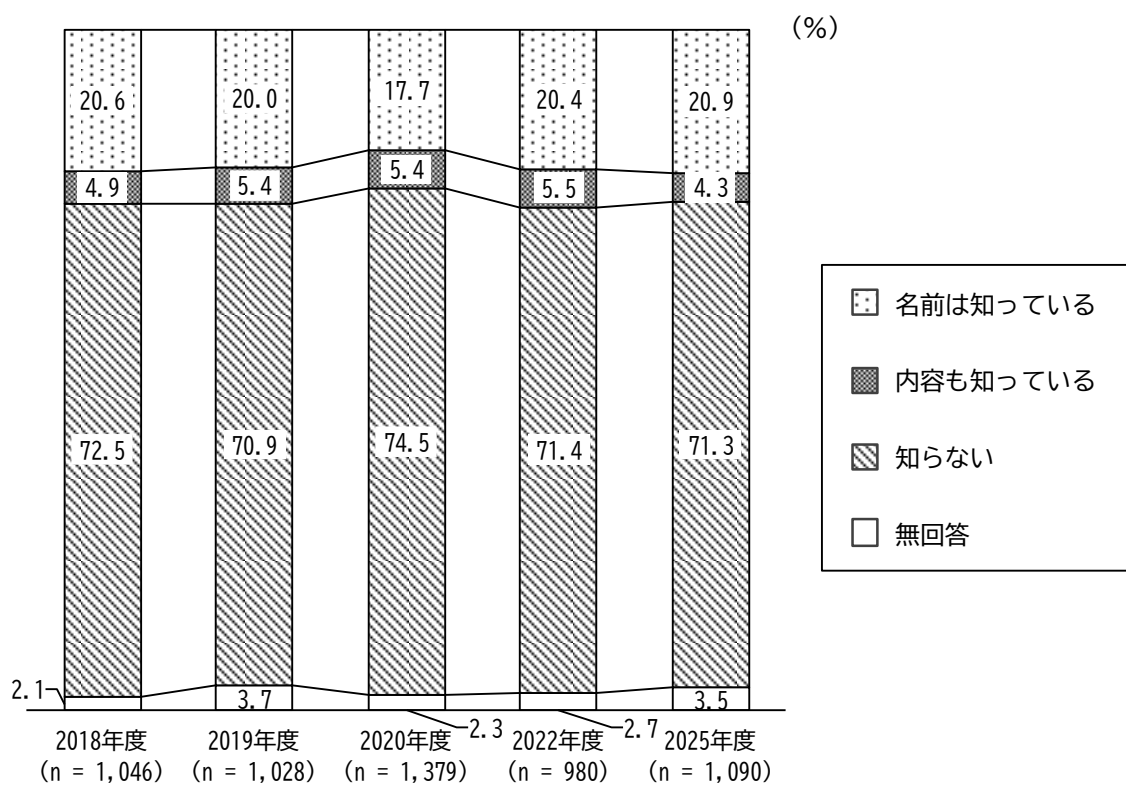


図 3-2 【経年比較】「障害者差別解消法」についての認知度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

3.1.1 「障害者差別解消法」の認知方法

◆「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が約6割

(問 40 で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に)
 問 40-1 あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

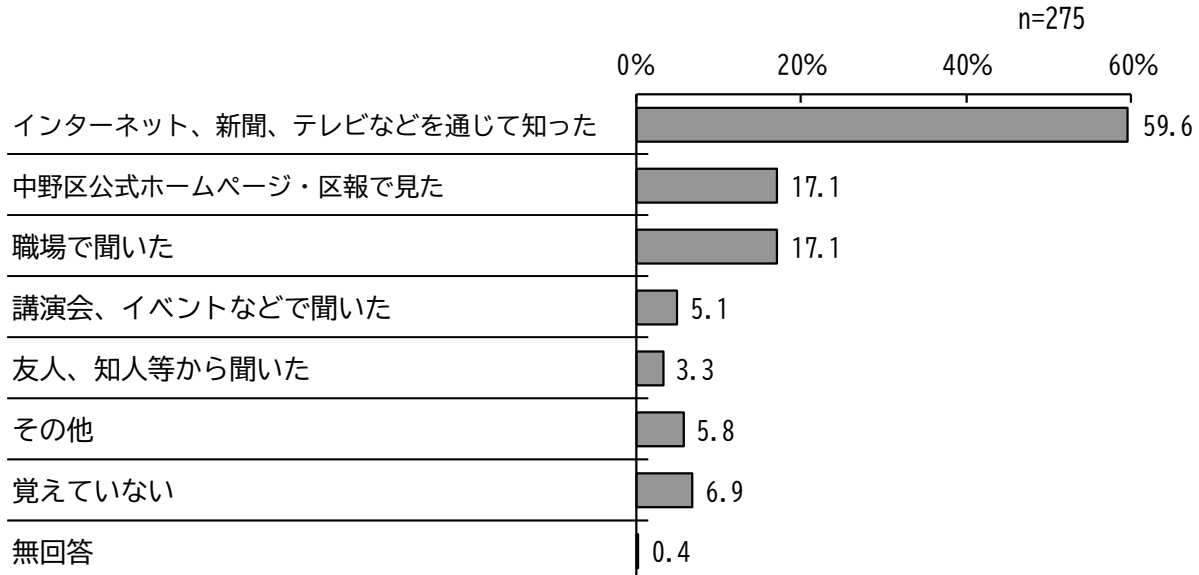


図 3-3 「障害者差別解消法」の認知方法

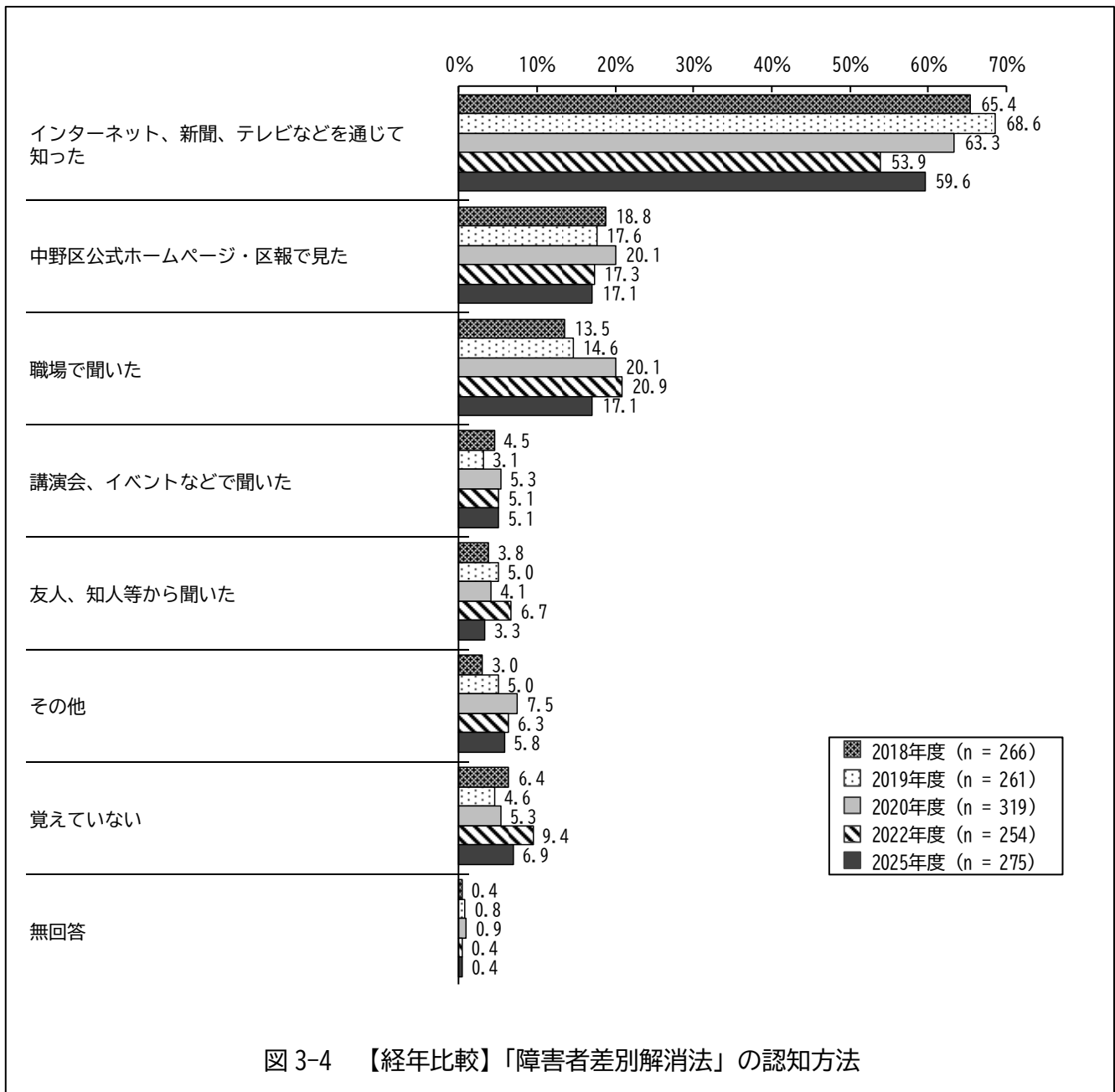
「障害者差別解消法」を<知っている>人に認知方法を聞いたところ、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が59.6%と最も高くなっている。

表 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」の認知方法

単位: %

区分	有効回答数(件)	中野区公式ホームページ・区報で見た	インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った	講演会、イベントなどで聞いた	職場で聞いた	友人、知人等から聞いた	その他	覚えていない	無回答
全体	275	17.1	59.6	5.1	17.1	3.3	5.8	6.9	0.4
男性	108	22.2	64.8	2.8	18.5	1.9	3.7	4.6	0.0
女性	162	14.2	56.2	6.8	16.7	4.3	6.2	8.6	0.6
20歳代以下	27	7.4	37.0	3.7	25.9	0.0	18.5	11.1	0.0
30歳代	35	5.7	42.9	0.0	31.4	5.7	8.6	11.4	0.0
40歳代	32	3.1	78.1	3.1	15.6	3.1	0.0	6.3	0.0
50歳代	46	10.9	50.0	8.7	17.4	2.2	8.7	13.0	0.0
60歳代	55	9.1	67.3	7.3	23.6	3.6	7.3	1.8	0.0
70歳代	45	40.0	73.3	8.9	6.7	2.2	0.0	4.4	0.0
80歳代以上	34	41.2	58.8	0.0	0.0	5.9	0.0	2.9	2.9

性別にみると、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」「中野区公式ホームページ・区報で見た」は男性、「講演会、イベントなどで聞いた」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、30歳代で「職場で聞いた」、70歳代以上で「中野区公式ホームページ・区報で見た」の割合が、他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年度も「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が最も高くなっており、2025年度は2022年度と比べ約6ポイント増加している。

3.2 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

◆障害者差別解消のため中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」「中野区公式ホームページ・区報による啓発」が4割台前半

(全員の方に)

問41 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

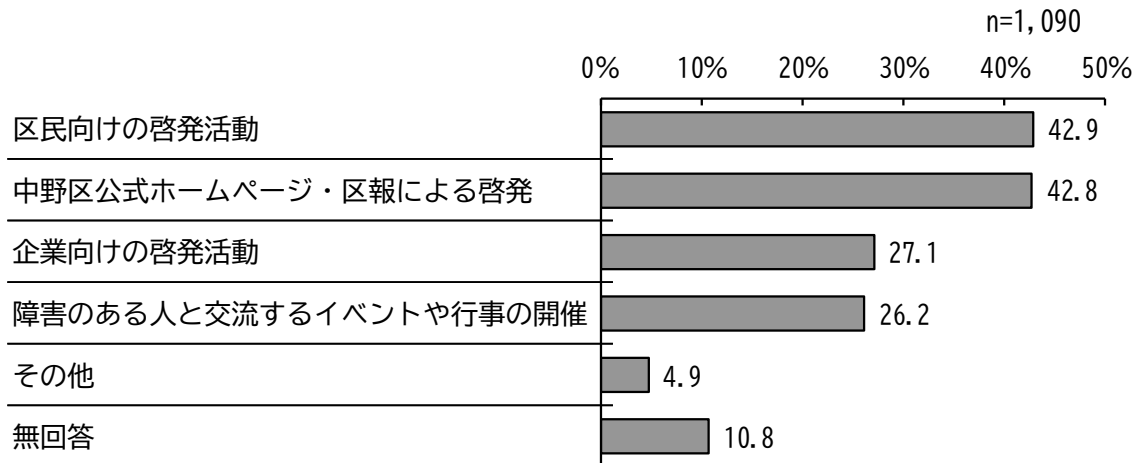


図 3-5 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

障害者差別の解消のために、中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が 42.9%で最も高く、次いで「中野区公式ホームページ・区報による啓発」(42.8%)、「企業向けの啓発活動」(27.1%)となっている。

表 3-2 【性・年代別】障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

単位：％

区分	有効回答数（件）	中野区公式ホームページ・区報による啓発	区民向けの啓発活動	企業向けの啓発活動	障害のある人と交流するイベントや行事の開催	その他	無回答
全体	1,090	42.8	42.9	27.1	26.2	4.9	10.8
男性	470	42.8	44.5	26.4	24.7	5.1	11.3
女性	606	43.1	41.6	26.9	27.6	4.6	10.6
20歳代以下	119	27.7	31.1	35.3	26.1	5.0	10.9
30歳代	165	30.9	38.8	40.6	24.2	7.9	11.5
40歳代	146	39.7	39.7	30.1	24.0	6.2	9.6
50歳代	180	43.9	48.9	28.3	32.2	2.8	9.4
60歳代	161	46.0	54.0	26.7	26.1	5.0	7.5
70歳代	168	53.6	45.8	19.0	29.2	4.8	11.3
80歳代以上	143	55.2	37.1	9.1	21.7	2.8	16.1

性別にみると、「区民向けの啓発活動」は男性、「中野区公式ホームページ・区報による啓発」は女性の割合が最も高くなっている。年代別にみると、20～30歳代では「企業向けの啓発活動」、40歳～60歳代では「区民向けの啓発活動」、40歳代と70歳代以上では「中野区公式ホームページ・区報による啓発」の割合が最も高くなっている。

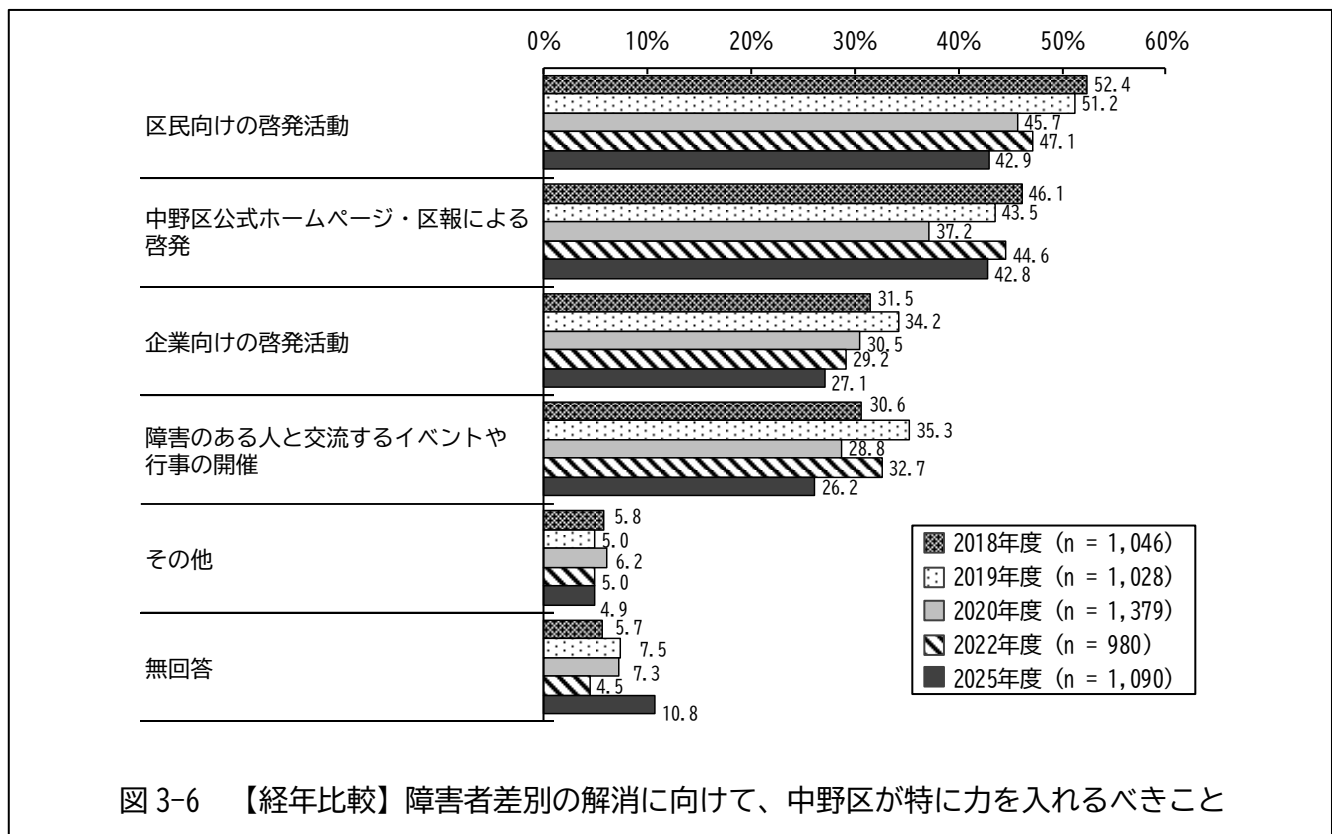


図 3-6 【経年比較】障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

経年で比較すると、2025年度は2022年度と比べ、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」で6.5ポイント、「区民向けの啓発活動」で約4ポイント減少している。

3.3 ヘルプマークの認知度

◆ヘルプマークについて「意味を含めて知っている」は6割台後半

(全員の方に)

問 42 あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

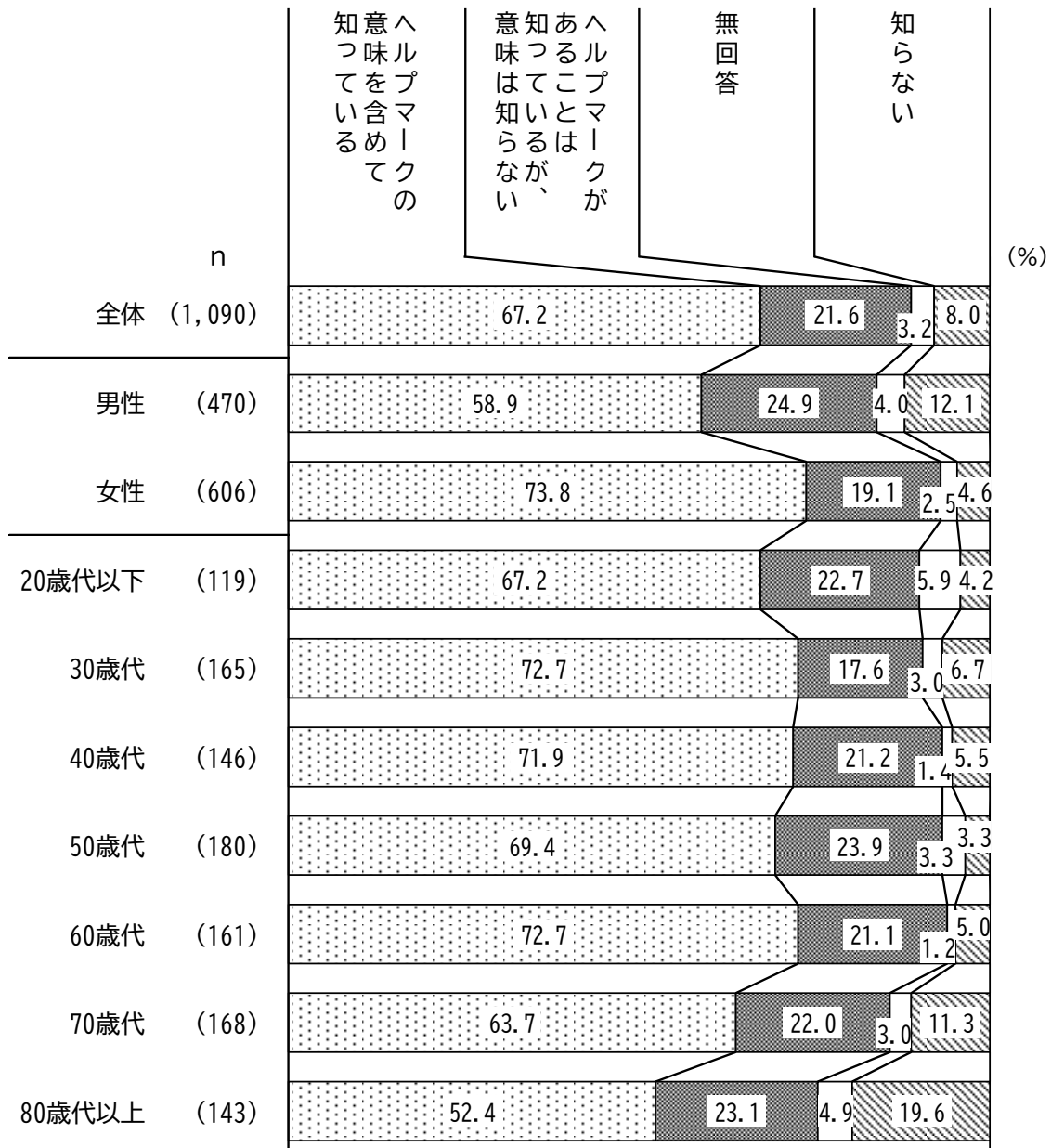


図 3-7 【性・年代別】ヘルプマークの認知度

ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が67.2%で最も高く、「ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない」が21.6%、「知らない」は8.0%となっている。性別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は女性（73.8%）が男性（58.9%）を約15ポイント上回っている。年代別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は30～60歳代で7割前後と高くなっている。

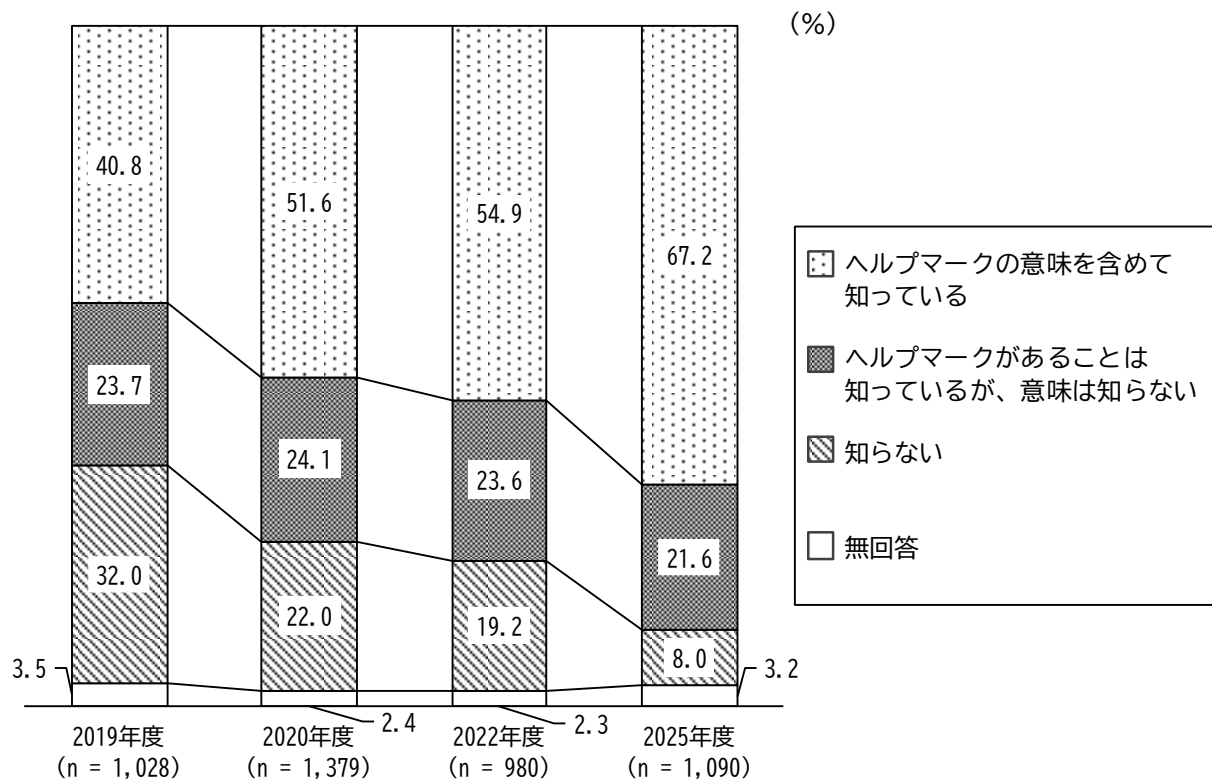


図 3-8 【経年比較】ヘルプマークの認知度

経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度と比べ、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が約 12 ポイント増加している。

3.4 障害者虐待防止センターの認知度

◆障害者虐待防止センターを「知っていた」は約1割

(全員の方に)

問 43 中野区では、障害者虐待に関する通報や相談窓口として、障害者虐待防止センターを設置しています。あなたは、障害者虐待防止センターを知っていますか。
(○は1つ)

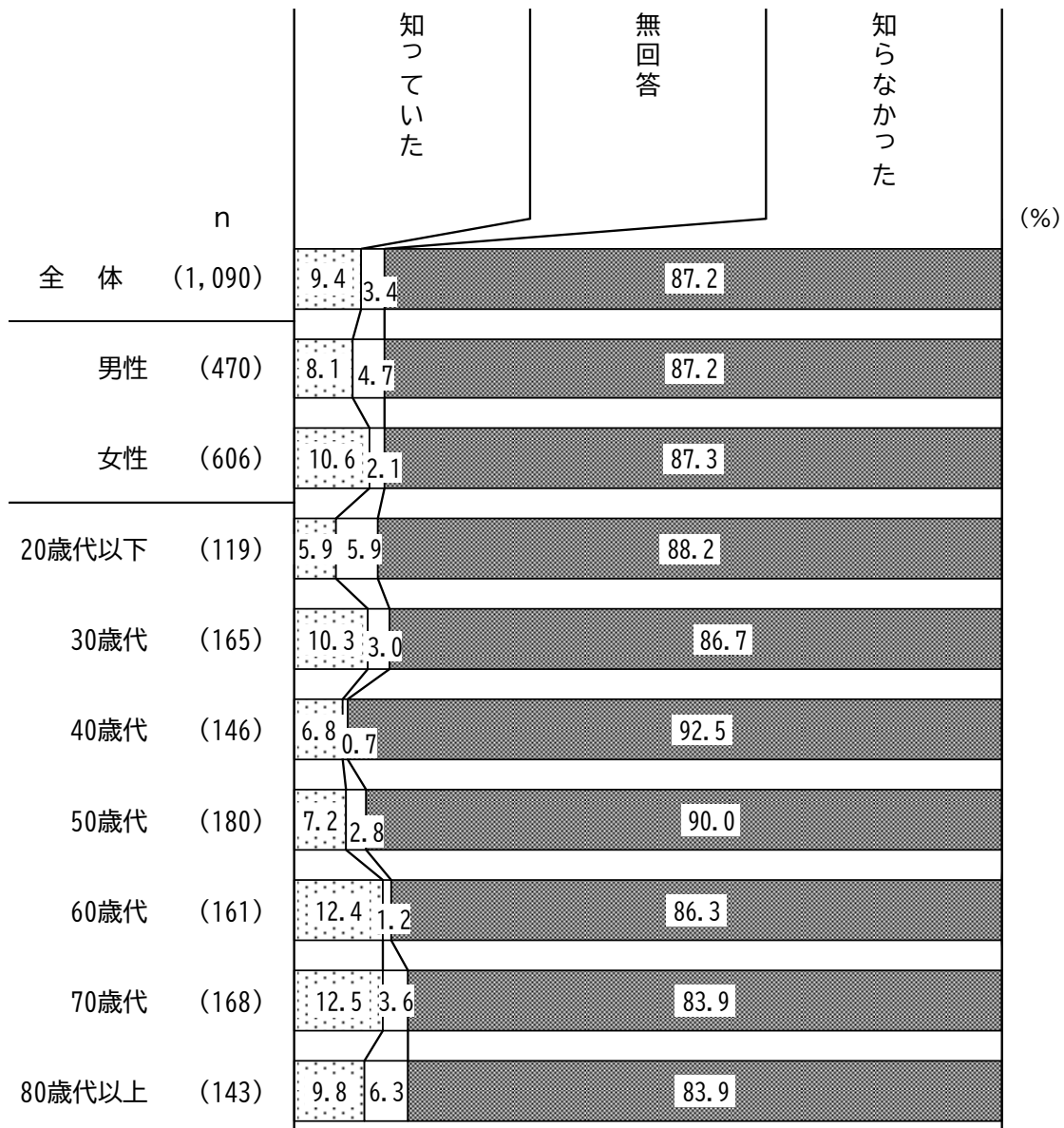


図 3-9 【性・年代別】障害者虐待防止センターの認知度

障害者虐待防止センターの認知度については「知っていた」が9.4%に対し、「知らなかった」が87.2%となっている。年代別にみると、30歳代と60～70歳代で「知っていた」が1割を超えて、他の年代と比較してやや高くなっている。

3.5 介護保険制度の利用の仕方についての認知度

◆介護保険制度の利用の仕方について<知っている>は約3割

(全員の方に)

問 44 あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

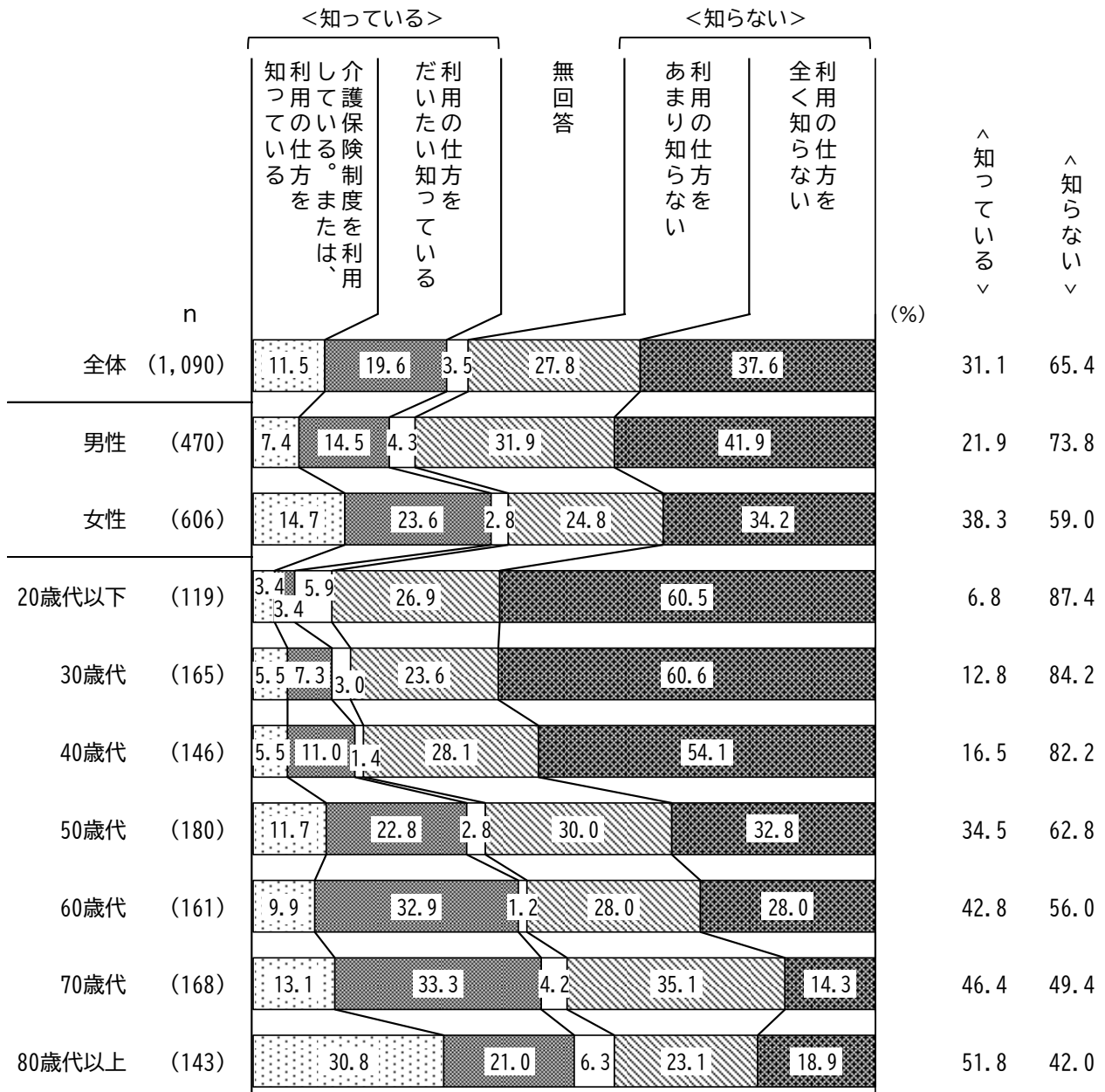
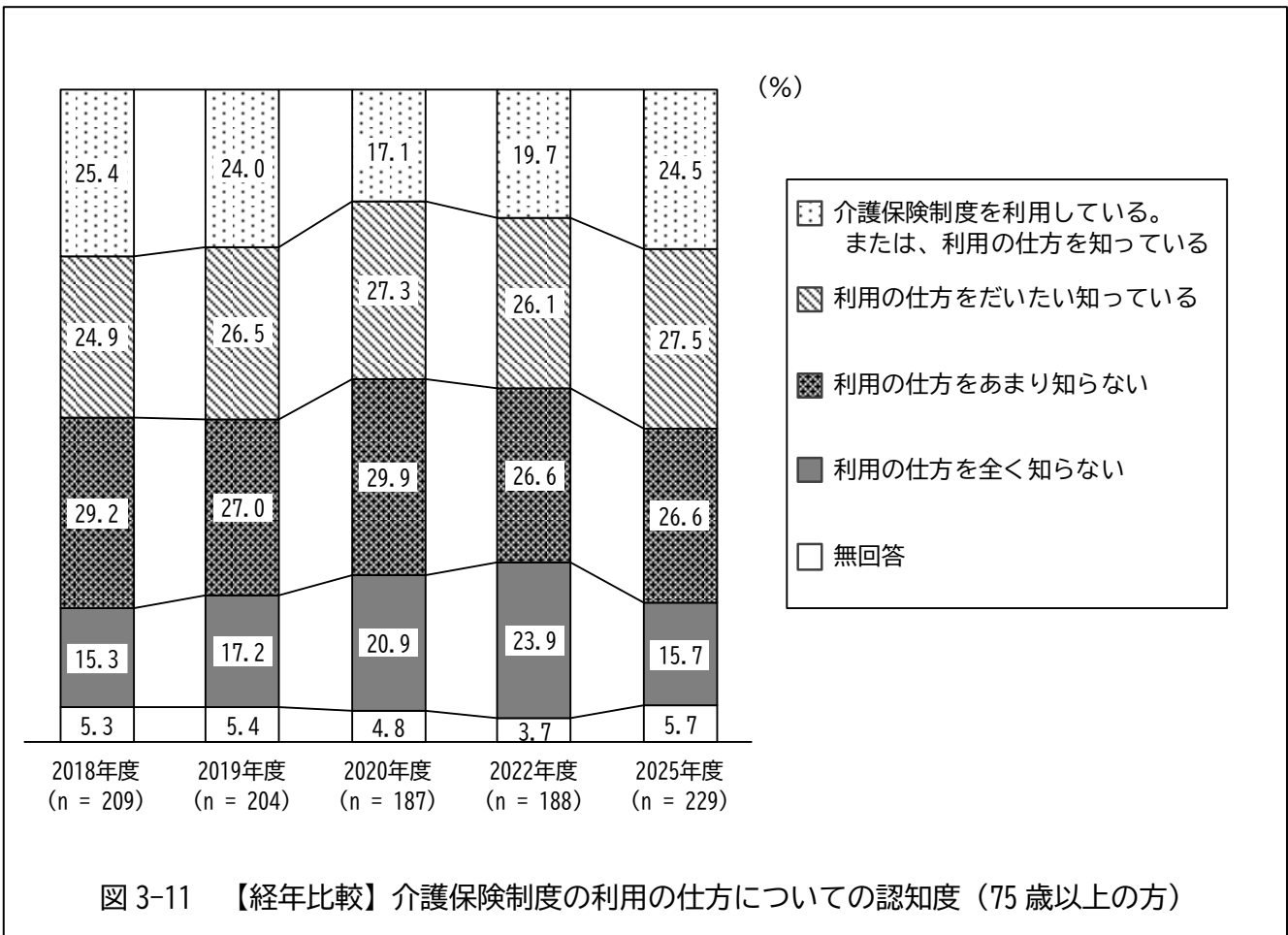


図 3-10 【性・年代別】介護保険制度の利用の仕方についての認知度

介護保険制度を利用できている、または必要となった時の利用の仕方を知っているかについては、「介護保険制度を利用している。または、利用の仕方を知っている」(11.5%)と「利用の仕方を知りたい」(19.6%)を合わせた<知っている>は31.1%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(38.3%)が男性(21.9%)を16.4ポイント上回っている。年代別にみると、年代が上がるにつれて<知っている>の割合が増加傾向にあり、80歳代以上で5割を超えている。



75 歳以上の方について経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度と比べ、「介護保険制度を利用している。または、利用の仕方を知っている」が約 5 ポイント増加し、「利用の仕方を全く知らない」が約 8 ポイント減少している。

3.6 認知症についての理解度

◆認知症について「基本的な対応方法を知っている」は2割台後半

(全員の方に)

問 45 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(○は1つ)

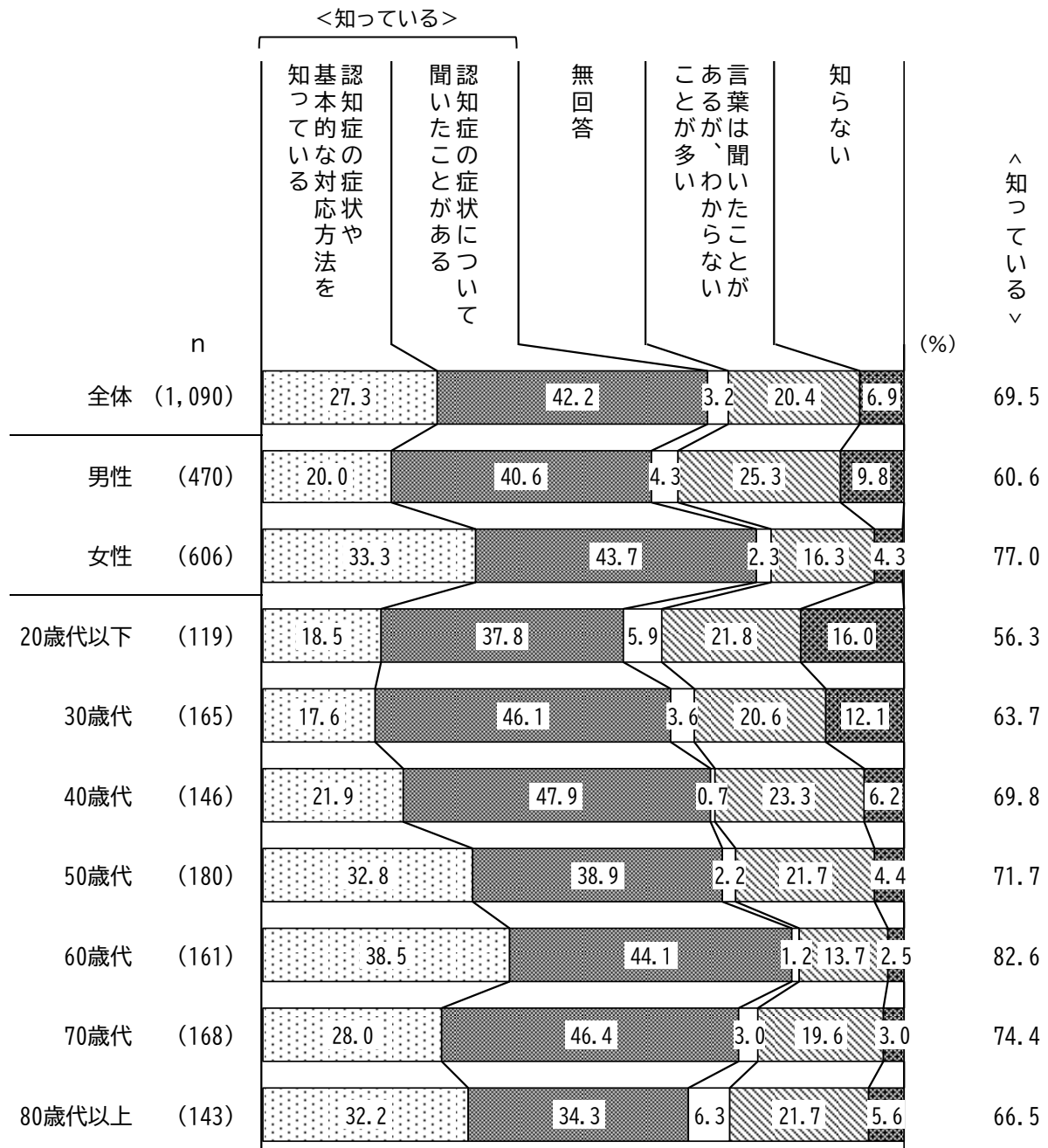


図 3-12 【性・年代別】認知症についての理解度

認知症の症状や対応方法についての理解度は、「認知症の症状について聞いたことがある」(42.2%)が最も高く、次いで「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」(27.3%)となっている。性別にみると、女性の方が男性より理解度が高くなっており、「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」で女性(33.3%)が男性(20.0%)を約13ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」が3割台後半と、他の年代と比較して高くなっている。

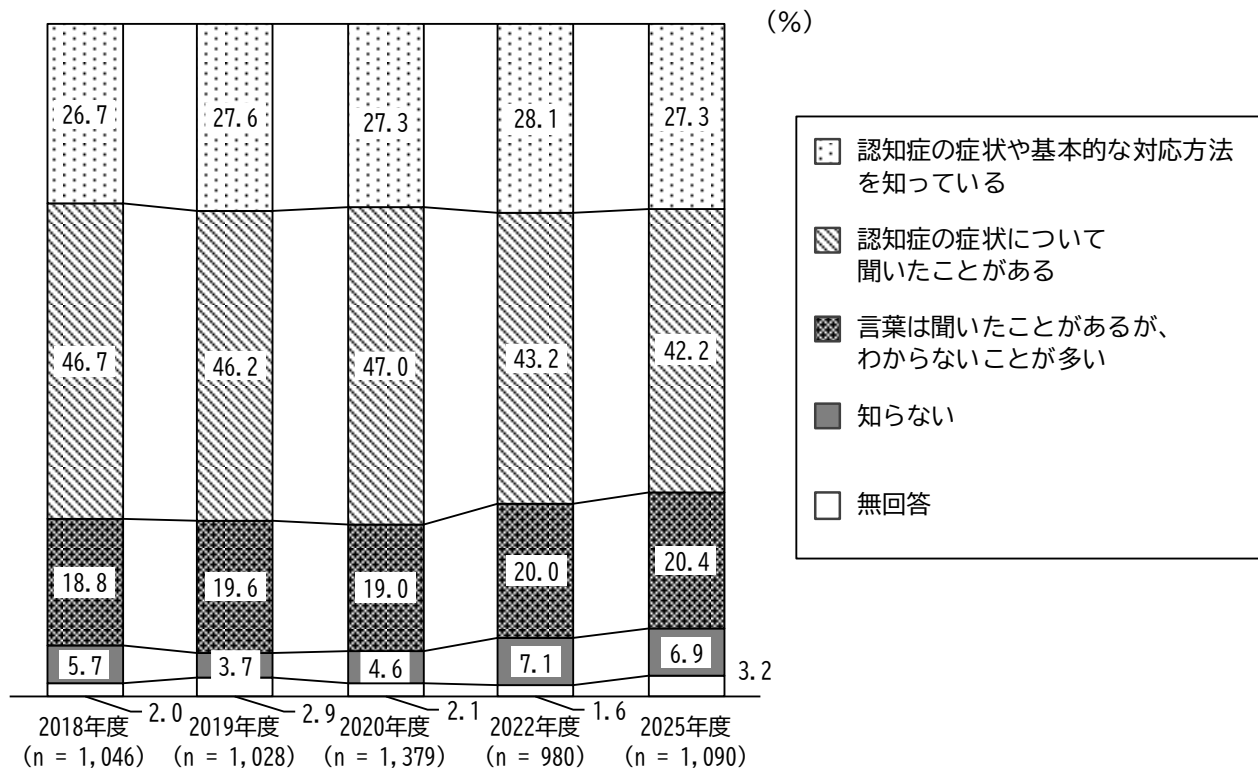


図 3-13 【経年比較】認知症についての理解度

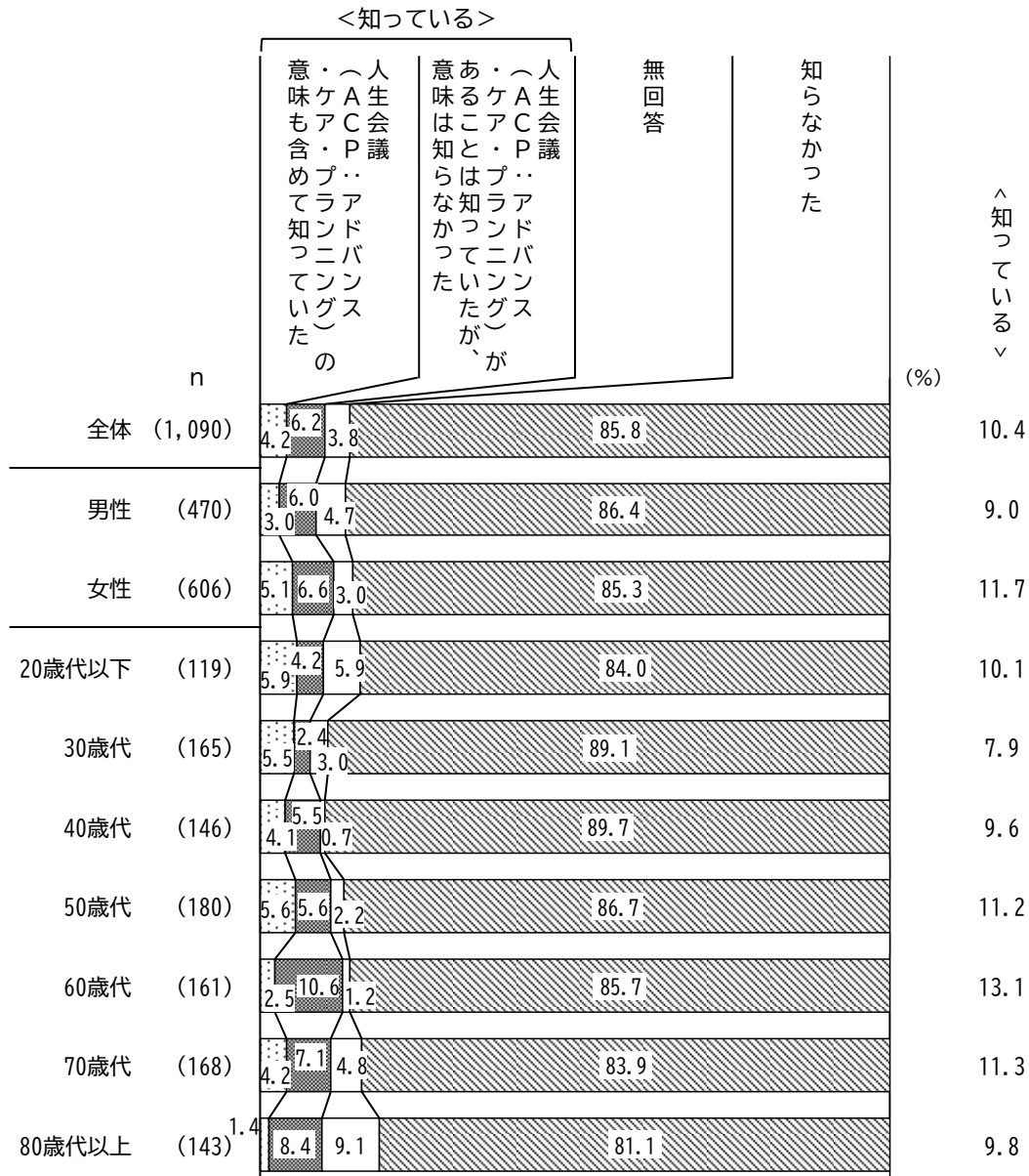
経年で比較すると、2022 年度と大きな差異はみられない。

3.7 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度

◆人生会議という言葉や意味を「知らなかった」は8割半ば

（全員の方に）

問 46 あなたは、「人生会議（ACP※：アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉や意味を知っていましたか。（○は1つ）



※ACP…アドバンス・ケア・プランニングとは、将来あなた自身が病気になったり、介護が必要になったりしたときに備えて、これまで大切にしてきたことや、これから誰とどのように過ごしたいか、希望する医療や介護のことなどについて、家族や大切な人、医療・介護関係者とあらかじめ考え、繰り返し話し合うプロセスのことを言います。平成30年度、厚生労働省はACPの愛称を「人生会議」と決め普及・啓発を行っています。

図 3-14 【性・年代別】人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度

人生会議の認知度については、「知らなかった」が85.8%で最も高く、「人生会議があることは知っていたが、意味は知らなかった」が6.2%、「人生会議の意味も含めて知っていた」が4.2%となっている。年代別にみると、60歳代で「人生会議があることは知っていたが、意味は知らなかった」が約1割と、他の年代と比較してやや高くなっている。

3.8 「成年後見制度」の認知度

◆「成年後見制度」という言葉やしくみを<知っている>は約3割

(全員の方に)

問 47 「成年後見制度」という言葉やしくみについてどの程度知っていますか。(○は1つ)

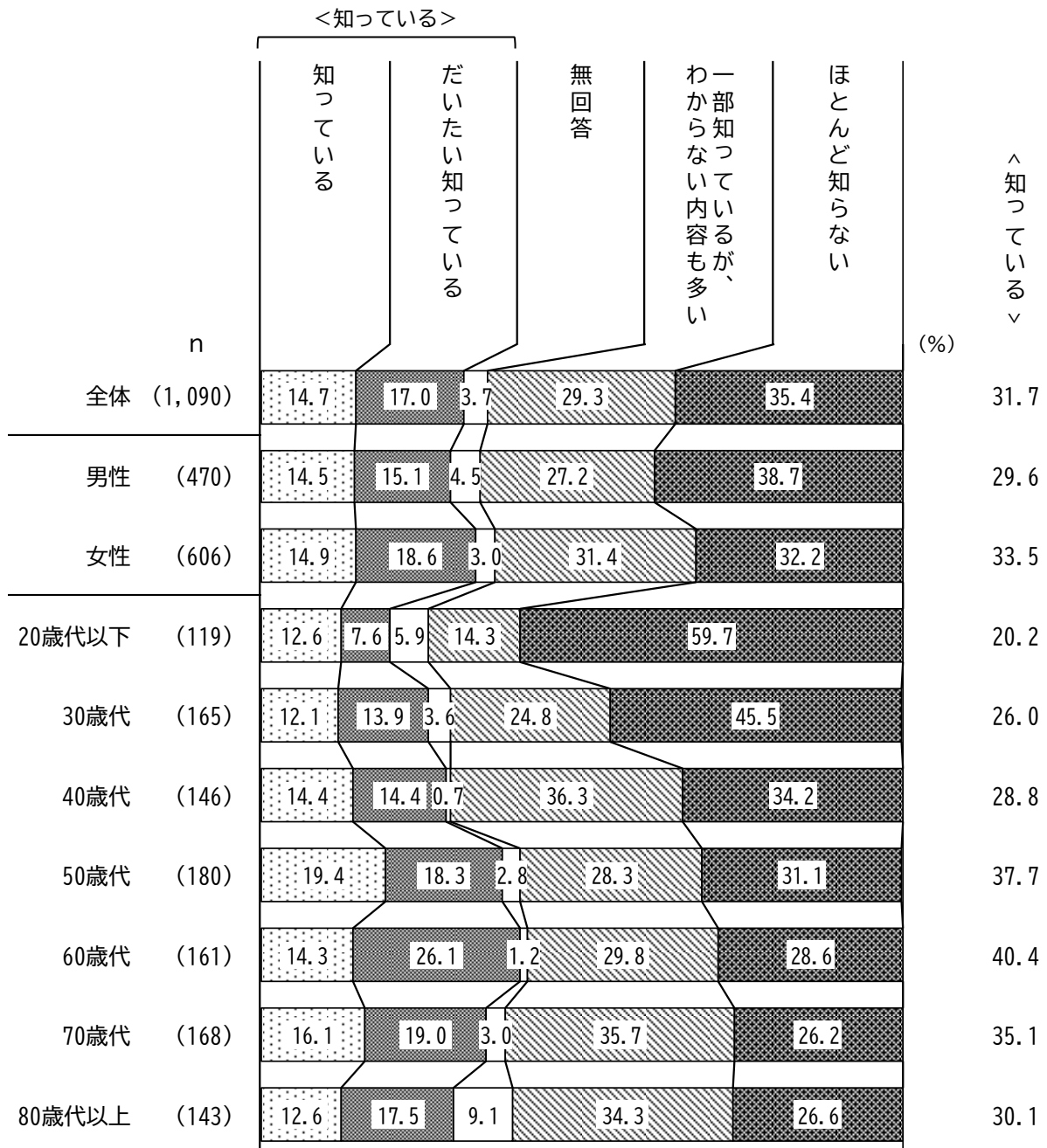


図 3-15 【性・年代別】「成年後見制度」の認知度

「成年後見制度」という言葉やしくみについての認知度は、「知っている」(14.7%)と「だいたい知っている」(17.0%)を合わせた<知っている>で31.7%となっている。一方、「ほとんど知らない」は35.4%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(33.5%)が男性(29.6%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で<知っている>が約4割と最も高くなっている。

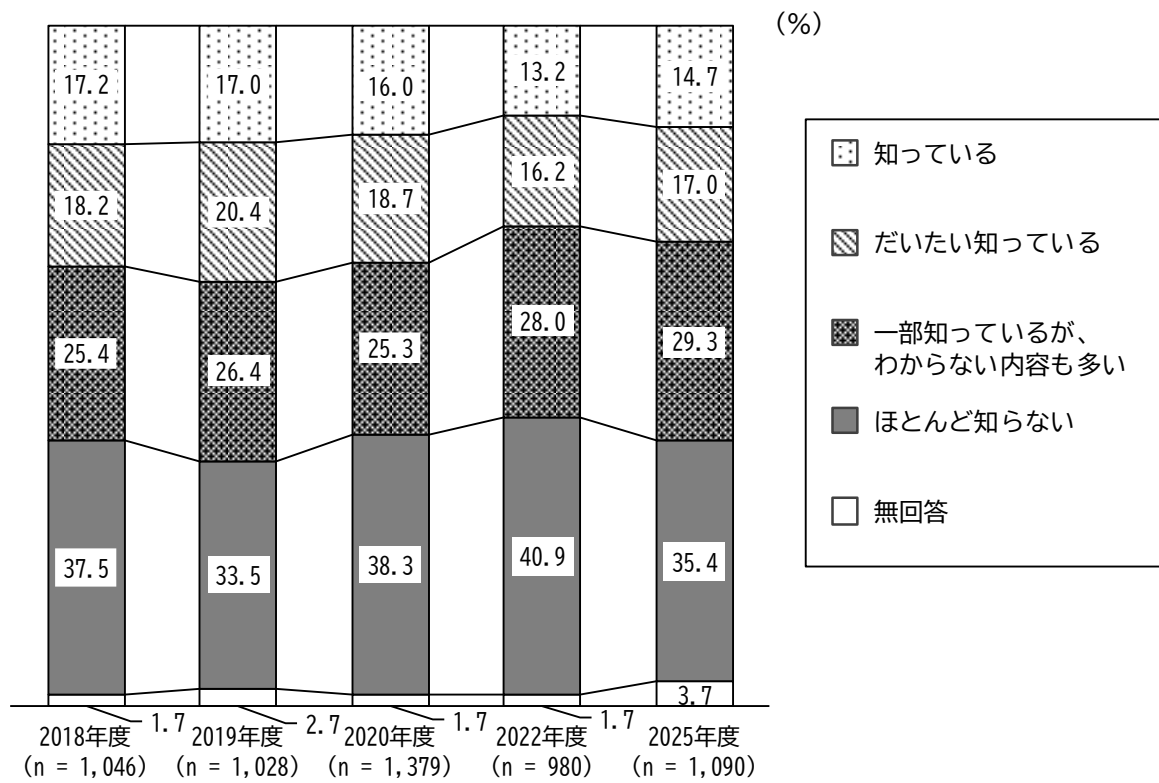


図 3-16 【経年比較】「成年後見制度」の認知度

経年で比較すると、2025 年度は 2022 年度と比べ、「ほとんど知らない」が 5.5 ポイント減少している。

3.9 ヤングケアラーの認知度

◆ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」は約6割

(全員の方に)

問 48 ヤングケアラーという言葉を知っているかどうか。(○は1つ)

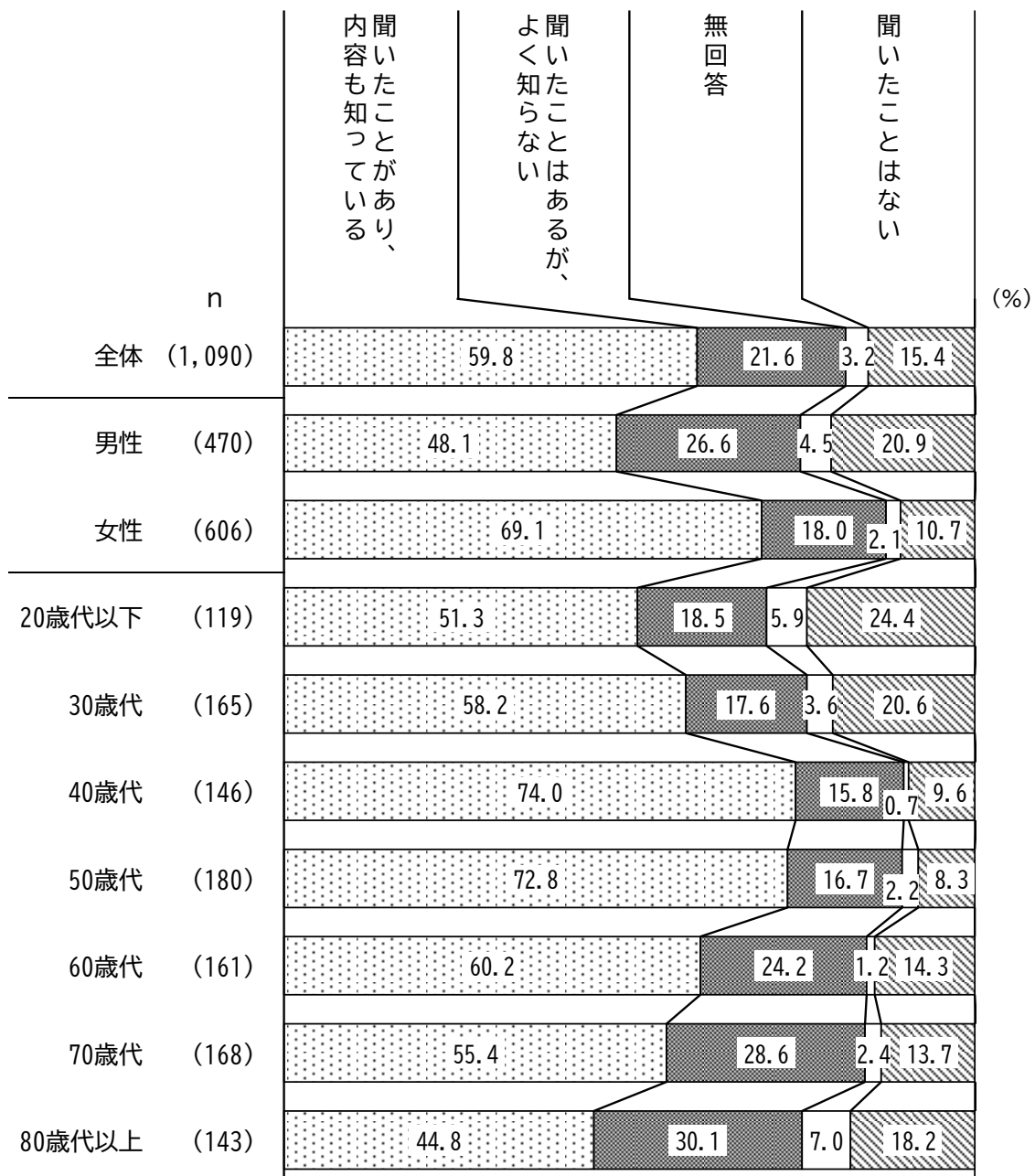


図 3-17 【性・年代別】ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が59.8%で最も高く、「聞いたことはあるが、よく知らない」が21.6%、「聞いたことはない」は15.4%となっている。性別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は女性(69.1%)が男性(48.1%)を21ポイント上回っている。年代別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は40～50歳代で7割台と特に高くなっている。

4 相談窓口について

4.1 健康福祉の相談機関の身近さ

◆「身近に感じる」の割合は「すこやか福祉センター」が1割半ば、「区民活動センター」が約2割

(全員の方に)

問 49 あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。(それぞれ○は1つ)

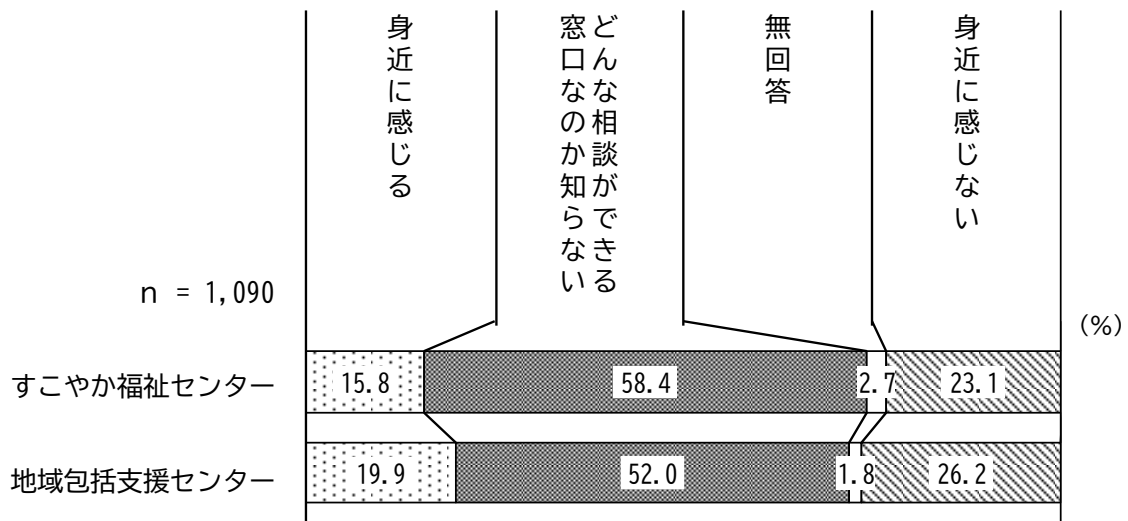


図 4-1 健康福祉の相談機関の身近さ

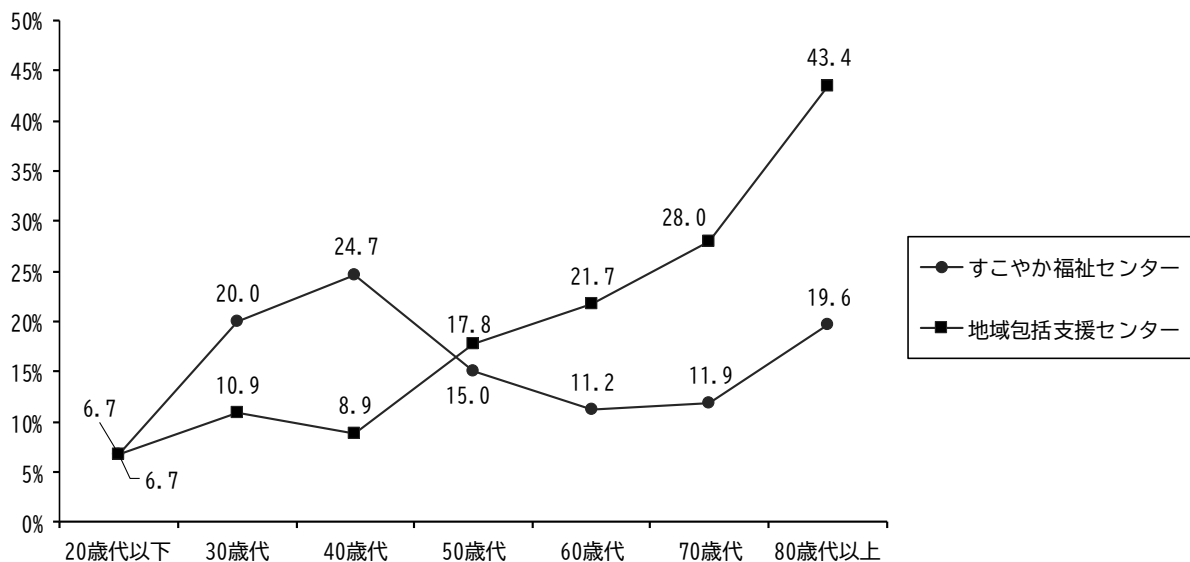
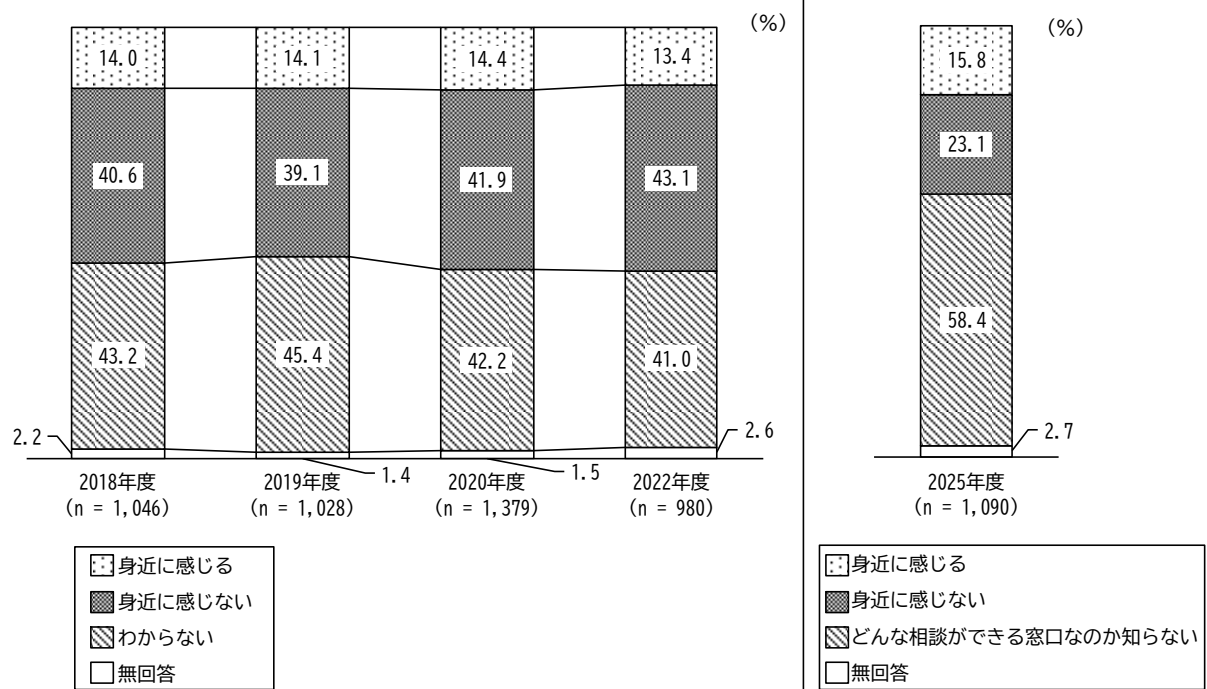


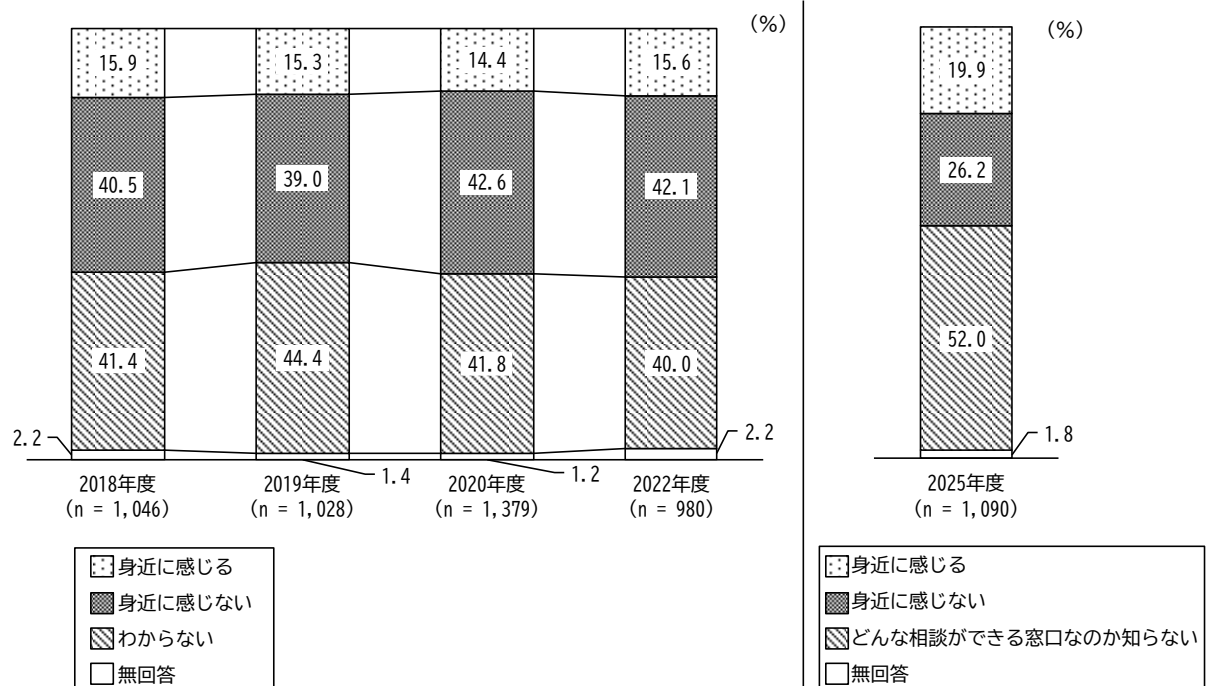
図 4-2 【年代別】健康福祉の相談機関を身近に感じると回答した人の割合

健康福祉の相談窓口として身近に感じる機関を年代別でみると、30～40 歳代では「すこやか福祉センター」、50 歳代以上では「区民活動センター」の方が高くなっている。

【すこやか福祉センター】



【地域包括支援センター】



※2025年度は一部選択肢の内容を変更したため、2022年度以前の経年比較は参考として掲載する。

図 4-3 【経年比較】健康福祉の相談機関の身近さ

4.2 区民活動センターの身近さ

◆「身近に感じる」割合は2割半ば

(全員の方に)

問 50 あなたは、区民活動センターを身近に感じますか。(○は1つ)

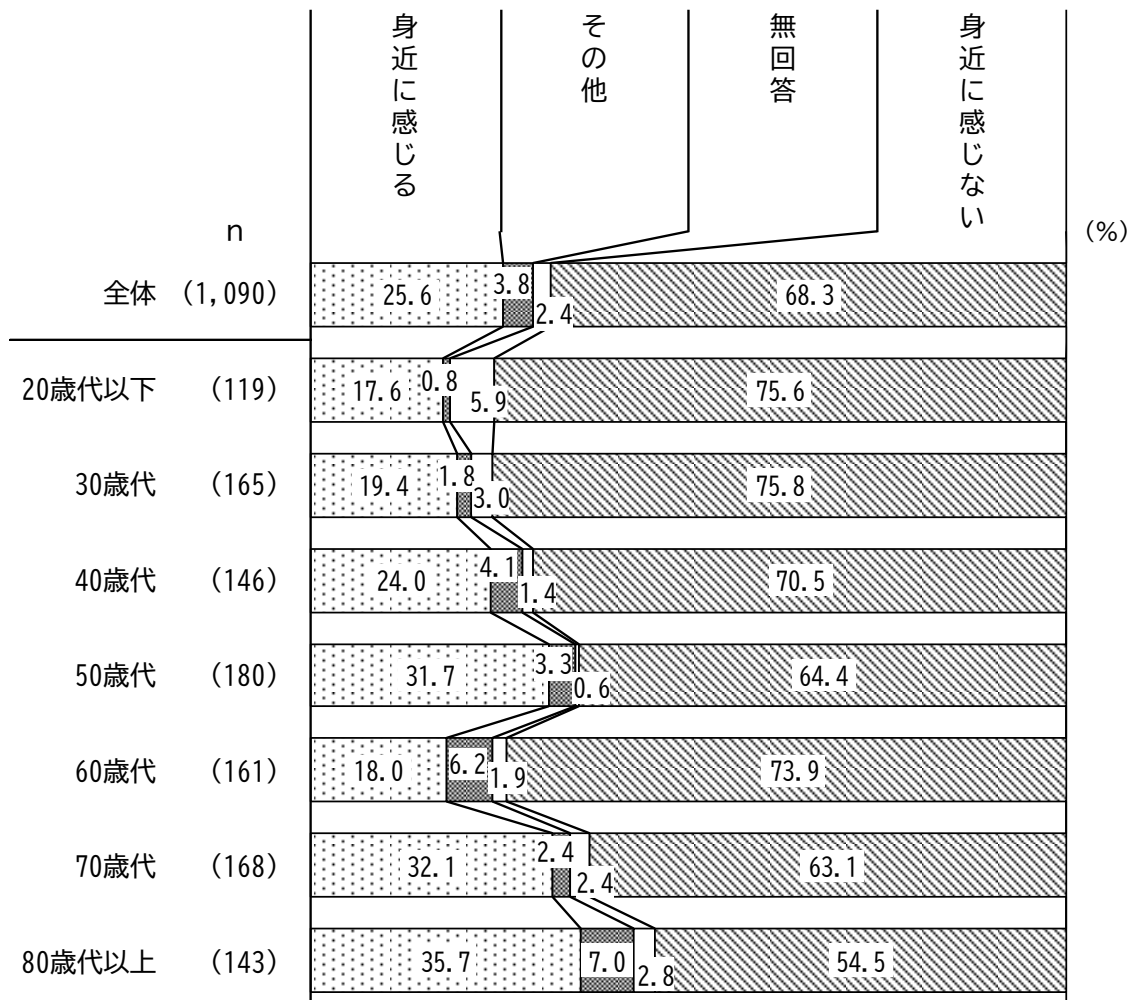
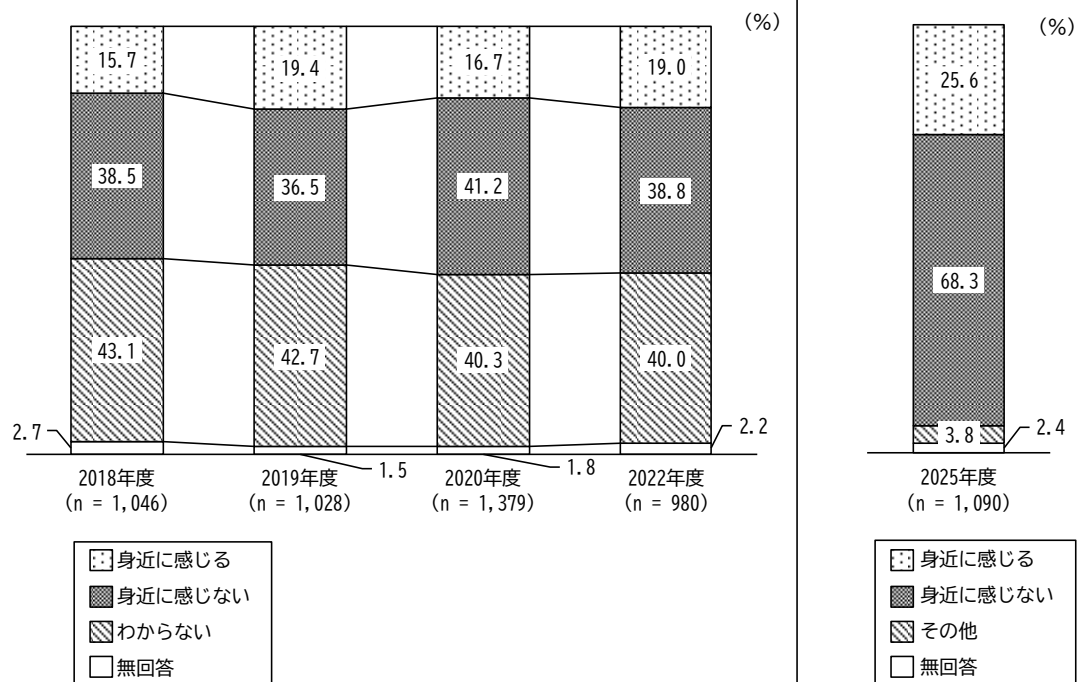


図 4-4 区民活動センターの身近さ

区民活動センターの身近さについては、「身近に感じない」が68.3%で最も高く、「身近に感じる」が25.6%、「その他」が3.8%となっている。年代別でみると、50歳代と70歳代以上では「身近に感じる」が3割台と、他の年代と比較して高くなっている。



※2025 年度は一部選択肢の内容を変更したため、2022 年度以前の結果は参考として掲載する。

図 4-5 【経年比較】区民活動センターの身近さ

4.3 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

◆犯罪被害者やその家族に対する相談窓口を<知っている>は3割半ば

(全員の方に)

問 51 犯罪被害者やその家族に対する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

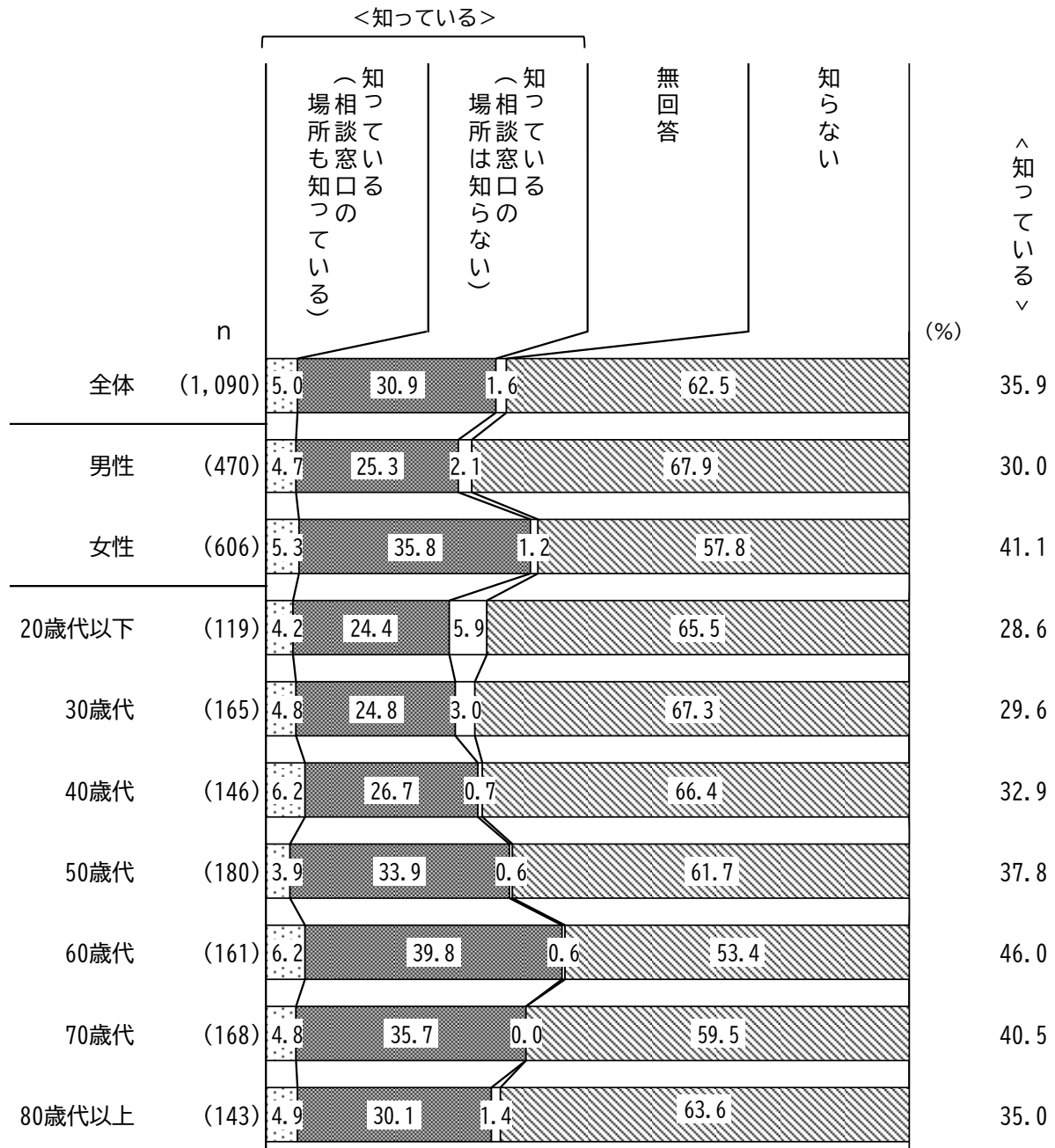
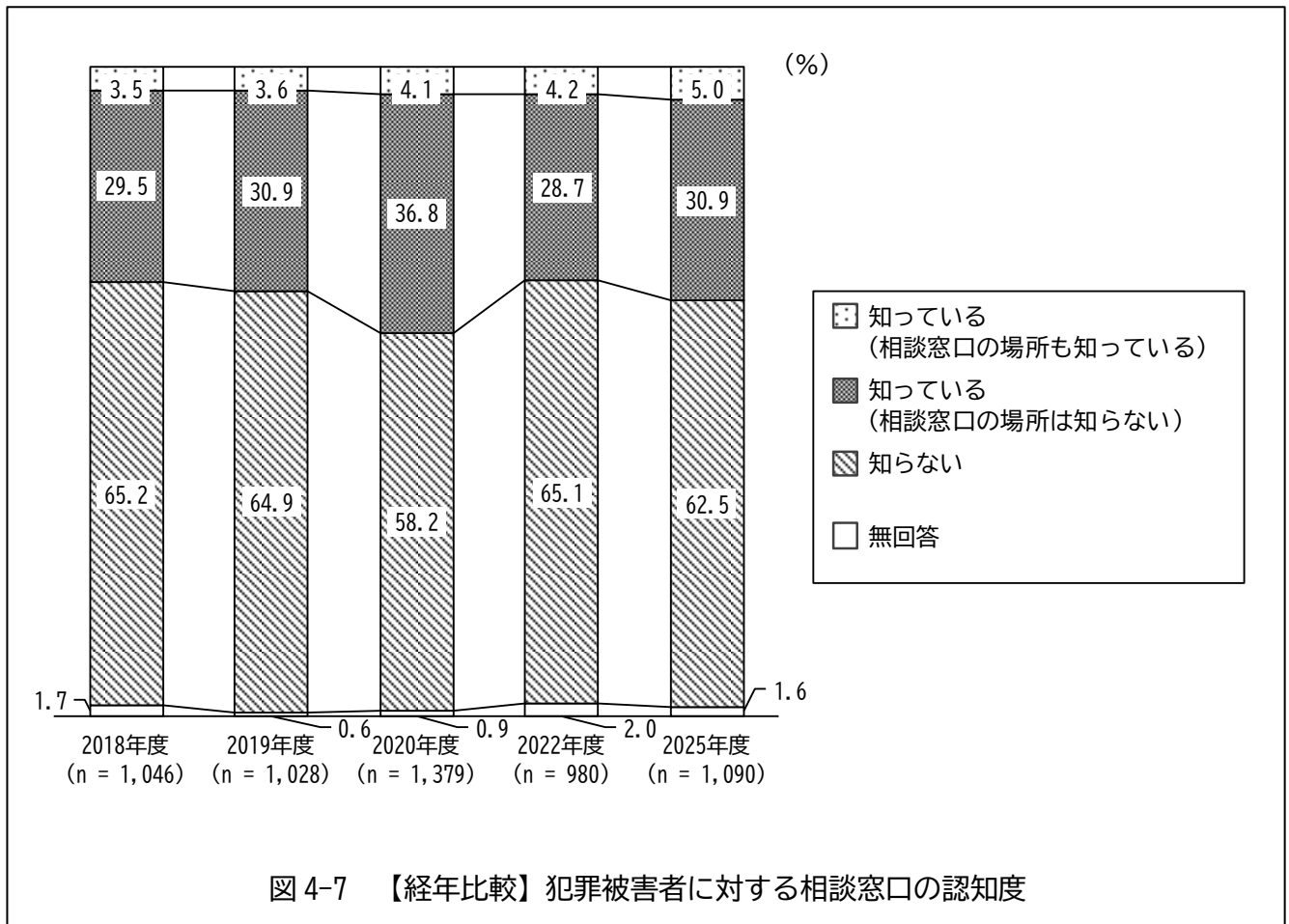


図 4-6 【性・年代別】犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

犯罪被害者やその家族に対する相談窓口の認知度は、「知っている（相談窓口の場所も知っている）」（5.0%）と「知っている（相談窓口の場所は知らない）」（30.9%）を合わせた<知っている>で35.9%となっている。性別にみると、<知っている>で女性（41.1%）が男性（30.0%）を約11ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は60～70歳代で4割台と、他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、2022 年度と大きな差異はみられない。

5 その他

5.1 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

（全員の方に）

問 52 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望・意見を自由に記入していただいたところ、213 人の方から回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

本調査について 78 件

- 自然と健康福祉に触れられるような制度などができると嬉しいです。ぜひ、回答を活用いただければと思います。（30 歳代）
- 知らないことが多いので、知らなければいけないと思うが、言葉も知らないので調べ方もわからない、と感じた。（40 歳代）
- 調査の結果がどの様に反映されるのかアンケートが形骸化しない事を願う。また項目が多すぎる感あり、加えて郵便代削減の為最初からインターネットにより対象者を増やした方がいいと思う。必ず回答を得られる様な仕組みを工夫すべき。（50 歳代）
- 回答することで、今後の健康福祉行政などの参考になり、役立ってもらえるとありがたいと思います。このような調査には、積極的に参加していきたいと思っておりますので、底力ではありますが、全ての人が幸福な暮らしが出来ますよう願っています。（50 歳代）
- 調査は大変良いと思います。内容を精査し、より充実したものにし、有意義な利用をお願いします。（60 歳代）
- 今回知らないことが沢山ありました。生活していくうえで、福祉相談、支援が必要になった時に調べて知ったり、相談することになるのだと思いました。あわてないで事前に知っておくことは、大切だと思いました。（60 歳代）
- この様な調査が行なわれている事をはじめて知りました。この機会にいろいろ考えて良い経験でした。近くにすこやかセンターがあり、たびたびいろいろと利用させてもらっています。（町会、スポーツ等）（70 歳代）

高齢福祉・介護・介護保険について 23 件

- 高齢者が増加し、親を施設に入所させたくとも都内の費用は高く、引き取ることも難しいと考えています。現実的に中野区は若者向けの物件が多く、町はバリアフリーとはいかず高齢になった時住み続けることは難しいと思います。世帯向けの物件も少なく、正直高齢者には住みづらいです。（40 歳代）
- 介護をしていると日々本当に大変で疲れているのですが、様々な更新の事務手続きもしなくてはいけないので負担です。少しでも（介護保険の更新や難病受給者証の更新など）簡単になるとありがたいです。（50 歳代）
- 元気な前期高齢者向けの施策も検討して欲しい。（60 歳代）
- 単身世帯の高齢化が進み、今後介護保険申請が増加し続けると思います。初めて申請して被保険者となった場合のケアマネ選びは本人か家族に任されているのが現状ですか、知識のない者が選択決定するのは難しいと思います。包括支援センターも特定のケアマネを推薦出来ないようですし、何か良い方法はないでしょうか？（70 歳代）
- 身よりのない高齢者支援の決起が早く出来る事を望みます。死亡した時の保証人問題（70 歳代）
- 今後高齢者（80 才以上の方々）がますます増加します。私もその 1 人であります。行政府である中野区としても高齢者の見守りをますます重視してもらいたい。（80 歳代以上）

健康づくり・スポーツ施設や公園等について 11 件

- 未就学児向けのスポーツ教育などを充実してほしいです。(20 歳代以下)
- 私はスポーツ・運動を定期的に行うことがすごく大切なことだと感じています。そこで、すべての世代を対象としたスポーツイベント等をもっと企画していただくと、健康の促進にもつながりますし、地域とのつながりもできるため非常によろしいのかなと思います。(20 歳代以下)
- スポーツ関連の質問が、箱物など多額の公金を要する運動に偏っている。区民の健康増進が目的であれば、施策はヨガなどの家庭でできる運動でもよいはずである。その方向でとる施策としては、そういう動画を紹介したり、他自治体が既に実施した試みを紹介・採用したりということがあげられる。(20 歳代以下)
- 仕事終わりにスポーツができる施設を増やしていただきたいです。(30 歳代)
- こどもの運動不足が気になります。こどもが運動できる施設やイベント教室を増やしてほしい。小学校の放課後にスポーツ教室やイベント、体育館開放など学校で開催してほしい。(40 歳代)
- 気軽に運動が出来る場所が少ないので作って欲しいです。(50 歳代)

障害福祉について 6 件

- 特に精神障がいについては他人から理解されない。手帳を持っても、後めたくて使えない。目に見えないから困難さが伝わらない。どうやって障がい者差別を解消しますか？(30 歳代)
- 40 代後半に罹った ALS の夫との生活が5年以上経過しましたが、介護・医療・看護の支援のおかげで妻の私は仕事を辞めることなく過ごせています。ただ、病状がよくなるしない疾病いわゆる難病についての特定医療費控除等の更新手続きを、毎年、同内容で行うことに不便を感じます。申請に添付必須の診断書への作成にも料金がかかります。しかも診断書の内容は昨年度の複写です。改善をお願いしたいです。(50 歳代)
- 障害者がせっかく就職できても、周りの人の無理解によって仲間はずれにされたりして辞めざるを得なかった事を聞きます。障害者が職場では生かされるような支援を行政が考え企業や職場に啓発して頂きたい。(70 歳代)

医療・健診（検診）について 6 件

- 高齢者以外にも新型コロナワクチン接種費用の公的助成をお願いします。(40 歳代)
- 保険料が今後どれくらい高くなるか不安。健康保険の破綻が心配。(50 歳代)
- 区が行なう、健康診断の場所が少ない。人間ドック、脳ドックなども行なえると良い（手軽な金額で）。(60 歳代)
- 民間ではなく区営の診療施設を作って欲しい。(60 歳代)
- 区民健康診断の胃がん検診や大腸ガン検診を内視鏡検査を取り入れてほしい。(70 歳代)

地域活動について 3 件

- ボランティアに頼る福祉は限界があると思う。行政のすべきこととして区別してほしい (40 歳代)
- 私を含め他人と付き合う事が苦手な人がとても増えたなど日々感じています。私は生まれる前から両親が自営業をやっているため昔から付き合いのあるご近所さんはいますが、新しく引っ越してきた方々は知りませんし関心がないです。この状況を少しでも改善してネグレクトやご飯が食べられない子、障害のある方が孤立しないようにしてほしいと思います。(40 歳代)
- 家族がいる高齢者はまだいいのですが、高齢に限らず一人暮らしの方や近所付き合いがほとんどない方（家庭）などの緊急時に何かサポートができる体制（公的なもので）があれば（作れば）良いと考えます。ボランティア精神などという大げさなものではなくても、迷惑でなければ何かお手伝いしたいと考える住民もいますので… (70 歳代)

その他 86 件

- 健康福祉行政全般で日本で暮らす外国人に対する対応を改善させてほしいです。(30 歳代)
- 様々な相談窓口について、詳細は知りませんが、困った時に調べればそういう相談する場所はあるだろうことは知っています。実際に使用することがあったら自身のなやみを否定されることなく差別されることなく、相談員と話せることをいのります。相談員の方、窓口担当者はファーストコンタクトする方たちなので、その方達の教育、トレーニングをしっかりして欲しいです。(40 歳代)
- 健康福祉は多岐に渡り、考慮や配慮も多い大変なお仕事だと思いますが、引き続き区民のための行政をお願いします。(40 歳代)
- 福祉業界で働いている人々の離職者を減らす為に賃金UPなど、働きやすい環境が出来れば、利用者が増えても、より良い制度が受けられると思います。これから自分が年金生活者になった時に安心した生活と、余裕のある暮らしが出来る中野区を目指して頂きたいです。(40 歳代)
- それぞれの困った時に相談して解決にみちびいてくれる窓口があって、ということを一目でわかような冊子や案内があればいいと思います。相談窓口を調べたり足を運ぶのもおっくうな場合もあると思うから。(50 歳代)
- 今回知らないことが沢山ありました。生活していくうえで、福祉相談、支援が必要になった時に調べて知ったり、相談することになるのだと思いました。あわてないで事前に知っておくことは、大切だと思いました。(60 歳代)
- 困った時、どこへ相談に行ったらいいか、知っていることで安心した生活が送れると思います。区報での啓発はありがたいと思います。(60 歳代)
- 相談機関のメニューや所在がわからない。うつ病対策で、働くことのできない、続かない若者世代にも、目を向けて欲しい。(60 歳代)
- 区健康福祉行政について見やすく分かりやすい冊子みたいながあると便利と思います。コンパクトに分かりやすく連絡できる冊子があると便利と思います。(70 歳代)
- 各種相談窓口はたくさんあるみたいだが、本当に機能しているのか充分検証していただきたい。(70 歳代)
- 現在も介護のパートにて勤務していますが、高齢者も障害者もちろん健常者も生きていくのは大変な社会だと思います。自分自身もいろいろな相談窓口で対応させていただきましたが、やはり同じ経験したピアカウンセリングが1番良かったような気がします。(70 歳代)
- 最近区役所に行き車椅子を借りて妻が押して周りましたが、中野駅方面から行くと車寄せもなく、車椅子貸出返却も不便、車寄せと称する所にも椅子もなく帰りも難儀しました。健康福祉のモデルとして高齢者障害者が利用しやすくして欲しいと思いました。これは福祉行政にとって象徴的なのではないのでしょうか。(70 歳代)
- 結局のところ、誰しも普段の生活が特に問題なく送れている場合、何かことが起こって自分自身に関係してこない限りは興味を持って深く調べたり関わったりすることはないように思う。バックアップ体制が重要であることは理解しているが。(70 歳代)
- 年齢と共に少しの段差などが気になります。そこで1、歩道の敷石は見た目はきれいでもつまずきやすい(アスファルトに印刷などは…) 2、横断歩道は歩道より低い、そうではなく車道を高くし、歩道から段差なく渡れるように(都立多摩総合医療センターは正面玄関前一部そうになっている)(70 歳代)
- 福祉行政でケアマネさんにお世話になり、ありがとうございます。個人情報漏れを止めるのは大切ですが、当人の事を身内同様に心配したり、よく知っている人には、何処に入所して、どうしているかを知らせてもらいたい。最期のお別はしたいです。私の知人で、毎月我家に来て、楽しく過ごした方(女性)が認知症になられてからは、何も知らされず、亡くなられた事を知って聞いても、信じられず、又来てくれるような気がしています。(80 歳代以上)

IV 調査票と単純集計

れい わ ねん ど ねん ど
令和7年度（2025年度）
 けんこうふく し かん い し きちよう さ
健康福祉に関する意識調査
 ちょう さ ひょう
調 査 票

ちょうさ きにゅう ねが
【調査のご記入にあたってのお願い】

- この調査は、できる限りあて名のご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場になってお答えください。
- 令和7年8月1日現在の状況でお答えください。
- 名前・住所を書いていただく必要はありません。
- ご記入は、必ず黒か青のボールペン又は鉛筆で、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
- 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
- 「その他（ ）」に○印をつけた場合は、（ ）の中に具体的な内容をご記入ください。
- 回答方法

ゆうそう かいとう
【郵送による回答】

ほんちようさひよう どうふう へんしんようふうとう きってふよう い ゆうそう
 本調査票を同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。

かいとう
【インターネットによる回答】

みぎ にじげん よ と かいとうよう にゅうりよく
 右の二次元コードを読み取るか、回答用URLを入力して、
 さいしょ がめん にゅうりよく
 最初の画面でIDとパスワードを入力し、ログインして
 ください。

※二次元コードを読み取ると、ID・パスワードが自動的に入力されます。

※回答用URL: <https://www.cz-wee.com/if/r7nakanokfq.php>

かいとうきげん ゆうそう きようつう
【回答期限（郵送・インターネット共通）】

れい わ ねん ねん がつ にち きんようび
令和7年（2025年）10月10日（金曜日）

と あ さき
【お問い合わせ先】

なかのくけんこうふくし ぶ ふくしすいしんか けんこうふくしきかくがかり
中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係

TEL. 03-3228-5421 FAX. 03-3228-5662

E-mail kenkofukusikikaku@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に（全員のの方に）と記載のあるものは全員のの方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます》

（全員のの方に）＜回答者数：1,090＞

（1） あなたの性別は、どちらですか。（○は1つ）

1. 男性(43.1%) 2. 女性(55.6%) 3. その他(0.6%) 無回答(0.7%)

（全員のの方に）＜回答者数：1,090＞

（2） あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

1. 18歳・19歳(0.6%) 2. 20歳代(10.3%) 3. 30歳代(15.1%) 4. 40歳代(13.4%)
5. 50歳代(16.5%) 6. 60～64歳(8.0%) 7. 65～69歳(6.8%) 8. 70～74歳(7.5%)
9. 75～79歳(7.9%) 10. 80～84歳(6.4%) 11. 85～89歳(4.1%) 12. 90歳以上
(2.6%)無回答(0.7%)

（全員のの方に）＜回答者数：1,090＞

（3） あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。

（○は1つ。複数ある方は、主なもの1つに○）

1. 正規の職員・従業員(37.5%) 2. 労働者派遣事業所の派遣社員(2.0%)
3. パート・アルバイト・契約社員・嘱託(14.9%) 4. 自営業主・家族従事者(10.0%)
5. 学生(2.1%) 6. 家事専業(11.0%)
7. 無職(19.2%) 8. その他(2.5%) 無回答(0.8%)

（全員のの方に）＜回答者数：1,090＞

（4） あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1. 単身世帯（一人暮らし）(30.5%) 2. 夫婦のみ世帯(24.0%)
3. 2世代世帯（親と子）(34.8%) 4. 3世代世帯（親と子と孫）(4.3%)
5. その他の世帯(5.4%) 無回答(1.0%)

((4) で、「3. 2世代世帯(親と子)」「4. 3世代世帯(親と子と孫)」「5. その他
の世帯」に○をつけた方に) <回答者数: 485>

(5) あなたの世帯に18歳未満の子どもはいますか。(○は1つ)

1. はい(38.1%) 2. いいえ(60.2%) 無回答(1.6%)

(全員のの方に) <回答者数: 1,090>

(6) あなたは日常的に家族の介護をしていますか。(○は1つ)

1. はい(6.7%) 2. いいえ(89.7%) 無回答(3.6%)

(全員のの方に) <回答者数: 1,090>

(7) お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建て)(38.1%)
2. 持ち家(分譲マンション等の集合住宅)(20.0%)
3. 公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)(3.0%)
4. 民営の賃貸住宅(33.5%)
5. 社宅、社員寮、公務員住宅(2.5%)
6. その他(2.0%) 無回答(0.9%)

(全員のの方に) <回答者数: 1,090>

(8) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(○は1つ)

1. 1年未満(5.0%) 2. 1年以上5年未満(16.1%)
3. 5年以上10年未満(11.2%) 4. 10年以上20年未満(17.9%)
5. 20年以上(48.8%) 無回答(0.9%)

(全員のの方に) <回答者数: 1,090>

(9) あなたがお住まいの地域はどこですか。(○は1つ)

1. 南台(7.4%) 2. 弥生町(6.1%) 3. 本町(8.1%) 4. 中央(8.3%)
5. 東中野(7.2%) 6. 中野(10.5%) 7. 上高田(6.3%) 8. 新井(5.5%)
9. 沼袋(3.6%) 10. 松が丘(1.5%) 11. 江原町(2.4%) 12. 江古田(3.8%)
13. 丸山(1.6%) 14. 野方(6.6%) 15. 大和町(4.6%) 16. 若宮(3.1%)
17. 白鷺(2.7%) 18. 鷺宮(5.5%) 19. 上鷺宮(4.0%) 無回答(1.4%)

ちい きかつどう
《地域活動についておたずねします》

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 町会・自治会の活動(11.7%) | 2. ボランティア活動(4.1%) |
| 3. スポーツ関係の活動(4.4%) | 4. 趣味関係の活動(5.0%) |
| 5. 学習・教養サークルの活動(2.5%) | 6. その他(2.6%) |
| 7. 参加していない(75.2%) | 無回答(1.5%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問2 あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている(10.8%) | |
| 2. 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう(4.8%) | |
| 3. たまに世間話する程度(19.6%) | 4. 顔を合わせたときに会釈する程度(42.2%) |
| 5. つきあいがほとんどない(21.7%) | 無回答(0.9%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問3 自分には人とのつきあいがないと感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(25.3%) | 2. ほとんど感じない(35.8%) |
| 3. ときどき感じる(29.0%) | 4. 常に感じる(8.8%) |
| | 無回答(1.1%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問4 自分は取り残されていると感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(40.6%) | 2. ほとんど感じない(40.8%) |
| 3. ときどき感じる(14.4%) | 4. 常に感じる(3.0%) |
| | 無回答(1.2%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問5 自分は他の人から孤立していると感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(40.1%) | 2. ほとんど感じない(40.6%) |
| 3. ときどき感じる(15.1%) | 4. 常に感じる(2.9%) |
| | 無回答(1.2%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問6 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できるのは誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 配偶者・パートナー(51.2%) | 2. 子(25.7%) |
| 3. 親・祖父母(25.4%) | 4. 兄弟姉妹(27.7%) |
| 5. その他親族(6.7%) | 6. 知人・友人(56.0%) |
| 7. 職場の人(22.1%) | 8. 加入団体の仲間(4.4%) |
| 9. ネット上の知り合い(2.8%) | 10. その他(3.0%) |
| 11. そのような人はいない(4.1%) | 無回答(1.2%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問7 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 自治会・町会(4.5%) | 2. 民生委員・児童委員(3.1%) |
| 3. 社会福祉協議会(1.8%) | 4. 区役所等の公的機関(15.5%) |
| 5. 精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家(6.4%) | |
| 6. 精神科以外の医師や弁護士等の専門家(6.8%) | |
| 7. その他(5.6%) | 8. そのような人はいない(62.1%) |
| | 無回答(2.4%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問8 あなたは、地域で生活していくうえで、近隣同士のどのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 日常的な声かけ(47.0%) |
| 2. 生活の様子の気配り(ポストに新聞や手紙がたまっていないか等)(34.8%) |
| 3. 異変を感じた時の区役所等への連絡(39.0%) |
| 4. ちょっとしたお手伝い(ごみ捨て等)(25.3%) |
| 5. 見守り・支えあい活動は必要だと思わない(6.2%) |
| 6. わからない(14.9%) |
| 無回答(1.6%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問9 あなたは、近隣^{きんりん}同士の日常的な^{にちじょうてき}声かけなどの見守り・^{みまも}支えあい活動^{かつどう}をしていますか。
(○は1つ)

- | | |
|---|-----------|
| 1. 継続 ^{けいぞくてき} 的に活動 ^{かつどう} している(13.2%) | |
| 2. 活動 ^{かつどう} したことがある(13.7%) | |
| 3. 活動 ^{かつどう} していないが、これから活動 ^{かつどう} してみたい(34.4%) | |
| 4. 活動 ^{かつどう} していないし、これからも活動 ^{かつどう} したいと思 ^{おも} わない(37.0%) | 無回答(1.7%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問10 あなたは、地域^{ちいき}の子どもに対する見守り・^{みまも}支えあい活動^{かつどう}をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 困 ^{こま} っているときに、相談 ^{そうだん} にのったり、子どもを預 ^{あず} かったりする等、している(2.1%) | |
| 2. 子どもを対象 ^{たいしょう} とした地域 ^{ちいき} の活動 ^{かつどう} にスタッフとして参加 ^{さんか} している(2.9%) | |
| 3. 通学 ^{つうがくちゅう} 中の子どもに声かけ ^{こえ} をしている(4.7%) | |
| 4. あいさつをしている(22.7%) | |
| 5. その他 ^た (2.0%) | |
| 6. 特 ^{とく} に何もしてない(71.2%) | 無回答(1.0%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問11 地域^{ちいき}には、住民^{じゅうみん}同士の交^{こう}流^{りゅう}の場^ば所^{しょ}や機^き会^{かい}がありますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------|----------------------|-----------|
| 1. ある(14.9%) | 2. どちらかといえばある(21.0%) | |
| 3. どちらかといえばない(20.4%) | 4. ない(42.8%) | 無回答(1.0%) |

(全員の方向に) <回答者数：1,090>

問12 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。
(○は3つまで)

1. 障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動(24.3%)
2. ボランティア活動の育成・支援(14.0%)
3. 障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実(26.9%)
4. 職業訓練の充実、就労の機会の確保(23.9%)
5. 保健医療サービス・リハビリテーションの充実(17.2%)
6. 年金や手当の充実(18.1%)
7. 相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実(26.1%)
8. 福祉機器や情報機器の開発・普及(4.4%)
9. 障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備(24.3%)
10. 点字や手話、字幕放送等による情報提供の充実(4.0%)
11. 民間住宅のバリアフリー化の普及促進(6.3%)
12. スポーツや文化活動・交流活動の推進(6.9%)
13. グループホーム等居住の場の整備、入居支援(12.1%)
14. 災害時の救出・救護体制の整備(24.2%)
15. その他(1.2%) 16. 特にない(2.7%) 17. わからない(7.0%) 無回答(2.0%)

(60歳以上の方) <回答者数：472>

問13 高齢者会館(いこいの家も含む)では、様々な自主活動、健康づくりや介護予防の講習会や、施設の貸し出しもしています。

あなたは高齢者会館を利用したことがありますか。(○は1つ)

1. よく利用している(6.4%) 2. 一度(数回)あり現在は利用していない(6.4%)
3. あまり利用していない(5.3%) 4. 全く利用したことがない(79.2%)
- 無回答(2.8%)

(問13で「3. あまり利用していない」「4. 全く利用したことがない」に○をつけた方に)

<回答者数：399>

問13-1 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 高齢者会館を知らなかったから(30.8%) 2. 活動内容が分からないから(33.8%)
3. 行く必要を感じないから(52.6%) 4. 行く時間がないから(15.8%)
5. 遠いから(4.0%) 6. 参加したい催しや活動がないから(11.5%)
7. 知り合いがいないから(16.3%) 8. その他(4.3%) 無回答(2.0%)

いりよう けんこう
《医療・健康についておたずねします》

ぜんいん かた
(全員のの方に) <回答者数：1,090>

とい 問14 あなたは、げんざい けんこうじょうたい かん
現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 1. けんこう
健康である(33.2%) | 2. どちらかといえばけんこう
健康である(47.0%) |
| 3. どちらかといえばけんこう
健康でない(12.1%) | 4. けんこう
健康でない(5.4%) 無回答(2.3%) |

ぜんいん かた
(全員のの方に) <回答者数：1,090>

とい 問15 あなたは、うんどう スポーツを ねんいじょうつづ 1年以上続けていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|-----------|
| 1. ねんいじょう
1年以上(40.8%) | 2. ねんみまん
1年未満(51.0%) | 無回答(8.2%) |
|--------------------------|-------------------------|-----------|

ぜんいん かた
(全員のの方に) <回答者数：1,090>

とい 問15-1 あなたは、うんどう スポーツをどこで おこな
行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1. こうえん
公園(14.9%) | 2. ゆうほどう
遊歩道(18.8%) |
| 3. くゆうしせつ たいいくかん
区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)(12.7%) | |
| 4. こうれいしゃしせつ
高齢者施設(高齢者会館等)(2.9%) | 5. みんかん
民間スポーツクラブ(18.7%) |
| 6. おくがい じてんしゃりよう
屋外で自転車利用(17.1%) | 7. その他(26.3%) 無回答(12.9%) |

ぜんいん かた
(全員のの方に) <回答者数：1,090>

とい 問15-2 うんどう スポーツを おこな
行っていない理由として りゆう もっと
最もあてはまるものをお選びください。
(○は1つ)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1. じかん
時間がないから(21.0%) | 2. きかい
機会がないから(9.0%) |
| 3. しせつ ばしょ りようじかんたい あ
施設や場所の利用時間帯が合わないから(2.8%) | |
| 4. しせつ ばしょ ちか
施設や場所が近くにないから(5.3%) | 5. かね
お金がかかるから(5.4%) |
| 6. たいりよくてき むずか
体力的に難しいから(7.0%) | 7. うんどう す
運動することが好きではないから(9.1%) |
| 8. いっしょ うんどう ひと
一緒に運動する人がいないから(2.5%) | 9. しどう ひと
指導してくれる人がいないから(0.9%) |
| 10. うんどう ひつよう かん
運動するの必要を感じないから(4.6%) | 11. その他(7.8%) 無回答(24.6%) |

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問16 この1^{ねんかん}年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・^{たいいくかん}沿道^{えんどう}などで
 実際^{じっさい}にスポーツを^{かんせん}観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|---|
| 1. 野球 ^{やきゅう} (17.6%) | 2. サッカー、フットサル(7.6%) |
| 3. バスケットボール(3.7%) | 4. バレーボール(2.5%) |
| 5. 卓球 ^{たっきゅう} (1.9%) | 6. テニス(2.2%) |
| 7. バドミントン(1.5%) | 8. ラグビー(2.8%) |
| 9. 陸上競技 ^{りくじょうきょうぎ} (3.8%) | 10. マラソン、 ^{えきでん} 駅伝(3.9%) |
| 11. 水泳 ^{すいえい} (1.6%) | 12. 柔道 ^{じゅうどう} 、 ^{けんどう} 剣道、 ^{からて} 空手(1.0%) |
| 13. ボクシング、レスリング、その他格闘技 ^{たかくとうぎ} (1.3%) | 14. その他 ^た (3.4%) |
| 15. 観戦 ^{かんせん} しなかった(61.1%) | 無回答(4.5%) |

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問17 あなたは、区^くのスポーツ施策^{しやく}や区立^{くりつ}のスポーツ施設^{しせつ}について、何か望む^{なにのぞ}ことはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. 初心者^{しよしんしゃ}向けのスポーツ教室^{きょうしつ}やスポーツ行事^{ぎやうじ}の充実^{じゅうじつ}(20.8%)
2. 障害^{しょうがい}のある人^{ひと}が参加^{さんか}しやすいスポーツ教室^{きょうしつ}やスポーツ行事^{ぎやうじ}の充実^{じゅうじつ}(7.3%)
3. 高齢者^{こうれいしゃ}が参加^{さんか}しやすいスポーツ教室^{きょうしつ}やスポーツ行事^{ぎやうじ}の充実^{じゅうじつ}(20.8%)
4. 子育て世代^{こそだ}が参加^{さんか}しやすいスポーツ教室^{きょうしつ}やスポーツ行事^{ぎやうじ}の充実^{じゅうじつ}(13.9%)
5. 働き盛り^{はたら}の世代^{ざい}が参加^{さんか}しやすいスポーツ教室^{きょうしつ}やスポーツ行事^{ぎやうじ}の充実^{じゅうじつ}(15.0%)
6. 民間企業等^{みんかんきぎやうとう}と連携^{れんけい}したスポーツ教室^{きょうしつ}やスポーツ行事^{ぎやうじ}の充実^{じゅうじつ}(9.4%)
7. 体力測定等^{たいりよくそくていとう}の健康指導^{けんこうしどう}(16.8%)
8. 地域^{ちいき}のスポーツ団体^{だんたい}、クラブへの支援^{しえん}(5.2%)
9. 指導者^{しどうしゃ}の育成^{いくせい}・支援^{しえん}(4.9%)
10. スポーツボランティアの育成^{いくせい}・支援^{しえん}(4.9%)
11. 利用^{りよう}手続き^{てつづ}の簡素化^{かんそか}や利用時間^{りようじかん}の拡大^{かくだい}(^{そうちやう}早朝^{やかんとう}、^{せつ}夜間等)などスポーツ施設^{しせつ}の
 利便性^{りべんせい}の向上^{こうじやう}(21.2%)
12. スポーツに関する広報^{かんこうほう}の充実^{じゅうじつ}(7.7%)
13. 新規^{しんき}スポーツ施設^{しせつ}の整備^{せいび}(11.0%)
14. 既存^{きぞん}スポーツ施設^{しせつ}のメンテナンス・リニューアル(10.5%)
15. 高齢者^{こうれいしゃ}や障害^{しょうがい}のある人^{ひと}に配慮^{はいりょ}した施設^{しせつ}・設備^{せつび}の整備^{せいび}(13.3%)
16. その他^た(4.2%)
17. 特にない^{とく}(26.5%)

無回答(3.3%)

— IV 調査票と単純集計 —

(^{ぜんいん}全員の方)に) <回答者数：1,090>

問18 パラリンピックや^{しょうがいしゃ}障害者スポーツ（ユニバーサルスポーツ）を^{りかい}理解し^{ひろ}広めるために、
区はどのようなことを^{おも}重点的に行^{おこな}えば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. パラリンピック^{きょうぎしゆもくどう}競技種目等の^{しょうがいしゃ}障害者スポーツ体験イベントの実施(45.7%)
2. パラリンピアンなど、^{しょうがいしゃ}障害者スポーツのアスリート等による^{こうえんかいどう}講演会等の実施(17.9%)
3. ^{しょうがいしゃ}障害者スポーツに関する^{かん}展示会等の実施(8.4%)
4. ^{くほう}区報やホームページ等に^{しょうがいしゃ}障害者スポーツを紹介するなどの^{ふきゅう}普及・^{せんでんかつどう}宣伝活動(49.4%)
5. その他(5.5%) 無回答(8.3%)

(^{ぜんいん}全員の方)に) <回答者数：1,090>

問19 スポーツ・ボランティア活動として^{かんしん}関心のある^{ないよう}内容がありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. ^{くない}区内スポーツイベント等の^{とう}専門ボランティア（^{しんぱん}審判、^{つうやく}通訳、^{きゅうご}救護など）(5.5%)
2. ^{くない}区内スポーツイベント等の^{とう}一般ボランティア（^{あんない}案内、^{うけつけ}受付、^{うんぱん}運搬など）(17.2%)
3. イベント当日以外のボランティア（^{こうほう}広報、^{しより}データ処理など）(8.1%)
4. ^{くない}区内スポーツ^{かつどう}活動の^{しどうしゃ}指導者やコーチ(5.6%)
5. ^{くない}区内のスポーツ選手を^{せんしゆ}応援などで^{おうえん}支えるボランティア(11.0%)
6. その他(1.3%)
7. ^{とく}特にない(60.6%) 無回答(5.2%)

(^{ぜんいん}全員の方)に) <回答者数：1,090>

問20 あなたは、1日^{にち}にどのくらいの^{じかん}時間を^{ざいしせい}座位姿勢で^す過ごしていますか。（○は1つ）

- | | |
|---|--|
| 1. 1時間未満 ^{じかんみまん} (4.7%) | 2. 1時間以上3時間未満 ^{じかんいじょう じかんみまん} (16.1%) |
| 3. 3時間以上5時間未満 ^{じかんいじょう じかんみまん} (23.8%) | 4. 5時間以上7時間未満 ^{じかんいじょう じかんみまん} (22.9%) |
| 5. 7時間以上9時間未満 ^{じかんいじょう じかんみまん} (15.6%) | 6. 9時間以上 ^{じかんいじょう} (14.6%) 無回答(2.3%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問21 あなたが、最近1年間で関わった、スポーツを支える活動は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもの運動部活動やスポーツ団体等の運営や支援(審判、指導者、チームの運営役員など) (2.4%)
2. 成人を中心としたスポーツ団体等の運営や支援(審判、指導者、チームの運営役員など) (1.6%)
3. スポーツ選手・チームの応援(試合会場で応援活動など) (9.2%)
4. 仕事としてスポーツに関わっている(インストラクター、教員、スポーツ用品販売員、イベント会社勤務など) (2.2%)
5. スポーツイベントのボランティア(スポーツ大会などの不定期な活動) (1.7%)
6. スポーツイベントの募金や寄付、オークションなどのチャリティー活動(0.9%)
7. 活動していない(82.3%) 無回答(3.1%)

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問22 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 朝食を毎朝欠かさず食べる(59.9%)
2. 家族そろって食事をする(20.3%)
3. 栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている(55.7%)
4. 国産品や地場産品の購入に努めている(28.5%)
5. 食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている(49.3%)
6. 食の安全性を重視している(37.0%)
7. 手軽さ・利便性や値段の安さを重視している(28.2%)
8. 間食をしないようにしている(17.1%)
9. その他(1.8%) 10. 特にない(5.7%) 無回答(1.8%)

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問23 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、普段から適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つ)

1. いつも気をつけて実践している(15.2%)
2. 気をつけて実践している(48.5%)
3. あまり気をつけて実践していない(26.1%)
4. 全く気をつけて実践していない(6.0%)
5. わからない(2.6%) 無回答(1.7%)

— IV 調査票と単純集計 —

(全員の^{ぜんいん}方に) ^{かた}＜回答者数：1,090＞

問24 あなたは、健康診断^{けんこうしんだん}を受けていますか。(○は1つ)

1. 毎年^{まいとし}受けている(71.5%) 2. ときどき^う受けている(12.4%)

3. ほとんど^う受けていない(14.3%)

問24-3へ

無回答(1.8%)

(問24で「1. 毎年^{まいとし}受けている」「2. ときどき^う受けている」に○をつけた^{かた}方に) <回答者数：914>

問24-1 あなたは、健康診断^{けんこうしんだん}をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 職場^{しょくば}や健康保険組合^{けんこうほけんくみあい}の健康診断^{けんこうしんだん}(59.2%) 2. 区^くが実施^{じっし}する健康診断^{けんこうしんだん}(32.7%)

3. 通学^{つうがく}先^{さき}で実施^{じっし}する健康診断^{けんこうしんだん}(2.5%) 4. 人間^{にんげん}ドック(11.4%)

5. その他^た(5.6%)

無回答(1.1%)

(問24で「1. 毎年^{まいとし}受けている」「2. ときどき^う受けている」に○をつけた^{かた}方に) <回答者数：914>

問24-2 健康診断^{けんこうしんだん}の結果^{けっか}をどのように活用^{かつよう}しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 前回^{ぜんかい}の結果^{けっか}と比較^{ひかく}して健康状態^{けんこうじょうたい}を確かめた^{たし}(72.9%)

2. 食事^{しょくじ}や運動^{うんどう}等の生活習慣^{せいかつしゅうかん}を見直^{みなお}した(25.4%)

3. 特定保健指導^{とくていほけんしどう}※^うを受けた(3.7%)

4. 医療機関^{いりょうきかん}に行^いって医師^{いし}に相談^{そうだん}した(27.8%)

5. すこやか福祉センター^{ふくし}で病気^{びょうき}や栄養^{えいよう}について相談^{そうだん}した(0.2%)

6. 家族^{かぞく}や友人^{ゆうじん}に結果^{けっか}を見せ^みて相談^{そうだん}した(9.4%)

7. 気になる^きことがなかった^なので何もしなかった(7.7%)

8. 気になる^きことがあった^なが何もしなかった(2.7%)

9. その他^た(0.9%)

無回答(3.4%)

※特定保健指導…メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群^{ないぞうしぼうしやうこうぐん})の早期発見^{そうきはっけん}を目的^{もくてき}とした健康診査^{けんこうしんさ}(特定健診^{とくていけん})の結果^{しん}、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群^{よびぐん}とされた人^{ひと}に対して医療保険^{いりょうほけん}者が行^{しや}う保健指導^{おこな}の^{ほけんしどう}ことです。

(問24で「3. ほとんど^う受けていない」に○をつけた^{かた}方に) <回答者数：156>

問24-3 あなたが、健康診断^{けんこうしんだん}を受け^うなかった理由^{りゆう}は何^{なん}ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 時間^{じかん}がないため(21.2%)

2. 費用^{ひよう}がかかるため(25.0%)

3. 面倒^{めんどう}なため(35.9%)

4. 病気治療^{びょうきちりょう}を継続^{けいぞく}しているため(23.7%)

5. 健康診断^{けんこうしんだん}を行^{おこな}っていることを知らなかったため(5.1%)

6. 健康診断^{けんこうしんだん}を信用^{しんよう}していないため(7.7%) 7. 悪い結果^{わる}が出^でると不安^{ふあん}になるため(8.3%)

8. 健康^{けんこう}なので必要性^{ひつようせい}を感じないため(19.9%)

9. その他^た(11.5%)

無回答(1.3%)

(全員の^{ぜんいん}の方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問25 あなたは、自宅^{じたく}の近く^{ちか}で診察^{しんさつ}や健康相談^{けんこうそうだん}をするかかりつけ^{かかりつけ}の診療所^{しんりょうじょ} (医院・クリニック^{いいん}) を決めて^きいますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1. 決めて ^き いる (46.6%) | 2. だいたい決めて ^き いる (24.4%) |
| 3. 決めて ^き いない (23.7%) | 無回答 (5.3%) |

(問25で「1. 決めて^きいる」「2. だいたい決めて^きいる」に○をつけた^{かた}方に) <回答者数：774>

問25-1 あなたは、かかりつけ^{かかりつけ}の診療所^{しんりょうじょ} (医院・クリニック^{いいん}) で、普段^{ふだん}から本人^{ほんにん}や家族等^{かぞくどう}の日常生活^{にちじょうせいかつ}を含めた健康^{けんこう}についてのアドバイス^うを受けて^ういますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|------------|
| 1. 受けて ^う いる (53.9%) | 2. 受けて ^う いない (45.0%) | 無回答 (1.2%) |
|--------------------------------|---------------------------------|------------|

(全員の^{ぜんいん}の方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問26 あなたは、この1年間^{ねんかん}、歯科健診^{し かけんしん}を受け^うましたか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|------------|
| 1. 受けた ^う (60.1%) | 2. 受けて ^う いない (36.1%) | 無回答 (3.9%) |
|-----------------------------|---------------------------------|------------|

(問26で「1. 受けた^う」に○をつけた^{かた}方に) <回答者数：655>

問26-1 あなたは、歯科健診^{し かけんしん}をどこで受けて^ういますか (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|---|
| 1. 職場 ^{しょくば} の歯科健診 ^{し かけんしん} (3.1%) | 2. 区 ^く が実施 ^{じっし} する歯科健診 ^{し かけんしん} (7.6%) |
| 3. 通学先 ^{つうがくさき} で実施 ^{じっし} する健康診断 ^{けんこうしんだん} (0.3%) | 4. かかりつけ ^{かかりつけ} の歯科医 ^{し かい} (91.0%) |
| 5. その他 ^た (1.4%) | 無回答 (0.3%) |

(問26で「2. 受けて^ういない」に○をつけた^{かた}方に) <回答者数：393>

問26-2 あなたが、歯科健診^{し かけんしん}を受診^{じゆしん}しなかった理由^{りゆう}は何^{なん}ですか (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1. 時間 ^{じかん} がないから (27.0%) | 2. 費用 ^{ひよう} がかかるから (17.8%) |
| 3. 面倒 ^{めんどう} だから (27.5%) | 4. かかりつけ ^{かかりつけ} の歯科医 ^{し かい} で治療 ^{ちりょうちゆう} 中だから (13.7%) |
| 5. 歯科健診 ^{し かけんしん} を行 ^{おこな} っていることを知ら ^し なかったから (7.6%) | |
| 6. 歯科健診 ^{し かけんしん} を信用 ^{しんよう} していないから (1.8%) | 7. 悪い結果 ^{わるい けっか} がでると不安 ^{ふあん} になるから (4.1%) |
| 8. 必要性 ^{ひつようせい} を感じないから (17.6%) | 9. その他 ^た (9.4%) |
| | 無回答 (2.8%) |

(全員の^{ぜんいん}の方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問27 あなたは、定期的^{ていきてき}にメンテナンス^{メンテナンス}のために歯科医^{し かい}に通^{かよ}っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|------------|
| 1. 通 ^{かよ} っている (55.0%) | 2. 通 ^{かよ} っていない (40.1%) | 無回答 (4.9%) |
|---------------------------------|----------------------------------|------------|

— IV 調査票と単純集計 —

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に) <回答者数：1,090>

問28 あなたは、^{じたく}自宅^{ちか}の近くで^{しんさつ}診察や^{けんこうそうだん}健康相談をするかかりつけの^し歯科^か診療^{しんりょうじょ}所を決めていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|-----------|
| 1. 決 ^き めている(55.9%) | 2. だいたい決 ^き めている(16.8%) | 無回答(2.1%) |
| 3. 決 ^き めていない(25.2%) | | |

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に) <回答者数：1,090>

問29 あなたは、^{じたく}自宅^{ちか}の近くで^{ちようざい}調剤^{ねが}をお願いしたり^{くすり}薬^{かん}に関する^{そうだん}相談をするかかりつけの^{やつきょく}薬局を決めていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------------|---|-----------|
| 1. 決 ^き めている(35.4%) | 2. だいたい決 ^き めている(28.0%) | 無回答(2.2%) |
| 3. 決 ^き めていない(31.4%) | 4. その他 ^た (院内 ^{いんない} 処方 ^{しよほう}) (3.0%) | |

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に) <回答者数：1,090>

問30 あなたは、^{じたく}自宅^{ちい}のある^{きゆうきゆうかんじや}地域で^で救^{ばあい}急患者^{びようじよう}が出た場合に、^{おう}病^{てきせつ}状^{いりよう}に応じた適切な医療を受けられる^{かんきよう}環境^{ととの}が^{おも}整^{おも}っていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|---|-----------|
| 1. 整 ^{ととの} っていると思う ^{おも} (27.8%) | 2. ほぼ整 ^{ととの} っていると思う ^{おも} (59.6%) | 無回答(3.9%) |
| 3. 整 ^{ととの} っているとは思 ^{おも} わない(8.6%) | | |

(問30で「3. 整^{ととの}っているとは思^{おも}わない」に○をつけた^{かた}方に)

問30-1 整^{ととの}っているとは思^{おも}わない理由^{りゆう}をあげてください。(自由記述)

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に) <回答者数：1,090>

問31 ^{かいご}介護や^{びようき}病気の^{りようよう}療^{ひつよう}養が必要になっても、^{いりよう}医療^{かいご}、介護サービスや^{ちい}地域の^{みまも}見守り^{とう}等を受けながら、^{みちか}身近な^{ちい}地域で^く暮^{つづ}らし続けられる^{かんきよう}環境^{ととの}が^{おも}整^{おも}っていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|--|---|-----------|
| 1. 整 ^{ととの} っていると思う ^{おも} (11.7%) | 2. ほぼ整 ^{ととの} っていると思う ^{おも} (43.7%) | 無回答(8.9%) |
| 3. どちらかといえば整 ^{ととの} っているとは思 ^{おも} わない(26.9%) | | |
| 4. 整 ^{ととの} っているとは思 ^{おも} わない(8.9%) | | |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問32 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 可能な限り自宅や実家で過ごしたい(32.8%) | |
| 2. 医療機関や施設に入院・入所したい(39.7%) | 3. わからない(23.9%) |
| 4. その他(1.5%) | 無回答(2.2%) |

(問32で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に) <回答者数：433>

問32-1 あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 医療機関や施設のほうが安心だから(66.1%) | 2. 家族に負担をかけるから(70.9%) |
| 3. 看護・介護をしてくれる家族がいらないから(22.9%) | |
| 4. 住宅環境が整っていないから(17.1%) | |
| 5. 急に病状が変わったときの対応に不安があるから(37.0%) | |
| 6. 自宅で受けられる医療サービス(往診してくれる医師や訪問看護等)に不安があるから(10.9%) | |
| 7. 自宅や実家での療養は、お金がかかるから(6.0%) | |
| 8. その他(0.9%) | 無回答(0.2%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問33 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるとどこですか。

(○は1つ)

- | | |
|--|-----------|
| 1. かかりつけの診療所(医院・クリニック)に相談する(33.0%) | |
| 2. 精神科等の専門医療機関に相談(受診)する(40.7%) | |
| 3. 公的な相談窓口を利用する(8.6%) | |
| 4. 職場や学校の健康相談窓口を利用する(2.8%) | |
| 5. 友人や地域で活動する自主グループ、サークルの仲間に相談する(5.3%) | |
| 6. 相談することには抵抗を感じるので、相談はためられる(4.9%) | 無回答(4.7%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問34 自殺対策は、自分自身に関わることだと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. そう思う(13.9%) | 2. どちらかといえばそう思う(18.7%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない(16.2%) | 4. そう思わない(32.6%) |
| 5. わからない(16.1%) | 無回答(2.4%) |

— IV 調査票と単純集計 —

(全員の^{ぜんいん}の方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問35 今後、どのような自殺^{じさつ}対策^{たいさく}が必要^{ひつよう}になるとおもいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自殺^{じさつ}の実態^{じつたい}を明らかにする調査^{あき}・分析^{ちようさ} (31.3%)
2. 様々な分野^{さまざま}におけるゲートキーパー^{ぶんや}の養成^{ようせい} (22.8%)
3. 地域^{ちいき}やコミュニティ^{つう}を通じた見守り^{みまも}・支え合い^{さきあ} (23.6%)
4. 様々な悩み^{さまざま}に対応^{なや}した相談窓口^{たいおう}の設置^{そうだんまどぐち} (54.7%)
5. 自殺^{じさつ}対策^{たいさく}に関わる民間団体^{かか}の支援^{みんかんだんたい} (17.1%)
6. 自殺^{じさつ}に関する広報^{かん}・啓発^{こうほう} (14.2%)
7. 子どもの自殺^こ予防^{じさつよぼう} (41.2%)
8. その他^た (5.5%) 無回答^{けいはつ} (5.7%)

(全員の^{ぜんいん}の方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問36 あなたが、感染症^{かんせんしょう}の予防^{よぼう}について考え^{かんが}たり、心^{こころ}がけていることは何^{なん}ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 感染症^{かんせんしょう}の発生^{はっせい}や流行^{りゅうこう}についての情報^{じょうほう}には目^めを通^{とお}すようにしている (60.4%)
2. 感染症^{かんせんしょう}の流行^{りゅうこう}に備^{そな}えて、マスクや消毒薬^{しょうどくやく}、食糧^{しょくりょう}・日用品等^{にちようひんとう}の備蓄^{びちく}を心^{こころ}がけて
いる (50.8%)
3. 感染症^{かんせんしょう}の流行^{りゅうこう}時には外出^{がいしゅつ}を控^{ひか}えようと考^{かんが}えている (35.9%)
4. 感染症^{かんせんしょう}の流行^{りゅうこう}時には手洗^{てあら}い・うがいをすよう心^{こころ}がけている (73.8%)
5. 感染症^{かんせんしょう}の流行^{りゅうこう}時には咳エチケット^{せき}を守るよう心^{こころ}がけている (60.9%)
6. その他^た (1.8%)
7. 特に考^{とく}えたり、心^{かんが}がけていることはな^{こころ}い (4.9%) 無回答^{けいはつ} (2.5%)

(全員の^{ぜんいん}の方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問37 加工食品^{かこうしょくひん}等のパッケージには、エネルギー^{しつりょうとう}やたんぱく質^{ひようじ}量^{りょう}等の表示^{ひょうじ}がされている場合^{ばあい}が
ありますが、それらの加工食品^{かこうしょくひん}や調理済み^{ちようりず}の料理^{りようり}を購^{こうにゆう}入^{とき}する時に、表示^{ひょうじ}されている
栄養成分^{えいようせいぶん}を参考^{さんこう}にしていますか。(○は1つ)

1. 基本^{きほん}5項目^{こうもく} (エネルギー^{しつ}、たんぱく質^{ししつ}、脂質^{たんすいかぶつ}、炭水化物^{しょくえんそうとうりょう}、食塩相当量^{しょくえんそうとうりょう}) を
参考^{さんこう}にしている (32.9%)
2. 基本^{きほん}5項目^{こうもく}に加え、他の栄養成分^{くわ}も参考^たにしている (13.0%)
3. エネルギーのみを参考^{さんこう}にしている (10.8%)
4. 食塩相当量^{しょくえんそうとうりょう}のみを参考^{さんこう}にしている (7.2%)
5. 全^{まった}く参考^{さんこう}にしていな^いい (32.8%) 無回答^{けいはつ} (3.2%)

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問38 あなたの^{しよくちゆうどく}食中毒に関する^{にんしき}認識に最も^{もっと}近いものは^{ちか}どれですか。(○は1つ)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 関 ^{かん} 心 ^{しん} があり、食中毒 ^{しよくちゆうどく} について十分 ^{じゆうぶんり} 理解 ^{かい} している(12.2%) | |
| 2. 関 ^{かん} 心 ^{しん} があり、食中毒 ^{しよくちゆうどく} についてある程度 ^{ていど} 理解 ^{かい} している(53.1%) | |
| 3. 関 ^{かん} 心 ^{しん} はあるが、食中毒 ^{しよくちゆうどく} についてよくわかっていない(24.8%) | |
| 4. 食中毒 ^{しよくちゆうどく} について、特に ^{とく} 気に ^き していない(7.3%) | 無回答(2.6%) |

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた}) <回答者数：1,090>

問39 あなたは、たばこを^す吸いますか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1. 毎 ^{まい} 日 ^{にち} 吸 ^す っている(12.3%) | 2. と ^す きど ^ひ き吸 ^す う日 ^ひ がある(1.4%) |
| 3. 以 ^い 前 ^{ぜん} は吸 ^す っていたが、1か ^げ 月 ^つ 以 ^{じょう} 上 ^す 吸 ^す っていない(8.0%) | |
| 4. 吸 ^す わ ^す ない(76.1%) | 無回答(2.2%) |

(問39で「1. 毎^{まい}日^{にち}吸^すっている」「2. と^すきど^ひき吸^すう日^ひがある」に○をつけた方に^{かた})

<回答者数：149>

問39-1 今^{こん}後^ご禁^{きん}煙^{えん}したいと考^{かん}えて^がいますか。(○は1つ)

- | | |
|--|--|
| 1. 禁 ^{きん} 煙 ^{えん} を ^{えん} したい(13.4%) | 2. 吸 ^す う本 ^{ほん} 数 ^{すう} を減 ^へ らしたい(38.9%) |
| 3. 現 ^{げん} 状 ^{じょう} 通 ^{とお} り喫 ^{きつ} 煙 ^{えん} を続 ^{つづ} けたい(36.2%) | 4. わか ^わ ら ^ら ない(11.4%) |
| | 無回答(0.0%) |

《制度等についておたずねします》

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問40 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|-------------------|----------------|
| 1. 名前は知っている(20.9%) | 2. 内容も知っている(4.3%) | 3. 知らない(71.3%) |
| 無回答(3.5%) | | |

(問40で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に)

<回答者数：275>

問40-1 あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------------|------------------|
| 1. 中野区公式ホームページ・区報で見た(17.1%) | |
| 2. インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った(59.6%) | |
| 3. 講演会、イベントなどで聞いた(5.1%) | 4. 職場で聞いた(17.1%) |
| 5. 友人、知人等から聞いた(3.3%) | 6. その他(5.8%) |
| 7. 覚えていない(6.9%) | 無回答(0.4%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問41 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 中野区公式ホームページ・区報による啓発(42.8%) | |
| 2. 区民向けの啓発活動(42.9%) | 3. 企業向けの啓発活動(27.1%) |
| 4. 障害のある人と交流するイベントや行事の開催(26.2%) | 5. その他(4.9%) |
| 無回答(10.8%) | |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問42 あなたは、ヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

ヘルプマーク

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| 1. ヘルプマークの意味を含めて知っている(67.2%) | |
| 2. ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない(21.6%) | |
| 3. 知らない(8.0%) | 無回答(3.2%) |



(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問43 中野区では、障害者虐待に関する通報や相談窓口として、障害者虐待防止センターを設置しています。あなたは、障害者虐待防止センターを知っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|------------------|-----------|
| 1. 知っていた(9.4%) | 2. 知らなかった(87.2%) | 無回答(3.4%) |
|----------------|------------------|-----------|

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問44 あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 介護保険制度を利用している。または、利用の仕方を知っている(11.5%) | |
| 2. 利用の仕方をだいたい知っている(19.6%) | 3. 利用の仕方をあまり知らない(27.8%) |
| 4. 利用の仕方を全く知らない(37.6%) | 無回答(3.5%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問45 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 認知症の症状や基本的な対応方法を知っている(27.3%) |
| 2. 認知症の症状について聞いたことがある(42.2%) |
| 3. 言葉は聞いたことがあるが、わからないことが多い(20.4%) |
| 4. 知らない(6.9%) 無回答(3.2%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問46 あなたは、「人生会議（ACP※：アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉や意味を知っていましたか。(○は1つ)

※ACP：アドバンス・ケア・プランニングとは、将来あなた自身が病気になったり、介護が必要になったりしたときに備えて、これまで大切にしてきたことや、これから誰とどのように過ごしたいか、希望する医療や介護のことなどについて、家族や大切な人、医療・介護関係者とあらかじめ考え、繰り返し話し合うプロセスのことを言います。平成30年度、厚生労働省はACPの愛称を「人生会議」と決め普及・啓発を行っています。

- | |
|--|
| 1. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の意味も含めて知っていた(4.2%) |
| 2. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）があることは知っていたが、意味は知らなかった(6.2%) |
| 3. 知らなかった(85.8%) |
| 無回答(3.8%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問47 「成年後見制度」という言葉やしくみについて、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 知っている(14.7%) | 2. だいたい知っている(17.0%) |
| 3. 一部知っているが、わからない内容も多い(29.3%) | |
| 4. ほとんど知らない(35.4%) | 無回答(3.7%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問48 ヤングケアラーという言葉聞いたことがありますか。(○は1つ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 聞いたことがあります、内容も知っている(59.8%) |
| 2. 聞いたことはあるが、よく知らない(21.6%) |
| 3. 聞いたことは無い(15.4%) |
| 無回答(3.2%) |

《相談窓口についておたずねします》

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問49 あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。

(1) すこやか福祉センター (〇は1つ)

- | | | |
|------------------------------|-------------------|-----------|
| 1. 身近に感じる(15.8%) | 2. 身近に感じない(23.1%) | |
| 3. どんな相談ができる窓口なのか知らない(58.4%) | | 無回答(2.7%) |

(2) 地域包括支援センター (〇は1つ)

- | | | |
|------------------------------|-------------------|-----------|
| 1. 身近に感じる(19.9%) | 2. 身近に感じない(26.2%) | |
| 3. どんな相談ができる窓口なのか知らない(52.0%) | | 無回答(1.8%) |

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問50 あなたは、区民活動センターを身近に感じますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|------------------|-------------------|--------------|-----------|
| 1. 身近に感じる(25.6%) | 2. 身近に感じない(68.3%) | 3. その他(3.8%) | 無回答(2.4%) |
|------------------|-------------------|--------------|-----------|

(全員のの方に) <回答者数：1,090>

問51 犯罪被害者やその家族に対する相談窓口があることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| 1. 知っている(相談窓口の場所も知っている)(5.0%) | |
| 2. 知っている(相談窓口の場所は知らない)(30.9%) | |
| 3. 知らない(62.5%) | 無回答(1.6%) |

《その他》

(全員のの方に)

問52 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

令和7年度（2025年度）
健康福祉に関する意識調査
報告書

発行日／令和8年（2026年）3月

発行／中野区健康福祉部福祉推進課 健康福祉企画係

〒164-8501

東京都中野区中野 4-11-19

電話 03-3228-5421（直通）

編集分析／株式会社アイアールエス

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-1-3 第1 富澤ビル 7 F

電話 03-3357-7181（代表）